

神戸市市民福祉調査委員会
令和7年度第2回介護保険専門分科会 次第

1 次 第

【審議事項】

- ・第10期介護保険事業計画の策定について

【報告事項】

- ・第10期介護保険事業計画策定に係る実態調査結果について
- ・第9期介護保険事業計画の進捗状況
- ・介護保険専門分科会 令和7年度第2回企画・調査部会の報告
- ・保険者機能強化推進交付金等（令和6年度）
- ・地域ケア会議について

2 資 料

- (資料1) 神戸市市民福祉調査委員会「介護保険専門分科会」委員名簿
- (資料2) 神戸市市民福祉調査委員会運営要綱
神戸市市民福祉調査委員会介護保険専門分科会運営要綱
企画・調査部会 ワーキンググループ設置要綱
- (資料3-1) 第10期介護保険事業計画策定に係る実態調査の概要
- (資料3-2) 第10期介護保険事業計画策定に係る実態調査結果
- (資料3-3) 介護保険事業計画策定に向けての実態調査単純集計表（高齢者一般調査）
- (資料3-4) 介護保険事業計画策定に向けての実態調査単純集計表（在宅高齢者実態調査）
- (資料3-5) 介護保険事業計画策定に向けての実態調査単純集計表（特別養護老人ホーム）
- (資料3-6) 介護保険事業計画策定に向けての実態調査単純集計表（介護老人保健施設）
- (資料3-7) 介護保険事業計画策定に向けての実態調査単純集計表（介護医療院）
- (資料3-8) 介護保険事業計画策定に向けての実態調査単純集計表
（特定施設・サービス付き高齢者向け住宅）
- (資料3-9) 介護保険事業計画策定に向けての実態調査単純集計表
（認知症対応型共同生活介護）
- (資料4-1) 第9期介護保険事業計画の進捗状況
- (資料4-2) 第9期神戸市介護保険事業計画・神戸市高齢者保健福祉計画
- (資料5-1) 第10期神戸市介護保険事業計画・神戸市高齢者保健福祉計画（骨子案）
- (資料5-2) 第10期介護保険事業計画策定 スケジュール（予定）
- (資料6) 介護保険専門分科会 令和7年度第2回企画・調査部会の報告
- (資料7) 保険者機能強化推進交付金等（令和6年度）
- (資料8) 地域ケア会議について

神戸市 市民福祉調査委員会 介護保険専門分科会 委員名簿（敬称略）
（選出分野別 五十音順）

令和8年3月現在

1 学識経験者 (4名)	◎ 大和 三重	関西学院大学名誉教授
	澤田 有希子	関西学院大学人間福祉学部教授
	前田 潔	神戸大学名誉教授
	松岡 健	神戸新聞社論説委員
2 保健医療 関係者 (6名)	有本 雅子	神戸市介護老人保健施設協会会長
	○ 久次米 健市	神戸市医師会副会長
	西 昂	神戸市民間病院協会会長
	前田 多津子	神戸市歯科医師会副会長
	松下 清美	兵庫県看護協会専務理事
	宮内 智也	神戸市薬剤師会副会長
3 福祉関係者 (4名)	伊賀 浩樹	神戸市ケアマネジャー連絡会代表理事
	榎本 昌起	兵庫県社会福祉士会副会長
	辰己 良輔	神戸市シルバーサービス事業者連絡会会長
	出上 俊一	神戸市老人福祉施設連盟理事長
4 地域活動団体 (4名)	大竹 義仁	認知症の人と家族の会兵庫県支部世話人
	小野 三恵	神戸市婦人団体協議会理事
	久保 三男	神戸市老人クラブ連合会副理事長
	本田 智美	神戸市自治会連絡協議会事務局長
5 被保険者 (2名)	酒巻 恵	市民代表
	武下 郁子	市民代表
6 市会議員 (5名)	伊藤 めぐみ	市会議員
	上島 寛弘	市会議員
	外海 開三	市会議員
	宮田 公子	市会議員
	森本 真	市会議員

合計 25名

◎分科会長 ○副分科会長

神戸市市民福祉調査委員会運営要綱

平成 12 年 4 月 18 日

委員会 決 定

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、神戸市市民福祉調査委員会条例（平成 12 年 3 月条例第 101 号）第 8 条の規定に基づき、神戸市市民福祉調査委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し必要な事項について定める。

(会議)

第 2 条 委員会に、次の会議を設置する。

(1) 計画策定・検証会議 定数 15 名以内

(2) 福祉政策会議 定数 15 名以内

- 2 前項に掲げる会議の所掌事務は、別表 1 に掲げるとおりとする。
- 3 会議に属すべき委員及び臨時委員は、委員長が指名する。ただし、委員長が互選されるまでの間、会議の運営上支障がある場合、会議に属すべき委員又は臨時委員の指名については、市長が行う。なお、その際は、委員長決定時に、改めてその承認をとるものとする。
- 4 会議に会長を置き、又必要があるときは副会長を置くことができる。
- 5 会長及び副会長は、会議に属する委員及び臨時委員の互選によって定める。
- 6 会長は、その会議の会務を総理する。
- 7 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、副会長又はあらかじめ会長の指名する委員及び臨時委員が、その職務を代理する。
- 8 会議は、会長が招集する。ただし、会長が互選されるまでの間、福祉局長が召集する。
- 9 会議は、会議に属する委員及び臨時委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 10 会議には、必要に応じて部会を置くことができる。
- 11 前項に定める部会の定数は、10 名以内とする。
- 12 第 3 項から第 9 項までの規定は、部会において準用する。この場合において、「会長」とあるのを「部会長」、「副会長」とあるのを「副部会長」とそれぞれ読み替える。

(専門分科会)

第 3 条 委員会に、次の専門分科会を設置する。

- | | |
|-------------------|-----------|
| (1) 民生委員審査専門分科会 | 定数 10 名以内 |
| (2) 身体障害者福祉専門分科会 | 定数 15 名以内 |
| (3) 児童福祉専門分科会 | 定数 30 名以内 |
| (4) 精神保健福祉専門分科会 | 定数 20 名以内 |
| (5) 市民福祉顕彰選考専門分科会 | 定数 15 名以内 |
| (6) 介護保険専門分科会 | 定数 35 名以内 |
| (7) 成年後見専門分科会 | 定数 10 名以内 |

2 第 2 条第 3 項から同条第 10 項までの規定の規定は、専門分科会について準用する。この場合において、「会議」とあるのを「専門分科会」と、「会長」とあるのを「分科会長」と、「副会長」とあるのを「副分科会長」とそれぞれ読み替える。

3 第 1 項の各号に掲げる専門分科会の委任事務は、別表 2 に掲げるとおりとする。

4 専門分科会の議事は、出席した委員及び臨時委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、分科会長の決するところによる。

5 専門分科会で決議された事項は、委員会の決議とみなす。

(会議等の公開)

第 4 条 会議は、これを公開する。ただし、委員会の決議により公開しないことができる。

2 前項の規定により会議を公開するときは、開催日時等を市民に事前周知するよう努めるものとする。

3 公開・非公開の会議に関わらず、会議終了後すみやかに会議録又は会議録要旨（以下「会議録等」という）を作成する。

4 会議で使用した資料及び前項の規定により作成された会議録等の写しは公開する。ただし、個人情報等公にしないことが適当と認められる内容が記録されているものについてはこの限りではない。

5 前 4 項の規定は、第 2 条に定める会議及び第 3 条に定める専門分科会に準用する。

(関係者の出席)

第 5 条 委員長は、必要があると認めるときは、委員会への関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

2 前項の規定は、会議及び専門分科会に準用する。この場合、「委員長」と

あるのを「会長」又は「分科会長」と読み替える。

(参与)

第6条 委員会に参与を置く。

2 参与は、市職員のうちから委員長が指名する。

3 参与は、会議に出席し、審議事項に関して意見を述べることができる。

(代表幹事及び幹事)

第7条 委員会に代表幹事及び幹事を置く。

2 代表幹事及び幹事は、市職員のうちから委員長が指名する。

3 代表幹事及び幹事は、委員会等の所掌事務について委員及び臨時委員を補佐する。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、福祉局又は教育委員会事務局において処理する。

2 専門分科会の庶務は、福祉局、健康局又はこども家庭局において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、会議及び専門分科会の運営に関し必要な事項は、会議及び専門分科会が定める。

附 則

この要綱は、平成12年4月1日より施行する。

附 則

別表は、平成13年1月9日改正。但し、平成12年6月7日より施行する。

附 則

別表は、平成13年7月18日改正。同日施行。

附 則

別表は、平成15年7月29日改正。同日施行。

附 則

別表は、平成17年4月21日改正。但し、平成17年4月1日より施行する。

附 則

(施行期日)

1 別表は、平成18年10月20日改正。但し、別表2②及び3②は平成18年4月1日、その他は平成18年10月1日より施行する。

(経過措置)

2 障害者自立支援法附則第48条の規定による精神障害者社会復帰施設については、改正前の別表の4②の規定の適用があるものとする。

附 則

別表は、平成21年1月28日改正。同日施行。

附 則

この要綱は、平成24年8月6日より施行する。

附 則

この要綱は、平成26年2月7日より施行する。

附 則

この要綱は、平成27年12月21日より施行する。

附 則

この要綱は、平成31年1月16日より施行する。

附 則

この要綱は、令和元年12月26日より施行する。

附 則

この要綱は、令和2年11月6日より施行する。

附 則

この要綱は、令和7年1月6日より施行する。

別 表 1 （第 2 条 関 係）

会 議 の 所 掌 事 務

1 . 計 画 策 定 ・ 検 証 会 議

- ① 市 民 福 祉 総 合 計 画 の 策 定 に 関 す る 事 項 。
- ② 市 民 福 祉 総 合 計 画 の 進 行 及 び 成 果 の 検 証 ・ 評 価 に 関 す る 事 項 。

2 . 福 祉 政 策 会 議

- ① 市 民 福 祉 の 推 進 に 必 要 な 施 策 の 企 画 ・ 調 査 に 関 す る 事 項 。

別 表 2 （第 3 条 関 係）

専 門 分 科 会 へ の 委 任 事 務

1 . 民 生 委 員 審 査 専 門 分 科 会

① 民生委員の適否の審査に關すること。

（社会福祉法第11条第1項）

2 . 身 体 障 害 者 福 祉 専 門 分 科 会 （ 社 会 福 祉 法 第 11 条 第 1 項 ）

① 身体障害者手帳の交付申請に必要な診断書を作成できる医師の指定の審議に關すること。

（身体障害者福祉法第15条第2項）

② 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）の指定及び取消についての審議に關すること。

（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第59条、第68条）

③ 身体障害者の障害程度の審査に關すること。

（身体障害者福祉法施行令第5条第1項）

3 . 児 童 福 祉 専 門 分 科 会

① 児童の施設入所等の措置の決定及び解除についての審議に關すること。

（児童福祉法第27条第6項及び同法施行令第32条）

② 児童虐待事案の検討に關すること。

③ 映画、演劇、出版物、玩具等による児童福祉の増進又は児童に及ぼす悪影響の防止を目的に、映画等を審査のうえ、推薦又は勧告すること。

（児童福祉法第8条第9項）

④ 母子父子福祉資金貸付金の打ち切りの審議に關すること。

（母子及び父子並びに寡婦福祉法施行令第13条）

⑤ 里親の認定についての審議に關すること。

（児童福祉法施行令第29条）

⑥ 認可を受けない児童のための施設に係る事業の停止又は施設の閉鎖についての審議に關すること。

（児童福祉法第59条第5項）

⑦ 児童福祉施設に係る事業停止についての審議に関する事。

(児童福祉法第46条第4項)

⑧ 家庭的保育事業等、乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)及び保育所の認可についての審議に関する事。

(児童福祉法第34条の15第4項、第35条第6項)

4. 精神保健福祉専門分科会

① 厚生労働大臣の定める基準に適合しなくなった、又はその運営方法がその目的遂行のために不適切であると認めた指定病院の取消についての審議に関する事。

(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第19条の9第2項)

② 指定自立支援医療機関(精神通院医療)の指定及び取消についての審議に関する事。

(障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第59条、第68条)

③ 精神保健福祉の調査審議に関する事。

5. 市民福祉顕彰選考専門分科会

① 市民福祉顕彰の候補者の選考に関する事。

(神戸市民の福祉をまもる条例第56条)

6. 介護保険専門分科会

① 介護保険事業計画の進捗状況等の把握・点検に関する事。

② 介護保険事業計画の策定のための調査審議に関する事。

③ 高齢者保健福祉計画の策定のための調査審議に関する事。

7. 成年後見専門分科会

① 成年後見制度の利用促進に関する事。

(成年後見制度の利用の促進に関する法律第14条第2項)

神戸市市民福祉調査委員会介護保険専門分科会運営要綱

平成12年7月11日

分科会決定

(趣旨)

第1条 この要綱は、神戸市市民福祉調査委員会運営要綱（平成12年4月18日決定）第9条の規定に基づき、神戸市市民福祉調査委員会介護保険専門分科会（以下「専門分科会」という。）の運営に関し必要な事項について定める。

(部会)

第2条 専門分科会に、次の部会を設置する。

- (1) 企画・調査部会 定数10名以内
- (2) サービス研究会 定数15名以内
- (3) 地域密着型サービス運営委員会 定数15名以内

2 第1項の各号に掲げる部会の所掌事務は、別表に掲げるとおりとする。

3 部会に属すべき委員及び臨時委員は、分科会長が指名する。

4 部会に部会長を置き、部会長は、部会に属する委員及び臨時委員の互選によって定める。

5 部会長は、その部会の会務を総理する。

6 部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、あらかじめ部会長の指名する委員及び臨時委員が、その職務を代理する。

7 部会は、部会長が招集する。

8 部会は、部会に属する委員及び臨時委員の過半数が出席しなければ会議を開催することができない。

9 部会の議事は、出席した委員及び臨時委員の過半数で決し、可否同数のときは、部会長の決するところによる。

10 部会に必要な応じてワーキンググループを置くことができる。

(関係者の出席)

第3条 部会長は、必要があると認めるときは、部会に関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(代表幹事及び幹事)

第4条 専門分科会及び部会に代表幹事及び幹事を置く。

2 代表幹事及び幹事は、市職員のうちから分科会長が指名する。

3 代表幹事及び幹事は、専門分科会及び部会の所掌事務について委員及び臨時委員を補佐する。

(庶務)

第5条 部会の庶務は、福祉局介護保険課において処理する。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営等に関し必要な事項は、部会が定める。

附 則

この要綱は、平成12年7月11日より施行する。

附 則

この要綱は、平成13年7月19日より施行する。

附 則

この要綱は、平成18年2月11日より施行する。

附 則

この要綱は、平成22年2月9日より施行する。

附 則

この要綱は、平成27年2月17日より施行する。

附 則

この要綱は、平成28年2月10日より施行する。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日より施行する。

別表（第2条関係）

部会の所掌事務

1 企画・調査部会

- (1) 介護保険事業計画の点検及びそれに必要な調査の実施に関する事
- (2) 介護保険事業計画の策定に必要な調査の実施に関する事
- (3) 高齢者保健福祉計画の策定に必要な調査の実施に関する事
- (4) 新しい介護予防・日常生活支援総合事業の立ち上げ及び円滑な運営に関して必要な事

2 サービス研究会

介護サービスの質の向上に関する事

3 地域密着型サービス運営委員会

- (1) 地域密着型サービスの指定基準に関する事
- (2) 地域密着型サービスの指定、指定拒否及び指定取消に関する事
- (3) 地域密着型サービスの介護報酬に関する事
- (4) その他、地域密着型サービスの円滑な運営に関して必要と認められる事

神戸市市民福祉調査委員会介護保険専門分科会企画・調査部会 ワーキンググループ設置要綱

平成27年5月28日

企画・調査部会決定

(趣旨)

第1条 この要綱は、神戸市市民福祉調査委員会介護保険専門分科会運営要綱（平成12年7月11日決定）第6条の規定に基づき、神戸市市民福祉調査委員会介護保険専門分科会企画・調査部会ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）の設置及び運営に関し必要な事項について定める。

(ワーキンググループ)

第2条 新しい介護予防・日常生活支援総合事業の実施に向けて、及び、高齢者虐待対応について必要な検討を行うため、企画・調査部会に、次のワーキンググループを設置する。

- (1) 総合事業サービスワーキンググループ 定数10名以内
- (2) ケアマネジメント検討ワーキンググループ 定数10名以内
- (3) 高齢者虐待対応ワーキンググループ 定数10名以内

- 2 第1項の各号に掲げるワーキンググループの所掌事務は、別表に掲げるとおりとする。
- 3 ワーキンググループに属すべき委員及び臨時委員は、部会長が指名する。
- 4 ワーキンググループに座長を置き、座長は、ワーキンググループに属する委員及び臨時委員の互選によって定める。
- 5 座長は、そのワーキンググループの会務を総理する。
- 6 座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、あらかじめ座長の指名する委員及び臨時委員が、その職務を代理する。
- 7 ワーキンググループは、座長が招集する。
- 8 ワーキンググループは、ワーキンググループに属する委員及び臨時委員の過半数が出席しなければ会議を開催することができない。

(関係者の出席)

第3条 座長は、必要があると認めるときは、ワーキンググループに関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務)

第4条 ワーキンググループの庶務は、福祉局介護保険課及び高齢福祉課において処理する。

(委任)

第5条 この要綱に定めるもののほか、ワーキンググループの運営等に関し必要な事項は、ワーキンググループが定める。

附 則

この要綱は、平成27年5月29日より施行する。

附 則

この要綱は、平成29年8月10日より施行する。

附 則

この要綱は、令和5年10月14日より施行する。

別表（第2条関係）

ワーキンググループの所掌事務

1 総合事業サービスワーキンググループ

- (1) 総合事業で実施するサービスの基準、単価、利用者負担等の検討に関する事
- (2) その他、総合事業の立ち上げ及び円滑な運営に関して必要と認められる事

2 ケアマネジメント検討ワーキンググループ

- (1) 総合事業で実施する介護予防ケアマネジメントに必要なプロセス、アセスメントツール、様式等の検討に関する事
- (2) その他、総合事業で実施する介護予防ケアマネジメントに関して必要と認められる事

3 高齢者虐待対応ワーキンググループ

- (1) 各区高齢者虐待防止ネットワーク事業で出された課題から全市レベルの課題を把握し、対応する体制を整える事
- (2) 市マニュアルの改訂に関する事
- (3) 重篤な高齢者虐待事案等の事後検証に関する事
- (4) その他、高齢者虐待対応に関して必要と認められる事

第 10 期介護保険事業計画策定に係る実態調査の概要

(1) 調査目的

第 10 期介護保険事業計画（令和 9 年度～11 年度）策定のための基礎資料とするとともに、神戸市の今後の高齢者施策の参考資料とするため、高齢者の実態調査を実施する。（3 年毎の調査）

(2) 調査種別

- ①要介護認定を受けていない 65 歳以上の方を対象とする「高齢者一般調査」
 ※第 9 期までは「健康とくらしの調査」として実施。（日本老年学的評価研究（JAGES）プロジェクトとの共同調査）
- ②要支援・要介護認定を受けている在宅の 65 歳以上の方を対象とする「在宅高齢者実態調査」
- ③施設を対象とする「施設調査」

調査名称	高齢者一般調査	在宅高齢者実態調査	施設調査				
			(特別養護老人ホーム)	(介護老人保健施設)	(介護医療院)	(特定施設・サービス付き高齢者向け住宅)	(認知症対応型共同生活介護)
調査対象	令和 7 年 10 月 17 日現在、下記に該当する神戸市内に居住する 65 歳以上の男女 <ul style="list-style-type: none"> ● 一般高齢者 ● 総合事業対象者 ● 要支援 1・2 	令和 7 年 10 月 17 日現在、神戸市内に居住する要支援・要介護認定を受けている在宅※の 65 歳以上の男女（※令和 7 年 7 月に施設サービスの利用実績のある者を除く）	令和 7 年 10 月 1 日現在開設中の介護保険サービスの付いた施設				
調査件数	無作為抽出 15,990 件 (前回：16,000 件)	無作為抽出 7,800 件 (前回：7,216 件)	悉皆調査 126 施設 (前回：112 施設)	悉皆調査 66 施設 (前回：56 施設)	悉皆調査 7 施設 (前回：8 施設)	悉皆調査 特定施設等 164 施設 (前回：131 施設) サ付住宅 118 施設 (前回：117 施設)	悉皆調査 143 施設 (前回：135 施設)
調査方法	郵送（本人宅送付） / 無記名回答		郵送（事業所送付） / 記名回答（事業所名）				
回答方法	書面及び WEB						
調査期間	令和 7 年 12 月～令和 8 年 1 月						
有効回答数	8,096 件 (内 WEB：514 件) (回答率：50.63%) (前回：10,899 件、68.12%)	3,540 件 (内 WEB：213 件) (回答率：45.38%) (前回：2,951 件、40.90%)	79 施設 (内 WEB：50 施設) (回答率：62.70%) (前回：67 施設、59.82%)	41 施設 (内 WEB：17 施設) (回答率：62.12%) (前回：24 施設、42.86%)	3 施設 (内 WEB：2 施設) (回答率：42.86%) (前回：1 施設、12.50%)	123 施設 (内 WEB：58 施設) (回答率：43.62%) (前回：131 施設、52.82%)	84 施設 (内 WEB：32 施設) (回答率：58.74%) (前回：85 施設、62.96%)

第10期介護保険事業計画策定に係る実態調査結果【一般高齢者調査】

資料3-2

【現行計画】の体系

主な調査項目

調査結果（傾向）

1 フレイル予防をはじめとした介護予防の推進

・身体・口腔機能の実態（問9～13（P4、5）、問19～24（P6、7））
階段昇降や外出頻度、転倒経験、咀嚼能力、体重減少など、フレイルの兆候を具体的に把握します。

・活動・参加の状況（問56～60（P11～13））
現在の社会参加頻度だけでなく、「どのような場なら参加したいか」「参加の障壁は何か」を問いつどいの場の拡充やアクセス改善の参考にします。

・フレイル・オーラルフレイルの認知度（問78・79（P17））
市民が自身の虚弱化（フレイル）や口腔機能低下（オーラルフレイル）をどの程度認識しているかを確認します。

・フレイルを「知らない」層は17.4%、オーラルフレイルを「知らない」層は36.6%となっています。実態として、17.6%が階段を昇ることができず、26.9%が固いものの食べにくさを感じています。

・社会参加については、各活動への不参加層が5割から7割を超えています。活動の重視点として「自宅から近く、歩いて行ける」ことが51.1%、「費用がかからない・安価である」ことが39.2%となっており、利便性と経済性が参加を促す重要な要素となっています。

2 地域での生活の継続に向けた支援

・社会的孤立・孤独感（問51～54（P10））
「人とのつきあいが無い」「孤独である」といった主観的・客観的な孤立状況を測定します。

・頼れる人の有無（問63～67（P14、15））
心配事の相談相手、病気時の看病者、緊急時の連絡先など、家族以外の「地域でのつながり」があるかを確認します。

・ひきこもりの8050問題（問6・問6-1（P3））
同居する64歳以下の家族のひきこもり状況を把握し、複合的な課題を抱える世帯への支援策を検討します。

・社会的孤立に関しては、「人とのつきあいが無い」と、ときどき感じる・よく感じる層が34.6%、「孤独である」と感じる方が20.2%となっています。

・頼れる人の有無については、病気時の看病者が「いない」とする回答が9.0%存在し、家族や友人以外で相談する相手が「いない」方は41.8%と高い割合となっています。

・64歳以下の同居家族がいる世帯のうち、6か月以上外出しない等のひきこもり状態にある家族がいる割合は10.9%となっており、複合的な課題を抱える世帯への支援が急務となっています。

3 認知症の人にやさしいまちづくりの推進

・認知症の理解とイメージ（問83（P18））
認知症になっても地域で暮らしていくことができると思っているか、認知症に対するイメージを問い、「新しい認知症観」の啓発の必要性を測ります。

・共生社会への意識（問84～86（P18、19）、問89（P19））
認知症の人の社会参加や自己決定を尊重する意識が市民にあるか、地域での受容性を確認します。

・神戸モデル・権利擁護の認知（問87・88（P19）、問92・93（P20））
診断助成制度や事故救済制度、成年後見制度が浸透しているかを確認し、制度利用の促進につなげます。

・認知症のイメージについては、医療や介護等のサポートがあれば地域生活が可能と考える方が25.4%である一方、施設入所が必要と考える方も22.4%存在します。

・共生社会への意識では、本人の自己決定の尊重を肯定する意見が51.4%となっています。

・神戸市独自の診断助成制度の認知度は53.3%ですが、事故救済制度は28.9%、成年後見制度の相談窓口は16.1%に留まっており、制度の更なる周知が課題となっています。

4 安全・安心な住生活環境の確保

・災害への備え（問55（P10））
備蓄や避難経路の確保など、自助の状況を確認します。

・災害時の共助活動（問61（P13））
地域での避難訓練や要援護者支援に参加する意欲があるかを問い、共助の可能性を探ります。

・住居形態（問5（P3））
持家が賃貸か、一戸建てか集合住宅かといった住まい環境を把握します。

・災害への備えについては、「飲料水や非常食などの備蓄」をしている方が55.6%と約半数を超えています。また、「家族との避難場所の共有」は22.0%、「持ち出し袋の準備」は25.4%に留まっています。共助活動への意欲は、「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」とする前向きな回答が69.7%となっており、高い参加意欲が伺えます。住居形態については、持家の一戸建てが50.7%、持家の集合住宅が28.3%となっており、約8割の方が持家に居住しています。

5 介護人材の確保・育成

・就労・社会参加意欲（問57（P12）、問62（P14））
仕事やボランティア活動への参加意欲を確認し、介護助手や地域の担い手としてのポテンシャルを探ります。

・ICT利用状況（問45（P9））
スマートフォンやタブレットの利用状況を把握します。

・現在の就労状態は、引退した方が51.8%である一方、非常勤や自営業等で働く方も約3割存在します。地域活動への参加意欲については、参加者として「ぜひ参加したい」または「参加してもよい」とする前向きな回答が60.6%となっており、地域の担い手としての高い可能性が示されています。ICTの利用状況に関しては、スマートフォンやタブレットを「よく利用している」または「ときどき利用している」方の合計が79.4%となっており、約8割に普及している状況となっています。

6 介護保険制度の適正運営

・経済的な暮らし向き（問4（P3））
生活のゆとりについて主観的な感覚を問います。

・介護保険料に対する考え方（問8（P4））
サービス充実のために保険料上昇を許容するか、抑制を望むか、市民の意向を確認します。

・現在の経済的な暮らし向きについては、「ふつう」と感じている方が53.1%で最多となっています。また、「大変苦しい」または「やや苦しい」と回答した方の合計は34.1%に達しています。今後の介護保険料に関する意向では、「サービスの見直しや利用者負担の増などにより、保険料を抑制するべき」とする回答が45.8%で最も多くなっています。「現状を維持する」は34.8%、「サービス充実のため上昇もやむを得ない」は7.7%となっており、保険料の抑制を求める声が強い傾向となっています。

第10期介護保険事業計画策定に係る実態調査結果【在宅高齢者実態調査】

資料3-2

【現行計画】の体系

主な調査項目

調査結果（傾向）

1 フレイル予防をはじめとした介護予防の推進

・口腔機能・オーラルフレイル（問7（P7、8））
むし歯、飲み込みにくさ（嚥下機能）、口腔ケアの状況。
・通所サービスでの活動・改善状況（問31（P19、20））
デイサービス等での活動内容や、1年前と比較した要介護度の変化（維持・改善・悪化）。

・口腔機能については、固いものが噛めない方が23.8%、飲み込みにくさを感じる方が9.8%となっており、オーラルフレイルを「知らない」層は47.0%に及びます。
・通所サービスでの活動は健康体操が60.3%と最も多く、この1年間で「状態を維持している」と回答した方は59.5%、要介護度が「改善した」方は6.0%となっています。

2 地域での生活の継続に向けた支援

・在宅医療の利用状況（問5（P4～7））
医師・看護師・歯科医師等の訪問頻度や、具体的な医療処置（点滴・経管栄養・喀痰吸引等）の有無。
・主たる介護者の実態（問33～40（P21～23））
介護者の年齢・続柄、離職の有無（介護離職）、仕事と介護の両立における調整状況、負担感。
・利用サービスと不足サービス（問29（P17、18）、問32（P20））
介護保険外も含めたサービスの利用状況と、今後の継続に必要な支援（見守り、外出同行など）。

・在宅医療では、医師の訪問は「月に1回」が47.1%と最も多く、医療処置は「浣腸や摘便」が2.9%、「尿路カテーテル」が1.3%等となっています。
・主な介護者は「子」が51.3%を占め、介護離職者は8.7%となっています。就労中の介護者の57.1%が「問題はあるが、何とか続けていける」状況にあり、35.9%が「自分の時間がとれない」ことに困窮しています。
・今後の在宅生活継続には、掃除・洗濯や外出同行等の支援が必要とされています。

3 認知症の人にやさしいまちづくりの推進

・認知症に関する意識・相談（問10（P9～11））
診断助成制度の認知、心配事の相談先、地域での生活継続に対するイメージ。
・成年後見制度（問11（P11））
制度の認知度。
・認知症サポーターへの依頼（問41（P24））
サポーターに具体的に何をしてほしいか（話し相手、見守り等）。

・認知症診断助成制度の認知度は61.1%となっており、心配事の相談先は「家族・親族」が63.3%、「ケアマネジャー」が38.1%となっています。認知症に対するイメージは「身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用する」が20.2%、「医療・介護等のサポートを利用しながら地域で生活していける」が20.0%となっています。
・成年後見制度の認知度は65.3%となっており、認知症サポーターに対しては「本人の話し相手」を求める方が11.6%、「短時間の見守り」を求める方が6.4%となっています。

4 安全・安心な住生活環境の確保

・バリアフリー化の状況（問26（P16））
手すり、段差解消の有無と、今後の住み替え意向。
・特養の入所申込（問24・25（P15））
申込の有無、申込理由（在宅介護の限界、介護者不在など）、支払可能な費用額。
・災害への備え（問17（P13））
避難経路の確保や備蓄状況

・住居のバリアフリー化では、「階段、トイレ、浴室への手すり設置」が74.0%となっている一方、43.3%が現状を「不十分」と考えています。
・特別養護老人ホームへの申込理由は「ただちに必要ないが将来のため」が30.8%、「介護者の高齢や疾病」が28.2%となっており、月額費用は「5万円から10万円未満」を希望する層が25.6%と最多です。
・災害への備えは「飲料水や非常食の備蓄」が40.2%となっていますが、「避難方法の決定」は13.3%にとどまっています。

5 介護人材の確保・育成

・訪問介護の利用時間・内容（問30（P18））
実際にヘルパーがどの程度の時間、何をしているか（身体介護か生活援助か）。
・仕事と介護の両立（問36・37（P22））
家族が介護のために仕事を辞めたか、働き方を調整しているか。

・訪問介護の利用実態は「掃除」が57.7%と最多であり、1回あたりの利用時間は「30分以上1時間未満」が61.8%となっています。
・仕事と介護の両立に関しては、主な介護者の8.7%が介護を理由に離職しており、就業者の30.4%が労働時間を調整しながら従事しています。両立に効果的な支援策としては「介護休業や介護休暇等の制度の充実」が32.2%、「労働時間の柔軟な選択」が28.1%となっており、職場環境の柔軟性が強く求められています。

6 介護保険制度の適正運営

・保険料に対する考え方（問28（P17））
サービス充実のための保険料増額を容認するか、抑制を望むか。
・施設費用の負担能力（問25（P15））
施設入所時に負担できる月額費用。

・今後の介護保険料のあり方については、「現状を維持する」との回答が37.3%で最も多く、「負担を増やすなどにより抑制するべき」とする意見も31.3%に達しています。これに対し、「サービス充実のために保険料が高くなっても仕方がない」とする方は12.8%にとどまっています。
・施設入所時の月額費用負担能力は、「5万円から10万円未満」が25.6%、「10万円から15万円未満」が19.5%となっており、4割強の方が15万円未満での対応を希望している状況となっています。

第10期介護保険事業計画策定に係る実態調査結果【施設調査】

資料3-2

【現行計画】の体系

主な調査項目

調査結果（傾向）

<p>1 フレイル予防をはじめとした介護予防の推進</p>	<p>・地域開放・ボランティア 特養・老健：問12・13 特定・GH：問11・12</p>	<p>・地域社会との連携を示すボランティアの受入状況は、<u>認知症対応型共同生活介護で60.7%、特定施設入居者生活介護で49.6%の施設が「ボランティアはいない」と回答しており、高齢者の社会参加の場として活用できる可能性があると考えられる。</u></p>
<p>2 地域での生活の継続に向けた支援</p>	<p>・在宅復帰・在宅療養支援 老健：問5 ・看取り（ターミナルケア）の実施 特養・老健：問10 特定・GH：問9 ・入所困難な理由 全施設共通：問3または問1 ・医療的ケアの受入実態 特養・老健：問9 特定・GH：問8 ・権利擁護・虐待防止 特養・老健：問11 特定・GH：問10</p>	<p>・介護老人保健施設における在宅復帰・在宅療養支援機能加算等の算定は75.6%となっており、利用者や家族への十分な説明と同意の取得はすべての施設で行われ、在宅復帰に向けたリハビリテーションサービスの強化や地域医療機関との連携強化に重点を置いた取り組みが進められています。 ・看取りに関する加算の算定率は、<u>介護老人保健施設で85.4%、特別養護老人ホームで74.7%</u>と体制整備が進んでいる一方で、<u>認知症対応型共同生活介護では56.0%</u>にとどまっており、医療連携体制の充実度が看取りの実施状況に影響しています。 ・入所が困難な理由として、<u>特別養護老人ホームでは84.4%、介護老人保健施設では66.7%、認知症対応型共同生活介護では58.0%の施設が「高度な医療的ケアが必要であるため」</u>を第一位に挙げており、医療依存度の高さが施設受入の最大の障壁となっています。 ・医療的ケアの実施状況を見ると、<u>特別養護老人ホームや介護老人保健施設では喀痰吸引や胃ろう等の対応が一定数行われていますが、認知症対応型共同生活介護では実施実績が乏しく、医療対応に限界が見られます。</u> ・権利擁護・虐待防止体制については、<u>全施設類型において職員研修の実施率が95%以上</u>と高い水準（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院では100%）となっており、体制整備が進んでいます。</p>
<p>3 認知症の人にやさしいまちづくりの推進</p>	<p></p>	<p></p>
<p>4 安全・安心な住生活環境の確保</p>	<p>・事故・災害対応 特養・老健：問14 特定・GH：問13 ・施設の改築・改修予定 特養・老健：問16 特定・GH：問15 ・待機者数 特養：問1、GH：問1 ・特定施設の指定意向 特定施設・サ高住：問15</p>	<p>・災害時の対応について、<u>マニュアルの策定や避難訓練の実施率は、すべての施設類型において高い水準となっています。</u>一方で、災害時における要援護者の受け入れ体制については、<u>特別養護老人ホームでは79.7%と整備が進んでいますが、介護老人保健施設や認知症対応型共同生活介護では30%台にとどまっており、地域防災拠点としての機能にはばらつきが見られます。</u> ・施設の改築や改修に関しては、<u>今後10年以内に「全面改築が必要」と考えている施設が介護老人保健施設で26.8%、特別養護老人ホームで12.7%存在します。</u>また、老朽化に伴う設備機器の更新については、<u>介護老人保健施設の8割以上、特別養護老人ホームの7割以上が必要性を認識しており、ハード面の更新需要が高まっています。</u> ・特別養護老人ホームにおける待機者数は、<u>1施設平均で43.13人、合計3,278人（うち神戸市在住者は2,619人）</u>となっており、依然として多くの待機者が存在しています。一方、<u>認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の待機者数は、1施設平均で2.11人、合計171人</u>となっています。 ・また、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅等における特定施設入居者生活介護の指定状況については、<u>現在指定を受けていない施設の91.8%が「特定施設の指定を受けることは考えていない」と回答しており、今後、特定施設への転換を予定または希望している施設は8.2%</u>にとどまる傾向となっています。このことから、既存の住宅型施設から特定施設への移行による供給量の増加は限定的であると考えられます。</p>
<p>5 介護人材の確保・育成</p>	<p>・職員の充足状況と離職理由 全施設共通：問6または問5 ・ICT・介護ロボットの導入 特養・老健：問15 特定・GH：問14</p>	<p>・職員の充足状況については、<u>特別養護老人ホームで59.5%、介護老人保健施設で56.1%が「不足している」と回答しており、人手不足感が顕著となっています。</u>離職の主な理由としては、<u>全施設類型を通じて「職場の人間関係」が最多</u>となっており、次いで家庭の事情や健康問題が挙げられています。 ・ICT・介護ロボットの導入状況を見ると、特別養護老人ホーム等では見守りセンサーや記録システムの導入が進んでいますが、<u>認知症対応型共同生活介護では50.0%が「導入していない」と回答しており、種別による差が見られます。</u>導入を阻む要因としては、「<u>導入費用の高額さ</u>」が全ての施設で最大の課題となっており、加えて「<u>費用対効果が不明</u>」や「<u>職員が使いこなすことの難しさ</u>」が挙げられています。</p>
<p>6 介護保険制度の適正運営</p>	<p></p>	<p></p>

神戸市
介護保険事業計画策定に向けての実態調査
単 純 集 計 表
(高齢者一般調査)

調査にご回答いただく前にお聞きします

問1 ご回答いただく方はどなたですか。ご本人の調査協力に対する同意があるものの、ご記入が困難なために代筆される場合は、ご本人との続柄をお書きください。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
封筒の宛名のご本人	7,525	92.9
家族	387	4.8
その他	13	0.2
無回答	171	2.1

あなたのご家族や生活状況についてお聞きします

問2 家族構成を教えてください。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
1人暮らし	2,079	25.7
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	3,755	46.4
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	302	3.7
息子・娘との2世帯	913	11.3
その他	985	12.2
無回答	62	0.8

問3 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
介護・介助は必要ない	7,021	86.7
何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	479	5.9
現在、何らかの介護を受けている(要介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)	486	6.0
無回答	110	1.4

問3-1 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	965	100.0
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	116	12.0
心臓病	129	13.4
がん(悪性新生物)	86	8.9
呼吸器の病気(肺炎腫・肺炎等)	56	5.8
関節の病気(リウマチ等)	70	7.3
認知症(アルツハイマー病等)	47	4.9
パーキンソン病	27	2.8
糖尿病	109	11.3
腎疾患(透析)	33	3.4
視覚・聴覚障害	71	7.4
骨折・転倒	182	18.9
脊椎損傷	75	7.8
高齢による衰弱	220	22.8
その他	181	18.8
不明	11	1.1
無回答	96	9.9

問3-2 主にどなたの介護、介助を受けていますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	486	100.0
配偶者(夫・妻)	188	38.7
息子	82	16.9
娘	116	23.9
子の配偶者	20	4.1
孫	3	0.6
兄弟・姉妹	13	2.7
介護サービスのヘルパー	166	34.2
その他	63	13.0
無回答	8	1.6

問4 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
大変苦しい	679	8.4
やや苦しい	2,083	25.7
ふつう	4,302	53.1
ややゆとりがある	783	9.7
大変ゆとりがある	145	1.8
無回答	104	1.3

問5 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
持家（一戸建て）	4,108	50.7
持家（集合住宅）	2,290	28.3
公営賃貸住宅	691	8.5
民間賃貸住宅（一戸建て）	72	0.9
民間賃貸住宅（集合住宅）	598	7.4
借家	86	1.1
その他	181	2.2
無回答	70	0.9

問6 あなたには64歳以下の同居する家族がいますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,041	25.2
いいえ	5,884	72.7
無回答	171	2.1

問6-1 64歳以下の同居する家族に以下の状態にあてはまる方はいますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	2,041	100.0
ほとんど外出せずに趣味の用事のときだけ外出する状態が6ヶ月以上続いている	108	5.3
ほとんど外出せずに近所のコンビニなどにだけ外出する状態が6ヶ月以上続いている	66	3.2
自室から出るが家からは出ない状態が6ヶ月以上続いている	20	1.0
自室からはほとんど出ない状態が6ヶ月以上続いている	9	0.4
6ヶ月以上ではないが、上記の状態が続いている	20	1.0
わからない	52	2.5
いない	1,353	66.3
無回答	427	20.9

問6-2 その方の年齢を教えてください。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	209	100.0
20歳未満	1	0.5
20～29歳	4	1.9
30～39歳	30	14.4
40～49歳	58	27.8
50～59歳	53	25.4
60～64歳	40	19.1
無回答	23	11.0

問7 あなたの介護保険料の段階は何段階ですか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
第1段階	613	7.6
第2段階	409	5.1
第3段階	359	4.4
第4段階	344	4.2
第5段階	505	6.2
第6段階	394	4.9
第7段階	625	7.7
第8段階	421	5.2
第9段階	206	2.5
第10段階	93	1.1
第11段階	57	0.7
第12段階	20	0.2
第13段階	12	0.1
第14段階	27	0.3
第15段階	66	0.8
わからない	2,603	32.2
無回答	1,342	16.6

問8 介護保険料は、国・県・市が全体の50パーセントを負担し、残りを40歳以上の方々が負担する仕組みとなっています。介護サービスを充実させると、介護保険料が高くなります。今後の介護保険料について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
介護保険サービスの見直しやサービスを利用した人の負担を増やすなどにより、介護保険料を抑制するべき	3,711	45.8
介護保険サービスの現状を維持する(高齢化が進む分だけ介護保険料は高くなる)	2,821	34.8
介護保険サービスをさらに充実させる。そのために、介護保険料が高くなっても仕方がない	627	7.7
無回答	937	11.6

からだを動かすことについてお聞きます

問9 階段を手すりや壁につたわずに昇っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
できるし、している	4,875	60.2
できるけどしていない	1,670	20.6
できない	1,428	17.6
無回答	123	1.5

問10 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
できるし、している	6,253	77.2
できるけどしていない	913	11.3
できない	829	10.2
無回答	101	1.2

問11 15分位続けて歩いていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
できるし、している	6,755	83.4
できるけどしていない	772	9.5
できない	493	6.1
無回答	76	0.9

問12 過去1年間に転んだ経験がありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
何度もある	656	8.1
1度ある	1,861	23.0
ない	5,508	68.0
無回答	71	0.9

問13 転倒に対する不安は大きいですか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
とても不安である	1,412	17.4
やや不安である	3,466	42.8
あまり不安でない	1,937	23.9
不安でない	1,212	15.0
無回答	69	0.9

問14 週に1回以上は外出していますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
ほとんど外出しない	297	3.7
週1回	699	8.6
週2～4回	3,297	40.7
週5回以上	3,740	46.2
無回答	63	0.8

問15 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
とても減っている	271	3.3
減っている	1,693	20.9
あまり減っていない	2,551	31.5
減っていない	3,526	43.6
無回答	55	0.7

問16 外出を控えていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	1,485	18.3
いいえ	6,288	77.7
無回答	323	4.0

問16-1 外出を控えている理由は、次のどれですか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,485	100.0
病気	243	16.4
障害(脳卒中の後遺症など)	50	3.4
足腰などの痛み	803	54.1
トイレの心配(失禁など)	271	18.2
耳の障害(聞こえの問題など)	108	7.3
目の障害	89	6.0
外での楽しみがない	276	18.6
経済的に出られない	215	14.5
交通手段がない	122	8.2
その他	214	14.4
無回答	15	1.0

問17 外出する際の移動手段は何ですか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
徒歩	6,210	76.7
自転車	1,316	16.3
バイク	485	6.0
自動車(自分で運転)	2,731	33.7
自動車(人に乗せてもらう)	1,467	18.1
電車	4,282	52.9
路線バス	3,787	46.8
病院や施設のバス	242	3.0
車いす	34	0.4
電動車いす(カート)	22	0.3
歩行器・シルバーカー	101	1.2
タクシー	1,010	12.5
その他	107	1.3
無回答	165	2.0

食べることについてお聞きします

問18 身長と体重を教えてください。(数値をご記入ください)
BMI

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
やせ (18.5未満)	774	9.6
標準 (18.5以上25.0未満)	5,534	68.4
肥満 (25.0以上)	1,564	19.3
無回答	224	2.8

問19 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,181	26.9
いいえ	5,818	71.9
無回答	97	1.2

問20 お茶や汁物等でむせることがありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,315	28.6
いいえ	5,693	70.3
無回答	88	1.1

問21 口の渇きが気になりますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,513	31.0
いいえ	5,482	67.7
無回答	101	1.2

問22 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	7,446	92.0
いいえ	561	6.9
無回答	89	1.1

問23 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(該当するものに○：1つだけ)
(※成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用	1,234	15.2
自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし	3,335	41.2
自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用	2,205	27.2
自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし	713	8.8
無回答	609	7.5

問23-1 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,439	100.0
はい	3,132	91.1
いいえ	206	6.0
無回答	101	2.9

問23-2 噛み合わせは良いですか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	6,420	79.3
いいえ	1,229	15.2
無回答	447	5.5

問24 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	1,104	13.6
いいえ	6,779	83.7
無回答	213	2.6

問25 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
毎日ある	4,516	55.8
週に何度かある	795	9.8
月に何度かある	1,196	14.8
年に何度かある	820	10.1
ほとんどない	597	7.4
無回答	172	2.1

毎日の生活についてお聞きします

問26 物忘れが多いと感じますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	3,288	40.6
いいえ	4,694	58.0
無回答	114	1.4

問27 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	886	10.9
いいえ	7,114	87.9
無回答	96	1.2

問28 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	7,036	86.9
いいえ	971	12.0
無回答	89	1.1

問29 今日が何月何日かわからない時がありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	1,829	22.6
いいえ	6,183	76.4
無回答	84	1.0

問30 バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
できるし、している	7,029	86.8
できるけどしていない	687	8.5
できない	298	3.7
無回答	82	1.0

問31 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
できるし、している	6,912	85.4
できるけどしていない	785	9.7
できない	206	2.5
無回答	193	2.4

問32 自分で食事の用意をしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
できるし、している	6,018	74.3
できるけどしていない	1,408	17.4
できない	467	5.8
無回答	203	2.5

問33 自分で請求書の支払いをしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
できるし、している	6,840	84.5
できるけどしていない	849	10.5
できない	204	2.5
無回答	203	2.5

問34 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
できるし、している	6,957	85.9
できるけどしていない	726	9.0
できない	225	2.8
無回答	188	2.3

問35 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	7,382	91.2
いいえ	501	6.2
無回答	213	2.6

問36 新聞を読んでいますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	5,236	64.7
いいえ	2,654	32.8
無回答	206	2.5

問37 本や雑誌を読んでいますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	5,565	68.7
いいえ	2,335	28.8
無回答	196	2.4

問38 健康についての記事や番組に関心がありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	7,134	88.1
いいえ	766	9.5
無回答	196	2.4

問39 友人の家を訪ねていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	3,048	37.6
いいえ	4,839	59.8
無回答	209	2.6

問40 家族や友人の相談にのっていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	5,805	71.7
いいえ	2,062	25.5
無回答	229	2.8

問41 病人を見舞うことができますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	6,797	84.0
いいえ	1,081	13.4
無回答	218	2.7

問42 若い人に自分から話しかけることがありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	5,671	70.0
いいえ	2,224	27.5
無回答	201	2.5

問43 趣味はありますか。(「趣味あり」の方は()内に趣味をご記入ください)
(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
趣味あり	5,948	73.5
思いつかない	1,840	22.7
無回答	308	3.8

問44 生きがいがありますか。(「生きがいあり」の方は()内に生きがいをご記入ください)
(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
生きがいあり	4,522	55.9
思いつかない	3,122	38.6
無回答	452	5.6

問45 スマートフォンやタブレットの利用状況を教えてください。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
よく利用している	5,060	62.5
ときどき利用している	1,366	16.9
ほとんど利用していない	411	5.1
利用していない	1,029	12.7
無回答	230	2.8

問46 (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がないと感じる時がありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,330	28.8
いいえ	5,500	67.9
無回答	266	3.3

問47 (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったと感じることがありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	1,614	19.9
いいえ	6,231	77.0
無回答	251	3.1

問48 (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられることがありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,965	36.6
いいえ	4,896	60.5
無回答	235	2.9

問49 (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えないと感じることがありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	1,832	22.6
いいえ	6,018	74.3
無回答	246	3.0

問50 (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがすることがありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,687	33.2
いいえ	5,196	64.2
無回答	213	2.6

問51 あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じるがありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
まったく感じない	2,618	32.3
めったに感じない	2,474	30.6
ときどき感じる	2,232	27.6
よく感じる	570	7.0
無回答	202	2.5

問52 あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
まったく感じない	3,344	41.3
めったに感じない	3,053	37.7
ときどき感じる	1,394	17.2
よく感じる	176	2.2
無回答	129	1.6

問53 あなたは、自分は他の人たちから孤立(社会とのつながりや助けのない又は少ない状態)していると感じることがありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
まったく感じない	3,672	45.4
めったに感じない	2,853	35.2
ときどき感じる	1,231	15.2
よく感じる	197	2.4
無回答	143	1.8

問54 あなたはどの程度、孤独(独りぼっちと感じる寂しい気持ち)であると感じるがありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
まったく感じない	3,387	41.8
めったに感じない	2,927	36.2
ときどき感じる	1,451	17.9
よく感じる	188	2.3
無回答	143	1.8

問55 あなたの家で災害への備えでしているものを教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
3日以上上のトイレ(おむつ含む)	1,919	23.7
携帯電話などの予備電源	2,551	31.5
家具の固定	2,194	27.1
避難方法・経路の候補を決めている	2,074	25.6
飲料水や非常食などを備蓄している	4,501	55.6
家族(別居含む)との災害時の避難場所を共有している	1,781	22.0
持ち出し袋を準備している	2,058	25.4
その他	596	7.4
無回答	798	9.9

地域での活動についてお聞きします

問56 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

※①～⑧それぞれに回答してください。(該当する欄に○)

①ボランティアのグループ

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
週4回以上	77	1.0
週2～3回	168	2.1
週1回	150	1.9
月に1～3回	445	5.5
年に数回	335	4.1
参加していない	5,265	65.0
無回答	1,656	20.5

②スポーツ関係のグループやクラブ

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
週4回以上	364	4.5
週2～3回	665	8.2
週1回	523	6.5
月に1～3回	393	4.9
年に数回	204	2.5
参加していない	4,526	55.9
無回答	1,421	17.6

③趣味関係のグループ

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
週4回以上	186	2.3
週2～3回	404	5.0
週1回	534	6.6
月に1～3回	1,036	12.8
年に数回	449	5.5
参加していない	4,163	51.4
無回答	1,324	16.4

④学習・教養サークル

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
週4回以上	49	0.6
週2～3回	85	1.0
週1回	190	2.3
月に1～3回	354	4.4
年に数回	258	3.2
参加していない	5,390	66.6
無回答	1,770	21.9

⑤介護予防のためのつどいの場

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
週4回以上	33	0.4
週2～3回	47	0.6
週1回	120	1.5
月に1～3回	138	1.7
年に数回	220	2.7
参加していない	5,789	71.5
無回答	1,749	21.6

⑥老人クラブ

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
週4回以上	32	0.4
週2～3回	48	0.6
週1回	48	0.6
月に1～3回	161	2.0
年に数回	159	2.0
参加していない	5,898	72.9
無回答	1,750	21.6

⑦町内会・自治会

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
週4回以上	44	0.5
週2～3回	52	0.6
週1回	61	0.8
月に1～3回	427	5.3
年に数回	1,354	16.7
参加していない	4,605	56.9
無回答	1,553	19.2

⑧収入のある仕事

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
週4回以上	1,064	13.1
週2～3回	619	7.6
週1回	127	1.6
月に1～3回	161	2.0
年に数回	149	1.8
参加していない	4,537	56.0
無回答	1,439	17.8

問57 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加してみたいと思いますか。（該当するものに○：それぞれ1つだけ）

①参加者として

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
ぜひ参加したい	588	7.3
参加してもよい	4,319	53.3
参加したくない	2,590	32.0
既に参加している	379	4.7
無回答	220	2.7

②企画・運営（お世話役）として

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
ぜひ参加したい	152	1.9
参加してもよい	2,574	31.8
参加したくない	4,715	58.2
既に参加している	292	3.6
無回答	363	4.5

問58 どのような介護予防やつどいの場であれば参加したいと思いますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
体操(運動)の教室(公民館などでの講座)	2,099	25.9
体操(運動)の教室(WEB(インターネット))	519	6.4
身近な地域の公園でのラジオ体操	1,493	18.4
会食や茶話会等、食事をしながら、話し合う場	1,725	21.3
一人でゆっくり過ごせる、カフェなどの場	2,111	26.1
地域の情報を知ることができる場	1,707	21.1
認知症予防の教室(市役所での講座)	1,167	14.4
認知症予防の教室(WEB(インターネット))	461	5.7
趣味の活動への参加(料理教室、手芸、健康マージャン等)	2,161	26.7
ボランティアなど	981	12.1
農作業や農作物の収穫体験	945	11.7
支援が必要な高齢者への生活支援(買い物支援、移動支援等)	409	5.1
子どもや若年世代等世代間との交流活動	747	9.2
その他	191	2.4
参加したいと思わない	1,548	19.1
無回答	355	4.4

問59 介護予防やつどいの場に参加したいと思う理由は何ですか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	6,193	100.0
仲間ができるから	1,910	30.8
健康のため	3,736	60.3
楽しいから	1,381	22.3
生きがいを感じるから	748	12.1
情報が得られるから	2,533	40.9
地域の役に立ちたい	901	14.5
その他	181	2.9
無回答	408	6.6

問60 介護予防やつどいの場に参加する際、どのような点を重視しますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
内容が自分の興味と合っている	3,588	44.3
同年代や話しやすい人が参加している	2,583	31.9
自宅から近く、歩いて行ける	4,134	51.1
費用がかからない・安価である	3,176	39.2
介護が必要になっても通える配慮がある	1,108	13.7
開催日時が自分に合っている	1,831	22.6
地域に貢献している実感がある	597	7.4
その他	259	3.2
無回答	1,445	17.8

問61 災害が起こった時に備え、地域で支え合うための活動(避難訓練・要援護者支援など)に参加したいと思いますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
ぜひ参加したい	500	6.2
参加してもよい	5,145	63.5
参加したくない	1,705	21.1
既に参加している	251	3.1
無回答	495	6.1

就労についてお聞きします

問62 現在のあなたの就労状態はどれですか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
職に就いたことがない	718	8.9
引退した	4,194	51.8
常勤（フルタイム）	461	5.7
非常勤（パート・アルバイト等）	1,292	16.0
自営業	630	7.8
求職中	67	0.8
その他	335	4.1
無回答	490	6.1

問62-1 あなたはいつ引退しましたか。（和暦をご記入ください）

カテゴリ	件数	割合
全 体	4,194	100.0
昭和64年以前	451	10.8
平成元年～15年	593	14.1
平成16年～31年	1,560	37.2
令和元年以降	1,225	29.2
無回答	365	8.7

たすけあい（あなたとまわりの人の「たすけあい」）についてお聞きします

問63 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人はいますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
配偶者	4,189	51.7
同居の子ども	1,098	13.6
別居の子ども	2,841	35.1
兄弟姉妹・親戚・親・孫	2,114	26.1
近隣	676	8.3
友人	3,773	46.6
その他	231	2.9
そのような人はいない	400	4.9
無回答	151	1.9

問64 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人はいますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
配偶者	4,069	50.3
同居の子ども	1,021	12.6
別居の子ども	2,679	33.1
兄弟姉妹・親戚・親・孫	2,339	28.9
近隣	919	11.4
友人	3,920	48.4
その他	172	2.1
そのような人はいない	472	5.8
無回答	193	2.4

問65 あなたが病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人はいますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
配偶者	4,672	57.7
同居の子ども	1,432	17.7
別居の子ども	2,658	32.8
兄弟姉妹・親戚・親・孫	868	10.7
近隣	172	2.1
友人	441	5.4
その他	153	1.9
そのような人はいない	726	9.0
無回答	152	1.9

問66 反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
配偶者	4,523	55.9
同居の子ども	1,145	14.1
別居の子ども	1,803	22.3
兄弟姉妹・親戚・親・孫	1,353	16.7
近隣	213	2.6
友人	538	6.6
その他	111	1.4
そのような人はいない	1,488	18.4
無回答	271	3.3

問67 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
自治会・町内会・老人クラブ	479	5.9
社会福祉協議会	224	2.8
民生委員	556	6.9
ケアマネジャー	563	7.0
医師・歯科医師・看護師	2,080	25.7
あんしんすこやかセンター	1,056	13.0
市役所・区役所	1,172	14.5
その他	374	4.6
そのような人はいない	3,385	41.8
無回答	440	5.4

問68 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
毎日ある	540	6.7
週に何度かある	2,057	25.4
月に何度かある	2,225	27.5
年に何度かある	1,710	21.1
ほとんどない	1,358	16.8
無回答	206	2.5

問69 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。（同じ人には何度会っても1人と数えることとします）（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
0人（いない）	1,294	16.0
1～2人	1,944	24.0
3～5人	1,999	24.7
6～9人	901	11.1
10人以上	1,763	21.8
無回答	195	2.4

問70 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
近所・同じ地域の人	1,530	18.9
幼なじみ	118	1.5
学生時代の友人	510	6.3
仕事での同僚・元同僚	1,158	14.3
趣味や関心が同じ友人	1,321	16.3
ボランティア等の活動での友人	122	1.5
その他	370	4.6
いない	784	9.7
無回答	2,183	27.0

健康についてお聞きします

問71 現在のあなたの健康状態はいかがですか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
とてもよい	843	10.4
まあよい	5,506	68.0
あまりよくない	1,303	16.1
よくない	216	2.7
無回答	228	2.8

問72 あなたは、現在どの程度幸せですか。（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
0点	24	0.3
1点	38	0.5
2点	49	0.6
3点	176	2.2
4点	263	3.2
5点	1,377	17.0
6点	809	10.0
7点	1,338	16.5
8点	1,885	23.3
9点	885	10.9
10点	920	11.4
無回答	332	4.1

問73 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,857	35.3
いいえ	4,976	61.5
無回答	263	3.2

問74 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	1,742	21.5
いいえ	6,087	75.2
無回答	267	3.3

問75 お酒は飲みますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
ほぼ毎日飲む	1,880	23.2
時々飲む	1,416	17.5
ほとんど飲まない	2,016	24.9
もともと飲まない	2,577	31.8
無回答	207	2.6

問76 タバコは吸っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
ほぼ毎日吸っている	549	6.8
時々吸っている	91	1.1
吸っていたがやめた	2,486	30.7
もともと吸っていない	4,762	58.8
無回答	208	2.6

問77 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
ない	1,142	14.1
高血圧	3,365	41.6
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	267	3.3
心臓病	924	11.4
糖尿病	1,118	13.8
脂質異常症(高脂血症)	1,232	15.2
呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	494	6.1
胃腸・肝臓・胆のうの病気	482	6.0
腎臓・前立腺の病気	808	10.0
筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	1,009	12.5
外傷(転倒・骨折等)	259	3.2
がん(悪性新生物)	431	5.3
血液・免疫の病気	164	2.0
うつ病	81	1.0
認知症(アルツハイマー病等)	48	0.6
パーキンソン病	39	0.5
目の病気	1,561	19.3
耳の病気	493	6.1
その他	870	10.7
無回答	404	5.0

問78 フレイルについて知っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
よく知っており、予防活動をしている	1,823	22.5
知っているが、予防活動をしていない	2,358	29.1
聞いたことはあるが、内容はわからない	881	10.9
知らないが、健康には気をつけている	1,360	16.8
知らない	1,405	17.4
無回答	269	3.3

問79 オーラルフレイルについて知っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
よく知っている	1,000	12.4
だいたい知っている	2,240	27.7
聞いたことはあるが、内容はわからない	1,600	19.8
知らない	2,963	36.6
無回答	293	3.6

認知症についてお聞きします

問80 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	889	11.0
いいえ	6,971	86.1
無回答	236	2.9

問81 認知症に関する相談窓口を知っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	2,502	30.9
いいえ	5,336	65.9
無回答	258	3.2

問82 MC I（軽度認知障害）について知っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
よく知っている	527	6.5
だいたい知っている	2,089	25.8
聞いたことはあるが、内容はわからない	2,247	27.8
知らない	2,993	37.0
無回答	240	3.0

問83 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。あなたが思うイメージに最も近いものをお答えください。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	599	7.4
認知症になっても、自分だけでは十分できないことは周りの人のサポートを受けながら、今まで暮らしてきた地域で、できるだけ自立した生活ができる	1,138	14.1
認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	2,054	25.4
認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	1,812	22.4
認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	217	2.7
認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう	596	7.4
その他	79	1.0
わからない	871	10.8
無回答	730	9.0

問84 認知症の人も地域活動に役割をもって参加した方が良いと思いますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
そう思う	1,608	19.9
ややそう思う	2,267	28.0
どちらでもない	2,043	25.2
あまり思わない	1,385	17.1
全く思わない	374	4.6
無回答	419	5.2

問85 認知症の人が、記憶力が低下し判断することができなくなっても、日々の生活についてできるだけ本人が決める方が良いと思いますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
そう思う	1,537	19.0
ややそう思う	2,623	32.4
どちらでもない	1,786	22.1
あまり思わない	1,447	17.9
全く思わない	303	3.7
無回答	400	4.9

問86 家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしいと思いますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
そう思う	2,680	33.1
ややそう思う	2,668	33.0
どちらでもない	1,053	13.0
あまり思わない	1,004	12.4
全く思わない	268	3.3
無回答	423	5.2

問87 神戸市では、市民の方が自己負担ゼロで認知症の診断を受けることができる制度（認知症神戸モデル 診断助成制度）を設けています。この制度を知っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
よく知っている	1,380	17.0
だいたい知っている	1,648	20.4
聞いたことはあるが、内容はわからない	1,287	15.9
知らない	3,356	41.5
無回答	425	5.2

問87-1 診断助成制度を何で知りましたか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,028	100.0
市からの郵便物（70歳以上の方のみ）	2,382	78.7
広報紙KOB E	857	28.3
ホームページ・SNS/YouTube広告	37	1.2
駅などにある公共広告・ポスター・デジタルサイネージ	30	1.0
新聞・テレビ	226	7.5
医療機関	462	15.3
あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）	240	7.9
ケアマネジャー	79	2.6
ホームヘルパーやデイサービス職員などの介護職員	33	1.1
こうべオレンジダイヤル（認知症の総合電話相談窓口）	13	0.4
市の説明会・講義	43	1.4
家族や知り合いから聞いた	265	8.8
その他	49	1.6
無回答	45	1.5

問88 認知症の方がかかわる事故を救済する制度（認知症神戸モデル 事故救済制度）を知っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
よく知っている	276	3.4
だいたい知っている	585	7.2
聞いたことはあるが、内容はわからない	1,483	18.3
知らない	5,375	66.4
無回答	377	4.7

問89 神戸市は、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちだと思いますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
そう思う	1,171	14.5
ややそう思う	2,263	28.0
どちらでもない	2,830	35.0
あまり思わない	1,150	14.2
全く思わない	241	3.0
無回答	441	5.4

問90 認知症に関する心配ごとは、誰に相談していますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
心配ごとはない	1,643	20.3
家族・親族	3,806	47.0
友人・知人	1,362	16.8
あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）	691	8.5
ケアマネジャー	422	5.2
ホームヘルパーやデイサービス職員などの介護職員	140	1.7
こうべオレンジダイヤル（認知症の総合電話相談窓口）	65	0.8
区役所	290	3.6
社会福祉士などの福祉関係者	122	1.5
医師	823	10.2
看護師、薬剤師などの医療関係者	217	2.7
民生委員	125	1.5
その他	52	0.6
誰にも相談していない	1,240	15.3
わからない	428	5.3
無回答	343	4.2

問91 あなたは、認知症のご本人やそのご家族が、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、特に必要だと思うことは何ですか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
認知症について正しく理解できる機会（講座・広報など）の充実	2,631	32.5
認知症の人が安心して移動・買い物・通院できる環境の整備	3,807	47.0
認知症の人が地域の活動や仕事などに参加できる場の確保	1,243	15.4
認知症の人の思いや希望を尊重しながら支援する体制づくり	2,857	35.3
認知症に関する医療の充実	3,052	37.7
医療・介護・福祉が連携した切れ目のない支援体制の整備	3,569	44.1
認知症に関する相談窓口や家族への支援体制の充実	4,115	50.8
認知症にならないための予防に関する情報や取り組みの推進	3,339	41.2
無回答	539	6.7

問92 あなたは、成年後見制度を知っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
よく知っている	1,065	13.2
だいたい知っている	3,069	37.9
聞いたことはあるが、内容はわからない	2,154	26.6
知らない	1,507	18.6
無回答	301	3.7

問93 成年後見制度に関する相談窓口を知っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
はい	1,300	16.1
いいえ	6,467	79.9
無回答	329	4.1

人生会議（ACP）・終活についてお聞きします

問94 人生最期の時期について、おうかがいします。

自分が意思決定できなくなったときに備えて、あなたが望む医療やケア、最期の過ごし方等について、あなたとご家族や友人、あなたと医療・ケア関係者等と話し合ったことはありますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
まったくない	4,161	51.4
話し合ったことがある	2,857	35.3
話し合ったことがあり、希望として明確に伝えている	761	9.4
無回答	317	3.9

問94-1 話し合ったことがないのは、どのような理由からですか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	4,161	100.0
必要性を感じない	821	19.7
話し合う相手がいない	246	5.9
特に希望がない	383	9.2
考えたことがなく分からない	1,159	27.9
希望はあるが、これまで機会がなかった	1,474	35.4
無回答	78	1.9

問95 あなたが望む医療やケア、最期の過ごし方について話し合ったことのある相手、もしくは話し合いたいと思う人は誰ですか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
いない	369	4.6
配偶者	4,362	53.9
同居の子ども	1,407	17.4
別居の子ども	4,214	52.1
兄弟姉妹・親戚・親・孫	1,241	15.3
近隣の方	119	1.5
友人	750	9.3
医療従事者（医師、看護師など）	849	10.5
介護従事者（ケアマネジャー、ヘルパーなど）	661	8.2
その他	70	0.9
無回答	332	4.1

問96 あなたは最期をどこで迎えたいと思いますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
病院	1,173	14.5
ホスピス・緩和ケア病棟	729	9.0
老人ホームや認知症グループホームなどの福祉施設	410	5.1
高齢者向けのケア付き集合住宅	400	4.9
自宅（子どもなどの家族宅も含む）	2,763	34.1
わからない	2,196	27.1
無回答	425	5.2

問97 あなたが望む医療やケア、最期の過ごし方等について、あなたと家族や友人、あなたと医療・ケア従事者等と話し合うといったことを「人生会議（ACP）」と言いますが、そのことを知っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
知らない	6,888	85.1
「人生会議（ACP）」という言葉だけは知っていた	575	7.1
知っている	349	4.3
無回答	284	3.5

問98 今後の生活の中で準備をしているものはありますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	8,096	100.0
葬儀の準備	1,656	20.5
お墓の準備	1,912	23.6
財産の整理（相続の準備等）	1,593	19.7
身の回りの所有物の整理（「財産の整理」を除く）	2,333	28.8
身近な人へのメッセージやエンディングノート（自身の死後の希望や意思を遺族等に伝える文書）の作成	897	11.1
リビングウィル（終末期医療の指示・介護の希望・代理人の指定等）の作成	265	3.3
その他	182	2.2
準備しているものはない	2,856	35.3
無回答	273	3.4

そのほか、神戸市の高齢者施策や介護保険事業に関して、ご意見がありましたら、自由にお書きください。

神戸市

介護保険事業計画策定に向けての実態調査

単 純 集 計 表

(在宅高齢者実態調査)

問A このアンケートの記入者は、次のうちどれにあてはまりますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,540	100.0
本人が記入、回答	1,711	48.3
本人以外の方が、本人に代わって回答できる	1,292	36.5
本人に代わって記入できる人はいない	97	2.7
無回答	440	12.4

※問Aで「本人以外の方が、本人に代わって回答できる」と回答した方へ

問B 記入者の、ご本人からみた続柄をお答えください。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,292	100.0
配偶者（夫または妻）	493	38.2
子ども	637	49.3
子どもの配偶者	43	3.3
その他	112	8.7
無回答	7	0.5

※問Aで「本人に代わって記入できる人はいない」と回答した方へ

問C このアンケートに回答できない理由は、次のうちどれですか。（該当するものに○：1つだけ）

なお、問1以降の質問への回答は不要です。

カテゴリ	件数	割合
全 体	97	100.0
本人が病院に入院中で、本人の意向がわからない	11	11.3
本人が介護保険施設などに入所中で、本人の意向がわからない（特別養護老人ホーム・老人保健施設・養護老人ホーム・有料老人ホームなど）	44	45.4
認知症等があり、本人の意思がわからない	18	18.6
本人はすでに転居している	-	-
本人はすでに死亡している	10	10.3
その他	8	8.2
無回答	6	6.2

最初にあなた自身（封筒のあて名のご本人）のことについておうかがいします。

問1 封筒のあて名のご本人（以下「あなた」）についておうかがいします。

（1）あなたの年齢、性別をお答えください。

年齢（令和7年12月1日現在）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
65～69歳	182	5.3
70～74歳	325	9.4
75～79歳	470	13.7
80～84歳	708	20.6
85～89歳	811	23.6
90歳以上	738	21.4
無回答	209	6.1

性別（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
男性	1,162	33.7
女性	2,236	64.9
その他	-	-
無回答	45	1.3

BMI

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,540	100.0
やせ（18.5未満）	486	13.7
標準（18.5以上25.0未満）	2,046	57.8
肥満（25.0以上）	671	19.0
無回答	337	9.5

(2) 家族構成をお教えてください。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
1人暮らし	1,311	38.1
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	971	28.2
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	104	3.0
息子・娘世帯(単身世帯を含む)との2世帯	584	17.0
その他	415	12.1
無回答	58	1.7

(3) あなたは、現在歩いて15分以内くらいの距離に住んでいる親族の方はいらっしゃいますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
子ども(息子・娘)	905	26.3
孫	153	4.4
兄弟姉妹	122	3.5
その他	172	5.0
いない	2,161	62.8
無回答	100	2.9

(4) あなたの要介護度は、次のどれにあてはまりますか。(令和7年12月1日現在)(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
要支援1	905	26.3
要支援2	985	28.6
要介護1	421	12.2
要介護2	427	12.4
要介護3	240	7.0
要介護4	167	4.9
要介護5	117	3.4
わからない	66	1.9
無回答	115	3.3

(5) あなたは、次にあげる手帳類を所持していますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
身体障害者手帳	1,076	31.3
療育手帳	15	0.4
精神障害者保健福祉手帳	86	2.5
特定疾患医療受給者証	152	4.4
被爆者健康手帳	16	0.5
その他行政が発行する手帳類(健康手帳は除く)	115	3.3
何も所持していない	1,835	53.3
無回答	273	7.9

身体障害者手帳の等級

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,076	100.0
1級	317	29.5
2級	219	20.4
3級	142	13.2
4級	179	16.6
5級	51	4.7
6級	41	3.8
無回答	127	11.8

健康のことや介護予防のことについておうかがいします。

問2 あなたは、現在どの程度幸せですか（「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください。）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
0点	46	1.3
1点	42	1.2
2点	74	2.1
3点	193	5.6
4点	146	4.2
5点	755	21.9
6点	288	8.4
7点	437	12.7
8点	593	17.2
9点	242	7.0
10点	379	11.0
無回答	248	7.2

問3 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
ない	145	4.2
高血圧	1,603	46.6
脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	465	13.5
心臓病	597	17.3
糖尿病	675	19.6
脂質異常症（高脂血症）	348	10.1
呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	309	9.0
胃腸・肝臓・胆のうの病気	260	7.6
腎臓・前立腺の病気	412	12.0
筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	721	20.9
外傷（転倒・骨折等）	311	9.0
がん（悪性新生物）	232	6.7
血液・免疫の病気	104	3.0
うつ病	114	3.3
認知症（アルツハイマー病等）	446	13.0
パーキンソン病	139	4.0
目の病気	777	22.6
耳の病気	344	10.0
その他	577	16.8
無回答	74	2.1

問4 通院のことについておたずねします。現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
はい	3,076	89.3
いいえ	298	8.7
無回答	69	2.0

問5 ご自宅での医療についておうかがいします。

(1) ご自宅で、医師、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師、管理栄養士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士による治療や指導を受けていますか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
はい	1,286	37.4
いいえ	2,028	58.9
無回答	129	3.7

(1) で「はい」と回答した方におたずねします。

(2) 次の表の当てはまるところに○を記入してください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

利用の程度

①医師(複数の医師が来る場合は利用の程度は合計してください)

カテゴリ	件数	割合
全 体	745	100.0
月に1回	351	47.1
月に2回	245	32.9
週に1回	83	11.1
週に2回	30	4.0
それ以上	36	4.8
無回答	-	-

何科の医師が来ますか(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	745	100.0
内科	526	70.6
外科	27	3.6
整形外科	95	12.8
眼科	51	6.8
皮膚科	29	3.9
耳鼻いんこう科	15	2.0
精神科	37	5.0
その他	64	8.6
わからない	15	2.0
無回答	98	13.2

②歯科医師

カテゴリ	件数	割合
全 体	228	100.0
月に1回	132	57.9
月に2回	43	18.9
週に1回	12	5.3
週に2回	6	2.6
それ以上	35	15.4
無回答	-	-

③歯科衛生士

カテゴリ	件数	割合
全 体	113	100.0
月に1回	62	54.9
月に2回	23	20.4
週に1回	11	9.7
週に2回	-	-
それ以上	17	15.0
無回答	-	-

④薬剤師

カテゴリ	件数	割合
全 体	218	100.0
月に1回	106	48.6
月に2回	77	35.3
週に1回	20	9.2
週に2回	4	1.8
それ以上	11	5.0
無回答	-	-

⑤看護師

カテゴリ	件数	割合
全 体	703	100.0
月に1回	172	24.5
月に2回	113	16.1
週に1回	228	32.4
週に2回	108	15.4
それ以上	82	11.7
無回答	-	-

⑥管理栄養士

カテゴリ	件数	割合
全 体	33	100.0
月に1回	22	66.7
月に2回	1	3.0
週に1回	2	6.1
週に2回	-	-
それ以上	8	24.2
無回答	-	-

⑦作業療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	204	100.0
月に1回	13	6.4
月に2回	9	4.4
週に1回	115	56.4
週に2回	39	19.1
それ以上	28	13.7
無回答	-	-

⑧理学療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	480	100.0
月に1回	17	3.5
月に2回	19	4.0
週に1回	261	54.4
週に2回	140	29.2
それ以上	43	9.0
無回答	-	-

⑨言語聴覚士

カテゴリ	件数	割合
全 体	67	100.0
月に1回	9	13.4
月に2回	3	4.5
週に1回	47	70.1
週に2回	5	7.5
それ以上	3	4.5
無回答	-	-

⑩その他

カテゴリ	件数	割合
全 体	66	100.0
月に1回	11	16.7
月に2回	11	16.7
週に1回	19	28.8
週に2回	16	24.2
それ以上	9	13.6
無回答	-	-

(3) ご自宅で、下記の医療を受けていますか（病院や診療所に通院して受ける場合は除く）。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
点滴	34	1.0
尿路カテーテル（失禁への対応のため）	45	1.3
経管栄養療法（管による栄養補給）	19	0.6
中心静脈栄養	3	0.1
在宅酸素療法（酸素の補給）	30	0.9
褥瘡処理（床ずれの治療など）	26	0.8
透析	8	0.2
人工肛門	14	0.4
気管切開	5	0.1
モニター測定	9	0.3
浣腸や摘便（便秘の治療など）	99	2.9
喀痰吸引（たんの取り除き）	24	0.7
その他	92	2.7
わからない	72	2.1
無回答	3,072	89.2

問6 歯科検診についておたずねします。

(1) あなたは、かかりつけ歯科医がいますか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
いる	2,354	68.4
いない	905	26.3
無回答	184	5.3

(2) あなたは、歯科検診を受けていますか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
半年に1回受けている	983	28.6
1年に1回受けている	233	6.8
2～3年に1回受けている	133	3.9
定期的には受けていない	1,234	35.8
受けたことがない	477	13.9
無回答	383	11.1

問7 歯磨きなどの口の中の手入れは、むし歯や歯周病の予防だけでなく、口の中の機能を維持し、肺炎や他の疾患の予防にもつながります。

(1) 歯や歯ぐきのことについておたずねします。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
むし歯がある	472	13.7
歯ぐきから出血する	235	6.8
歯がぐらぐらする	283	8.2
入れ歯（義歯）がはずれやすい	701	20.4
固いものが噛めない	818	23.8
食べ物が飲み込みにくい	338	9.8
口臭がある	290	8.4
口がかわく	555	16.1
その他	195	5.7
特に不自由ではない	1,018	29.6
無回答	340	9.9

(2) 歯磨きなど口の中の手入れをどれくらいされていますか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
毎食後	714	20.7
朝と夜の2回	1,526	44.3
一日1回	806	23.4
その他	124	3.6
わからない	112	3.3
無回答	161	4.7

(3) 現在ご自身の歯は何本残っていますか。さし歯や金属をかぶせた歯も自分の歯に含めます。
 なお、成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
0本	435	12.6
1～4本	314	9.1
5～9本	359	10.4
10～14本	320	9.3
15～19本	290	8.4
20～23本	371	10.8
24～27本	555	16.1
28～32本	582	16.9
無回答	217	6.3

(4) オーラルフレイルについて知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
よく知っている	204	5.9
だいたい知っている	761	22.1
聞いたことはあるが、内容はわからない	722	21.0
知らない	1,618	47.0
無回答	138	4.0

問8 薬を飲んだりお使いになっている方におたずねします。(薬を飲んだりお使いになっていない方は問9へ)

(1) どこで(誰から)薬を入手しましたか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
病院や診療所で入手した	1,149	33.4
医師の処方箋を持っていき調剤薬局で入手した	2,404	69.8
薬局で店の人の話を聞いて買った	45	1.3
薬局などで自分で選んで買った	112	3.3
通信販売で買った	48	1.4
家族や知人にもらった	10	0.3
その他	37	1.1
無回答	272	7.9

(2) 薬の飲み方、使い方についてお聞きします。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
きめられたとおりに飲んだり使ったりしている	2,612	75.9
ときどき忘れることがある	423	12.3
きめられたとおりにできない	64	1.9
その他	71	2.1
無回答	273	7.9

(3) 「お薬手帳」を活用されていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
はい	3,146	91.4
いいえ	96	2.8
わからない	35	1.0
無回答	166	4.8

(4) かかりつけ薬局はありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
ある	2,930	85.1
ない	318	9.2
無回答	195	5.7

問9 あなたの現在の身体状況は以下のどれにあてはまりますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
何も使わずに普通に歩くことができる	834	24.2
杖や歩行器等を使えば一人で歩くことができる	1,639	47.6
介助を受ければ歩くことができる	282	8.2
歩行は困難で、移動するには自走用又は介助用の車いすが必要	463	13.4
移動はできない	65	1.9
無回答	160	4.6

問10 認知症に関しておたずねします。

(1) あなたは、認知症に関する情報をどこから得ていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
家族	1,174	34.1
友人・知人	590	17.1
テレビ・ラジオ	1,725	50.1
あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)	560	16.3
ケアマネジャー	728	21.1
ホームヘルパーやデイサービス職員などの介護職員	439	12.8
インターネット、携帯電話(スマートフォンなど)	327	9.5
新聞	802	23.3
市等の広報紙	316	9.2
雑誌、出版物	317	9.2
講習会・研修(認知症サポーター養成講座など)	88	2.6
その他	100	2.9
特にどこからも得ていない	436	12.7
無回答	120	3.5

(2) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人はいますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
はい	801	23.3
いいえ	2,530	73.5
無回答	112	3.3

(3) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
はい	1,294	37.6
いいえ	2,013	58.5
無回答	136	4.0

(4) 神戸市では、市民の方が自己負担ゼロで認知症の診断を受けることができる制度(認知症神戸モデル診断助成制度)を設けています。この制度を知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
よく知っている	619	18.0
だいたい知っている	835	24.3
聞いたことはあるが、内容はわからない	646	18.8
知らない	1,241	36.0
無回答	102	3.0

(4)で「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した方におたずねします。
 (5) 診断助成制度を何で知りましたか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,454	100.0
市からの郵便物(70歳以上の方のみ)	1,050	72.2
広報紙KOB E	352	24.2
ホームページ・SNS/YouTube広告	23	1.6
駅などにある公共広告・ポスター・デジタルサイネージ	7	0.5
新聞・テレビ	146	10.0
医療機関	117	8.0
あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)	213	14.6
ケアマネジャー	219	15.1
ホームヘルパーやデイサービス職員などの介護職員	69	4.7
こうべオレンジダイヤル(認知症の総合電話相談窓口)	8	0.6
市の説明会・講義	14	1.0
家族や知り合いから聞いた	106	7.3
その他	38	2.6
無回答	37	2.5

(6) 認知症の方がかかわる事故を救済する制度(認知症神戸モデル事故救済制度)を知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
よく知っている	165	4.8
だいたい知っている	340	9.9
聞いたことはあるが、内容はわからない	603	17.5
知らない	2,166	62.9
無回答	169	4.9

(7) 神戸市は、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちだと思いますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
そう思う	740	21.5
ややそう思う	838	24.3
どちらでもない	999	29.0
あまり思わない	464	13.5
全く思わない	146	4.2
無回答	256	7.4

(8) あなたご自身は、認知症に関して心配ごとがありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
ある	1,653	48.0
ない	1,610	46.8
無回答	180	5.2

(8)で「ある」と回答した方におたずねします。

(9) 認知症に関する心配ごとは、誰に相談していますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,653	100.0
家族・親族	1,046	63.3
友人・知人	231	14.0
あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)	302	18.3
ケアマネジャー	630	38.1
ホームヘルパーやデイサービス職員などの介護職員	221	13.4
こうべオレンジダイヤル(認知症の総合電話相談窓口)	2	0.1
区役所	34	2.1
社会福祉士などの福祉関係者	26	1.6
医師	409	24.7
看護師、薬剤師などの医療関係者	139	8.4
民生委員	31	1.9
その他	23	1.4
誰にも相談していない	167	10.1
わからない	44	2.7
無回答	14	0.8

(10) あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。あなたが思うイメージに最も近いものをお答えください(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	212	6.2
認知症になっても、自分だけでは十分できないことは周りの人のサポートを受けながら、今まで暮らしてきた地域で、できるだけ自立した生活ができる	407	11.8
認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	690	20.0
認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる	697	20.2
認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる	74	2.1
認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう	233	6.8
その他	32	0.9
わからない	610	17.7
無回答	488	14.2

(11) あなたは、認知症のご本人やそのご家族が、住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、特に必要だと思うことは何ですか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
認知症について正しく理解できる機会(講座・広報など)の充実	752	21.8
認知症の人が安心して移動・買い物・通院できる環境の整備	1,434	41.6
認知症の人が地域の活動や仕事などに参加できる場の確保	400	11.6
認知症の人の思いや希望を尊重しながら支援する体制づくり	1,127	32.7
認知症に関する医療の充実	1,109	32.2
医療・介護・福祉が連携した切れ目のない支援体制の整備	1,568	45.5
認知症に関する相談窓口や家族への支援体制の充実	1,323	38.4
認知症にならないための予防に関する情報や取り組みの推進	1,269	36.9
無回答	371	10.8

問11 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
よく知っている	287	8.3
だいたい知っている	995	28.9
聞いたことはあるが、内容はわからない	969	28.1
知らない	1,002	29.1
無回答	190	5.5

問12 成年後見制度に関する相談窓口を知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
はい	470	13.7
いいえ	2,756	80.0
無回答	217	6.3

問13 あなたが、医療や介護について情報を得たい時に、気軽に相談できる窓口もしくは人は誰ですか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
市役所・区役所の窓口	569	16.5
あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)	1,803	52.4
病院の相談窓口	326	9.5
医師・看護師など医療関係者	1,259	36.6
地域のサロンなど	15	0.4
民生委員・自治会役員など	132	3.8
家族・親族	1,668	48.4
友人	270	7.8
その他	186	5.4
相談できる窓口(人)はない	99	2.9
無回答	121	3.5

毎日の生活についておうかがいします。

問14 現在の生活で心配事がありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
心配がある	877	25.5
多少心配がある	1,448	42.1
心配はない	685	19.9
わからない	188	5.5
無回答	245	7.1

問14で「心配がある」「多少心配がある」と回答した方におたずねします。

問15 心配ごととはどのようなことですか。あてはまるものに○を記入してください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	2,325	100.0
自分が病気がちであったり介護を必要としている	828	35.6
配偶者や世話をしてくれる家族が病気がちであったり介護を必要としている	309	13.3
自宅内や外出時の転倒や事故	1,377	59.2
家事が大変である	627	27.0
頼れる人がいなく一人きりである	190	8.2
子ども(息子・娘)や孫とのつきあいがうまくいっていない	117	5.0
子どもや孫が難しい問題をかかえている	95	4.1
先祖の祭祀やお墓のこと	272	11.7
生活のために収入がたりない	461	19.8
土地や家屋などの財産の相続のこと	204	8.8
家賃やリフォームなど住宅のこと	144	6.2
人(近隣、親戚、友人、仲間等)とのつきあいがうまくいっていない	77	3.3
社会の仕組み(法律、社会保障、金融制度)がわからない	214	9.2
だまされたり犯罪に巻き込まれた(ている)	41	1.8
大地震などの災害	661	28.4
その他	143	6.2
わからない	38	1.6
無回答	41	1.8

問16 近所の人との「あいさつ」の頻度はどれくらいですか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
ほとんど毎日	697	20.2
週2～3日	837	24.3
週1日	382	11.1
月1～3日	387	11.2
ほとんどあいさつをしていない	966	28.1
無回答	174	5.1

問17 あなたの家で災害への備えでしているものを教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
3日分以上のトイレ（おむつ含む）	1,116	32.4
携帯電話などの予備電源	714	20.7
家具の固定	574	16.7
避難方法・経路の候補を決めている	459	13.3
飲料水や非常食などを備蓄している	1,385	40.2
家族（別居含む）との災害時の避難場所を共有している	472	13.7
持ち出し袋を準備している	550	16.0
その他	257	7.5
無回答	648	18.8

これからの医療・ケア、介護、住まいについておうかがいします。

問18 あなたは、高齢期の住まい（居場所）としてどのような場所を希望しますか。下記の（1）（2）のそれぞれの場合について、あてはまるものに○をご記入下さい。

（1）現在の心身の状態が維持できている間。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
現在の住宅	2,529	73.5
利便性の高い都心の住宅	49	1.4
公的な住宅	55	1.6
公的な高齢者向け住宅（市営シルバーハウジングなど）	82	2.4
民間の高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）	74	2.1
介護付有料老人ホームやケアハウスなど	66	1.9
特別養護老人ホームなどの老人福祉施設	110	3.2
老人保健施設	24	0.7
病院など医療施設	24	0.7
その他	20	0.6
わからない	65	1.9
無回答	345	10.0

（2）今以上に心身の状態が悪くなった場合。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
現在の住宅	902	26.2
利便性の高い都心の住宅	36	1.0
公的な住宅	26	0.8
公的な高齢者向け住宅（市営シルバーハウジングなど）	230	6.7
民間の高齢者向け住宅（サービス付き高齢者向け住宅など）	115	3.3
介護付有料老人ホームやケアハウスなど	300	8.7
特別養護老人ホームなどの老人福祉施設	633	18.4
老人保健施設	112	3.3
病院など医療施設	346	10.0
その他	52	1.5
わからない	301	8.7
無回答	390	11.3

問19 人生最期の時期について、おうかがいします。

(1) 自分が意思決定できなくなったときに備えて、あなたが望む医療やケア、最期の過ごし方等について、あなたとご家族や友人、あなたと医療・ケア関係者等と話し合ったことはありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
まったくない	1,500	43.6
話し合ったことがある	1,396	40.5
話し合ったことがあり、希望として明確に伝えている	355	10.3
無回答	192	5.6

(1) で「まったくない」と回答した方のみお答えください。

(2) 話し合ったことがないのは、どのような理由からですか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,500	100.0
必要性を感じない	153	10.2
話し合う相手がない	117	7.8
特に希望がない	180	12.0
考えたことがなく分からない	493	32.9
希望はあるが、これまで機会がなかった	504	33.6
無回答	53	3.5

問20 あなたが望む医療やケア、最期の過ごし方について話し合ったことのある相手、もしくは話し合いたいと思う人は誰ですか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
いない	157	4.6
配偶者	1,047	30.4
同居の子ども	684	19.9
別居の子ども	1,569	45.6
兄弟姉妹・親戚・親・孫	396	11.5
近隣の方	52	1.5
友人	187	5.4
医療従事者(医師、看護師など)	362	10.5
介護従事者(ケアマネジャー、ヘルパーなど)	741	21.5
その他	59	1.7
無回答	211	6.1

問21 あなたは最期をどこで迎えたいと思いますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
病院	556	16.1
ホスピス・緩和ケア病棟	218	6.3
老人ホームや認知症グループホームなどの福祉施設	159	4.6
高齢者向けのケア付き集合住宅	142	4.1
自宅(子どもなどの家族宅も含む)	1,367	39.7
わからない	741	21.5
無回答	260	7.6

問22 あなたが望む医療やケア、最期の過ごし方等について、あなたと家族や友人、あなたと医療・ケア従事者等と話し合うといったことを「人生会議(ACP)」と言いますが、そのことを知っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
知らない	2,908	84.5
「人生会議(ACP)」という言葉だけは知っていた	178	5.2
知っている	173	5.0
無回答	184	5.3

問23 今後の生活の中で準備をしているものはありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
葬儀の準備	802	23.3
お墓の準備	790	22.9
財産の整理(相続の準備等)	542	15.7
身の回りの所有物の整理(財産の整理(相続の準備等)を除く)	581	16.9
身近な人へのメッセージやエンディングノート(自身の死後の希望や意思を遺族等に伝える文書)の作成	284	8.2
リビングウィル(終末期医療の指示・介護の希望・代理人の指定等)の作成	113	3.3
その他	82	2.4
準備しているものはない	1,344	39.0
無回答	254	7.4

問24 特別養護老人ホームの入所申し込みの状況についておたずねします。

(1) あなたは、特別養護老人ホームの入所申込書を提出されていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
はい	78	2.3
いいえ	3,205	93.1
無回答	160	4.6

(1)で「はい」と回答した方におたずねします。

(2) 申し込まれたのはおよそ何年前ですか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	78	100.0
6ヶ月未満	25	32.1
6ヶ月以上1年未満	13	16.7
1年以上2年未満	10	12.8
2年以上3年未満	12	15.4
3年以上4年未満	4	5.1
4年以上5年未満	-	-
5年以上	4	5.1
無回答	10	12.8

(3) なぜ申し込みをされましたか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	78	100.0
身寄りや介護者が誰もいないため	6	7.7
介護する者が病気等で長期入院しているため	3	3.8
介護する者が「高齢」、「障害」、「疾病」等により介護が困難なため	22	28.2
複数の要介護者がいて介護負担が大きい	5	6.4
介護者が就労・育児等から介護が困難なため	14	17.9
施設や病院等から退所を求められているが、自宅での介護が困難なため	5	6.4
ケアマネジャーにすすめられて	21	26.9
ただちに必要ないが将来のため	24	30.8
その他	8	10.3
無回答	1	1.3

問25 特別養護老人ホームに住み替えたり、入所する場合、食費、居住費、介護費用も含めて毎月の支払額は、いくらくらいまでなら負担できますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
5万円未満	566	16.4
5万円～10万円未満	882	25.6
10万円～15万円未満	670	19.5
15万円～20万円未満	320	9.3
20万円～25万円未満	130	3.8
25万円～30万円未満	50	1.5
30万円以上でもいい	19	0.6
無回答	806	23.4

問26 あなたのお住まいのバリアフリー化の状況をおたずねします。

(1) 次の項目にあてはまるときは○をつけてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
寝室とトイレが同じ階にある	2,816	81.8
段差の高低差が少ない	1,791	52.0
階段の傾きが緩やかである	307	8.9
階段、トイレ、浴室に手すりが付いている	2,548	74.0
通路(廊下)・出入口(玄関)とも介助用車いすが使える幅である	1,357	39.4
トイレが腰掛け式で前から介助できるスペースがある	1,561	45.3
【共同住宅にお住まいで3階以上に住んでいる方】エレベーターが付いている	852	24.7
【共同住宅にお住まいの方】(共用部分の)階段・廊下に手すりが付いている	679	19.7
あてはまるものがない	94	2.7
無回答	143	4.2

(2) あなたのお住まいのバリアフリー化は十分だと思いますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
思う	1,731	50.3
思わない	1,491	43.3
無回答	221	6.4

(2)で「思わない」と回答した方におたずねします。

(3) 今後どのようにしたいとお考えですか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,491	100.0
住宅改修をして現在の住まいに住み続ける	402	27.0
バリアフリー設備の整った公営住宅等に住み替える	122	8.2
バリアフリー設備の整った民間賃貸住宅に住み替える	14	0.9
特別養護老人ホームや有料老人ホームなどに入所する	252	16.9
その他	55	3.7
わからない	576	38.6
無回答	70	4.7

介護保険料についておかがいします。

問27 あなたの介護保険料の段階は何段階ですか。

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
第1段階	435	12.6
第2段階	273	7.9
第3段階	177	5.1
第4段階	87	2.5
第5段階	74	2.1
第6段階	58	1.7
第7段階	112	3.3
第8段階	45	1.3
第9段階	21	0.6
第10段階	8	0.2
第11段階	3	0.1
第12段階	2	0.1
第13段階	1	0.0
第14段階	3	0.1
第15段階	5	0.1
わからない	1,303	37.8
無回答	836	24.3

問28 介護保険料は、国・県・市が全体の50パーセントを負担し、残りを40歳以上の方々が負担する仕組みとなっています。介護サービスを充実させると、介護保険料が高くなります。今後の介護保険料について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
介護保険サービスの見直しやサービスを利用した人の負担を増やすなどにより、介護保険料を抑制するべき	1,077	31.3
介護保険サービスの現状を維持する（高齢化が進む分だけ介護保険料は高くなる）	1,284	37.3
介護保険サービスをさらに充実させる。そのために、介護保険料が高くなっても仕方がない	440	12.8
無回答	642	18.6

サービスの利用状況についておうかがいします。

問29 介護保険サービスの利用状況についておたずねします。

(1) あなたは、現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
利用している	2,790	81.0
利用していない	570	16.6
無回答	83	2.4

(1) で「利用している」と回答した方におたずねします。

(2) 利用しているサービスの種類は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

※それぞれのサービスには要支援の方に対する介護予防サービスも含まれます。

カテゴリ	件数	割合
全 体	2,790	100.0
訪問介護（ホームヘルプサービス）	1,200	43.0
訪問看護	613	22.0
訪問リハビリテーション	588	21.1
訪問入浴介護	219	7.8
通所介護（デイサービス）	1,290	46.2
通所リハビリテーション（デイケア）	895	32.1
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	59	2.1
夜間対応型訪問介護	25	0.9
認知症対応型通所介護	29	1.0
短期入所（ショートステイ）	234	8.4
小規模多機能型居宅介護	22	0.8
看護小規模多機能型居宅介護	19	0.7
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	6	0.2
特定施設入所者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウスなど）	32	1.1
居宅療養管理指導	40	1.4
わからない	30	1.1
無回答	33	1.2

問29で「利用していない」と回答した方におたずねします。

(3) 利用していない理由は何ですか。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	570	100.0
現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	335	58.8
本人にサービス利用の希望がない	46	8.1
家族が介護をするため必要ない	54	9.5
以前、利用していたサービスに不満があった	17	3.0
利用料を支払うのが難しい	39	6.8
利用したいサービスが利用できない、身近にない	8	1.4
住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	59	10.4
サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	21	3.7
その他	34	6.0
無回答	77	13.5

(4) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む。介護保険サービス以外のサービスを含む。）について、ご回答ください。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
配食	497	14.4
調理	347	10.1
掃除・洗濯	707	20.5
買い物（宅配は含まない）	509	14.8
ゴミ出し	664	19.3
外出同行（通院、買い物など）	608	17.7
移送サービス（介護・福祉タクシー等）	702	20.4
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	155	4.5
見守り、声かけ、話し相手	453	13.2
「つどいの場」（地域住民が主体となって、おしゃべりや、喫茶、体操、季節の行事、手芸、工芸などを行う仲間づくりの場）	373	10.8
その他	49	1.4
特になし	705	20.5
無回答	925	26.9

問30 ホームヘルプサービス（訪問介護）を利用されている方におたずねします。（利用されていない方は問31へ）

(1) ホームヘルパーにしてもらう介護はどのようなものですか。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,200	100.0
入浴・食事の介護など	269	22.4
調理	162	13.5
洗濯	182	15.2
掃除	692	57.7
買い物	300	25.0
通院介助	92	7.7
おむつ交換などの排せつ介助	133	11.1
水分補給	73	6.1
床ずれ防止のための体位変換	28	2.3
薬の服用	112	9.3
寝る前、起きた後の身だしなみ	56	4.7
その他	92	7.7
無回答	183	15.3

(2) 一回あたりの利用時間はどれくらいですか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,200	100.0
20分未満	33	2.8
20分以上30分未満	151	12.6
30分以上1時間未満	742	61.8
1時間以上	83	6.9
分からない	28	2.3
無回答	163	13.6

(3) 利用の程度。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,200	100.0
1週間に1回程度	417	34.8
1週間に2回程度	318	26.5
1週間に3回程度	155	12.9
ほぼ毎日	135	11.3
その他	38	3.2
わからない	27	2.3
無回答	110	9.2

問31 通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）、認知症対応型通所介護のいずれかを利用されている方におたずねします。（利用されていない方は問32へ）

（1）あなたが利用しているサービスの種類は何ですか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,890	100.0
通所介護（デイサービス）	1,002	53.0
通所リハビリテーション（デイケア）	695	36.8
認知症対応型通所介護	22	1.2
無回答	171	9.0

（2）週に何回利用していますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,890	100.0
1週間に1回程度	715	37.8
1週間に2回程度	642	34.0
1週間に3回程度	283	15.0
ほぼ毎日	56	3.0
その他	60	3.2
わからない	1	0.1
無回答	133	7.0

（3）通所介護（デイサービス）、認知症対応型通所介護を利用されている方におたずねします。あなたの利用状況についておたずねします。一回あたりの利用時間はどれくらいですか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,890	100.0
3時間未満	325	17.2
3時間以上5時間未満	304	16.1
5時間以上7時間未満	448	23.7
7時間以上9時間未満	139	7.4
9時間以上	7	0.4
わからない	15	0.8
無回答	652	34.5

（4）あなたは、現在、通所したときに、食事、入浴サービスを受けていますか。

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,890	100.0
食事と入浴の両方を受けている	688	36.4
食事のみを受けている	203	10.7
入浴のみを受けている	36	1.9
どちらも受けていない	602	31.9
無回答	361	19.1

サービスを1年以上利用している方におたずねします。

（5）あなたが、現在、通所したときに、していることは何ですか。次の中からお選びください。（していることが多いもの3つに○をつけてください）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,890	100.0
健康体操	1,139	60.3
リハビリテーション	936	49.5
創作活動（手工芸・工作など）	344	18.2
音楽活動（歌唱や楽器演奏）	207	11.0
文化活動（習字・俳句・川柳など）	61	3.2
脳トレーニング	460	24.3
その他	74	3.9
特に何もしていない	43	2.3
無回答	334	17.7

(6) この1年間で、あなたの状態は改善しましたか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,890	100.0
要介護度、要支援度が改善した	114	6.0
状態を維持している	1,125	59.5
要介護度、要支援度が悪化した	151	8.0
わからない	188	9.9
無回答	312	16.5

問32 介護保険制度以外のサービスの利用状況をおたずねします。

(1) 市内には、介護保険などの公的な制度では受けられないサービスを提供している団体があります。あなたは介護保険サービス以外で次のサービスを利用したことがありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
食事、掃除、洗濯やゴミ出しなどの家事援助	180	5.2
配食サービス	160	4.6
食料品、日用品の買い物や宅配	145	4.2
身体の清拭、排泄などの身体介護	32	0.9
通院等のための乗車又は降車等の介助などの移送サービス	161	4.7
話し相手、見守り	43	1.2
「つどいの場」(地域住民が主体となって、おしゃべりや、喫茶、体操、季節の行事、手芸、工芸などを行う仲間づくりの場)	121	3.5
入院中の身の回りの世話	11	0.3
その他	42	1.2
わからない	177	5.1
使ったことがない	2,046	59.4
無回答	593	17.2

(1) で「食事、掃除、洗濯やゴミ出しなどの家事援助」から「その他」を選んだ方におたずねします。

(2) それらのサービスは誰から提供されましたか。あてはまるものに○を記入してください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	627	100.0
介護サービス事業者	292	46.6
NPO	23	3.7
ふれあいのまちづくり協議会、自治会、婦人会等の地域団体	91	14.5
ボランティア	24	3.8
近所の方	38	6.1
その他	155	24.7
無回答	65	10.4

(3) 現在、介護を受けている場合、ご家族やご親族からの介護は、週にどれくらいありますか。(同居していない子供や親族等からの介護を含む) (該当するものに○:1つだけ)

※「ない」を選んだ方はここで調査終了です。

カテゴリ	件数	割合
全 体	3,443	100.0
ない	1,088	31.6
家族・親族の介護はあるが、週に2日よりも少ない	167	4.9
週に1~2日ある	253	7.3
週に3~4日ある	116	3.4
ほぼ毎日ある	790	22.9
無回答	1,029	29.9

主に介護をしている方の状況についておうかがいします。

※以下の設問は、主に介護をしている方、あるいはご本人にご回答をお願いします。

問33 日常、主にアンケート対象者（封筒のあて名ご本人）の介護にあっている方は、どなたですか。アンケート対象者ご本人からみでの続柄でお答えください。複数の介護者がいる場合でも、主な介護者を選んで○をつけてください。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
配偶者	424	32.0
子	680	51.3
子の配偶者	38	2.9
孫	5	0.4
兄弟・姉妹	40	3.0
その他	44	3.3
無回答	95	7.2

問34 主に介護にあっている方の性別と年齢をお答えください。（それぞれ○は1つずつ）

(1) 性別

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
男性	403	30.4
女性	853	64.3
その他	7	0.5
無回答	63	4.8

(2) 年齢

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
20歳未満	-	-
20代	4	0.3
30代	18	1.4
40代	60	4.5
50代	295	22.2
60代	413	31.1
70代	267	20.1
80歳以上	190	14.3
わからない	11	0.8
無回答	68	5.1

問35 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
日中の排泄	257	19.4
夜間の排泄	206	15.5
食事の介助（食べる時）	248	18.7
入浴・洗身	304	22.9
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	322	24.3
衣服の着脱	455	34.3
屋内の移乗・移動	263	19.8
外出の付き添い、送迎等	863	65.1
服薬	538	40.6
認知症状への対応	249	18.8
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	151	11.4
食事の準備（調理等）	844	63.7
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	1,011	76.2
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	866	65.3
その他	68	5.1
わからない	11	0.8
無回答	60	4.5

問36 ご家族やご親族の中で、ご本人（封筒の宛名の方）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（該当するものに○:あてはまるものすべて）
※自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	115	8.7
主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	18	1.4
主な介護者が転職した	28	2.1
主な介護者以外の家族・親族が転職した	5	0.4
介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	817	61.6
わからない	75	5.7
無回答	273	20.6

問37 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
フルタイムで働いている	283	21.3
パートタイムで働いている	276	20.8
働いていない	569	42.9
わからない	30	2.3
無回答	168	12.7

問37で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方におたずねします。

（1）主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	559	100.0
特に行っていない	191	34.2
介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早出・中抜け等）」しながら、働いている	170	30.4
介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている	124	22.2
介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている	37	6.6
介護のために、「労働時間を調整」～「在宅勤務」以外の調整をしながら、働いている	79	14.1
主な介護者に確認しないと、わからない	14	2.5
無回答	15	2.7

（2）主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（○は3つまで）

カテゴリ	件数	割合
全 体	559	100.0
自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	51	9.1
介護休業・介護休暇等の制度の充実	180	32.2
制度を利用しやすい職場づくり	146	26.1
労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	157	28.1
働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	51	9.1
仕事と介護の両立に関する情報の提供	41	7.3
介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	27	4.8
介護をしている従業員への経済的な支援	136	24.3
その他	3	0.5
特になし	88	15.7
主な介護者に確認しないと、わからない	47	8.4
無回答	27	4.8

（3）主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（該当するものに○:1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	559	100.0
問題なく、続けていける	104	18.6
問題はあるが、何とか続けていける	319	57.1
続けていくのは、やや難しい	62	11.1
続けていくのは、かなり難しい	30	5.4
主な介護者に確認しないと、わからない	33	5.9
無回答	11	2.0

問38 主な介護者の方が介護を行う上で困っていることは何ですか。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
特にない	252	19.0
介護の方法がわからない	53	4.0
もっと介護サービスを利用させたいが、本人が望まない	228	17.2
もっと介護サービスを利用させたいが、制度上又は要件上利用できない	197	14.9
家族の理解や協力が足りない	63	4.8
相談相手がいない	63	4.8
経済的負担が大きい	306	23.1
心身の負担が大きい	470	35.4
自分の時間がとれない	476	35.9
自分の健康管理ができない	301	22.7
その他	78	5.9
無回答	166	12.5

問39 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません）（○は3つまで）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
日中の排泄	250	18.9
夜間の排泄	306	23.1
食事の介助（食べる時）	100	7.5
入浴・洗身	245	18.5
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	67	5.1
衣服の着脱	64	4.8
屋内の移乗・移動	113	8.5
外出の付き添い、送迎等	319	24.1
服薬	100	7.5
認知症状への対応	289	21.8
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	51	3.8
食事の準備（調理等）	168	12.7
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	172	13.0
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	105	7.9
その他	26	2.0
不安を感じていることは、特にない	126	9.5
主な介護者に確認しないと、わからない	47	3.5
無回答	147	11.1

問40 主な介護者の方の介護負担を減らすためにどのような施策が必要ですか。（該当するものに○:あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
必要なときにショートステイが利用できるようにする	629	47.4
緊急時に夜間の泊まりができる施設を増やす	420	31.7
24時間対応の在宅サービス（訪問介護、訪問看護、デイサービスなど）を充実する	376	28.4
自分の勤務時間（出勤時、残業）に合わせて、デイサービスやデイケアで介護の対象者（封筒のあて名ご本人）を受け入れてくれる	183	13.8
介護技術や認知症などに関する講習会を開催する	107	8.1
介護者が集まって悩みを話し合ったり、相談できる機会をつくる	114	8.6
その他	65	4.9
わからない	247	18.6
無回答	190	14.3

問41 神戸市では、「認知症サポーター養成講座」を実施し、認知症を理解して困っている人がいたら声をかけるなどのサポートを行うサポーターを養成しています。あなたは、この認知症サポーターに依頼したいことはありますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	1,326	100.0
本人の話し相手	154	11.6
介護している方の話し相手	85	6.4
短時間（1時間未満）の見守り	85	6.4
「つどいの場」（地域住民が主体となって、おしゃべりや、喫茶、体操、季節の行事、手芸、工芸などを行う仲間づくりの場）などへの付き添い	71	5.4
特に依頼したいことはない	575	43.4
認知症の家族はいない（ので、依頼することはない）	323	24.4
無回答	177	13.3

そのほか、神戸市の高齢者施策や介護保険事業に関して、ご意見がありましたら、自由にお書きください。

神戸市
介護保険事業計画策定に向けての実態調査
単 純 集 計 表
(特別養護老人ホーム)

問1 貴施設についてお伺いします。

(1) 開設年月

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
昭和	4	5.1
平成元年～10年	17	21.5
平成11年～20年	20	25.3
平成21年～30年	18	22.8
令和（平成31年を含む）	19	24.1
無回答	1	1.3

(2) 定員数（届出床数）（ショートステイ専用床を除く）

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	4,944
平 均	63.38

(3) 居室の状況 ユニット型個室数

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	2,551
平 均	32.71

従来型個室数

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	386
平 均	4.95

2人部屋数

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	215
平 均	2.76

3人部屋数

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	14
平 均	0.18

4人部屋数

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	444
平 均	5.69

5人以上の部屋数

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

(4) 待機者数

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	3,278
平 均	43.13

※うち神戸市在住者数

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	2,619
平 均	34.46

(5) 貴施設での実施サービス及び併設施設・事業の有無・種別。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
病院・診療所	7	8.9
特別養護老人ホーム(小規模も含む)	51	64.6
介護老人保健施設	-	-
居宅介護支援・介護予防居宅介護支援	26	32.9
(介護予防)訪問介護	12	15.2
(介護予防)訪問入浴介護	-	-
(介護予防)訪問看護	6	7.6
(介護予防)訪問リハビリテーション	1	1.3
(介護予防・認知症対応型)通所介護(デイサービス)	40	50.6
(介護予防)通所リハビリテーション(デイケア)	1	1.3
(介護予防)短期入所(ショートステイ)	69	87.3
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	5	6.3
看護小規模多機能型居宅介護	1	1.3
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	2	2.5
(介護予防)特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス)	8	10.1
小規模多機能型居宅介護	7	8.9
介護医療院	-	-
その他の介護保険サービス・保健福祉サービス・社会福祉施設等	6	7.6
無回答	-	-

問2 現在の入所者の入所者数、要介護度分布を下記にご記入下さい。

(1) 入所者数 施設入所者数

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	4,800
平 均	60.76

短期入所者数

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	552
平 均	6.99

合計

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	5,352
平 均	67.75

*施設入所者のうち神戸市以外の被保険者は何名ですか

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	873
平 均	11.05

(2) 要介護度別

要介護1の入所者数

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	29
平 均	0.37

要介護2の入所者数

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	143
平 均	1.81

要介護3の入所者数

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1,434
平 均	18.15

要介護4の入所者数

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	2,036
平 均	25.77

要介護5の入所者数

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1,154
平 均	14.61

(3) 認知症高齢者の日常生活自立度別
自立の入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	27
平 均	0.35

Iの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	162
平 均	2.10

II aの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	255
平 均	3.31

II bの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	810
平 均	10.52

III aの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	2,014
平 均	26.16

III bの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	546
平 均	7.09

IVの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	695
平 均	9.03

Mの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	76
平 均	0.99

不明の入所者数

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	45
平 均	0.58

(4) 障害高齢者の日常生活自立度別
自立の入所者数

カテゴリ	件数
全 体	72
合 計	15
平 均	0.21

ランクJの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	72
合 計	59
平 均	0.82

ランクAの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	72
合 計	964
平 均	13.39

ランクBの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	72
合 計	2,542
平 均	35.31

ランクCの入所者数

カテゴリ	件数
全 体	72
合 計	618
平 均	8.58

問3 入退所の状況についてお伺いします。

(1) 令和6年12月1日以降の入退所の状況について下記にご記入下さい。(ショートステイ利用分を除く)
令和6年11月末 在所者数(各期末現在)

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	4,563
平 均	59.26

令和6年12月～令和7年3月 入所者数(増数)

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	554
平 均	7.01

退所者数(減数)

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	534
平 均	6.76

在所者数(各期末現在)(3月末現在)

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	4,704
平 均	59.54

令和7年4月～令和7年11月 入所者数(増数)

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1,066
平 均	13.49

退所者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	984
平 均	12.46

在所者数（各期末現在）（11月末現在）

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	4,780
平 均	60.51

合計 入所者数（増数）

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1,618
平 均	20.48

退所者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1,506
平 均	19.06

在所者数（各期末現在）

カテゴリ	件数
全 体	65
合 計	6,893
平 均	106.05

（2）2～3年前（令和4～5年度）の状況と最近の状況を比較して、退所者の平均入所期間は長くなっていますか、短くなっていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
長くなっている	4	5.1
変わらない	22	27.8
短くなっている	49	62.0
令和6年4月以降に開設した施設であるので比較できない	4	5.1
無回答	-	-

（3）入所希望者をすべて受け入れていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
はい	14	17.7
いいえ	64	81.0
無回答	1	1.3

※(3)で「いいえ」と回答した施設にお伺いします。

(4)入所が困難な理由は何ですか。1番目と2番目の理由を選択してください。

1番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	64	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である	2	3.1
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である	54	84.4
貴施設の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある	6	9.4
その他	-	-
無回答	2	3.1

2番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	64	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である	24	37.5
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である	9	14.1
貴施設の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある	15	23.4
その他	4	6.3
無回答	12	18.8

問4 貴施設には下記のような方はおよそ何人入所されていますか

1. おむつ使用

常時使用

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	2,832
平 均	36.78

夜間のみ使用

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	1,318
平 均	17.12

2. 食事の介助が必要（一部介助も含む）

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	2,027
平 均	26.32

3. 洗面の介助が必要（一部介助も含む）

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	3,580
平 均	46.49

4. 入浴の介助が必要（一部介助も含む）

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	4,504
平 均	58.49

5. 嚥下困難（見守りも含む）

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	1,587
平 均	20.61

6. 徘徊（時々も含む）

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	375
平 均	4.86

7. 暴言・暴行

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	300
平 均	3.90

8. 不潔行為

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	405
平 均	5.26

9. その他

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	36
平 均	0.47

問5 短期入所（ショートステイ）の利用状況についてお伺いします。

(1) ショートステイを併設している場合の定員数をご記入下さい。(ショートステイ専用床のみ)

カテゴリ	件数
全 体	59
合 計	771
平 均	13.07

(2) 令和6年12月～令和7年11月のショートステイ利用率をご記入ください。(およそ)

カテゴリ	件数
全 体	61
合 計	4,608
平 均	75.53

問6 貴施設の職員についてお伺いします。

(1) 職員の配置の現状はどのようになっていますか。人数を数字で記入してください。

正規職員 全体

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	2,400
平 均	30.38

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	11
平 均	0.14

看護師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	208
平 均	2.63

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1,833
平 均	23.20

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1,224
平 均	15.49

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	411
平 均	5.20

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	15
平 均	0.19

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	8
平 均	0.10

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1
平 均	0.01

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	98
平 均	1.23

非正規職員 常勤労働者 全体

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	494
平 均	6.25

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	9
平 均	0.11

看護師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	74
平 均	0.93

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	338
平 均	4.28

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	133
平 均	1.69

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	24
平 均	0.30

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	2
平 均	0.03

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1
平 均	0.01

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	0
平 均	0.00

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	7
平 均	0.09

短時間労働者 全体

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1,125
平 均	14.24

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	108
平 均	1.37

看護師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	164
平 均	2.07

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	631
平 均	7.99

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	215
平 均	2.72

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	13
平 均	0.16

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	5
平 均	0.06

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	3
平 均	0.04

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	0
平 均	0.00

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	8
平 均	0.10

(2) 職員の平均在職年数はおよそ何年ですか。在職年数を数字で記入してください。
正規職員 全体

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	419
平 均	5.31

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	25
平 均	0.32

看護師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	424
平 均	5.37

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	463
平 均	5.86

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	483
平 均	6.11

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	120
平 均	1.52

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	23
平 均	0.29

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	0
平 均	0.00

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	678
平 均	8.58

非正規職員 常勤労働者 全体

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	241
平 均	3.04

医師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	95
平 均	1.20

看護師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	151
平 均	1.91

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	280
平 均	3.54

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	317
平 均	4.01

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	0
平 均	0.01

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	5
平 均	0.06

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	0
平 均	0.00

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	105
平 均	1.33

短時間労働者 全体

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	359
平 均	4.55

医師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	515
平 均	6.52

看護師

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	182
平 均	2.30

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	342
平 均	4.32

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	342
平 均	4.32

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	28
平 均	0.36

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	24
平 均	0.30

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	21
平 均	0.27

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	38
平 均	0.47

(3) 貴施設が計画している職員の配置計画と現状を比較して、あてはまる部分に○を記入して下さい。

全体

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
大いに不足	7	8.9
不足	40	50.6
適当	21	26.6
過剰	-	-
無回答	11	13.9

医師

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
大いに不足	-	-
不足	2	2.5
適当	71	89.9
過剰	-	-
該当なし	3	3.8
無回答	3	3.8

看護師

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
大いに不足	5	6.3
不足	20	25.3
適当	48	60.8
過剰	3	3.8
該当なし	-	-
無回答	3	3.8

介護職員

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
大いに不足	14	17.7
不足	43	54.4
適当	18	22.8
過剰	1	1.3
該当なし	-	-
無回答	3	3.8

理学療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
大いに不足	1	1.3
不足	3	3.8
適当	22	27.8
過剰	-	-
該当なし	48	60.8
無回答	5	6.3

作業療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
大いに不足	1	1.3
不足	2	2.5
適当	16	20.3
過剰	-	-
該当なし	54	68.4
無回答	6	7.6

言語聴覚士

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
大いに不足	-	-
不足	3	3.8
適当	7	8.9
過剰	-	-
該当なし	63	79.7
無回答	6	7.6

介護支援専門員

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
大いに不足	2	2.5
不足	11	13.9
適当	63	79.7
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	3	3.8

(4) 過去1年間に退職した人数及び退職した主な理由について、それぞれ該当する人数をお答えください。
合計

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	634
平 均	8.34

正規職員

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	311
平 均	4.09

非正規職員

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	323
平 均	4.25

1. 職場内の人間関係

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	99
平 均	1.32

2. 利用者やその家族との人間関係

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	7
平 均	0.09

3. 多忙でじっくり仕事に取り組めない

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	22
平 均	0.29

4. 責任が重くストレスが大きい

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	36
平 均	0.48

5. 家庭と仕事の両立ができない

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	30
平 均	0.40

6. 妊娠や出産、育児、転勤など自分や家庭の事情

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	102
平 均	1.36

7. 親など家族の介護を行うため

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	24
平 均	0.32

8. 賃金を理由として

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	39
平 均	0.52

9. 労働時間、休暇等の労働条件

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	43
平 均	0.57

10. 腰痛等の健康上の問題

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	74
平 均	0.99

11. その他

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	143
平 均	1.91

(5) 上記の離職者(全体数)の在職期間はどれぐらいですか。下記の期間ごとに人数をお答えください。

1. 1か月未満

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	35
平 均	0.46

2. 1か月～半年未満

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	111
平 均	1.46

3. 半年～1年未満

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	93
平 均	1.22

4. 1年～3年未満

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	163
平 均	2.14

5. 3年～5年未満

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	84
平 均	1.11

6. 5年～7年未満

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	64
平 均	0.84

7. 7年以上

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	72
平 均	0.95

8. わからない

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	9
平 均	0.12

(6) 上記の退職者が転職している場合、転職先をわかる範囲でご記入下さい。

1. 福祉関係

カテゴリ	件数
全 体	54
合 計	134
平 均	2.48

2. 福祉関係以外

カテゴリ	件数
全 体	54
合 計	80
平 均	1.48

(7) 貴事業所では、職員の人材の確保・育成を図るためにどのような取り組みを行っていますか。(該当するものに○: あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
特に対策は行っていない	-	-
賃金の改善	43	54.4
休暇や労働時間等の労働条件の改善	36	45.6
職員の健康管理支援等、福利厚生の充実	45	57.0
介護職員の資格取得等、キャリアやスキルアップへの支援	63	79.7
職員に対する評価の明確化や処遇への反映	45	57.0
休暇取得促進など、職員のワークライフバランスへの配慮	38	48.1
職員へのハラスメントの防止等対策	44	55.7
介護ロボット・ICT機器の導入等による職員の負担軽減	62	78.5
個別面談等による職員の意向の確認	58	73.4
定期的なミーティング等により職員の意見を聴取するなど、風通しの良い職場環境づくり	50	63.3
新人の指導担当・アドバイザーの設置	33	41.8
職場環境の改善(休憩室、談話室の確保等)	29	36.7
その他	-	-
無回答	1	1.3

(8) 神戸市介護人材確保プロジェクト「コウベdeカイゴ」の取組や、市内介護職員や施設に対しわかりやすく有益な情報発信を行う「コウベdeカイゴ」のWebサイトを知っていますか。(該当するものに○: 1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
プロジェクトもWEBサイトも知っている	57	72.2
神戸市が「コウベdeカイゴ」プロジェクトを実施しているのは知っているが、WEBサイトは知らなかった	15	19.0
どちらも知らない	6	7.6
無回答	1	1.3

(9) 介護人材の確保・育成（コウベdeカイゴ）について、行政に期待することはなんですか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
特になし	2	2.5
介護職のイメージアップ（魅力向上）の取組	59	74.7
神戸市介護施設・事業者の広報支援	27	34.2
職員のキャリアアップ支援	36	45.6
潜在的介護福祉士等の再就職支援	44	55.7
事業者（管理者）の人材マネジメント能力強化の研修	14	17.7
事業者（管理者）の採用力強化の研修	13	16.5
事業者（管理者）の働き方改革の研修	13	16.5
介護ロボット・ICT機器の導入・定着促進	43	54.4
外国人職員受入の支援	22	27.8
介護職員の相談窓口の設置	14	17.7
その他（具体的に	-	-
無回答	-	-

(10) 現在、貴施設に外国人介護職員（パートタイム、アルバイト等を含む）はいますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
現在、外国人介護職員がいる	70	88.6
現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中（または関心がある）	4	5.1
現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない	3	3.8
無回答	2	2.5

【※(10)で「現在、外国人介護職員がいる」とお答えの施設にお伺いします。】

(11) 現在の、外国人介護職員の人数と、その在留資格の内訳を教えてください。

1. 特定技能1号

カテゴリ	件数
全 体	68
合 計	286
平 均	4.21

2. 技能実習（介護職種）

カテゴリ	件数
全 体	68
合 計	26
平 均	0.38

3. E P A（経済連携協定）

カテゴリ	件数
全 体	68
合 計	22
平 均	0.32

4. 在留資格「介護」

カテゴリ	件数
全 体	68
合 計	82
平 均	1.21

5. 留学（介護福祉士養成施設※）※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む

カテゴリ	件数
全 体	68
合 計	18
平 均	0.26

6. その他

カテゴリ	件数
全 体	68
合 計	21
平 均	0.31

(12) 外国人介護職員の国籍別の内訳を教えてください。

1. ベトナム

カテゴリ	件数
全 体	70
合 計	108
平 均	1.54

2. インドネシア

カテゴリ	件数
全 体	70
合 計	165
平 均	2.36

3. フィリピン

カテゴリ	件数
全 体	70
合 計	40
平 均	0.57

4. ミャンマー

カテゴリ	件数
全 体	70
合 計	92
平 均	1.31

5. ネパール

カテゴリ	件数
全 体	70
合 計	28
平 均	0.40

6. モンゴル

カテゴリ	件数
全 体	70
合 計	0
平 均	0.00

7. 中国

カテゴリ	件数
全 体	70
合 計	9
平 均	0.13

8. その他

カテゴリ	件数
全 体	70
合 計	28
平 均	0.40

(13) 外国人職員について、行政に期待する支援について教えてください。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	70	100.0
日本語文章力・読解力向上の支援	47	67.1
介護福祉士資格試験取得の支援	51	72.9
外国人職員同士の交流会	15	21.4
外国人職員に対するわかりやすい情報発信	19	27.1
外国人職員に対する日本の文化の講習	14	20.0
外国人職員の指導者等に対する指導・支援力強化の講習	19	27.1
外国人介護人材受入に関する制度や留意点の講習	17	24.3
受入れ外国人の住居確保支援	43	61.4
外国渡航による現地視察への支援	8	11.4
その他	3	4.3
無回答	1	1.4

【※(10)で「現在、外国人介護職員がいる」または「現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中(または関心がある)」とお答えの施設にお伺いします。】

(14) 今後(または引き続き)受入を検討している(または関心のある)在留資格を教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	74	100.0
特定技能1号	49	66.2
技能実習(介護職種)	7	9.5
EPA(経済連携協定)	5	6.8
在留資格「介護」	30	40.5
留学(介護福祉士養成施設※)※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む	10	13.5
その他	2	2.7
無回答	8	10.8

(15) 今後(または引き続き)受入を検討している(または関心のある)外国人介護職員の国籍を教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	74	100.0
ベトナム	21	28.4
インドネシア	44	59.5
フィリピン	4	5.4
ミャンマー	29	39.2
ネパール	14	18.9
モンゴル	-	-
中国	-	-
その他	3	4.1
無回答	8	10.8

【※(10)で「現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない」とお答えの施設にお伺いします。】

(16) 外国人職員について、受入を考えていない理由を教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
利用者や日本人職員との意思疎通に不安があるから	1	33.3
日本語文章力・読解力の不足等により、できる仕事に限りがあると思うから	-	-
受入や雇用方法がわからないから	-	-
実際にどのような人が来るか分からず、一緒に働くイメージがもてないから	1	33.3
業務以外の日常生活における支援や相談等の対応が難しいと思うから	1	33.3
人件費以外にさまざまなコストがかかると思うから	-	-
外国人介護職員を指導できる職員の確保が難しいから	1	33.3
いずれ帰国してしまうなど人材の定着には繋がらないと思うから	1	33.3
その他	2	66.7
無回答	-	-

問7 介護職員等の処遇改善に係る加算の状況についてお伺いします。

(1) 介護職員等の処遇改善に係る加算は何を算定していますか。(○は3つまで)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	68	86.1
介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	12	15.2
介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	2	2.5
介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ)	16	20.3
介護職員等特定処遇改善加算(Ⅱ)	2	2.5
介護職員等ベースアップ等支援加算	12	15.2
いずれも算定していない	-	-
無回答	-	-

※(1)で「いずれも算定していない」と回答した施設にお伺いします。

(2)介護職員処遇改善加算等の届出をしない理由は何ですか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	-	-
対象者に制約がある	-	-
事務作業が煩雑	-	-
利用者負担が発生する	-	-
非常勤職員等の処遇の問題	-	-
賃金改善の必要性がない	-	-
支給要件を達成できない	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

問8 口腔ケアの実施状況についてお伺いします。施設系サービスにおける口腔衛生管理の強化が求められています。

(1)あなたの施設は、どちらに該当していますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
口腔衛生管理加算(Ⅰ)に該当している	34	43.0
口腔衛生管理加算(Ⅱ)に該当している	26	32.9
無回答	19	24.1

(2)貴施設では下記のような取り組みをされていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
口腔衛生管理体制計画の立案	56	70.9
入所者の口腔の状況の確認	73	92.4
口腔清掃の用具の整備	62	78.5
口腔清掃の実施	75	94.9
介護職員の口腔清掃に対する知識・技術の習得、安全確保	70	88.6
食事環境をはじめとした日常生活における環境整備	43	54.4
歯科医師等からの技術的助言・指導と計画の見直し	67	84.8
無回答	-	-

(3)入所者に対し、どのような取り組みを計画されていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
歯科健診	65	82.3
個々人に応じたブラッシング指導	60	75.9
口周囲や唾液腺等のマッサージ指導	22	27.8
その他	3	3.8
実施していない	1	1.3
無回答	1	1.3

【※(3)で「歯科健診」「個々人に応じたブラッシング指導」「口周囲や唾液腺等のマッサージ指導」「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。】

(4)実施している場合、どのような効果を期待していますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	77	100.0
誤嚥防止	23	29.9
咀嚼力の保持	4	5.2
肺炎の予防	32	41.6
口臭予防	-	-
その他	-	-
無回答	18	23.4

問9 医療が必要な入所者についてお伺いします。

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	205
平 均	2.66

2. 洗腸・排便

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	762
平 均	9.89

3. 導尿・膀胱留置カテーテル

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	258
平 均	3.35

膀胱ろう

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	2
平 均	0.03

4. 人工肛門

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	29
平 均	0.38

5. 喀痰吸引

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	127
平 均	1.65

6. インスリン注射・血糖測定

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	55
平 均	0.71

7. 経管栄養療法

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	27
平 均	0.35

胃ろう

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	114
平 均	1.48

8. 酸素療法

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	69
平 均	0.90

9. 脱水などに対する一時的点滴

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	41
平 均	0.53

10. 透析

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	4
平 均	0.05

11. ストマケア（パウチの交換を含む）

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	41
平 均	0.53

12. 気管切開

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	0
平 均	0.00

13. 食道ろう

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	0
平 均	0.00

14. ペースメーカー

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	90
平 均	1.17

15. その他

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	3
平 均	0.04

(2) 医療処置が必要な人の入所が受け入れられない場合、どのようなことが理由となっていますか。最もあてはまる理由を選択してください。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
医師の配置が十分ではない	15	19.0
医療機関との連携が不十分	6	7.6
看護職員の体制が不十分	43	54.4
その他	10	12.7
医療処置が必要な人でも全て受け入れている	1	1.3
無回答	4	5.1

(3) 通院時にはどのような対応をしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
原則 家族対応	24	30.4
原則 スタッフ対応	29	36.7
協力医療機関を活用している	16	20.3
その他	5	6.3
無回答	5	6.3

(4) 医療機関と、どのように連携していますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
入所者の健康管理や処置について助言を受けている	58	73.4
往診してもらえる医師・医療機関がある	61	77.2
急変時の受け入れを依頼できる病院を確保している	53	67.1
提携病院があり、入院の受け入れをしてもらっている	50	63.3
認知症の周辺症状について助言を受けている	16	20.3
その他	1	1.3
連携していない	-	-
無回答	2	2.5

問10 看取り介護の実施状況についてお伺いします。

(1) 貴施設は看取り介護加算を算定していますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
算定している	59	74.7
算定していない	16	20.3
施設基準は満たしているが算定していない	4	5.1
無回答	-	-

※(1)で「算定している」とお答えの施設にお伺いします。

カテゴリ	件数
全 体	54
合 計	473
平 均	8.76

死亡された方(退所して1月以内に死亡された方を含む)のうち、およそ何割の方を算定されましたか。

カテゴリ	件数
全 体	52
合 計	317
平 均	6.09

(3) 看取り介護を実施するにあたり、どのようなことに力を入れていますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
看取りに関する指針の作成・改訂	47	59.5
医療機関との連携	45	57.0
利用者・家族に対する十分な説明と同意の取得	72	91.1
看取りに関する職員の研修	57	72.2
看取りに関わる職員のバックアップ体制の確保	26	32.9
個室の利用など看取りにふさわしい環境の整備	46	58.2
最後までその人らしく「生きる」ことを支えるケアの提供	61	77.2
その他	-	-
無回答	4	5.1

問11 高齢者の人権擁護・虐待の防止等についてお伺いします。

(1) 高齢者の人権擁護・虐待の防止等のために実施している対策はありますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
高齢者の人権・虐待に関する職員研修の実施	79	100.0
高齢者の人権・虐待に関する外部の研修への参加	45	57.0
入所者や家族からの苦情処理体制の整備	76	96.2
身体拘束に関する手続き厳守の徹底	71	89.9
職員が虐待を発見した場合の通報窓口の周知	70	88.6
労働環境等の整備	60	75.9
その他	1	1.3
無回答	-	-

(2) 施設の中で、職員から虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合に、発見した職員に通報義務があることを知っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
知っている(通報連絡先も知っている)	79	100.0
知っている(通報連絡先は知らない)	-	-
知らない	-	-
無回答	-	-

問12 貴施設でのボランティア活動についてお伺いします。

(1) 貴施設ではどのようなボランティア活動が行なわれていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援	18	22.8
施設でのお茶だし、食堂内の配膳・下膳などの補助	10	12.7
喫茶コーナーなどの運営補助	9	11.4
散歩、外出、館内移動の補助	2	2.5
イベント等の手伝い(模擬店、会場設営、利用者の移動補助、芸能披露など)	35	44.3
話し相手	9	11.4
洗濯物たたみ	3	3.8
その他施設職員と共に行う軽微かつ補助的な活動	4	5.1
その他	10	12.7
ボランティアはいない	26	32.9
無回答	-	-

※(1)で「日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援」～「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。

(2) ボランティアの登録はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

① 男性

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	62
平 均	1.63

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	61
平 均	1.61

女性

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	155
平 均	4.08

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	136
平 均	3.58

② ボランティアの活動歴

あり

カテゴリ	件数
全 体	30
合 計	100
平 均	3.33

なし

カテゴリ	件数
全 体	30
合 計	16
平 均	0.53

不明

カテゴリ	件数
全 体	30
合 計	28
平 均	0.93

(3) どのような団体にボランティア活動を依頼していますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	53	100.0
婦人会等の地域団体	6	11.3
区や市のボランティアセンター	26	49.1
ボランティア団体	16	30.2
その他	15	28.3
無回答	4	7.5

(4) 平均すると一日あたりのボランティアに参加されている方はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

男性

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	5
平 均	0.23

65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	6
平 均	0.27

女性

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	24
平 均	1.03

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	19
平 均	0.83

問13 貴施設では地域や地域住民へ施設開放をされていますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
地域住民や地域団体が喫茶室を利用できる	7	8.9
地域住民や地域団体が会議室や作業スペースを利用できる	23	29.1
「つどいの場」(地域住民が主体となって、おしゃべりや、喫茶、体操、季節の行事、手芸、工芸などを行う仲間づくりの場)として利用している	6	7.6
施設の行事の時に地域住民や地域団体を招いている	33	41.8
その他	9	11.4
していない	28	35.4
無回答	1	1.3

問14 事故や災害等の対応について、あてはまるものはありますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
事故発生時の職員対応マニュアルを作成している	76	96.2
事故発生時における家族等への連絡先を複数把握している	77	97.5
感染症に関する職員対応マニュアルを作成している	78	98.7
消火・避難訓練を年2回以上実施している	79	100.0
避難の方法など、災害に対するマニュアルを作成している	76	96.2
災害時に要援護者の受け入れ体制を整えている	63	79.7
従事者に対する暴力・セクハラ防止の安全対策マニュアルを作成している	59	74.7
無回答	-	-

問15 介護ロボット・ICT機器についてお伺いします。

(1) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
導入していない	-	-
移乗支援	41	51.9
移動支援	9	11.4
排泄支援	3	3.8
見守り支援(見守りセンサー等)	61	77.2
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	3	3.8
入浴支援	22	27.8
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	68	86.1
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	5	6.3
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	34	43.0
機能訓練支援	2	2.5
認知機能低下予防機器	2	2.5
その他	5	6.3
無回答	-	-

(2) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入を検討しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
導入を検討していない	8	10.1
移乗支援	29	36.7
移動支援	5	6.3
排泄支援	9	11.4
見守り支援(見守りセンサー等)	25	31.6
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	5	6.3
入浴支援	11	13.9
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	6	7.6
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	1	1.3
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	15	19.0
機能訓練支援	1	1.3
認知機能低下予防機器	4	5.1
その他	8	10.1
無回答	6	7.6

(3) 導入して感じた課題や導入していない理由として、あてはまるものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
導入費用が高額	68	86.1
費用対効果が不明	28	35.4
安全面に不安	3	3.8
どのICT機器や介護ロボットが、施設に合うのか分からない	18	22.8
技術的に職員が使いこなすのが難しい(難しそう)	21	26.6
介護職員が、新しい機器を導入することに消極的	14	17.7
導入時に、使い方の研修や周知の機会を設けるのが難しい	13	16.5
機器のメンテナンスが大変	33	41.8
介護現場の実態に合う介護ロボットやICT機器がない	7	8.9
その他	-	-
無回答	1	1.3

問16 今後の施設における事業展開の見込みについてお伺いします。

(1) ショートステイ床の特養床への転換希望はありますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
ある	10	12.7
ない	66	83.5
無回答	3	3.8

転換希望の床数

カテゴリ	件数
全 体	10
合 計	73
平 均	7.30

(2) デイサービス床の特養床への転換希望はありますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
ある	2	2.5
ない	72	91.1
無回答	5	6.3

転換希望の床数

カテゴリ	件数
全 体	1
合 計	10
平 均	10.00

(3) 貴施設の改築や改修について、今後、10年以内に必要と考えられているものはありますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	79	100.0
全面改築が必要と考えている(移転含む)	10	12.7
施設の老朽化に伴う設備機器の更新が必要と考えている	57	72.2
多床室の間仕切り等によるプライバシー改修が必要と考えている	6	7.6
従来型居室のユニット型改修が必要と考えている	-	-
既存スペースを活用するための増床が必要と考えている	5	6.3
その他	4	5.1
特に必要はない	16	20.3
無回答	1	1.3

問17 介護保険制度における貴施設の役割や、施設運営における課題等について、ご自由にご記入ください。

神戸市

介護保険事業計画策定に向けての実態調査

単 純 集 計 表

(介護老人保健施設)

問1 貴施設についてお伺いします。

(1) 開設年月

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
昭和	1	2.4
平成元年～10年	7	17.1
平成11年～20年	18	43.9
平成21年～30年	9	22.0
令和（平成31年を含む）	4	9.8
無回答	2	4.9

(2) 定員数（届出床数）

一般棟

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	2,608
平 均	63.61

認知症専門棟

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	841
平 均	20.51

合計床数

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	3,359
平 均	81.93

(3) 居室の状況

ユニット型個室

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	720
平 均	18.46

従来型個室

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	362
平 均	9.28

2人部屋

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	124
平 均	3.18

3人部屋

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	33
平 均	0.85

4人部屋

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	563
平 均	14.44

5人以上

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	0
平 均	0.00

(4) 待機者数

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	55
平 均	1.38

※うち神戸市在住者

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	43
平 均	1.08

(5) 貴施設での実施サービス及び併設施設・事業の有無・種別。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
病院・診療所	12	29.3
特別養護老人ホーム(小規模も含む)	-	-
介護老人保健施設	38	92.7
居宅介護支援・介護予防居宅介護支援	13	31.7
(介護予防)訪問介護	5	12.2
(介護予防)訪問入浴介護	-	-
(介護予防)訪問看護	6	14.6
(介護予防)訪問リハビリテーション	24	58.5
(介護予防・認知症対応型)通所介護(デイサービス)	1	2.4
(介護予防)通所リハビリテーション(デイケア)	33	80.5
(介護予防)短期入所(ショートステイ)	32	78.0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	-	-
看護小規模多機能型居宅介護	-	-
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1	2.4
(介護予防)特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス)	-	-
小規模多機能型居宅介護	-	-
介護医療院	-	-
その他の介護保険サービス・保健福祉サービス・社会福祉施設等	-	-
無回答	-	-

問2 現在の入所者の入所者数、要介護度分布を下記にご記入下さい。

(1) 入所者数

施設入所

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	2,805
平 均	70.13

短期入所

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	102
平 均	2.55

合計

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	2,907
平 均	72.68

*施設入所者のうち神戸市以外の被保険者は何名ですか

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	446
平 均	11.15

※以下は、施設入所者についてご記入ください。(ショート床の特例利用を含み、ショートステイ利用者は除く)

(2) 要介護別

要介護1

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	270
平 均	6.75

要介護2

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	575
平 均	14.38

要介護3

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	670
平 均	16.75

要介護4

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	832
平 均	20.80

要介護5

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	461
平 均	11.53

(3) 認知症高齢者の日常生活自立度別
自立

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	34
平 均	0.94

I

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	154
平 均	4.28

II a

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	233
平 均	6.47

II b

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	612
平 均	17.00

III a

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	968
平 均	26.89

III b

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	217
平 均	6.03

IV

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	221
平 均	6.14

M

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	15
平 均	0.42

不明

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	37
平 均	1.03

(4) 障害高齢者の日常生活自立度別
自立

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	5
平 均	0.16

ランクJ

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	38
平 均	1.23

ランクA

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	588
平 均	18.97

ランクB

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	1,425
平 均	45.97

ランクC

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	233
平 均	7.52

問3 入退所の状況についてお伺いします。

(1) 令和6年12月1日以降の入退所の状況について下記にご記入下さい。(ショートステイ利用分を除く)

<一般棟>

令和6年11月末

在所有者数(各期末現在)(11月末現在)

カテゴリ	件数
全 体	37
合 計	2,069
平 均	55.92

令和6年12月～令和7年3月

入所者数(増数)

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	803
平 均	21.13

退所者数(減数)

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	807
平 均	21.24

在所有者数（各期末現在）（3月末現在）

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	2,087
平 均	54.92

令和7年4月～令和7年11月

入所有者数（増数）

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	1,594
平 均	40.87

退所有者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	1,570
平 均	40.26

在所有者数（各期末現在）（11月末現在）

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	2,314
平 均	60.89

合計

入所有者数（増数）

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	2,387
平 均	61.21

退所有者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	2,336
平 均	59.90

在所有者数（各期末現在）

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	3,134
平 均	108.07

<認知症専門棟>

令和6年11月末

在所有者数（各期末現在）（11月末現在）

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	788
平 均	34.26

令和6年12月～令和7年3月

入所有者数（増数）

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	251
平 均	10.91

退所有者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	21
合 計	252
平 均	12.00

在所有者数（各期末現在）（3月末現在）

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	882
平 均	38.35

令和7年4月～令和7年11月

入所有者数（増数）

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	418
平 均	18.17

退所有者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	21
合 計	488
平 均	23.24

在所有者数（各期末現在）（11月末現在）

カテゴリ	件数
全 体	24
合 計	1,017
平 均	42.38

合計

入所有者数（増数）

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	667
平 均	29.00

退所有者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	21
合 計	739
平 均	35.19

在所有者数（各期末現在）

カテゴリ	件数
全 体	19
合 計	1,503
平 均	79.11

（2）2～3年前（令和4～5年度）の状況と最近の状況を比較して、退所有者の平均入所期間は長くなっていますか、短くなっていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
長くなっている	2	4.9
変わらない	22	53.7
短くなっている	16	39.0
令和6年4月以降に開設した施設であるので比較できない	-	-
無回答	1	2.4

（3）2～3年前（令和4～5年度）の状況と最近の状況を比較して、退所有者に占める在宅復帰者の割合は増えていますか、減っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
増えている	17	41.5
変わらない	18	43.9
減っている	5	12.2
令和6年4月以降に開設した施設であるので比較できない	-	-
無回答	1	2.4

(4) 入所希望者をすべて受け入れていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
はい	10	24.4
いいえ	30	73.2
無回答	1	2.4

※(4)で「いいえ」と回答した施設にお伺いします。

(5)入所が困難な理由は何ですか。1番目と2番目の理由を選択してください。

1番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	30	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である。	4	13.3
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である。	20	66.7
貴施設の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある。	4	13.3
その他	-	-
無回答	2	6.7

2番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	30	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である。	13	43.3
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である。	7	23.3
貴施設の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある。	3	10.0
その他	2	6.7
無回答	5	16.7

問4 貴施設には下記のような方はおよそ何人入所されていますか。

1. おむつ使用

常時使用

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	1,341
平 均	37.25

夜間のみ使用

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	769
平 均	21.36

2. 食事の介助が必要(一部介助も含む)

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	850
平 均	23.61

3. 洗面の介助が必要(一部介助も含む)

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	1,517
平 均	42.14

4. 入浴の介助が必要(一部介助も含む)

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	2,382
平 均	66.17

5. 嚥下困難(見守りも含む)

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	560
平 均	15.56

6. 徘徊（時々も含む）

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	179
平 均	4.97

7. 暴言・暴行

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	120
平 均	3.33

8. 不潔行為

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	225
平 均	6.25

9. その他

カテゴリ	件数
全 体	36
合 計	4
平 均	0.11

問5 在宅復帰・在宅療養支援の実施状況についてお伺いします。

(1) 貴施設は在宅復帰・在宅療養支援機能加算を算定していますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
算定している	31	75.6
在宅強化型施設なので算定していない	1	2.4
要件は満たしているが算定していない	-	-
要件を満たしていないので算定していない	9	22.0
無回答	-	-

※(1)で「算定している」または「在宅強化型施設なので算定していない」とお答えの施設にお伺いします。

(2) 過去6ヶ月間の退所者のうち在宅で介護されることとなった高齢者の割合は何割ですか。

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	134
平 均	4.32

(3) 在宅復帰・在宅療養支援を実施するにあたり、どのようなことに力を入れていますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	32	100.0
利用者・家族に対する十分な説明と同意の取得	32	100.0
支援のための組織の設置や人員の配置	13	40.6
地域の医療機関や介護事業所等との連携強化	18	56.3
在宅復帰に関する職員研修	1	3.1
在宅復帰に向けたリハビリテーションサービスの強化	23	71.9
その他	1	3.1
無回答	-	-

問6 貴施設の職員についてお伺いします。

(1) 職員の配置の現状はどのようになっていますか。人数を数字で記入してください。

正規職員

全体

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	1,679
平 均	40.95

うち
医師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	40
平 均	0.98

看護師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	271
平 均	6.61

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	1,039
平 均	25.34

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	767
平 均	18.71

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	21
平 均	0.51

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	135
平 均	3.29

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	87
平 均	2.12

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	28
平 均	0.68

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	69
平 均	1.68

非正規職員
常勤労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	270
平 均	6.59

うち
医師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	9
平 均	0.22

看護師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	118
平 均	2.88

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	202
平 均	4.93

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	137
平 均	3.34

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	1
平 均	0.02

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	14
平 均	0.34

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	10
平 均	0.24

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	5
平 均	0.12

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	5
平 均	0.12

短時間労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	545
平 均	13.29

うち
医師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	12
平 均	0.29

看護師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	136
平 均	3.32

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	261
平 均	6.37

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	130
平 均	3.17

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	2
平 均	0.05

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	20
平 均	0.49

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	19
平 均	0.46

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	19
平 均	0.46

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	7
平 均	0.17

(2) 職員の平均在職年数はおよそ何年ですか。在職年数を数字で記入してください。

正規職員

全体

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	409
平 均	9.99

うち

医師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	180
平 均	4.40

看護師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	231
平 均	5.63

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	269
平 均	6.57

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	315
平 均	7.68

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	280
平 均	6.82

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	221
平 均	5.39

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	201
平 均	4.89

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	375
平 均	9.15

非正規職員
常勤労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	150
平 均	3.65

うち
医師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	40
平 均	0.98

看護師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	139
平 均	3.39

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	194
平 均	4.73

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	172
平 均	4.19

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	44
平 均	1.06

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	37
平 均	0.89

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	39
平 均	0.94

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	39
平 均	0.95

短時間労働者

全体

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	172
平 均	4.19

うち

医師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	104
平 均	2.54

看護師

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	139
平 均	3.38

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	138
平 均	3.36

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	127
平 均	3.10

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	56
平 均	1.36

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	64
平 均	1.57

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	61
平 均	1.49

介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	41
合 計	41
平 均	1.00

(3) 貴施設が計画している職員の配置計画と現状を比較して、あてはまる部分に○を記入して下さい。

全体

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
大いに不足	3	7.3
不足	20	48.8
適当	14	34.1
過剰	-	-
無回答	4	9.8

うち

医師

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
大いに不足	-	-
不足	1	2.4
適当	39	95.1
過剰	-	-
該当なし	1	2.4
無回答	-	-

看護師

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
大いに不足	8	19.5
不足	11	26.8
適当	21	51.2
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	1	2.4

介護職員

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
大いに不足	8	19.5
不足	22	53.7
適当	11	26.8
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	-	-

理学療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
大いに不足	1	2.4
不足	12	29.3
適当	26	63.4
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	2	4.9

作業療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
大いに不足	-	-
不足	8	19.5
適当	30	73.2
過剰	-	-
該当なし	2	4.9
無回答	1	2.4

言語聴覚士

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
大いに不足	-	-
不足	6	14.6
適当	32	78.0
過剰	-	-
該当なし	2	4.9
無回答	1	2.4

介護支援専門員

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
大いに不足	3	7.3
不足	8	19.5
適当	30	73.2
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	-	-

(4) 過去1年間に退職した人数及び退職した主な理由について、それぞれ該当する人数をお答えください。
合計

カテゴリ	件数
全 体	37
合 計	519
平 均	14.03

うち正規職員

カテゴリ	件数
全 体	37
合 計	284
平 均	7.68

非正規職員

カテゴリ	件数
全 体	37
合 計	235
平 均	6.35

1. 職場内の人間関係

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	66
平 均	2.13

2. 利用者やその家族との人間関係

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	7
平 均	0.23

3. 多忙でじっくり仕事に取り組めない

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	30
平 均	0.97

4. 責任が重くストレスが大きい

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	22
平 均	0.71

5. 家庭と仕事の両立ができない

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	29
平 均	0.94

6. 妊娠や出産、育児、転勤など自分や家庭の事情

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	18
平 均	0.58

7. 親など家族の介護を行うため

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	18
平 均	0.58

8. 賃金を理由として

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	37
平 均	1.19

9. 労働時間、休暇等の労働条件

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	28
平 均	0.90

10. 腰痛等の健康上の問題

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	51
平 均	1.65

11. その他

カテゴリ	件数
全 体	31
合 計	132
平 均	4.26

(5) 上記の離職者(全体数)の在職期間はどれぐらいですか。下記の期間ごとに人数をお答えください。

1. 1か月未満

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	28
平 均	0.85

2. 1か月～半年未満

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	105
平 均	3.18

3. 半年～1年未満

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	73
平 均	2.21

4. 1年～3年未満

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	99
平 均	3.00

5. 3年～5年未満

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	68
平 均	2.06

6. 5年～7年未満

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	34
平 均	1.03

7. 7年以上

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	72
平 均	2.18

8. わからない

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	0
平 均	0.00

(6) 上記の退職者が転職している場合、転職先をわかる範囲でご記入下さい。

1. 福祉関係

カテゴリ	件数
全 体	21
合 計	152
平 均	7.24

2. 福祉関係以外

カテゴリ	件数
全 体	21
合 計	53
平 均	2.52

(7) 貴事業所では、職員の人材の確保・育成を図るためにどのような取り組みを行っていますか。(該当するものに○：
あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
特に対策は行っていない	-	-
賃金の改善	19	46.3
休暇や労働時間等の労働条件の改善	19	46.3
職員の健康管理支援等、福利厚生 の充実	17	41.5
介護職員の資格取得等、キャリアやスキルアップへの支援	23	56.1
職員に対する評価の明確化や処遇への反映	26	63.4
休暇取得促進など、職員のワークライフバランスへの配慮	22	53.7
職員へのハラスメントの防止等対策	15	36.6
介護ロボット・ICT機器の導入等による職員の負担軽減	21	51.2
個別面談等による職員の意向の確認	29	70.7
定期的なミーティング等により職員の意見を聴取するなど、風通しの良い職場環境づくり	24	58.5
新人の指導担当・アドバイザーの設置	14	34.1
職場環境の改善(休憩室、談話室の確保等)	13	31.7
その他	-	-
無回答	-	-

(8) 神戸市介護人材確保プロジェクト「コウベdeカイゴ」の取組や、市内介護職員や施設に対しわかりやすく有益な情報発信を行う「コウベdeカイゴ」のWebサイトを知っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
プロジェクトもWEBサイトも知っている	19	46.3
神戸市が「コウベdeカイゴ」プロジェクトを実施しているのは知っているが、WEBサイトは知らなかった	16	39.0
どちらも知らない	5	12.2
無回答	1	2.4

(9) 介護人材の確保・育成（コウベdeカイゴ）について、行政に期待することはありますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
特になし	2	4.9
介護職のイメージアップ（魅力向上）の取組	20	48.8
神戸市介護施設・事業者の広報支援	13	31.7
職員のキャリアアップ支援	16	39.0
潜在的介護福祉士等の再就職支援	15	36.6
事業者（管理者）の人材マネジメント能力強化の研修	7	17.1
事業者（管理者）の採用力強化の研修	9	22.0
事業者（管理者）の働き方改革の研修	2	4.9
介護ロボット・ICT機器の導入・定着促進	14	34.1
外国人職員受入の支援	7	17.1
介護職員の相談窓口の設置	2	4.9
その他	-	-
無回答	1	2.4

(10) 現在、貴施設に外国人介護職員（パートタイム、アルバイト等を含む）はいますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
現在、外国人介護職員がいる	29	70.7
現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中（または関心がある）	7	17.1
現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない	5	12.2
無回答	-	-

【※(10)で「現在、外国人介護職員がいる」とお答えの施設にお伺いします。】

(11) 現在の、外国人介護職員の人数と、その在留資格の内訳を教えてください。

1. 特定技能1号

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	86
平 均	3.19

2. 技能実習（介護職種）

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	26
平 均	0.96

3. E P A（経済連携協定）

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	0
平 均	0.00

4. 在留資格「介護」

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	30
平 均	1.11

5. 留学（介護福祉士養成施設※）※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	19
平 均	0.70

6. その他

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	14
平 均	0.52

(12) 外国人介護職員の国籍別の内訳を教えてください。

1. バトナム

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	62
平 均	2.30

2. インドネシア

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	38
平 均	1.41

3. フィリピン

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	4
平 均	0.15

4. ミャンマー

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	27
平 均	1.00

5. ネパール

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	31
平 均	1.15

6. モンゴル

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	5
平 均	0.19

7. 中国

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	7
平 均	0.26

8. その他

カテゴリ	件数
全 体	27
合 計	33
平 均	1.22

(13) 外国人職員について、行政に期待する支援について教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	29	100.0
日本語文章力・読解力向上の支援	21	72.4
介護福祉士資格試験取得の支援	20	69.0
外国人職員同士の交流会	-	-
外国人職員に対するわかりやすい情報発信	12	41.4
外国人職員に対する日本の文化の講習	7	24.1
外国人職員の指導者等に対する指導・支援力強化の講習	8	27.6
外国人介護人材受入に関する制度や留意点の講習	3	10.3
受入れ外国人の住居確保支援	10	34.5
外国渡航による現地視察への支援	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

【※(10)で「現在、外国人介護職員がいる」または「現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中（または関心がある）」とお答えの施設にお伺いします。】

(14) 今後（または引き続き）受入を検討している（または関心のある）在留資格を教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	36	100.0
特定技能1号	22	61.1
技能実習（介護職種）	9	25.0
EPA（経済連携協定）	-	-
在留資格「介護」	12	33.3
留学（介護福祉士養成施設※）※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む	6	16.7
その他	1	2.8
無回答	4	11.1

(15) 今後（または引き続き）受入を検討している（または関心のある）外国人介護職員の国籍を教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	36	100.0
ベトナム	13	36.1
インドネシア	22	61.1
フィリピン	7	19.4
ミャンマー	12	33.3
ネパール	11	30.6
モンゴル	2	5.6
中国	2	5.6
その他	1	2.8
無回答	6	16.7

【※(10)で「現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない」とお答えの施設にお伺いします。】

(16) 外国人職員について、受入を考えていない理由を教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	5	100.0
利用者や日本人職員との意思疎通に不安があるから	3	60.0
日本語文章力・読解力の不足等により、できる仕事に限りがあると思うから	3	60.0
受入や雇用方法がわからないから	-	-
実際にどのような人が来るか分からず、一緒に働くイメージがもてないから	-	-
業務以外の日常生活における支援や相談等の対応が難しいと思うから	2	40.0
人件費以外にさまざまなコストがかかると思うから	4	80.0
外国人介護職員を指導できる職員の確保が難しいから	1	20.0
いずれ帰国してしまうなど人材の定着には繋がらないと思うから	2	40.0
その他	3	60.0
無回答	-	-

問7 介護職員等の処遇改善に関する加算の状況についてお伺いします。

(1) 介護職員等の処遇改善に関する加算は何を算定していますか。（○は3つまで）

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
介護職員処遇改善加算（Ⅰ）	30	73.2
介護職員処遇改善加算（Ⅱ）	12	29.3
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	-	-
介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ）	5	12.2
介護職員等特定処遇改善加算（Ⅱ）	-	-
介護職員等ベースアップ等支援加算	7	17.1
いずれも算定していない	-	-
無回答	-	-

※(1)で「いずれも算定していない」と回答した施設にお伺いします。

(2)介護職員処遇改善加算等の届出をしない理由は何ですか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	-	-
対象者に制約がある	-	-
事務作業が煩雑	-	-
利用者負担が発生する	-	-
非常勤職員等の処遇の問題	-	-
賃金改善の必要性がない	-	-
支給要件を達成できない	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

問8 口腔ケアの実施状況についてお伺いします。施設系サービスにおける口腔衛生管理の強化が求められています。

(1)あなたの施設は、どちらに該当していますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
口腔衛生管理加算(Ⅰ)に該当している	19	46.3
口腔衛生管理加算(Ⅱ)に該当している	16	39.0
無回答	6	14.6

(2)貴施設では下記のような取り組みをされていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
口腔衛生管理体制計画の立案	24	58.5
入所者の口腔の状況の確認	33	80.5
口腔清掃の用具の整備	16	39.0
口腔清掃の実施	32	78.0
介護職員の口腔清掃に対する知識・技術の習得、安全確保	30	73.2
食事環境をはじめとした日常生活における環境整備	14	34.1
歯科医師等からの技術的助言・指導と計画の見直し	35	85.4
無回答	1	2.4

(3)入所者に対し、どのような取り組みを計画されていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
歯科健診	37	90.2
個々人に応じたブラッシング指導	24	58.5
口周囲や唾液腺等のマッサージ指導	15	36.6
その他	1	2.4
実施していない	-	-
無回答	-	-

【※(3)で「歯科健診」「個々人に応じたブラッシング指導」「口周囲や唾液腺等のマッサージ指導」「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。】

(4)実施している場合、どのような効果を期待していますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
誤嚥防止	14	34.1
咀嚼力の保持	3	7.3
肺炎の予防	7	17.1
口臭予防	-	-
その他	1	2.4
無回答	16	39.0

問9 医療が必要な入所者についてお伺いします。

(1)貴施設では下記のような医療を必要とする入所者がおられますか。おられる場合()内に人数を記入してください。(およそ過去3か月間)

1. 褥瘡処理

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	97
平 均	2.55

2. 浣腸・摘便

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	543
平 均	14.29

3. 導尿・膀胱留置カテーテル

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	153
平 均	4.03

膀胱ろう

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	19
平 均	0.50

4. 人工肛門

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	23
平 均	0.61

5. 喀痰吸引

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	185
平 均	4.87

6. インスリン注射・血糖測定

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	154
平 均	4.05

7. 経管栄養療法

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	63
平 均	1.66

胃ろう

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	140
平 均	3.68

8. 酸素療法

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	45
平 均	1.18

9. 脱水などに対する一時的点滴

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	95
平 均	2.50

10. 透析

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	13
平 均	0.34

11. ストマケア（パウチの交換を含む）

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	30
平 均	0.79

12. 気管切開

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	3
平 均	0.08

13. 食道ろう

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	0
平 均	0.00

14. パースメーカー

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	56
平 均	1.47

15. その他

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	1
平 均	0.03

（2）医療処置が必要な人の入所が受け入れられない場合、どのようなことが理由となっていますか。最もあてはまる理由を選択してください。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
医師の配置が十分ではない	-	-
医療機関との連携が不十分	4	9.8
看護職員の体制が不十分	17	41.5
その他	10	24.4
医療処置が必要な人でも全て受け入れている	4	9.8
無回答	6	14.6

(3) 通院時にはどのような対応をしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
原則 家族対応	19	46.3
原則 スタッフ対応	6	14.6
協力医療機関を活用している	13	31.7
その他	2	4.9
無回答	1	2.4

(4) 医療機関と、どのように連携していますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
入所者の健康管理や処置について助言を受けている	17	41.5
往診してもらえる医師・医療機関がある	15	36.6
急変時の受け入れを依頼できる病院を確保している	36	87.8
提携病院があり、入院の受け入れをもらっている	33	80.5
認知症の周辺症状について助言を受けている	4	9.8
その他	-	-
連携していない	-	-
無回答	1	2.4

問10 ターミナルケアの実施状況についてお伺いします。

(1) 貴施設はターミナルケア加算を算定していますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
算定している	35	85.4
算定していない	5	12.2
施設基準は満たしているが算定していない	1	2.4
無回答	-	-

※(1)で「算定している」とお答えの施設にお伺いします。

(2) この1年間で、ターミナルケア加算は何件算定されましたか。

カテゴリ	件数
全 体	34
合 計	286
平 均	8.41

死亡された方(退所して1月以内に死亡された方を含む)のうち、およそ何割の方を算定されましたか。

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	250
平 均	7.58

(3) ターミナルケアを実施するにあたり、どのようなことに力を入れていますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	35	100.0
利用者・家族に対する十分な説明と同意の取得	33	94.3
ターミナルケアに関する職員の研修	13	37.1
ターミナルケアに関わる職員のバックアップ体制の確保	7	20.0
個室の利用などターミナルケアにふさわしい環境の整備	24	68.6
最後までその人らしく「生きる」ことを支えるケアの提供	21	60.0
その他	1	2.9
無回答	2	5.7

問11 高齢者の人権擁護・虐待の防止等についてお伺いします。

(1) 高齢者の人権擁護・虐待の防止等のために実施している対策はありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
高齢者の人権・虐待に関する職員研修の実施	41	100.0
高齢者の人権・虐待に関する外部の研修への参加	28	68.3
入所者や家族からの苦情処理体制の整備	34	82.9
身体拘束に関する手続き厳守の徹底	35	85.4
職員が虐待を発見した場合の通報窓口の周知	32	78.0
労働環境等の整備	23	56.1
その他	1	2.4
無回答	-	-

(2) 施設の中で、職員から虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合に、発見した職員に通報義務があることを知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
知っている(通報連絡先も知っている)	38	92.7
知っている(通報連絡先は知らない)	3	7.3
知らない	-	-
無回答	-	-

問12 貴施設でのボランティア活動についてお伺いします。

(1) 貴施設ではどのようなボランティア活動が行なわれていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援	8	19.5
施設でのお茶だし、食堂内の配膳・下膳などの補助	4	9.8
喫茶コーナーなどの運営補助	2	4.9
散歩、外出、館内移動の補助	2	4.9
イベント等の手伝い(模擬店、会場設営、利用者の移動補助、芸能披露など)	16	39.0
話し相手	3	7.3
洗濯物たたみ	-	-
その他施設職員と共に行う軽微かつ補助的な活動	5	12.2
その他	3	7.3
ボランティアはいない	16	39.0
無回答	-	-

※(1)で「日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援」～「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。

(2) ボランティアの登録はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

① 男性

カテゴリ	件数
全 体	19
合 計	31
平 均	1.63

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	19
合 計	7
平 均	0.37

女性

カテゴリ	件数
全 体	19
合 計	100
平 均	5.26

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	19
合 計	40
平 均	2.11

② ボランティアの活動歴
あり

カテゴリ	件数
全 体	13
合 計	68
平 均	5.23

なし

カテゴリ	件数
全 体	13
合 計	2
平 均	0.15

不明

カテゴリ	件数
全 体	13
合 計	0
平 均	0.00

(3) どのような団体にボランティア活動を依頼していますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	25	100.0
婦人会等の地域団体	3	12.0
区や市のボランティアセンター	16	64.0
ボランティア団体	8	32.0
その他	5	20.0
無回答	2	8.0

(4) 平均すると一日あたりのボランティアに参加されている方はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

男性

カテゴリ	件数
全 体	14
合 計	35
平 均	2.50

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	14
合 計	33
平 均	2.36

女性

カテゴリ	件数
全 体	14
合 計	54
平 均	3.84

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	14
合 計	49
平 均	3.49

問13 貴施設では地域や地域住民へ施設開放をされていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
地域住民や地域団体が喫茶室を利用できる	2	4.9
地域住民や地域団体が会議室や作業スペースを利用できる	2	4.9
「つどいの場」(地域住民が主体となって、おしゃべりや、喫茶、体操、季節の行事、手芸、工芸などを行う仲間づくりの場)として利用している	4	9.8
施設の行事の時に地域住民や地域団体を招いている	17	41.5
その他	3	7.3
していない	19	46.3
無回答	1	2.4

問14 事故や災害等の対応について、あてはまるものはありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
事故発生時の職員対応マニュアルを作成している	41	100.0
事故発生時における家族等への連絡先を複数把握している	34	82.9
感染症に関する職員対応マニュアルを作成している	41	100.0
消火・避難訓練を年2回以上実施している	41	100.0
避難の方法など、災害に対するマニュアルを作成している	39	95.1
災害時に要援護者の受け入れ体制を整えている	14	34.1
従事者に対する暴力・セクハラ防止の安全対策マニュアルを作成している	24	58.5
無回答	-	-

問15 介護ロボット・ICT機器についてお伺いします。

(1) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
導入していない	2	4.9
移乗支援	7	17.1
移動支援	5	12.2
排泄支援	1	2.4
見守り支援(見守りセンサー等)	26	63.4
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	4	9.8
入浴支援	4	9.8
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	25	61.0
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	5	12.2
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	21	51.2
機能訓練支援	-	-
認知機能低下予防機器	-	-
その他	3	7.3
無回答	-	-

(2) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入を検討しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
導入を検討していない	7	17.1
移乗支援	9	22.0
移動支援	4	9.8
排泄支援	4	9.8
見守り支援(見守りセンサー等)	15	36.6
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	5	12.2
入浴支援	4	9.8
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	3	7.3
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	3	7.3
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	6	14.6
機能訓練支援	2	4.9
認知機能低下予防機器	1	2.4
その他	3	7.3
無回答	1	2.4

(3) 導入して感じた課題や導入していない理由として、あてはまるものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
導入費用が高額	36	87.8
費用対効果が不明	15	36.6
安全面に不安	2	4.9
どのICT機器や介護ロボットが、施設に合うのか分からない	13	31.7
技術的に職員が使いこなすのが難しい(難しそう)	14	34.1
介護職員が、新しい機器を導入することに消極的	7	17.1
導入時に、使い方の研修や周知の機会を設けるのが難しい	6	14.6
機器のメンテナンスが大変	13	31.7
介護現場の実態に合う介護ロボットやICT機器がない	3	7.3
その他	3	7.3
無回答	2	4.9

問16 貴施設の改築や改修について、今後、10年以内に必要と考えられているものはありますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	41	100.0
全面改築が必要と考えている（移転含む）	11	26.8
施設の老朽化に伴う設備機器の更新が必要と考えている	33	80.5
多床室の間仕切り等によるプライバシー改修が必要と考えている	3	7.3
従来型居室のユニット型改修が必要と考えている	-	-
既存スペースを活用するための増床が必要と考えている	-	-
その他	3	7.3
特に必要はない	6	14.6
無回答	-	-

問17 介護保険制度における貴施設の役割や、施設運営における課題等について、ご自由にご記入ください。

神戸市
介護保険事業計画策定に向けての実態調査
単 純 集 計 表
(介護医療院)

問1 貴施設についてお伺いします。

(1) 開設年月及び介護保険適用指定年月

①開設年月

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
昭和	-	-
平成元年～10年	-	-
平成11年～20年	-	-
平成21年～30年	1	33.3
令和（平成31年を含む）	2	66.7
無回答	-	-

②介護保険適用指定年月

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
昭和	-	-
平成元年～10年	-	-
平成11年～20年	-	-
平成21年～30年	1	33.3
令和（平成31年を含む）	2	66.7
無回答	-	-

(2) 定員数（介護保険適用床数）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	398
平 均	132.67

(3) 居室の状況（室数）

個室

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	35
平 均	11.67

2人部屋

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	7
平 均	2.33

3人部屋

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	19
平 均	6.33

4人部屋

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	73
平 均	24.33

5人以上

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

(4) 待機者数

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	32
平 均	10.67

※うち神戸市在住者数

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	30
平 均	10.00

(5) 貴施設での実施サービス及び併設施設・事業の有無・種別。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
病院・診療所	1	33.3
特別養護老人ホーム(小規模も含む)	-	-
介護老人保健施設	-	-
居宅介護支援・介護予防居宅介護支援	-	-
(介護予防)訪問介護	-	-
(介護予防)訪問入浴介護	-	-
(介護予防)訪問看護	-	-
(介護予防)訪問リハビリテーション	-	-
(介護予防・認知症対応型)通所介護(デイサービス)	-	-
(介護予防)通所リハビリテーション(デイケア)	1	33.3
(介護予防)短期入所(ショートステイ)	1	33.3
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	-	-
看護小規模多機能型居宅介護	-	-
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	-	-
(介護予防)特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム、ケアハウス)	-	-
小規模多機能型居宅介護	-	-
介護医療院	2	66.7
その他の介護保険サービス・保健福祉サービス・社会福祉施設等	-	-
無回答	-	-

問2 現在の入院・入所者（以下、「入院者等」という）の状況についてお伺いします。貴施設の入院者等数、要介護度分布を下記にご記入ください。

(1) 入院者等数

入院者等（短期入所療養介護（ショートステイ）利用者は除く）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	381
平 均	127.00

ショートステイ利用

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

合計

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	381
平 均	127.00

(*入院者等のうち神戸市以外の被保険者は何名ですか)

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	36
平 均	12.00

(2) 要介護度別の入院者等数

要介護1

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	2
平 均	0.67

要介護2

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	9
平 均	3.00

要介護3

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	33
平 均	11.00

要介護4

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	179
平 均	59.67

要介護5

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	158
平 均	52.67

(3) 認知症高齢者の日常生活自立度別の入院者等数

自立

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

I

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	8
平 均	2.67

II a

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	13
平 均	4.33

II b

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	35
平 均	11.67

III a

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	44
平 均	14.67

III b

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	149
平 均	49.67

IV

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	106
平 均	35.33

M

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	25
平 均	8.33

不明

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

(4) 障害高齢者の日常生活自立度別の入院者等数

自立

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

ランクJ

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	2
平 均	0.67

ランクA

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	10
平 均	3.33

ランクB

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	78
平 均	26.00

ランクC

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	291
平 均	97.00

(5) 医療区分別の入院者等数

医療区分Ⅰ

カテゴリ	件数
全 体	1
合 計	0
平 均	0.00

医療区分Ⅱ

カテゴリ	件数
全 体	1
合 計	25
平 均	25.00

医療区分Ⅲ

カテゴリ	件数
全 体	1
合 計	213
平 均	213.00

問3 入退所の状況についてお伺いします。

(1) 令和6年12月1日以降の入退所の状況について下記にご記入下さい。(ショートステイ利用分を除く)

令和6年11月末

在院者数・在所者数(11月末現在)

カテゴリ	件数
全体	3
合計	375
平均	125.00

令和6年12月～令和7年3月 入院者数・入所者数(増数)

カテゴリ	件数
全体	3
合計	141
平均	47.00

退院者数・退所者数(減数)

カテゴリ	件数
全体	3
合計	156
平均	52.00

在院者数・在所者数(3月末現在)

カテゴリ	件数
全体	3
合計	360
平均	120.00

令和7年4月～令和7年11月 入院者数・入所者数(増数)

カテゴリ	件数
全体	3
合計	280
平均	93.33

退院者数・退所者数(減数)

カテゴリ	件数
全体	3
合計	259
平均	86.33

在院者数・在所者数(11月末現在)

カテゴリ	件数
全体	3
合計	381
平均	127.00

合計 入院者数・入所者数(増数)

カテゴリ	件数
全体	3
合計	421
平均	140.33

退院者数・退所者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	415
平 均	138.33

在院者数・在所者数

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	414
平 均	138.00

(2) 2～3年前（令和4～5年度）の状況と最近の状況を比較して、退所者の平均入所期間は長くなっていますか、短くなっていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
長くなっている	1	33.3
変わらない	1	33.3
短くなっている	1	33.3
令和6年4月以降に開設した施設であるので比較できない	-	-
無回答	-	-

(3) 2～3年前（令和4～5年度）の状況と最近の状況を比較して、退所者に占める在宅復帰者の割合は増えていますか、減っていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
増えている	-	-
変わらない	2	66.7
減っている	1	33.3
令和6年4月以降に開設した施設であるので比較できない	-	-
無回答	-	-

(4) 入所希望者をすべて受け入れていますか。

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
はい	-	-
いいえ	3	100.0
無回答	-	-

※(4)で「いいえ」と回答した施設にお伺いします。

(5) 入所が困難な理由は何ですか。1番目と2番目の理由を選択してください。

1番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である	-	-
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である	3	100.0
貴施設の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

2番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である	1	33.3
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である	-	-
貴施設の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある	-	-
その他	2	66.7
無回答	-	-

問4 貴施設には下記のような方はおよそ何人入所されていますか。

1. おむつ使用
常時使用

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	352
平 均	117.33

夜間のみ使用

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	12
平 均	4.00

2. 食事の介助が必要（一部介助も含む）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	91
平 均	30.33

3. 洗面の介助が必要（一部介助を含む）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	366
平 均	122.00

4. 入浴の介助が必要（一部介助を含む）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	384
平 均	128.00

5. 嚥下困難（見守りも含む）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	128
平 均	42.67

6. 徘徊（時々も含む）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	16
平 均	5.33

7. 暴言・暴行

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	17
平 均	5.67

8. 不潔行為

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	42
平 均	14.00

9. その他

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

問5 貴施設の職員についてお伺いします。

（1）職員の配置の現状はどのようになっていますか。人数を数字で記入してください。

従事者数（単位：名）

正規職員

全体

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	218
平 均	72.67

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	6
平 均	2.00

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	68
平 均	22.67

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	87
平 均	29.00

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	41
平 均	13.67

介護職員のうち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	8
平 均	2.67

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	2
平 均	0.67

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	5
平 均	1.67

非正規職員
常勤労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	17
平 均	5.67

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	2
平 均	0.67

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	9
平 均	3.00

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	4
平 均	1.33

介護職員のうち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

非正規職員
短時間労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	55
平 均	18.33

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	10
平 均	3.33

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	21
平 均	7.00

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	20
平 均	6.67

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	4
平 均	1.33

介護職員のうち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

(2) 職員の平均在職年数はおよそ何年ですか。在職年数を数字で記入してください。

在職年数 (単位: 年)

正規職員

全体

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	12
平 均	3.87

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	10
平 均	3.30

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	12
平 均	3.93

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	10
平 均	3.30

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	9
平 均	2.97

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	17
平 均	5.53

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	8
平 均	2.57

非正規職員 常勤労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	11
平 均	3.60

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.27

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	5
平 均	1.67

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	9
平 均	3.00

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	6
平 均	2.00

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	5
平 均	1.53

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

非正規職員 短時間労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	9
平 均	3.10

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	2
平 均	0.67

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	11
平 均	3.53

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	10
平 均	3.27

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	12
平 均	4.00

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

(3) 貴施設が計画している職員の配置計画と現状を比較して、あてはまる部分に○を記入して下さい。

全体

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
大いに不足	-	-
不足	1	33.3
適当	2	66.7
過剰	-	-
無回答	-	-

うち医師

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
大いに不足	-	-
不足	1	33.3
適当	2	66.7
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	-	-

うち看護師

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
大いに不足	-	-
不足	1	33.3
適当	2	66.7
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	-	-

うち介護職員

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
大いに不足	-	-
不足	1	33.3
適当	2	66.7
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	-	-

うち理学療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
大いに不足	-	-
不足	-	-
適当	3	100.0
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	-	-

うち作業療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
大いに不足	-	-
不足	-	-
適当	2	66.7
過剰	-	-
該当なし	1	33.3
無回答	-	-

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
大いに不足	-	-
不足	-	-
適当	2	66.7
過剰	-	-
該当なし	1	33.3
無回答	-	-

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
大いに不足	-	-
不足	1	33.3
適当	2	66.7
過剰	-	-
該当なし	-	-
無回答	-	-

(4) 過去1年間に退職した人数及び退職した主な理由について、それぞれ該当する人数をお答えください。
合計

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	86
平 均	28.67

うち正規職員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	70
平 均	23.33

非正規職員

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	16
平 均	5.33

1. 職場内の人間関係

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	18
平 均	6.00

2. 利用者やその家族との人間関係

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

3. 多忙でじっくり仕事に取り組めない

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	5
平 均	1.67

4. 責任が重くストレスが大きい

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	4
平 均	1.33

5. 家庭と仕事の両立ができない

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	3
平 均	1.00

6. 妊娠や出産、育児、転勤など自分や家庭の事情

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

7. 親など家族の介護を行うため

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

8. 賃金を理由として

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	7
平 均	2.33

9. 労働時間、休暇等の労働条件

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

10. 腰痛等の健康上の問題

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	18
平 均	6.00

11. その他

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	30
平 均	10.00

(5) 上記の離職者（全体数）の在職期間はどれぐらいですか。下記の期間ごとに人数をお答えください。

1. 1か月未満

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	17
平 均	5.67

2. 1か月～半年未満

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	15
平 均	5.00

3. 半年～1年未満

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	8
平 均	2.67

4. 1年～3年未満

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	30
平 均	10.00

5. 3年～5年未満

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	9
平 均	3.00

6. 5年～7年未満

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	4
平 均	1.33

7. 7年以上

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	3
平 均	1.00

8. わからない

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

(6) 上記の退職者が転職している場合、転職先をわかる範囲でご記入下さい。

転職先別人数

1. 福祉関係

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

2. 福祉関係以外

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

(7) 貴事業所では、職員の人材の確保・育成を図るためにどのような取り組みを行っていますか。(該当するものに○：
あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
特に対策は行っていない	-	-
賃金の改善	2	66.7
休暇や労働時間等の労働条件の改善	1	33.3
職員の健康管理支援等、福利厚生充実	3	100.0
介護職員の資格取得等、キャリアやスキルアップへの支援	3	100.0
職員に対する評価の明確化や処遇への反映	2	66.7
休暇取得促進など、職員のワークライフバランスへの配慮	2	66.7
職員へのハラスメントの防止等対策	3	100.0
介護ロボット・ICT機器の導入等による職員の負担軽減	2	66.7
個別面談等による職員の意向の確認	3	100.0
定期的なミーティング等により職員の意見を聴取するなど、風通しの良い職場環境づくり	2	66.7
新人の指導担当・アドバイザーの設置	1	33.3
職場環境の改善(休憩室、談話室の確保等)	3	100.0
その他	1	33.3
無回答	-	-

(8) 神戸市介護人材確保プロジェクト「コウベdeカイゴ」の取組や、市内介護職員や施設に対しわかりやすく有益な情報
発信を行う「コウベdeカイゴ」のWebサイトを知っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
プロジェクトもWEBサイトも知っている	3	100.0
神戸市が「コウベdeカイゴ」プロジェクトを実施しているのは知っているが、WEBサイトは 知らなかった	-	-
どちらも知らない	-	-
無回答	-	-

(9) 介護人材の確保・育成（コウベdeカイゴ）について、行政に期待することはありますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
特になし	-	-
介護職のイメージアップ（魅力向上）の取組	3	100.0
神戸市介護施設・事業者の広報支援	1	33.3
職員のキャリアアップ支援	2	66.7
潜在的介護福祉士等の再就職支援	2	66.7
事業者（管理者）の人材マネジメント能力強化の研修	-	-
事業者（管理者）の採用力強化の研修	-	-
事業者（管理者）の働き方改革の研修	-	-
介護ロボット・ICT機器の導入・定着促進	2	66.7
外国人職員受入の支援	-	-
介護職員の相談窓口の設置	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

(10) 現在、貴施設に外国人介護職員（パートタイム、アルバイト等を含む）はいますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
現在、外国人介護職員がいる	3	100.0
現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中（または関心がある）	-	-
現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない	-	-
無回答	-	-

【※(10)で「現在、外国人介護職員がいる」とお答えの施設にお伺いします。】

(11) 現在の、外国人介護職員の人数と、その在留資格の内訳を教えてください。

1. 特定技能1号

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	7
平 均	2.33

2. 技能実習（介護職種）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	2
平 均	0.67

3. EPA（経済連携協定）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

4. 在留資格「介護」

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

5. 留学（介護福祉士養成施設 ※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む）

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

6. その他

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	6
平 均	2.00

(12) 外国人介護職員の国籍別の内訳を教えてください。

国籍別の人数

1. ベトナム

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	6
平 均	2.00

2. インドネシア

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

3. フィリピン

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	3
平 均	1.00

4. ミャンマー

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	5
平 均	1.67

5. ネパール

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

6. モンゴル

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

7. 中国

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	0
平 均	0.00

8. その他

カテゴリ	件数
全 体	3
合 計	1
平 均	0.33

(13) 外国人職員について、行政に期待する支援について教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
日本語文章力・読解力向上の支援	1	33.3
介護福祉士資格試験取得の支援	2	66.7
外国人職員同士の交流会	-	-
外国人職員に対するわかりやすい情報発信	-	-
外国人職員に対する日本の文化の講習	-	-
外国人職員の指導者等に対する指導・支援力強化の講習	1	33.3
外国人介護人材受入に関する制度や留意点の講習	1	33.3
受入れ外国人の住居確保支援	1	33.3
外国渡航による現地視察への支援	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

【※(10)で「現在、外国人介護職員がいる」または「現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中(または関心がある)」とお答えの施設にお伺いします。】

(14) 今後(または引き続き)受入を検討している(または関心のある)在留資格を教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
特定技能1号	2	66.7
技能実習(介護職種)	1	33.3
EPA(経済連携協定)	-	-
在留資格「介護」	1	33.3
留学(介護福祉士養成施設 ※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む)	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

(15) 今後(または引き続き)受入を検討している(または関心のある)外国人介護職員の国籍を教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
ベトナム	2	66.7
インドネシア	1	33.3
フィリピン	1	33.3
ミャンマー	3	100.0
ネパール	1	33.3
モンゴル	-	-
中国	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

【※(10)で「現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない」とお答えの施設にお伺いします。】

(16) 外国人職員について、受入を考えていない理由を教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	-	-
利用者や日本人職員との意思疎通に不安があるから	-	-
日本語文章力・読解力の不足等により、できる仕事に限りがあると思うから	-	-
受入や雇用方法がわからないから	-	-
実際にどのような人が来るか分からず、一緒に働くイメージがもてないから	-	-
業務以外の日常生活における支援や相談等の対応が難しいと思うから	-	-
人件費以外にさまざまなコストがかかると思うから	-	-
外国人介護職員を指導できる職員の確保が難しいから	-	-
いずれ帰国してしまうなど人材の定着には繋がらないと思うから	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

問6 介護職員等の処遇改善に係る加算の状況についてお伺いします。

(1) 介護職員等の処遇改善に係る加算は何を算定していますか。(〇は3つまで)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
介護職員処遇改善加算 (I)	-	-
介護職員処遇改善加算 (II)	1	33.3
介護職員処遇改善加算 (III)	2	66.7
介護職員等特定処遇改善加算 (I)	-	-
介護職員等特定処遇改善加算 (II)	-	-
介護職員等ベースアップ等支援加算	-	-
いずれも算定していない	-	-
無回答	-	-

※ (1) で「いずれも算定していない」と回答した施設にお伺いします。

(2) 介護職員処遇改善加算等の届出をしない理由は何ですか。(該当するものに〇:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	-	-
対象者に制約がある	-	-
事務作業が煩雑	-	-
利用者負担が発生する	-	-
非常勤職員等の処遇の問題	-	-
賃金改善の必要性がない	-	-
支給要件を達成できない	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

問7 口腔ケアの実施状況についてお伺いします。施設系サービスにおける口腔衛生管理の強化が求められています。

(1) あなたの施設は、どちらに該当していますか。(該当するものに〇:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
口腔衛生管理加算 (I) に該当している	-	-
口腔衛生管理加算 (II) に該当している	3	100.0
無回答	-	-

(2) 貴施設では下記のような取り組みをされていますか。(該当するものに〇:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
口腔衛生管理体制計画の立案	3	100.0
入所者の口腔の状況の確認	3	100.0
口腔清掃の用具の整備	3	100.0
口腔清掃の実施	3	100.0
介護職員の口腔清掃に対する知識・技術の習得、安全確保	3	100.0
食事環境をはじめとした日常生活における環境整備	3	100.0
歯科医師等からの技術的助言・指導と計画の見直し	3	100.0
無回答	-	-

(3) 入所者に対し、どのような取り組みを計画されていますか。(該当するものに〇:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
歯科健診	1	33.3
個々人に応じたブラッシング指導	3	100.0
口周囲や唾液腺等のマッサージ指導	1	33.3
その他	-	-
実施していない	-	-
無回答	-	-

【※(3)で「歯科健診」「個々人に応じたブラッシング指導」「口周囲や唾液腺等のマッサージ指導」「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。】

(4)実施している場合、どのような効果を期待していますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
誤嚥防止	-	-
咀嚼力の保持	-	-
肺炎の予防	2	66.7
口臭予防	-	-
その他	-	-
無回答	1	33.3

問8 高齢者の人権擁護・虐待の防止等についてお伺いします。

(1) 高齢者の人権擁護・虐待の防止等のために実施している対策はありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
高齢者の人権・虐待に関する職員研修の実施	3	100.0
高齢者の人権・虐待に関する外部の研修への参加	3	100.0
入所者や家族からの苦情処理体制の整備	3	100.0
身体拘束に関する手続き厳守の徹底	3	100.0
職員が虐待を発見した場合の通報窓口の周知	3	100.0
労働環境等の整備	3	100.0
その他	-	-
無回答	-	-

(2) 施設の中で、職員から虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合に、発見した職員に通報義務があることを知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
知っている(通報連絡先も知っている)	3	100.0
知っている(通報連絡先は知らない)	-	-
知らない	-	-
無回答	-	-

問9 貴施設でのボランティア活動についてお伺いします。

(1) 貴施設ではどのようなボランティア活動が行なわれていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援	-	-
施設でのお茶だし、食堂内の配膳・下膳などの補助	-	-
喫茶コーナーなどの運営補助	-	-
散歩、外出、館内移動の補助	-	-
イベント等の手伝い(模擬店、会場設営、利用者の移動補助、芸能披露など)	-	-
話し相手	-	-
洗濯物たたみ	-	-
その他施設職員と共に行う軽微かつ補助的な活動	-	-
その他	-	-
ボランティアはいない	3	100.0
無回答	-	-

※(1)で「日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援」～「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。

(2) ボランティアの登録はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

① ボランティアの登録人数

男性

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

女性

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

② ボランティアの活動歴別の登録人数

あり

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

なし

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

不明

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

(3) どのような団体にボランティア活動を依頼していますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	-	-
婦人会等の地域団体	-	-
区や市のボランティアセンター	-	-
ボランティア団体	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

(4) 平均すると一日あたりのボランティアに参加されている方はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

参加人数
男性

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

女性

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	-
合 計	-
平 均	-

問10 事故や災害等の対応について、あてはまるものはありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
事故発生時の職員対応マニュアルを作成している	2	66.7
事故発生時における家族等への連絡先を複数把握している	2	66.7
感染症に関する職員対応マニュアルを作成している	2	66.7
消火・避難訓練を年2回以上実施している	2	66.7
避難の方法など、災害に対するマニュアルを作成している	2	66.7
災害時に要援護者の受け入れ体制を整えている	1	33.3
従事者に対する暴力・セクハラ防止の安全対策マニュアルを作成している	1	33.3
無回答	1	33.3

問11 介護ロボット・ICT機器についてお伺いします。

(1) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
導入していない	-	-
移乗支援	2	66.7
移動支援	-	-
排泄支援	-	-
見守り支援(見守りセンサー等)	3	100.0
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	1	33.3
入浴支援	1	33.3
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	3	100.0
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	-	-
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	2	66.7
機能訓練支援	-	-
認知機能低下予防機器	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

(2) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入を検討しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
導入を検討していない	1	33.3
移乗支援	1	33.3
移動支援	-	-
排泄支援	-	-
見守り支援(見守りセンサー等)	2	66.7
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	-	-
入浴支援	-	-
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	-	-
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	-	-
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	-	-
機能訓練支援	-	-
認知機能低下予防機器	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

(3) 導入して感じた課題や導入していない理由として、あてはまるものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
導入費用が高額	2	66.7
費用対効果が不明	-	-
安全面に不安	-	-
どのICT機器や介護ロボットが、施設に合うのかわからない	2	66.7
技術的に職員が使いこなすのが難しい(難しそう)	3	100.0
介護職員が、新しい機器を導入することに消極的	1	33.3
導入時に、使い方の研修や周知の機会を設けるのが難しい	-	-
機器のメンテナンスが大変	-	-
介護現場の実態に合う介護ロボットやICT機器がない	2	66.7
その他	-	-
無回答	-	-

問12 貴施設の改築や改修について、今後、10年以内に必要と考えられているものはありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	3	100.0
全面改築が必要と考えている(移転含む)	-	-
施設の老朽化に伴う設備機器の更新が必要と考えている	2	66.7
多床室の間仕切り等によるプライバシー改修が必要と考えている	1	33.3
従来型居室のユニット型改修が必要と考えている	-	-
既存スペースを活用するための増床が必要と考えている	-	-
その他	-	-
特に必要はない	1	33.3
無回答	-	-

問13 介護保険制度における貴施設の役割や、施設運営における課題等について、ご自由にご記入ください。

神戸市

介護保険事業計画策定に向けての実態調査

単 純 集 計 表

(特定施設・サービス付き高齢者向け住宅)

問1 貴施設（住宅）についてお伺いします。

(1) 開設年月

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
昭和	5	4.1
平成元年～10年	4	3.3
平成11年～20年	22	17.9
平成21年～30年	58	47.2
令和（平成31年を含む）	27	22.0
無回答	7	5.7

(2) 事業所の種類（○はひとつ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
介護付き有料老人ホーム	39	31.7
住宅型有料老人ホーム	16	13.0
ケアハウス	8	6.5
介護型ケアハウス	9	7.3
サービス付高齢者向け住宅	45	36.6
その他	3	2.4
無回答	3	2.4

(3) 定員数（届出床数）*混合型有料老人ホームについても部屋数ではなく全床数をご記入ください。

カテゴリ	件数
全 体	120
合 計	7,317
平 均	60.98

(4) 居室の状況

個室

カテゴリ	件数
全 体	120
合 計	6,148
平 均	51.23

2人部屋

カテゴリ	件数
全 体	120
合 計	746
平 均	6.22

3人部屋

カテゴリ	件数
全 体	120
合 計	32
平 均	0.27

4人部屋

カテゴリ	件数
全 体	120
合 計	18
平 均	0.15

5人以上

カテゴリ	件数
全 体	120
合 計	0
平 均	0.00

(5) 待機者数

カテゴリ	件数
全 体	110
合 計	337
平 均	3.06

※うち神戸市在住者

カテゴリ	件数
全 体	110
合 計	256
平 均	2.33

(6) 貴施設（住宅）での実施サービス及び併設施設・事業の有無・種別。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
病院・診療所	12	9.8
特別養護老人ホーム（小規模も含む）	12	9.8
介護老人保健施設	4	3.3
居宅介護支援・介護予防居宅介護支援	19	15.4
（介護予防）訪問介護	47	38.2
（介護予防）訪問入浴介護	2	1.6
（介護予防）訪問看護	18	14.6
（介護予防）訪問リハビリテーション	7	5.7
（介護予防・認知症対応型）通所介護（デイサービス）	21	17.1
（介護予防）通所リハビリテーション（デイケア）	4	3.3
（介護予防）短期入所（ショートステイ）	11	8.9
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	3.3
看護小規模多機能型居宅介護	1	0.8
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	7	5.7
（介護予防）特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス）	39	31.7
小規模多機能型居宅介護	6	4.9
介護医療院	-	-
その他の介護保険サービス・保健福祉サービス・社会福祉施設等	8	6.5
無回答	18	14.6

※サービス付高齢者向け住宅を設置・運営している場合、(7) (8) (9) について、ご回答ください。

(7) 状況把握（安否確認）サービスの確認頻度はどのくらいですか。（1日）

カテゴリ	件数
全 体	45
合 計	159
平 均	3.52

(8) 生活相談サービスの相談頻度はどのくらいですか。（月の延べ回数）

カテゴリ	件数
全 体	43
合 計	1,876
平 均	43.63

(9) 状況把握（安否確認）、生活相談サービス以外の高齢者生活支援サービスを行っていますか。（該当するものに○：
あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	45	100.0
食事の提供	40	88.9
入浴等の介護	6	13.3
調理等の家事	2	4.4
健康の維持増進	20	44.4
その他	7	15.6
行っていない	2	4.4
無回答	1	2.2

※(9)で「行っていない」以外に○を入れた施設（住宅）にお伺いします。

(10) 神戸有料老人ホーム設置運営指導指針に基づく管理規定等を制定していますか。

カテゴリ	件数	割合
全 体	42	100.0
はい	35	83.3
いいえ	5	11.9
無回答	2	4.8

(11) 運営懇談会の開催頻度はどのくらいですか。（1年）

カテゴリ	件数
全 体	40
合 計	115
平 均	2.88

問2 現在の入居者の人数、要介護度分布、認知症高齢者の日常生活自立度等を下記にご記入ください。

(1) 入居者数

カテゴリ	件数
全 体	102
合 計	5,672
平 均	55.61

入居者のうち特定施設入居者生活介護契約者

カテゴリ	件数
全 体	102
合 計	3,012
平 均	29.53

それ以外の方

カテゴリ	件数
全 体	102
合 計	2,660
平 均	26.08

*施設入居者のうち神戸市以外の被保険者は何名ですか

カテゴリ	件数
全 体	102
合 計	1,101
平 均	10.79

※以下は、入居者についてご記入ください。（ショートステイ利用者は除く）

(2) 要介護度別

自立

カテゴリ	件数
全 体	118
合 計	1,367
平 均	11.58

要支援1

カテゴリ	件数
全 体	118
合 計	627
平 均	5.31

要支援2

カテゴリ	件数
全 体	118
合 計	617
平 均	5.23

要介護1

カテゴリ	件数
全 体	118
合 計	1,131
平 均	9.58

要介護2

カテゴリ	件数
全 体	118
合 計	921
平 均	7.81

要介護3

カテゴリ	件数
全 体	118
合 計	672
平 均	5.69

要介護4

カテゴリ	件数
全 体	118
合 計	802
平 均	6.80

要介護5

カテゴリ	件数
全 体	118
合 計	443
平 均	3.75

(3) 認知症高齢者の日常生活自立度別
自立

カテゴリ	件数
全 体	95
合 計	953
平 均	10.03

I

カテゴリ	件数
全 体	95
合 計	652
平 均	6.86

II a

カテゴリ	件数
全 体	95
合 計	581
平 均	6.12

II b

カテゴリ	件数
全 体	95
合 計	915
平 均	9.63

III a

カテゴリ	件数
全 体	95
合 計	659
平 均	6.94

Ⅲb

	カテゴリ	件数
全 体		95
合 計		241
平 均		2.54

Ⅳ

	カテゴリ	件数
全 体		95
合 計		208
平 均		2.19

M

	カテゴリ	件数
全 体		95
合 計		47
平 均		0.49

不明

	カテゴリ	件数
全 体		95
合 計		417
平 均		4.39

(4) 障害高齢者の日常生活自立度別
自立

	カテゴリ	件数
全 体		77
合 計		657
平 均		8.53

ランクJ

	カテゴリ	件数
全 体		77
合 計		403
平 均		5.23

ランクA

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	1,410
平 均	18.31

ランクB

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	955
平 均	12.40

ランクC

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	305
平 均	3.96

問3 入退居の状況についてお伺いします。

(1) 令和6年12月1日以降の入退居の状況について下記にご記入下さい。(ショートステイ利用分を除く)

令和6年11月末

在居者数(11月末現在)

カテゴリ	件数
全 体	109
合 計	5,881
平 均	53.95

令和6年12月～令和7年3月 入居居数(増数)

カテゴリ	件数
全 体	111
合 計	568
平 均	5.12

退居居数(減数)

カテゴリ	件数
全 体	108
合 計	495
平 均	4.58

在居者数(各期末現在)(3月末現在)

カテゴリ	件数
全 体	109
合 計	5,959
平 均	54.67

令和7年4月～令和7年11月 入居居数(増数)

カテゴリ	件数
全 体	111
合 計	1,106
平 均	9.96

退居居数(減数)

カテゴリ	件数
全 体	111
合 計	962
平 均	8.67

在居者数(各期末現在)(11月末現在)

カテゴリ	件数
全 体	111
合 計	6,182
平 均	55.69

合計 入居居数（増数）

カテゴリ	件数
全 体	110
合 計	1,652
平 均	15.02

退居居数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	109
合 計	1,488
平 均	13.65

在居者数（各期末現在）

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	5,889
平 均	74.54

（２）２～３年前（令和４～５年度）の状況と最近の状況を比較して、退居者の平均入居期間は長くなっていますか、短くなっていますか。（該当するものに○：１つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
長くなっている	11	8.9
変わらない	62	50.4
短くなっている	35	28.5
令和６年４月以降に開設した施設であるので比較できない	7	5.7
無回答	8	6.5

（３）入居希望者をすべて受け入れていますか。（該当するものに○：１つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
はい	32	26.0
いいえ	87	70.7
無回答	4	3.3

※（３）で「いいえ」と回答した施設にお伺いします。

（４）入居が困難な理由は何ですか。１番目と２番目の理由を選択してください。

１番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	87	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である	11	12.6
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である	49	56.3
貴施設（住宅）の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある	11	12.6
その他	12	13.8
無回答	4	4.6

２番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	87	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である	27	31.0
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である	21	24.1
貴施設（住宅）の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある	16	18.4
その他	4	4.6
無回答	19	21.8

問４ 貴施設（住宅）には下記のような方はおよそ何人入居されていますか。

１．おむつ使用
常時使用

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	1,387
平 均	12.17

夜間のみ使用

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	425
平 均	3.73

2. 食事の介助が必要（一部介助も含む）

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	682
平 均	5.98

3. 洗面の介助が必要（一部介助を含む）

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	1,732
平 均	15.19

4. 入浴の介助が必要（一部介助を含む）

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	3,720
平 均	32.63

5. 嚙下困難（見守りも含む）

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	556
平 均	4.88

6. 徘徊（時々も含む）

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	307
平 均	2.69

7. 暴言・暴行

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	145
平 均	1.27

8. 不潔行為

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	181
平 均	1.59

9. その他

カテゴリ	件数
全 体	114
合 計	14
平 均	0.12

問5 貴施設（住宅）の職員についてお伺いします。

（1）職員の配置の現状はどのようになっていますか。人数を数字で記入してください。

正規職員

全体

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	1,477
平 均	12.42

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	3
平 均	0.03

看護師

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	192
平 均	1.61

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	1,189
平 均	9.99

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	832
平 均	6.99

うち喫煙吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	64
平 均	0.54

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	31
平 均	0.26

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	9
平 均	0.08

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	1
平 均	0.01

計画作成担当者

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	100
平 均	0.84

生活相談員

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	130
平 均	1.09

その他1

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	98
平 均	0.83

その他2

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	63
平 均	0.53

非正規職員 常勤労働者 全体

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	398
平 均	3.34

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	0
平 均	0.00

看護師

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	48
平 均	0.40

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	311
平 均	2.61

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	160
平 均	1.34

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	3
平 均	0.03

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	1
平 均	0.01

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	1
平 均	0.01

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	0
平 均	0.00

計画作成担当者

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	9
平 均	0.08

生活相談員

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	24
平 均	0.20

その他1

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	59
平 均	0.50

その他2

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	22
平 均	0.18

短時間労働者 全体

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	1,190
平 均	10.00

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	17
平 均	0.14

看護師

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	116
平 均	0.97

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	847
平 均	7.12

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	383
平 均	3.22

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	16
平 均	0.13

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	15
平 均	0.13

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	5
平 均	0.04

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	0
平 均	0.00

計画作成担当者

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	15
平 均	0.13

生活相談員

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	19
平 均	0.16

その他1

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	122
平 均	1.03

その他2

カテゴリ	件数
全 体	119
合 計	149
平 均	1.25

(2) 職員の平均在職年数はおよそ何年ですか。在職年数を数字で記入してください。

正規職員
全体

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	529
平 均	4.72

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	7
平 均	0.06

看護師

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	268
平 均	2.39

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	453
平 均	4.05

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	495
平 均	4.42

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	138
平 均	1.23

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	113
平 均	1.01

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	49
平 均	0.43

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	8
平 均	0.07

計画作成担当者

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	447
平 均	3.99

生活相談員

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	536
平 均	4.78

その他1

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	289
平 均	2.58

その他2

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	125
平 均	1.12

非正規職員 常勤労働者 全体

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	329
平 均	2.94

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	0
平 均	0.00

看護師

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	96
平 均	0.86

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	273
平 均	2.43

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	252
平 均	2.25

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	43
平 均	0.38

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	0
平 均	0.00

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	10
平 均	0.09

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	0
平 均	0.00

計画作成担当者

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	93
平 均	0.83

生活相談員

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	76
平 均	0.67

その他1

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	114
平 均	1.02

その他2

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	39
平 均	0.35

短時間労働者 全体

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	333
平 均	2.97

うち 医師

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	76
平 均	0.68

看護師

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	118
平 均	1.06

介護職員

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	325
平 均	2.90

うち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	285
平 均	2.54

うち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	46
平 均	0.41

理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	56
平 均	0.50

作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	16
平 均	0.14

言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	0
平 均	0.00

計画作成担当者

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	48
平 均	0.43

生活相談員

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	13
平 均	0.12

その他1

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	133
平 均	1.18

その他2

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	97
平 均	0.86

(3) 貴施設（住宅）が計画している職員の配置計画と現状を比較して、あてはまる部分に○を記入して下さい。

全体

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	4	3.3
不足	39	31.7
適当	44	35.8
過剰	1	0.8
無回答	35	28.5

うち

医師

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	-	-
不足	1	0.8
適当	12	9.8
過剰	-	-
該当なし	68	55.3
無回答	42	34.1

看護師

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	4	3.3
不足	16	13.0
適当	44	35.8
過剰	2	1.6
該当なし	24	19.5
無回答	33	26.8

介護職員

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	16	13.0
不足	49	39.8
適当	33	26.8
過剰	2	1.6
該当なし	5	4.1
無回答	18	14.6

理学療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	-	-
不足	6	4.9
適当	17	13.8
過剰	3	2.4
該当なし	59	48.0
無回答	38	30.9

作業療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	-	-
不足	3	2.4
適当	10	8.1
過剰	-	-
該当なし	67	54.5
無回答	43	35.0

言語聴覚士

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	-	-
不足	1	0.8
適当	2	1.6
過剰	1	0.8
該当なし	75	61.0
無回答	44	35.8

計画作成担当者

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	1	0.8
不足	6	4.9
適当	59	48.0
過剰	2	1.6
該当なし	24	19.5
無回答	31	25.2

生活相談員

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	2	1.6
不足	14	11.4
適当	67	54.5
過剰	1	0.8
該当なし	12	9.8
無回答	27	22.0

その他

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
大いに不足	1	0.8
不足	12	9.8
適当	41	33.3
過剰	-	-
該当なし	31	25.2
無回答	38	30.9

(4) 過去1年間に退職した人数及び退職した主な理由について、それぞれ該当する人数をお答えください。

合計	
カテゴリ	件数
全 体	113
合 計	664
平 均	5.88

うち正規職員

うち正規職員	
カテゴリ	件数
全 体	113
合 計	289
平 均	2.56

非正規職員

非正規職員	
カテゴリ	件数
全 体	113
合 計	375
平 均	3.32

1. 職場内の人間関係

1. 職場内の人間関係	
カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	131
平 均	1.22

2. 利用者やその家族との人間関係

2. 利用者やその家族との人間関係	
カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	9
平 均	0.08

3. 多忙でじっくり仕事に取り組めない

3. 多忙でじっくり仕事に取り組めない	
カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	30
平 均	0.28

4. 責任が重くストレスが大きい

4. 責任が重くストレスが大きい	
カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	36
平 均	0.34

5. 家庭と仕事の両立ができない

5. 家庭と仕事の両立ができない	
カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	25
平 均	0.23

6. 妊娠や出産、育児、転勤など自分や家庭の事情

6. 妊娠や出産、育児、転勤など自分や家庭の事情	
カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	79
平 均	0.74

7. 親など家族の介護を行うため

7. 親など家族の介護を行うため	
カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	32
平 均	0.30

8. 賃金を理由として

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	42
平 均	0.39

9. 労働時間、休暇等の労働条件

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	18
平 均	0.17

10. 腰痛等の健康上の問題

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	83
平 均	0.78

11. その他

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	176
平 均	1.64

(5) 上記の離職者（全体数）の在職期間はどれぐらいですか。下記の期間ごとに人数をお答えください。

1. 1か月未満

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	37
平 均	0.35

2. 1か月～半年未満

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	131
平 均	1.22

3. 半年～1年未満

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	112
平 均	1.05

4. 1年～3年未満

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	171
平 均	1.60

5. 3年～5年未満

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	77
平 均	0.72

6. 5年～7年未満

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	56
平 均	0.52

7. 7年以上

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	90
平 均	0.84

8. わからない

カテゴリ	件数
全 体	107
合 計	6
平 均	0.06

(6) 上記の退職者が転職している場合、転職先をわかる範囲でご記入下さい。

1. 福祉関係

カテゴリ	件数
全 体	80
合 計	158
平 均	1.98

2. 福祉関係以外

カテゴリ	件数
全 体	80
合 計	103
平 均	1.29

(7) 貴事業所では、職員の人材の確保・育成を図るためにどのような取り組みを行っていますか。(該当するものに○：
あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
特に対策は行っていない	2	1.6
賃金の改善	79	64.2
休暇や労働時間等の労働条件の改善	45	36.6
職員の健康管理支援等、福利厚生 の充実	44	35.8
介護職員の資格取得等、キャリアやスキルアップへの支援	66	53.7
職員に対する評価の明確化や処遇への反映	50	40.7
休暇取得促進など、職員のワークライフバランスへの配慮	54	43.9
職員へのハラスメントの防止等対策	58	47.2
介護ロボット・ICT機器の導入等による職員の負担軽減	46	37.4
個別面談等による職員の意向の確認	69	56.1
定期的なミーティング等により職員の意見を聴取するなど、風通しの良い職場環境づくり	63	51.2
新人の指導担当・アドバイザーの設置	39	31.7
職場環境の改善(休憩室、談話室の確保等)	47	38.2
その他	3	2.4
無回答	9	7.3

(8) 神戸市介護人材確保プロジェクト「コウベdeカイゴ」の取組や、市内介護職員や施設に対しわかりやすく有益な情報発信を行う「コウベdeカイゴ」のWebサイトを知っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
プロジェクトもWEBサイトも知っている	40	32.5
神戸市が「コウベdeカイゴ」プロジェクトを実施しているのは知っているが、WEBサイトは知らなかった	32	26.0
どちらも知らない	44	35.8
無回答	7	5.7

(9) 介護人材の確保・育成(コウベdeカイゴ)について、行政に期待することはなんですか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
特にない	14	11.4
介護職のイメージアップ(魅力向上)の取組	74	60.2
神戸市介護施設・事業者の広報支援	34	27.6
職員のキャリアアップ支援	52	42.3
潜在的介護福祉士等の再就職支援	42	34.1
事業者(管理者)の人材マネジメント能力強化の研修	17	13.8
事業者(管理者)の採用力強化の研修	14	11.4
事業者(管理者)の働き方改革の研修	17	13.8
介護ロボット・ICT機器の導入・定着促進	29	23.6
外国人職員受入の支援	20	16.3
介護職員の相談窓口の設置	10	8.1
その他	3	2.4
無回答	8	6.5

(10) 現在、貴施設(住宅)に外国人介護職員(パートタイム、アルバイト等を含む)はいますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
現在、外国人介護職員がいる	30	24.4
現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中(または関心がある)	29	23.6
現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない	57	46.3
無回答	7	5.7

【※ (10) で「現在、外国人介護職員がいる」とお答えの施設にお伺いします。】

(11) 現在の、外国人介護職員の人数と、その在留資格の内訳を教えてください。

1. 特定技能1号

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	91
平 均	3.14

2. 技能実習（介護職種）

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	38
平 均	1.31

3. E P A（経済連携協定）

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	0
平 均	0.00

4. 在留資格「介護」

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	5
平 均	0.17

5. 留学（介護福祉士養成施設※）※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	0
平 均	0.00

6. その他

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	4
平 均	0.14

(12) 外国人介護職員の国籍別の内訳を教えてください。

1. バトナム

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	26
平 均	0.90

2. インドネシア

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	27
平 均	0.93

3. フィリピン

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	12
平 均	0.41

4. ミャンマー

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	50
平 均	1.72

5. ネパール

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	11
平 均	0.38

6. モンゴル

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	0
平 均	0.00

7. 中国

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	7
平 均	0.24

8. その他

カテゴリ	件数
全 体	29
合 計	5
平 均	0.17

(13) 外国人職員について、行政に期待する支援について教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	30	100.0
日本語文章力・読解力向上の支援	19	63.3
介護福祉士資格試験取得の支援	18	60.0
外国人職員同士の交流会	6	20.0
外国人職員に対するわかりやすい情報発信	14	46.7
外国人職員に対する日本の文化の講習	11	36.7
外国人職員の指導者等に対する指導・支援力強化の講習	7	23.3
外国人介護人材受入に関する制度や留意点の講習	8	26.7
受入れ外国人の住居確保支援	17	56.7
外国渡航による現地視察への支援	5	16.7
その他	-	-
無回答	1	3.3

【※（10）で「現在、外国人介護職員がいる」または「現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中（または関心がある）」とお答えの施設にお伺いします。】

(14) 今後（または引き続き）受入を検討している（または関心のある）在留資格を教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	59	100.0
特定技能1号	39	66.1
技能実習（介護職種）	27	45.8
EPA（経済連携協定）	6	10.2
在留資格「介護」	24	40.7
留学（介護福祉士養成施設※）※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む	7	11.9
その他	-	-
無回答	1	1.7

(15) 今後（または引き続き）受入を検討している（または関心のある）外国人介護職員の国籍を教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	59	100.0
ベトナム	28	47.5
インドネシア	35	59.3
フィリピン	19	32.2
ミャンマー	30	50.8
ネパール	23	39.0
モンゴル	5	8.5
中国	6	10.2
その他	6	10.2
無回答	1	1.7

【※(10)で「現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない」とお答えの施設にお伺いします。】

(16) 外国人職員について、受入を考えていない理由を教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	57	100.0
利用者や日本人職員との意思疎通に不安があるから	24	42.1
日本語文章力・読解力の不足等により、できる仕事に限りがあると思うから	13	22.8
受入や雇用方法がわからないから	3	5.3
実際にどのような人が来るか分からず、一緒に働くイメージがもてないから	5	8.8
業務以外の日常生活における支援や相談等の対応が難しいと思うから	10	17.5
人件費以外にさまざまなコストがかかると思うから	9	15.8
外国人介護職員を指導できる職員の確保が難しいから	18	31.6
いずれ帰国してしまうなど人材の定着には繋がらないと思うから	10	17.5
その他	18	31.6
無回答	1	1.8

問6 介護職員等の処遇改善に係る加算の状況についてお伺いします。

(1) 介護職員等の処遇改善に係る加算は何を算定していますか。（○は3つまで）

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
介護職員処遇改善加算（Ⅰ）	50	40.7
介護職員処遇改善加算（Ⅱ）	24	19.5
介護職員処遇改善加算（Ⅲ）	12	9.8
介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ）	6	4.9
介護職員等特定処遇改善加算（Ⅱ）	12	9.8
介護職員等ベースアップ等支援加算	10	8.1
いずれも算定していない	22	17.9
無回答	12	9.8

※(1)で「いずれも算定していない」と回答した施設にお伺いします。

(2) 介護職員処遇改善加算等の届出をしない理由は何ですか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	22	100.0
対象者に制約がある	1	4.5
事務作業が煩雑	-	-
利用者負担が発生する	-	-
非常勤職員等の処遇の問題	-	-
賃金改善の必要性がない	-	-
支給要件を達成できない	4	18.2
その他	17	77.3
無回答	-	-

問7 口腔ケアの実施状況についてお伺いします。施設系サービスにおける口腔衛生管理の強化が求められています。

(1) あなたの施設は、どちらに該当していますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
口腔衛生管理加算（Ⅰ）に該当している	25	20.3
口腔衛生管理加算（Ⅱ）に該当している	9	7.3
無回答	89	72.4

(2) 貴施設（住宅）では下記のような取り組みをされていますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
口腔衛生管理体制計画の立案	19	15.4
入居者の口腔の状況の確認	53	43.1
口腔清掃の用具の整備	35	28.5
口腔清掃の実施	54	43.9
介護職員の口腔清掃に対する知識・技術の習得、安全確保	36	29.3
食事環境をはじめとした日常生活における環境整備	33	26.8
歯科医師等からの技術的助言・指導と計画の見直し	43	35.0
無回答	48	39.0

(3) 入居者に対し、どのような取り組みを計画されていますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
歯科健診	58	47.2
個々人に応じたブラッシング指導	26	21.1
口周囲や唾液腺等のマッサージ指導	13	10.6
その他	5	4.1
実施していない	19	15.4
無回答	31	25.2

【※(3)で「歯科健診」「個々人に応じたブラッシング指導」「口周囲や唾液腺等のマッサージ指導」「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。】

(4) 実施している場合、どのような効果を期待していますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	73	100.0
誤嚥防止	31	42.5
咀嚼力の保持	4	5.5
肺炎の予防	16	21.9
口臭予防	1	1.4
その他	2	2.7
無回答	19	26.0

問8 医療が必要な入居者についてお伺いします。

(1) 貴施設（住宅）では下記のような医療を必要とする入居者がおられますか。おられる場合（ ）内に人数を記入してください。（およそ過去3か月間）

1. 褥瘡処理

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	107
平 均	0.96

2. 浣腸・摘便

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	411
平 均	3.67

3. 導尿・膀胱留置カテーテル

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	183
平 均	1.63

膀胱ろう

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	16
平 均	0.14

4. 人工肛門

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	33
平 均	0.29

5. 喀痰吸引

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	142
平 均	1.27

6. インスリン注射・血糖測定

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	103
平 均	0.92

7. 経管栄養療法

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	29
平 均	0.26

胃ろう

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	96
平 均	0.86

8. 酸素療法

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	106
平 均	0.95

9. 脱水などに対する一時的点滴

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	65
平 均	0.58

10. 透析

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	70
平 均	0.63

11. ストマケア（パウチの交換を含む）

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	39
平 均	0.35

12. 気管切開

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	9
平 均	0.08

13. 食道ろう

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	0
平 均	0.00

14. パースメーカー

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	103
平 均	0.92

15. その他

カテゴリ	件数
全 体	112
合 計	7
平 均	0.06

(2) 医療処置が必要な人の入居が受け入れられない場合、どのようなことが理由となっていますか。最もあてはまる理由を選択してください。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
医師の配置が十分ではない	15	12.2
医療機関との連携が不十分	2	1.6
看護職員の体制が不十分	52	42.3
その他	22	17.9
医療処置が必要な人でも全て受け入れている	9	7.3
無回答	23	18.7

(3) 通院時にはどのような対応をしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
原則 家族対応	56	45.5
原則 スタッフ対応	20	16.3
協力医療機関を活用している	23	18.7
その他	8	6.5
無回答	16	13.0

(4) 医療機関と、どのように連携していますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
入居者の健康管理や処置について助言を受けている	81	65.9
往診してもらえる医師・医療機関がある	107	87.0
急変時の受け入れを依頼できる病院を確保している	48	39.0
提携病院があり、入院の受け入れをもらっている	49	39.8
認知症の周辺症状について助言を受けている	29	23.6
その他	3	2.4
連携していない	1	0.8
無回答	9	7.3

※特定施設を設置・運営している場合、問9についてご回答ください。

問9 看取り介護の実施状況についてお伺いします。

(1) 貴施設(住宅)は看取り介護加算を算定していますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	53	100.0
算定している	40	75.5
算定していない	9	17.0
施設基準は満たしているが算定していない	3	5.7
無回答	1	1.9

※(1)で「算定している」とお答えの施設にお伺いします。

(2) この1年間で、看取り介護加算は何件算定されましたか。

カテゴリ	件数
全 体	39
合 計	225
平 均	5.77

死亡された方(退居して1月以内に死亡された方を含む)のうち、およそ何割の方を算定されましたか。

カテゴリ	件数
全 体	33
合 計	180
平 均	5.46

(3) 看取り介護を実施するにあたり、どのようなことに力を入れていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	53	100.0
看取りに関する指針の作成・改訂	33	62.3
医療機関との連携	42	79.2
利用者・家族に対する十分な説明と同意の取得	45	84.9
看取りに関する職員の研修	33	62.3
看取りに関わる職員のバックアップ体制の確保	18	34.0
個室の利用など看取りにふさわしい環境の整備	29	54.7
最後までその人らしく「生きる」ことを支えるケアの提供	37	69.8
その他	1	1.9
無回答	6	11.3

問10 高齢者の人権擁護・虐待の防止等についてお伺いします。

(1) 高齢者の人権擁護・虐待の防止等のために実施している対策はありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
高齢者の人権・虐待に関する職員研修の実施	117	95.1
高齢者の人権・虐待に関する外部の研修への参加	44	35.8
入居者や家族からの苦情処理体制の整備	106	86.2
身体拘束に関する手続き厳守の徹底	91	74.0
職員が虐待を発見した場合の通報窓口の周知	98	79.7
労働環境等の整備	62	50.4
その他	1	0.8
無回答	6	4.9

(2) 施設の中で、職員から虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合に、発見した職員に通報義務があることを知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
知っている(通報連絡先も知っている)	113	91.9
知っている(通報連絡先は知らない)	4	3.3
知らない	-	-
無回答	6	4.9

問11 貴施設(住宅)でのボランティア活動についてお伺いします。

(1) 貴施設(住宅)ではどのようなボランティア活動が行なわれていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援	29	23.6
施設でのお茶だし、食堂内の配膳・下膳などの補助	9	7.3
喫茶コーナーなどの運営補助	5	4.1
散歩、外出、館内移動の補助	8	6.5
イベント等の手伝い(模擬店、会場設営、利用者の移動補助、芸能披露など)	22	17.9
話し相手	20	16.3
洗濯物たたみ	7	5.7
その他施設職員と共に行う軽微かつ補助的な活動	5	4.1
その他	5	4.1
ボランティアはいない	61	49.6
無回答	9	7.3

※(1)で「日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援」～「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。

(2) ボランティアの登録はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

① 男性

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	29
平 均	1.26

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	19
平 均	0.83

女性

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	68
平 均	2.96

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	23
合 計	43
平 均	1.87

② ボランティアの活動歴 あり

カテゴリ	件数
全 体	11
合 計	17
平 均	1.55

なし

カテゴリ	件数
全 体	11
合 計	0
平 均	0.00

不明

カテゴリ	件数
全 体	11
合 計	3
平 均	0.27

(3) どのような団体にボランティア活動を依頼していますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	53	100.0
婦人会等の地域団体	3	5.7
区や市のボランティアセンター	29	54.7
ボランティア団体	10	18.9
その他	19	35.8
無回答	10	18.9

(4) 平均すると一日あたりのボランティアに参加されている方はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

男性

カテゴリ	件数
全 体	24
合 計	16
平 均	0.65

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	24
合 計	10
平 均	0.40

女性

カテゴリ	件数
全 体	24
合 計	62
平 均	2.58

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	24
合 計	52
平 均	2.17

問12 貴施設(住宅)では地域や地域住民へ施設開放をされていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
地域住民や地域団体が喫茶室を利用できる	7	5.7
地域住民や地域団体が会議室や作業スペースを利用できる	17	13.8
「つどいの場」(地域住民が主体となって、おしゃべりや、喫茶、体操、季節の行事、手芸、工芸などを行う仲間づくりの場)として利用している	3	2.4
施設の行事の時に地域住民や地域団体を招いている	30	24.4
その他	9	7.3
していない	63	51.2
無回答	12	9.8

問13 事故や災害等の対応について、あてはまるものはありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
事故発生時の職員対応マニュアルを作成している	117	95.1
事故発生時における家族等への連絡先を複数把握している	104	84.6
感染症に関する職員対応マニュアルを作成している	115	93.5
消火・避難訓練を年2回以上実施している	110	89.4
避難の方法など、災害に対するマニュアルを作成している	108	87.8
災害時に要援護者の受け入れ体制を整えている	46	37.4
従事者に対する暴力・セクハラ防止の安全対策マニュアルを作成している	77	62.6
無回答	6	4.9

問14 介護ロボット・ICT機器についてお伺いします。

(1) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
導入していない	45	36.6
移乗支援	16	13.0
移動支援	3	2.4
排泄支援	1	0.8
見守り支援(見守りセンサー等)	39	31.7
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	1	0.8
入浴支援	17	13.8
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	43	35.0
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	17	13.8
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	35	28.5
機能訓練支援	8	6.5
認知機能低下予防機器	2	1.6
その他	2	1.6
無回答	9	7.3

(2) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入を検討しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
導入を検討していない	47	38.2
移乗支援	12	9.8
移動支援	3	2.4
排泄支援	7	5.7
見守り支援(見守りセンサー等)	23	18.7
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	8	6.5
入浴支援	7	5.7
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	7	5.7
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	5	4.1
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	11	8.9
機能訓練支援	2	1.6
認知機能低下予防機器	5	4.1
その他	5	4.1
無回答	19	15.4

(3) 導入して感じた課題や導入していない理由として、あてはまるものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
導入費用が高額	64	52.0
費用対効果が不明	35	28.5
安全面に不安	12	9.8
どのICT機器や介護ロボットが、施設に合うのか分からない	23	18.7
技術的に職員が使いこなすのが難しい(難しそう)	26	21.1
介護職員が、新しい機器を導入することに消極的	14	11.4
導入時に、使い方の研修や周知の機会を設けるのが難しい	16	13.0
機器のメンテナンスが大変	26	21.1
介護現場の実態に合う介護ロボットやICT機器がない	7	5.7
その他	2	1.6
無回答	26	21.1

問15 特定施設入居者生活介護の指定についてお伺いします。

(1) 特定施設の指定を受けていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
包括型(一般型)特定施設	55	44.7
外部サービス利用型特定施設	3	2.4
特定施設の指定を受けていない	49	39.8
無回答	16	13.0

※特定施設の指定を受けていない場合、(2)についてご回答ください。

(2) 今後、特定施設の指定を受けて介護サービスの提供を行うことを予定(希望を含む)していますか。

カテゴリ	件数	割合
全 体	49	100.0
包括型(一般型)特定施設の指定を受けることを予定(希望)している	4	8.2
外部サービス利用型特定施設の指定を受けたいと考えている	-	-
特定施設の指定を受けることは考えていない	45	91.8
無回答	-	-

(3) 貴施設(住宅)の改築や改修について、今後、10年以内に必要と考えられているものはありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	123	100.0
全面改築が必要と考えている(移転含む)	6	4.9
施設の老朽化に伴う設備機器の更新が必要と考えている	68	55.3
多床室の間仕切り等によるプライバシー改修が必要と考えている	2	1.6
従来型居室のユニット型改修が必要と考えている	-	-
既存スペースを活用するための増床が必要と考えている	2	1.6
その他	3	2.4
特に必要はない	34	27.6
無回答	17	13.8

問16 介護保険制度における貴施設(住宅)の役割や、施設運営における課題等について、ご自由にご記入ください。

神戸市
介護保険事業計画策定に向けての実態調査
単 純 集 計 表
(認知症対応型共同生活介護)

問1 貴施設（住宅）についてお伺いします。

(1) 開設年月

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
昭和	1	1.2
平成元年～10年	-	-
平成11年～20年	30	35.7
平成21年～30年	35	41.7
令和（平成31年を含む）	13	15.5
無回答	5	6.0

(2) 定員数（届出床数）

床数

カテゴリ	件数
全 体	83
合 計	1,640
平 均	19.76

ユニット数

カテゴリ	件数
全 体	83
合 計	205
平 均	2.47

(3) 待機者数

カテゴリ	件数
全 体	81
合 計	171
平 均	2.11

※うち神戸市在住者

カテゴリ	件数
全 体	81
合 計	160
平 均	1.98

(4) 貴施設（住宅）での実施サービス及び併設施設・事業の有無・種別。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
病院・診療所	3	3.6
特別養護老人ホーム（小規模も含む）	4	4.8
介護老人保健施設	2	2.4
居宅介護支援・介護予防居宅介護支援	8	9.5
（介護予防）訪問介護	3	3.6
（介護予防）訪問入浴介護	-	-
（介護予防）訪問看護	4	4.8
（介護予防）訪問リハビリテーション	-	-
（介護予防・認知症対応型）通所介護（デイサービス）	11	13.1
（介護予防）通所リハビリテーション（デイケア）	3	3.6
（介護予防）短期入所（ショートステイ）	5	6.0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	2.4
看護小規模多機能型居宅介護	3	3.6
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	71	84.5
（介護予防）特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、ケアハウス）	4	4.8
小規模多機能型居宅介護	3	3.6
介護医療院	-	-
その他の介護保険サービス・保健福祉サービス・社会福祉施設等	3	3.6
無回答	4	4.8

問2 現在の入居者数、要介護度分布を下記にご記入ください。

(1) 入居者数

カテゴリ	件数
全 体	83
合 計	1,600
平 均	19.28

(*施設入居者のうち神戸市以外の被保険者は何名ですか)

カテゴリ	件数
全 体	83
合 計	147
平 均	1.77

※以下は、施設入居者についてご記入ください。（ショートステイ利用者は除く）

(2) 要介護度別の人数

要支援1

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	0
平 均	0.00

要支援2

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	8
平 均	0.10

要介護1

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	418
平 均	5.10

要介護2

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	399
平 均	4.87

要介護3

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	322
平 均	3.93

要介護4

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	249
平 均	3.04

要介護5

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	199
平 均	2.43

(3) 認知症高齢者の日常生活自立度別の人数

該当なし

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1
平 均	0.01

自立

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	1
平 均	0.01

I

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	24
平 均	0.30

II a

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	112
平 均	1.42

II b

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	360
平 均	4.56

III a

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	580
平 均	7.34

III b

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	231
平 均	2.92

IV

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	164
平 均	2.08

M

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	30
平 均	0.38

不明

カテゴリ	件数
全 体	79
合 計	35
平 均	0.44

(4) 障害高齢者の日常生活自立度別の人数

該当なし

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	113
平 均	1.51

自立

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	9
平 均	0.12

ランクJ

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	76
平 均	1.01

ランクA

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	772
平 均	10.29

ランクB

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	350
平 均	4.67

ランクC

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	70
平 均	0.93

問3 入退居の状況についてお伺いします。

(1) 令和6年12月1日以降の入退居の状況について下記にご記入下さい。(ショートステイ利用分を除く)

令和6年11月末

在居者数(11月末現在)

カテゴリ	件数
全 体	66
合 計	1,280
平 均	19.39

令和6年12月～令和7年3月

入居者数(増数)

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	145
平 均	1.93

退居者数(減数)

カテゴリ	件数
全 体	74
合 計	137
平 均	1.85

在居者数(3月末現在)

カテゴリ	件数
全 体	76
合 計	1,439
平 均	18.93

令和7年4月～令和7年11月

入居者数(増数)

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	254
平 均	3.39

退居者数(減数)

カテゴリ	件数
全 体	75
合 計	221
平 均	2.95

在居者数(11月末現在)

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	1,481
平 均	19.23

合計
入居者数（増数）

カテゴリ	件数
全 体	74
合 計	391
平 均	5.28

退居者数（減数）

カテゴリ	件数
全 体	72
合 計	339
平 均	4.71

在居者数

カテゴリ	件数
全 体	68
合 計	2,310
平 均	33.97

（2）2～3年前（令和4～5年度）の状況と最近の状況を比較して、退居者の平均入居期間は長くなっていますか、短くなっていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
長くなっている	7	8.3
変わらない	53	63.1
短くなっている	15	17.9
令和6年4月以降に開設した施設であるので比較できない	4	4.8
無回答	5	6.0

（3）入居希望者をすべて受け入れていますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
はい	31	36.9
いいえ	50	59.5
無回答	3	3.6

※(3)で「いいえ」と回答した施設にお伺いします。

(4)入居が困難な理由は何ですか。1番目と2番目の理由を選択してください。

1番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	50	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である	8	16.0
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である	29	58.0
貴施設（住宅）の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある	4	8.0
その他	6	12.0
無回答	3	6.0

2番目

カテゴリ	件数	割合
全 体	50	100.0
重度な認知症が見受けられるため、支援が困難である	7	14.0
高度な医療的ケアが必要であるため、支援が困難である	12	24.0
貴施設（住宅）の利用に係る利用者負担額が賄えない経済状態にある	15	30.0
その他	5	10.0
無回答	11	22.0

問4 貴施設（住宅）には下記のような方はおよそ何人入居されていますか。

1. おむつ使用

常時使用

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	732
平 均	8.93

夜間のみ使用

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	169
平 均	2.06

2. 食事の介助が必要（一部介助も含む）

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	418
平 均	5.10

3. 洗面の介助が必要（一部介助を含む）

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	936
平 均	11.41

4. 入浴の介助が必要（一部介助を含む）

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	1,459
平 均	17.79

5. 嚥下困難（見守りも含む）

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	320
平 均	3.90

6. 徘徊（時々も含む）

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	191
平 均	2.33

7. 暴言・暴行

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	153
平 均	1.87

8. 不潔行為

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	179
平 均	2.18

9. その他

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	8
平 均	0.10

問5 貴施設（住宅）の職員についてお伺いします。

（1）職員の配置の現状はどのようになっていますか。人数を数字で記入してください。

正規職員

全体

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	762
平 均	9.29

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	2
平 均	0.02

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	11
平 均	0.13

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	688
平 均	8.39

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	500
平 均	6.10

介護職員のうち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	23
平 均	0.28

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	0
平 均	0.00

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	8
平 均	0.10

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	8
平 均	0.10

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	74
平 均	0.90

非正規職員
常勤労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	387
平 均	4.72

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	0
平 均	0.00

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	6
平 均	0.07

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	355
平 均	4.33

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	182
平 均	2.22

介護職員のうち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	1
平 均	0.01

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	0
平 均	0.00

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	0
平 均	0.00

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	13
平 均	0.16

非正規職員
短時間労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	443
平 均	5.40

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	0
平 均	0.00

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	34
平 均	0.41

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	446
平 均	5.44

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	212
平 均	2.59

介護職員のうち喀痰吸引等の有資格者

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	3
平 均	0.04

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	1
平 均	0.01

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	1
平 均	0.01

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	82
合 計	24
平 均	0.29

(2) 職員の平均在職年数はおよそ何年ですか。在職年数を数字で記入してください。

全体

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	427
平 均	5.47

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	20
平 均	0.26

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	93
平 均	1.19

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	441
平 均	5.65

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	491
平 均	6.30

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	499
平 均	6.40

非正規職員
常勤労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	284
平 均	3.63

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	28
平 均	0.36

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	308
平 均	3.95

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	236
平 均	3.02

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	85
平 均	1.09

非正規職員
短時間労働者
全体

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	205
平 均	2.63

うち医師

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち看護師

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	140
平 均	1.79

うち介護職員

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	228
平 均	2.92

介護職員のうち介護福祉士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	231
平 均	2.96

うち理学療法士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち作業療法士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	0
平 均	0.00

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	2
平 均	0.03

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	129
平 均	1.65

(3) 貴施設（住宅）が計画している職員の配置計画と現状を比較して、あてはまる部分に○を記入して下さい。

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
大いに不足	7	8.3
不足	28	33.3
適当	27	32.1
過剰	-	-
無回答	22	26.2

うち医師

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
大いに不足	-	-
不足	-	-
適当	6	7.1
過剰	-	-
該当なし	57	67.9
無回答	21	25.0

うち看護師

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
大いに不足	-	-
不足	5	6.0
適当	21	25.0
過剰	2	2.4
該当なし	38	45.2
無回答	18	21.4

うち介護職員

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
大いに不足	13	15.5
不足	38	45.2
適当	27	32.1
過剰	-	-
該当なし	2	2.4
無回答	4	4.8

うち理学療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
大いに不足	-	-
不足	-	-
適当	-	-
過剰	-	-
該当なし	63	75.0
無回答	21	25.0

うち作業療法士

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
大いに不足	-	-
不足	-	-
適当	-	-
過剰	-	-
該当なし	62	73.8
無回答	22	26.2

うち言語聴覚士

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
大いに不足	-	-
不足	-	-
適当	2	2.4
過剰	-	-
該当なし	62	73.8
無回答	20	23.8

うち介護支援専門員

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
大いに不足	-	-
不足	16	19.0
適当	54	64.3
過剰	-	-
該当なし	7	8.3
無回答	7	8.3

(4) 過去1年間に退職した人数及び退職した主な理由について、それぞれ該当する人数をお答えください。
合計

カテゴリ	件数
全 体	81
合 計	315
平 均	3.89

うち正規職員

カテゴリ	件数
全 体	81
合 計	109
平 均	1.35

非正規職員

カテゴリ	件数
全 体	81
合 計	206
平 均	2.54

1. 職場内の人間関係

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	62
平 均	0.79

2. 利用者やその家族との人間関係

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	5
平 均	0.06

3. 多忙でじっくり仕事に取り組めない

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	13
平 均	0.17

4. 責任が重くストレスが大きい

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	14
平 均	0.18

5. 家庭と仕事の両立ができない

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	16
平 均	0.21

6. 妊娠や出産、育児、転勤など自分や家庭の事情

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	34
平 均	0.44

7. 親など家族の介護を行うため

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	17
平 均	0.22

8. 賃金を理由として

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	26
平 均	0.33

9. 労働時間、休暇等の労働条件

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	15
平 均	0.19

10. 腰痛等の健康上の問題

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	51
平 均	0.65

11. その他

カテゴリ	件数
全 体	78
合 計	68
平 均	0.87

(5) 上記の離職者(全体数)の在職期間はどれぐらいですか。下記の期間ごとに人数をお答えください。

1. 1か月未満

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	14
平 均	0.18

2. 1か月～半年未満

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	41
平 均	0.53

3. 半年～1年未満

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	60
平 均	0.78

4. 1年～3年未満

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	93
平 均	1.21

5. 3年～5年未満

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	42
平 均	0.55

6. 5年～7年未満

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	19
平 均	0.25

7. 7年以上

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	28
平 均	0.36

8. わからない

カテゴリ	件数
全 体	77
合 計	1
平 均	0.01

(6) 上記の退職者が転職している場合、転職先をわかる範囲でご記入下さい。転職先別人数

1. 福祉関係

カテゴリ	件数
全 体	59
合 計	104
平 均	1.76

2. 福祉関係以外

カテゴリ	件数
全 体	59
合 計	41
平 均	0.69

(7) 貴事業所では、職員の人材の確保・育成を図るためにどのような取り組みを行っていますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
特に対策は行っていない	4	4.8
賃金の改善	39	46.4
休暇や労働時間等の労働条件の改善	35	41.7
職員の健康管理支援等、福利厚生充実	33	39.3
介護職員の資格取得等、キャリアやスキルアップへの支援	49	58.3
職員に対する評価の明確化や処遇への反映	34	40.5
休暇取得促進など、職員のワークライフバランスへの配慮	35	41.7
職員へのハラスメントの防止等対策	32	38.1
介護ロボット・ICT機器の導入等による職員の負担軽減	19	22.6
個別面談等による職員の意向の確認	55	65.5
定期的なミーティング等により職員の意見を聴取するなど、風通しの良い職場環境づくり	43	51.2
新人の指導担当・アドバイザーの設置	24	28.6
職場環境の改善（休憩室、談話室の確保等）	30	35.7
その他	4	4.8
無回答	1	1.2

(8) 神戸市介護人材確保プロジェクト「コウベdeカイゴ」の取組や、市内介護職員や施設に対しわかりやすく有益な情報発信を行う「コウベdeカイゴ」のWebサイトを知っていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
プロジェクトもWEBサイトも知っている	36	42.9
神戸市が「コウベdeカイゴ」プロジェクトを実施しているのは知っているが、WEBサイトは知らなかった	19	22.6
どちらも知らない	28	33.3
無回答	1	1.2

(9) 介護人材の確保・育成（コウベdeカイゴ）について、行政に期待することはなんですか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
特になし	12	14.3
介護職のイメージアップ（魅力向上）の取組	52	61.9
神戸市介護施設・事業者の広報支援	22	26.2
職員のキャリアアップ支援	37	44.0
潜在的介護福祉士等の再就職支援	28	33.3
事業者（管理者）の人材マネジメント能力強化の研修	18	21.4
事業者（管理者）の採用力強化の研修	15	17.9
事業者（管理者）の働き方改革の研修	15	17.9
介護ロボット・ICT機器の導入・定着促進	16	19.0
外国人職員受入の支援	9	10.7
介護職員の相談窓口の設置	11	13.1
その他	4	4.8
無回答	2	2.4

(10) 現在、貴施設（住宅）に外国人介護職員（パートタイム、アルバイト等を含む）はいますか。（該当するものに○：1つだけ）

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
現在、外国人介護職員がいる	46	54.8
現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中（または関心がある）	6	7.1
現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない	30	35.7
無回答	2	2.4

【※ (10) で「現在、外国人介護職員がいる」とお答えの施設にお伺いします。】

(11) 現在の、外国人介護職員の人数と、その在留資格の内訳を教えてください。

1. 特定技能1号

カテゴリ	件数
全 体	44
合 計	71
平 均	1.61

2. 技能実習（介護職種）

カテゴリ	件数
全 体	44
合 計	35
平 均	0.80

3. E P A（経済連携協定）

カテゴリ	件数
全 体	44
合 計	1
平 均	0.02

4. 在留資格「介護」

カテゴリ	件数
全 体	44
合 計	14
平 均	0.32

5. 留学（介護福祉士養成施設 ※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む）

カテゴリ	件数
全 体	44
合 計	4
平 均	0.09

6. その他

カテゴリ	件数
全 体	44
合 計	1
平 均	0.02

(12) 外国人介護職員の国籍別の内訳を教えてください。国籍別の人数

1. ベトナム

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	25
平 均	0.54

2. インドネシア

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	29
平 均	0.63

3. フィリピン

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	11
平 均	0.24

4. ミャンマー

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	46
平 均	1.00

5. ネパール

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	17
平 均	0.37

6. モンゴル

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	0
平 均	0.00

7. 中国

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	1
平 均	0.02

8. その他

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	3
平 均	0.07

(13) 外国人職員について、行政に期待する支援について教えてください。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	46	100.0
日本語文章力・読解力向上の支援	36	78.3
介護福祉士資格試験取得の支援	29	63.0
外国人職員同士の交流会	8	17.4
外国人職員に対するわかりやすい情報発信	18	39.1
外国人職員に対する日本の文化の講習	12	26.1
外国人職員の指導者等に対する指導・支援力強化の講習	11	23.9
外国人介護人材受入に関する制度や留意点の講習	11	23.9
受入れ外国人の住居確保支援	17	37.0
外国渡航による現地視察への支援	3	6.5
その他	2	4.3
無回答	2	4.3

【※(10)で「現在、外国人介護職員がいる」または「現在、外国人介護職員はいないが受入を検討中(または関心がある)」とお答えの施設にお伺いします。】

(14) 今後(または引き続き)受入を検討している(または関心のある)在留資格を教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	52	100.0
特定技能1号	24	46.2
技能実習(介護職種)	19	36.5
EPA(経済連携協定)	3	5.8
在留資格「介護」	13	25.0
留学(介護福祉士養成施設 ※現在、日本語学校等に在学中で介護福祉士養成施設に進学予定も含む)	2	3.8
その他	5	9.6
無回答	7	13.5

(15) 今後(または引き続き)受入を検討している(または関心のある)外国人介護職員の国籍を教えてください。(該当

カテゴリ	件数	割合
全 体	52	100.0
ベトナム	11	21.2
インドネシア	15	28.8
フィリピン	5	9.6
ミャンマー	21	40.4
ネパール	14	26.9
モンゴル	2	3.8
中国	2	3.8
その他	3	5.8
無回答	15	28.8

【※(10)で「現在、外国人介護職員はいないし、受け入れ予定もない」とお答えの施設にお伺いします。】

(16) 外国人職員について、受入を考えていない理由を教えてください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	30	100.0
利用者や日本人職員との意思疎通に不安があるから	14	46.7
日本語文章力・読解力の不足等により、できる仕事に限りがあると思うから	11	36.7
受入や雇用方法がわからないから	3	10.0
実際にどのような人が来るか分からず、一緒に働くイメージがもてないから	3	10.0
業務以外の日常生活における支援や相談等の対応が難しいと思うから	7	23.3
人件費以外にさまざまなコストがかかると思うから	12	40.0
外国人介護職員を指導できる職員の確保が難しいから	10	33.3
いずれ帰国してしまうなど人材の定着には繋がらないと思うから	7	23.3
その他	7	23.3
無回答	-	-

問6 介護職員等の処遇改善に関する加算の状況についてお伺いします。

(1) 介護職員等の処遇改善に関する加算は何を算定していますか。(○は3つまで)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
介護職員処遇改善加算(Ⅰ)	38	45.2
介護職員処遇改善加算(Ⅱ)	37	44.0
介護職員処遇改善加算(Ⅲ)	4	4.8
介護職員等特定処遇改善加算(Ⅰ)	6	7.1
介護職員等特定処遇改善加算(Ⅱ)	7	8.3
介護職員等ベースアップ等支援加算	14	16.7
いずれも算定していない	-	-
無回答	4	4.8

※(1)で「いずれも算定していない」と回答した施設にお伺いします。

(2)介護職員処遇改善加算等の届出をしない理由は何ですか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	-	-
対象者に制約がある	-	-
事務作業が煩雑	-	-
利用者負担が発生する	-	-
非常勤職員等の処遇の問題	-	-
賃金改善の必要性がない	-	-
支給要件を達成できない	-	-
その他	-	-
無回答	-	-

問7 口腔ケアの実施状況についてお伺いします。施設系サービスにおける口腔衛生管理の強化が求められています。

(1)あなたの施設は、どちらに該当していますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
口腔衛生管理加算(Ⅰ)に該当している	39	46.4
口腔衛生管理加算(Ⅱ)に該当している	8	9.5
無回答	37	44.0

(2)貴施設(住宅)では下記のような取り組みをされていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
口腔衛生管理体制計画の立案	37	44.0
入居者の口腔の状況の確認	57	67.9
口腔清掃の用具の整備	42	50.0
口腔清掃の実施	57	67.9
介護職員の口腔清掃に対する知識・技術の習得、安全確保	40	47.6
食事環境をはじめとした日常生活における環境整備	30	35.7
歯科医師等からの技術的助言・指導と計画の見直し	53	63.1
無回答	14	16.7

(3)入居者に対し、どのような取り組みを計画されていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
歯科健診	60	71.4
個々人に応じたブラッシング指導	45	53.6
口周囲や唾液腺等のマッサージ指導	30	35.7
その他	6	7.1
実施していない	1	1.2
無回答	11	13.1

【※(3)で「歯科健診」「個々人に応じたブラッシング指導」「口周囲や唾液腺等のマッサージ指導」「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。】

(4)実施している場合、どのような効果を期待していますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	72	100.0
誤嚥防止	31	43.1
咀嚼力の保持	4	5.6
肺炎の予防	8	11.1
口臭予防	1	1.4
その他	-	-
無回答	28	38.9

問8 医療が必要な入居者についてお伺いします。(1) 貴施設(住宅)では下記のような医療を必要とする入居者がおられますか。おられる場合()内に人数を記入してください。(およそ過去3か月間)

1. 褥瘡処理

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	35
平 均	0.55

2. 浣腸・摘便

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	103
平 均	1.61

3. 導尿・膀胱留置カテーテル

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	15
平 均	0.23

膀胱ろう

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	1
平 均	0.02

4. 人工肛門

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	3
平 均	0.05

5. 喀痰吸引

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	7
平 均	0.11

6. インスリン注射・血糖測定

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	5
平 均	0.08

7. 経管栄養療法

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	1
平 均	0.02

胃ろう

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	2
平 均	0.03

8. 酸素療法

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	4
平 均	0.06

9. 脱水などに対する一時的点滴

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	8
平 均	0.13

10. 透析

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	12
平 均	0.19

11. ストマケア（パウチの交換を含む）

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	6
平 均	0.09

12. 気管切開

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	0
平 均	0.00

13. 食道ろう

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	1
平 均	0.02

14. パースメーカー

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	18
平 均	0.28

15. その他

カテゴリ	件数
全 体	64
合 計	0
平 均	0.00

(2) 医療処置が必要な人の入居が受け入れられない場合、どのようなことが理由となっていますか。最もあてはまる理由を選択してください。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
医師の配置が十分ではない	14	16.7
医療機関との連携が不十分	6	7.1
看護職員の体制が不十分	39	46.4
その他	10	11.9
医療処置が必要な人でも全て受け入れている	3	3.6
無回答	12	14.3

(3) 通院時にはどのような対応をしていますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
原則 家族対応	43	51.2
原則 スタッフ対応	13	15.5
協力医療機関を活用している	18	21.4
その他	4	4.8
無回答	6	7.1

(4) 医療機関と、どのように連携していますか。(該当するものに○：あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
入居者の健康管理や処置について助言を受けている	70	83.3
往診してもらえる医師・医療機関がある	80	95.2
急変時の受け入れを依頼できる病院を確保している	40	47.6
提携病院があり、入院の受け入れをしてもらっている	30	35.7
認知症の周辺症状について助言を受けている	36	42.9
その他	1	1.2
連携していない	-	-
無回答	1	1.2

※特定施設を設置・運営している場合、問9についてご回答ください。

問9 看取り介護の実施状況についてお伺いします。

(1) 貴施設(住宅)は看取り介護加算を算定していますか。(該当するものに○：1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
算定している	47	56.0
算定していない	19	22.6
施設基準は満たしているが算定していない	7	8.3
無回答	11	13.1

※(1)で「算定している」とお答えの施設にお伺いします。

(2) この1年間で、看取り介護加算は何件算定されましたか。また死亡された方(退居して1月以内に死亡された方を含む)のうち、およそ何割の方を算定されましたか。

件数

カテゴリ	件数
全 体	46
合 計	89
平 均	1.93

割合

カテゴリ	件数
全 体	38
合 計	249
平 均	6.55

(3) 看取り介護を実施するにあたり、どのようなことに力を入れていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
看取りに関する指針の作成・改訂	47	56.0
医療機関との連携	57	67.9
利用者・家族に対する十分な説明と同意の取得	57	67.9
看取りに関する職員の研修	46	54.8
看取りに関わる職員のバックアップ体制の確保	27	32.1
個室の利用など看取りにふさわしい環境の整備	34	40.5
最後までその人らしく「生きる」ことを支えるケアの提供	44	52.4
その他	2	2.4
無回答	24	28.6

問10 高齢者の人権擁護・虐待の防止等についてお伺いします。

(1) 高齢者の人権擁護・虐待の防止等のために実施している対策はありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
高齢者の人権・虐待に関する職員研修の実施	83	98.8
高齢者の人権・虐待に関する外部の研修への参加	47	56.0
入居者や家族からの苦情処理体制の整備	62	73.8
身体拘束に関する手続き厳守の徹底	60	71.4
職員が虐待を発見した場合の通報窓口の周知	63	75.0
労働環境等の整備	46	54.8
その他	2	2.4
無回答	1	1.2

(2) 施設の中で、職員から虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合に、発見した職員に通報義務があることを知っていますか。(該当するものに○:1つだけ)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
知っている(通報連絡先も知っている)	81	96.4
知っている(通報連絡先は知らない)	2	2.4
知らない	-	-
無回答	1	1.2

問11 貴施設(住宅)でのボランティア活動についてお伺いします。

(1) 貴施設(住宅)ではどのようなボランティア活動が行なわれていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援	15	17.9
施設でのお茶だし、食堂内の配膳・下膳などの補助	3	3.6
喫茶コーナーなどの運営補助	-	-
散歩、外出、館内移動の補助	1	1.2
イベント等の手伝い(模擬店、会場設営、利用者の移動補助、芸能披露など)	14	16.7
話し相手	4	4.8
洗濯物たたみ	3	3.6
その他施設職員と共に行う軽微かつ補助的な活動	4	4.8
その他	3	3.6
ボランティアはいない	51	60.7
無回答	1	1.2

※(1)で「日常的に行なわれているレクリエーション等の指導、参加支援」～「その他」のいずれかにお答えの施設にお伺いします。

(2) ボランティアの登録はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

① ボランティアの登録人数

男性

カテゴリ	件数
全 体	26
合 計	9
平 均	0.35

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	26
合 計	9
平 均	0.35

女性

カテゴリ	件数
全 体	26
合 計	56
平 均	2.15

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	26
合 計	36
平 均	1.38

② ボランティアの活動歴別の登録人数

あり

カテゴリ	件数
全 体	22
合 計	60
平 均	2.70

なし

カテゴリ	件数
全 体	22
合 計	15
平 均	0.68

不明

カテゴリ	件数
全 体	22
合 計	9
平 均	0.41

(3) どのような団体にボランティア活動を依頼していますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	32	100.0
婦人会等の地域団体	5	15.6
区や市のボランティアセンター	12	37.5
ボランティア団体	4	12.5
その他	15	46.9
無回答	1	3.1

(4) 平均すると一日あたりのボランティアに参加されている方はどのような状況ですか。(わかる範囲でご記入ください)

参加人数
男性

カテゴリ	件数
全 体	16
合 計	4
平 均	0.27

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	16
合 計	4
平 均	0.27

女性

カテゴリ	件数
全 体	16
合 計	38
平 均	2.39

うち65歳以上

カテゴリ	件数
全 体	16
合 計	37
平 均	2.33

問12 貴施設(住宅)では地域や地域住民へ施設開放をされていますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
地域住民や地域団体が喫茶室を利用できる	2	2.4
地域住民や地域団体が会議室や作業スペースを利用できる	11	13.1
「つどいの場」(地域住民が主体となって、おしゃべりや、喫茶、体操、季節の行事、手芸、工芸などを行う仲間づくりの場)として利用している	4	4.8
施設の行事の時に地域住民や地域団体を招いている	24	28.6
その他	8	9.5
していない	43	51.2
無回答	2	2.4

問13 事故や災害等の対応について、あてはまるものはありますか。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
事故発生時の職員対応マニュアルを作成している	79	94.0
事故発生時における家族等への連絡先を複数把握している	71	84.5
感染症に関する職員対応マニュアルを作成している	81	96.4
消火・避難訓練を年2回以上実施している	83	98.8
避難の方法など、災害に対するマニュアルを作成している	73	86.9
災害時に要援護者の受け入れ体制を整えている	26	31.0
従事者に対する暴力・セクハラ防止の安全対策マニュアルを作成している	38	45.2
無回答	1	1.2

問14 介護ロボット・ICT機器についてお伺いします。

(1) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
導入していない	42	50.0
移乗支援	1	1.2
移動支援	-	-
排泄支援	-	-
見守り支援(見守りセンサー等)	16	19.0
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	3	3.6
入浴支援	7	8.3
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	20	23.8
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	11	13.1
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	15	17.9
機能訓練支援	-	-
認知機能低下予防機器	-	-
その他	2	2.4
無回答	2	2.4

(2) 以下の介護ロボット、ICT機器のなかから導入を検討しているものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
導入を検討していない	43	51.2
移乗支援	7	8.3
移動支援	3	3.6
排泄支援	4	4.8
見守り支援(見守りセンサー等)	12	14.3
コミュニケーション支援(コミュニケーションロボット等)	4	4.8
入浴支援	5	6.0
介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト	8	9.5
「介護記録から介護保険請求システムまで一括しているソフト」のように一括していないが、介護記録を管理する単体のソフト	5	6.0
職員間で利用者情報を共有するソフトや端末	11	13.1
機能訓練支援	4	4.8
認知機能低下予防機器	6	7.1
その他	1	1.2
無回答	7	8.3

(3) 導入して感じた課題や導入していない理由として、あてはまるものを選んでください。(該当するものに○:あてはまるものすべて)

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
導入費用が高額	54	64.3
費用対効果が不明	28	33.3
安全面に不安	17	20.2
どのICT機器や介護ロボットが、施設に合うのか分からない	24	28.6
技術的に職員が使いこなすのが難しい(難しそう)	31	36.9
介護職員が、新しい機器を導入することに消極的	18	21.4
導入時に、使い方の研修や周知の機会を設けるのが難しい	12	14.3
機器のメンテナンスが大変	17	20.2
介護現場の実態に合う介護ロボットやICT機器がない	7	8.3
その他	6	7.1
無回答	9	10.7

問15 貴施設（住宅）の改築や改修について、今後、10年以内に必要と考えられているものはありますか。（該当するものに○：あてはまるものすべて）

カテゴリ	件数	割合
全 体	84	100.0
全面改築が必要と考えている（移転含む）	5	6.0
施設の老朽化に伴う設備機器の更新が必要と考えている	43	51.2
多床室の間仕切り等によるプライバシー改修が必要と考えている	-	-
従来型居室のユニット型改修が必要と考えている	-	-
既存スペースを活用するための増床が必要と考えている	1	1.2
その他	3	3.6
特に必要はない	33	39.3
無回答	3	3.6

問16 介護保険制度における貴施設（住宅）の役割や、施設運営における課題等について、ご自由にご記入ください。

○第9期介護保険事業計画の実施状況

資料4-1

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
第1章 フレイル予防をはじめとした介護予防の推進			
第1節 フレイル予防と活動・参加の推進 ①普及啓発及び多様な活動を促進する環境づくり			
1	○つどいの場の設置促進 ・つどいの場支援事業 地域で自主的に行われるつどいの場に対し、運営費の一部を補助するとともに、生活支援コーディネーターやあんしんすこやかセンターが立ち上げや運営を支援します。 ■補助団体数:208団体(2022年度実績)	地域で自主的に行われるつどいの場に対し、 <u>運営費の一部を補助することで高齢者の介護予防と地域での支え合い体制づくりを構築</u> 。併せて、生活支援コーディネーターやあんしんすこやかセンターにおいて立ち上げや運営の支援を実施。 ■補助団体数 ・運営補助:275件、立ち上げ応援補助1件(2025年度交付決定)	・補助団体数が増加しており、より多くの団体に公平に支援できるよう、また利用しやすい制度となるよう見直しが必要である。 ・補助金対象経費やレシート・領収書の保管が煩雑であるとの声や書類作成の負担軽減を求める声があることから、制度開始以来、事務手続きの簡素化を進めてきたが、引き続き実施報告の簡素化等によりつどいの場の設置促進や継続的な運営につながるよう見直し・検討していく。
2	○つどいの場の設置促進 ・地域拠点型一般介護予防事業 体操や給食・レクリエーションに加え、専門職による介護予防講座を実施し、地域に根ざした介護予防活動に取り組みます。 ■実施箇所数:95箇所、参加者数:約1,500人/月(2022年度実績)	要介護認定者も含めた65歳以上の方を対象に、体操、脳トレ、レクリエーション、工作・給食等の基本的なメニューに加え、 <u>介護予防強化メニューとして、専門職による介護予防講座に加え、運動・音楽等の教室を実施し、介護予防に取り組んでいる</u> 。 ■実施箇所数:87箇所、登録利用者数:1,317人(実人数)※2025年度10月末時点	・利用者の高齢化、新規登録の伸び悩み、事業実施団体のスタッフの高齢化等の理由により、利用者数・実施箇所数は減少傾向にある。 ・国の挙げる総合事業の方向性を見ながら、段階的に事業の整理を行い、高齢者の心身の状況や生活習慣、趣向に応じた介護予防の機会を提供することが必要である。
3	○つどいの場の設置促進 ・介護予防カフェ 民間企業と連携し、地域の集会所等で高齢者が集まる介護予防カフェの立ち上げを支援するとともに、引き続き住民の自主的な取り組みを支援します。 ■実施箇所数:82箇所(2022年度実績)	民間企業と連携し、 <u>介護予防カフェの立ち上げと継続支援(交流会の開催、カフェ通信の発行等)を実施している</u> 。また、介護予防カフェの普及啓発に努めている。 ■実施箇所数:100箇所(立ち上げ数)	・新規立ち上げ団体数が伸び悩んでいることから、引き続き事業の普及啓発に努めていく。 ・介護予防カフェの参加者の減少、後継者問題など、既存のカフェが抱える共通課題に対して、引き続き交流会等で情報共有し、支援を行う。
4	○介護予防・日常生活支援総合事業の推進 ・フレイル改善通所サービス 「栄養(食・口腔機能)」「運動」「社会参加」をバランスよく取り入れたプログラムを提供し、サービス利用中から社会参加や健康づくり活動を継続できるように支援します。 ■実施箇所数:各区1箇所	<u>要支援者等を対象にフレイル改善のための運動・栄養等のプログラムを行う通所型サービスを、2018年10月から実施</u> 。利用者の利便性の向上を目的に、2024年4月時点で11箇所で開催していた会場数を、2024年10月より23箇所増設し、市内34箇所で開催。 ■サービス利用実績:582名(2025年度※実利用者数)※2025年12月末時点	・実施会場を34箇所へ拡充したが定員(20名)に対して利用者数が増加していない。認知症診断でMCIと診断された方を含め、 <u>フレイル状態の方の利用を促進</u> するため、市民およびあんしんすこやかセンター職員等の関係者に対し、サービス利用の効果も併せて周知・案内を行う。 ・サービス利用終了後は、地域のつどいの場への参加やボランティア活動等の社会参加につながるきっかけとなるよう、サービス提供期間を通じて情報提供し、参加を促していく。
5	○介護予防・日常生活支援総合事業の推進 ・生活支援訪問サービス 本市の定める研修を修了した方等が、軽度の方(要支援者・総合事業対象者)の自宅を訪問し、掃除や買物等の生活援助を提供し、自立を支援します。 ■指定事業所数:335事業所(2022年度実績) ■利用者数:約2,400人/月(2022年度実績)	○生活支援訪問サービス 本市の定める研修を修了した方等が、 <u>軽度の方(要支援者・総合事業対象者)の自宅を訪問し、掃除や買物等の生活援助を提供し、自立を支援</u> します。 ■指定事業所数:305事業所(2025年9月時点) ■利用者数:2,231人/月(2025年9月時点)	・生活支援訪問サービスの利用実績は徐々に増加している。(2018年3月から2025年9月で、約4%→約22%) ・生活支援訪問サービスが定着するためには、研修修了者の雇用が増えることが重要と考えており、従事者養成研修を引き続き行い、研修修了者が事業所に雇用されるよう、 <u>マッチング支援に努めること</u> で、サービス量を確保していきたい。

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
6	<p>○介護予防・日常生活支援総合事業の推進</p> <p>・住民主体訪問サービス</p> <p>NPO法人等のボランティアが、掃除や買物等の生活援助を提供します。</p> <p>■実施団体数:5団体(2022年度実績)</p>	<p>○住民主体訪問サービス</p> <p>これまで提供件数の大半をゴミ出しが占めていたが、訪問サービスA型などに参入する団体が増えてきたことも併い、掃除や買い物・薬の受け取りといった<u>広く生活援助を行う項目の提供が増加している。</u></p> <p>■実施団体数:5団体(2025年9月末時点)</p> <p>■利用件数:136件/月(2025年9月実績)</p> <p>■利用人数:78人/月(2025年9月実績)</p>	<p>訪問型のサービス・活動Aや従前相当サービスでも提供を受けられる内容が多く、当サービスはサービス提供団体が設定した料金を団体直接支払いとなっていることから<u>全額利用者負担</u>となっており、利用者数に<u>伸び悩んでいる。</u></p> <p>また、提供主体がボランティアであり、いずれのサービス提供団体も高齢者が活動していることが多く、<u>後継者・担い手不足の課題を抱えている。</u></p> <p><u>団体がより利用しやすい利用者負担を設定できるよう、また担い手の確保ができる制度となるよう検討していく。</u></p>
7	<p>○普及啓発</p> <p>・フレイルチェック</p> <p>日常生活や認知機能等のアンケートと、運動や口腔機能等の簡易な測定を行うフレイルチェックを、市内薬局や特定健診会場等において実施します。また、市民フレイルサポーターによるフレイルチェック会の実施や市民主体のフレイル啓発活動を支援するとともに、広く市民に周知・啓発します。</p> <p>■実施人数</p> <p>市内薬局 494人(協力薬局408箇所)</p> <p>特定健診会場 1,162人(いずれも2022年度実績)</p> <p>■フレイルチェック会参加者数:156人(2022年度実績)</p>	<p>2024年度までは、神戸市国保に加入している65歳と70歳を対象としてフレイルチェックを実施してきたが、<u>2025年度からは70歳市民全員を対象とし、市内登録薬局や集団健診会場等において、心身機能の状態を確認する質問票と測定(握力等)を行う70歳フレイルチェックを実施し、一定のフレイルリスクに該当した人には、相談窓口としてあんしんすこやかセンターを紹介する。</u></p> <p>また、市民フレイルサポーターによる<u>フレイルチェック会</u>は、介護予防普及啓発のため、市民フレイルサポーターが主体となり、<u>65歳以上の市民に広くフレイルの概念や予防の啓発を実施している。</u></p> <p>■実施人数 ※2025年12月末時点</p> <p>市内薬局 597人(協力薬局400箇所)</p> <p>集団健診会場 739人</p> <p>■フレイルチェック会参加者数 ※2025年12月末時点</p> <p>151人</p>	<p>・フレイルチェックの実施率向上に向けて、70歳フレイルチェックとフレイル予防の必要性について引き続き、広報を行っていく。</p> <p>・<u>フレイルリスクのある方が、早期にあんしんすこやかセンターへの相談につながり、フレイル対策ができるように、フレイルチェック受託事業者およびあんしんすこやかセンターと連携していく。</u></p> <p>・市民フレイルサポーターによる<u>フレイルチェック会</u>は、<u>受け入れられる参加者数に限界があり、あんしんすこやかセンターへのつながりが難しいという課題があった。</u>神戸市のフレイルチェック事業の内容と方向性を検討した結果、<u>2025年度末をもって、本事業を終了とする。</u></p>
8	<p>○普及啓発</p> <p>・フレイル予防支援事業</p> <p>65歳以上を対象に、フレイルチェックや、地域の特性を考慮したフレイル予防のための講話・体操等のプログラムを実施します。</p> <p>■実施人数:927人(2022年度実績)</p>	<p>65歳以上の高齢者を対象に、<u>フレイルチェックやフレイル予防のための講話を行うイベント等の開催により、フレイルの早期発見、生活習慣を見直すきっかけを提供するもので、地域包括支援センター(78か所)ごとに、年1回実施。</u></p> <p>■2025年度実績※2025年12月末時点</p> <p>・実施回数:70回</p> <p>・参加者数:750人</p>	<p>・<u>地域包括支援センター毎に、特に啓発の必要なエリアとその選定理由を調査し、より効率的に啓発を行う。</u></p> <p>・<u>比較的元気でご自身でフレイル予防に取り組める方には、地域のつどいの場やボランティア活動等を案内し、地域における活動、社会参加につなげる。</u></p> <p>・併せて、<u>フレイルのリスクのある方にはあんしんすこやかセンターを案内し、フレイル改善通所サービス等の利用につなげる。</u></p>
9	<p>○普及啓発</p> <p>・ICTを活用した啓発</p> <p>ICTの活用も含めて、つどいの場等の地域資源を記載したマップ等を作成し、地域住民と共有するなど、個人に合った介護予防の取り組みが選択できるように環境整備を進めます。</p>	<p><u>つどいの場等の地域資源で、情報公開に同意される団体の情報の集約を行い神戸市情報マップに掲載している。</u></p>	<p>・<u>地域資源の少ない地域において、地域の実情に応じた地域資源の啓発を行っていく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
10	<p>○普及啓発</p> <p>・介護予防・フレイル予防応援サイト 自宅でも楽しんでフレイル予防に取り組めるよう、「介護予防・フレイル予防応援サイト」を通じ、「元気！いきいき！！体操」等の高齢者向けコンテンツを発信します。</p>	<p>「知る」「運動」「お役立ち情報」「脳トレ」の4つのコンテンツと、番外編「スマホ使い方講座」を掲載。2025年8月に、新規コンテンツとして「KOBEセルフフレイルチェック」をサイト内にオープンした。</p> <p>■PV数 115,365PV(2025年4月1日～2025年9月30日)</p>	<p>・引き続きコンテンツの充実を図る。</p>
11	<p>○普及啓発</p> <p>・神戸市オリジナル体操(元気！いきいき！！体操)</p> <p>つどいの場での活動支援のため作成した体操DVDについて、自宅での取り組みも含め、幅広く普及を図ります。</p>	<p>神戸市オリジナル体操(元気！いきいき！！体操)は、ホームページや介護予防・フレイル予防応援サイトでの動画紹介のほか、サンテレビやマルチチャンネルで「KOBE 元気！いきいき！！体操」を放映し、普及を図っている。つどいの場等の活動支援としてDVDを配布している。</p>	<p>DVDを再生できる環境がない場合に活用が困難な場合がある。つどいの場などにおける、市民による主体的な活動に活用できるよう、周知啓発に取り組んでいく。</p>
第1節 フレイル予防と活動・参加の推進 ②エビデンスを活用した効果的な介護予防施策の展開			
12	<p>○大学等と連携した介護予防の評価</p> <p>日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクトやWHO等の研究機関や、大学等と連携し、介護予防事業についてPDCAサイクルを回しながら、効果的な事業を展開します。また、スマートフォンやタブレット等のICT機器を活用した地域住民の交流の機会を設け、その効果について検証します。</p>	<p>日本老年学的評価研究機構(JAGES)プロジェクトや、大学等と連携し、介護予防事業についてPDCAサイクルを回しながら、効果的な事業展開を行っている。</p> <p>・フレイル改善通所サービス体力測定結果の評価を大学へ委託し、通所開始時と終了時を比較。運動機能の改善と、基本チェックリストにおけるうつ項目などの改善が認められた。</p> <p>・さらに、フレイル改善通所サービス利用者データを、ヘルスケアデータ連携システムにおいて医療・介護データ等と連結させて、介護認定区分の変化等を解析し、事業評価を行う。</p>	<p>・介護予防の効果検証には、長期的なモニタリングが必要。すでに介護予防の効果が高いといわれている「つどいの場」を、介護予防カフェやつどいの場支援事業等を通じて増やしていくことで、健康寿命の延伸を図る。</p> <p>・体力測定評価結果を踏まえ、フレイル改善通所サービスの有用性を積極的に発信していく。</p> <p>・医療・介護データの解析結果を踏まえ、有効かつ効果的な介護予防事業推進を検討する。</p>
13	<p>○データを活用した介護予防の取組</p> <p>後期高齢者の医療・介護・健診等のデータを活用し、疾病予防・重症化予防とフレイル予防の一体的な取り組みを行います。低栄養等の健康課題への支援として、地域のつどいの場に専門職を派遣し、健康相談や受診勧奨等も進めます。重症化予防や低栄養等の対策が必要な方には個別支援を実施します。</p> <p>また、ICTを活用したサービス提供を促進します。</p>	<p>後期高齢者に対し、生活習慣病等の重症化予防のための個別支援や、つどいの場に専門職を派遣し、地域の健康課題に対する集団支援を実施している。2025年度は圏域を市内全78圏域に拡大し、地域課題や生活環境が共通する圏域はブロックに合体し、各区4～5ブロック全市45ブロックで実施。</p> <p>■2025年4月～2025年9月末 個別支援:1,883人 集団支援:639人(延べ人数)</p>	<p>・個別支援では、介護予防の取り組みにつながるよう、引き続き、地域特性に合わせた方法でアプローチをしながら、受診勧奨・保健指導を実施する。</p> <p>・地域課題から実施する圏域の決定や、介入するつどいの場の選定において、引き続きあんしんすこやかセンターと連携し、疾病予防・重症化予防とフレイル予防に取り組めるよう地域に働きかけていく。</p> <p>・フレイルリスクのある方に対しては、フレイル改善通所サービスを紹介し、フレイル対策につなげていく。</p>
第1節 フレイル予防と活動・参加の推進 ③地域リハビリテーションの推進			
14	<p>○神戸市リハ職種地域支援協議会との連携</p> <p>リハビリ専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)の職能団体「神戸市リハ職種地域支援協議会」との連携等、資源の把握も含めたリハビリの充実を図ります。リハビリ専門職が地域の様々な拠点に向き、自立支援等に関する啓発や人材育成を行う取り組みを推進します。</p>	<p>市が運営する地域のつどいの場に対し、リハビリ専門職を派遣し、介護予防の啓発や講話、体力測定を実施し、生活の中で実践できるよう、地域の特性に応じた内容を提供している。</p> <p>年に1回の専門職連絡会において、介護予防講座の実施状況及び課題を共有し、次年度に向けての改善案について検討している。</p> <p>■2025年度実績:実施回数119回(予定)</p>	<p>・地域の担い手に対しても、高齢者に対する関わり方の助言を行う場にもなっており、地域の人材育成を担う取り組みの一環にもなっている。</p> <p>・今後は、「神戸市リハ職種地域支援協議会」に限らず、リハビリ専門職と連携しながら、地域資源の把握も含めたリハビリの充実につながるよう取り組みを進める。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
15	<p>○多職種による地域ケア会議への参画</p> <p>地域ケア会議等に、リハビリ専門職をはじめ、口腔機能・口腔衛生等の観点から歯科衛生士、栄養摂取等の観点から管理栄養士等の多職種の専門職が参画し、高齢者の自立支援・重度化防止に向けた助言を行います。</p> <p>また、そのノウハウや事例を共有し、積み重ねることで施策へ反映します。</p> <p>■地域ケア会議へのリハビリ専門職等の参加状況:23人(2022年度実績)</p>	<p>○多職種による地域ケア会議への参画</p> <p>■2024年度実績</p> <p>・リハビリ専門職等の参加した地域ケア会議22件(全175件中)</p> <p>■2025年度実績</p> <p>・リハビリ専門職等の参加した地域ケア会議4件(全64件中)2025年12月末時点</p>	<p>自立支援・重度化防止に向けた多職種連携による地域ケア会議については、リハビリ専門職はじめ、管理栄養士や歯科衛生士の参加調整に関する仕組みについて課題が残る。引き続き、個別支援や地域づくりを通して多職種連携を図り、地域ケア会議についても必要なケースに参加につなげられるよう働きかけを行う。</p>
第2節 健康づくり対策			
16	<p>○科学的データに基づく保健事業の推進</p> <p>保健・医療・介護分野において、「ヘルスケアデータ連携システム」等の医療・健康データを活用し、エビデンスに基づく政策立案(EBPM)を推進することで、市民の健康寿命の延伸、健康格差の縮小、疾病予防や生活機能の改善(フレイル予防)等、健康増進に向けた保健事業を効果的に実施します。</p>	<p>健康データの分析結果をさらに迅速に施策の企画・立案へつなげるために、<u>本市の保健医療行政における重点課題のうち3つをテーマとして設定し、本市施策へ活用できる研究を6件採択した。</u>今後、採択した研究は定期的に中間報告を受け、そのつど保健医療施策へ活用する。</p>	<p>応募のあった研究提案の中から、重点課題の解決につながる研究を6件採択した。研究期間は最長3年となっているが、毎年度研究者から中間報告を受け、<u>エビデンスに基づいて可能な限り迅速に、課題解決に向けた取り組みを実施していきたいと考えている。</u>また、外部の研究機関等の活用だけでなく、市役所内部でもデータを利活用し、<u>EBPMを推進できるように、取り組みを進めていきたいと考えている。</u></p>
17	<p>○高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施(重症化予防・低栄養対策)</p> <p>後期高齢者の医療・介護・健診等のデータを活用し、疾病予防・重症化予防とフレイル予防の一体的な取り組みを行います。重症化予防や低栄養等の対策が必要な方には個別支援を実施します。</p> <p>□高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取り組みの実施状況(年間目標)</p> <p>ポピュレーションアプローチ</p> <p>・実施箇所数:44箇所(2022年度末)→44箇所(合同圏域)(2026年度末)</p> <p>・実施人数:820人(2022年度末)→880人(2026年度末)</p> <p>ハイリスクアプローチ(個別支援)</p> <p>・重症化予防:1,194人(2022年度末)→2,730人(2026年度末)</p> <p>・低栄養対策:165人(2022年度末)→300人(2026年度末)</p>	<p><u>2025年度は圏域を市内全78圏域に拡大し、地域課題や生活環境が共通する圏域はブロックに合体し、各区4～5ブロック全市45ブロックで実施。</u></p> <p>・ハイリスクアプローチ</p> <p>低栄養予防212人、重症化予防1,671人</p> <p>・ポピュレーションアプローチ</p> <p>36圏域、41回、639人(延べ人数)(2025年9月末時点)</p>	<p>引き続き事業を実施し、ポピュレーションアプローチにおけるつどいの場の選定や、ハイリスクアプローチ対象者で支援が必要な場合に、あんしんすこやかセンター等関係機関と連携を図っていく。</p> <p>次年度以降も、市内全圏域で実施予定。圏域の課題だけでなく、<u>ポピュレーションアプローチの参加者の健康状態や、つどいの場の健康課題を考慮し、事業を展開していく。</u></p> <p>(第9期計画時の目標からの変更)</p> <p>ポピュレーションアプローチ</p> <p>・実施箇所数:45箇所(合同圏域)(2026年度末)</p> <p>・実施人数:900人(2026年度末、実人数)</p> <p>ハイリスクアプローチ</p> <p>・2026年度以降は、<u>より重症化リスクの高い者へのアプローチを効果的にできるように、対象者の絞り込み基準を精査していく</u>予定。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
18	<p>○健康教育による普及啓発 生活習慣病予防や健康寿命延伸、介護予防等をテーマとした健康教育を地域福祉センター等の身近な会場で実施します。</p> <p>□健康教育(高齢者向けの健康づくり)実施状況(年間目標) 実施回数:25回(2022年度末)→35回(2026年度末) 実施人数:515人(2022年度末)→2,500人(2026年度末)</p>	<p>生活習慣病予防教室や給食サービスでの健康教育の依頼が増加した。 <u>実施回数:73回</u> <u>実施人数:2,353人</u> (2025年12月31日時点)</p>	<p>引き続き事業を実施するが、実施内容や広報啓発を含め、<u>より効率的・効果的に事業が実施できるように関係部署と方向性を検討していく必要がある。</u></p>
19	<p>○オーラルフレイル対策等の歯科口腔保健の推進 地域の歯科医院で65歳及び75歳(後期高齢者歯科健診)を対象として、オーラルフレイルチェック事業を行い、口腔機能の改善を図ることでフレイル予防へ繋がります。 オーラルフレイルの認知度が低いことから、引き続きオーラルフレイル予防を啓発します。 また、食生活への支援および誤嚥性肺炎予防等の観点から、在宅等への訪問歯科診療事業・訪問口腔ケア事業を推進します。</p> <p>□オーラルフレイルチェック事業実施状況(年間目標) 利用率:65歳15.2%(2022年度末)→65歳20%、75歳15%(2026年度末) □訪問歯科診療事業・訪問口腔ケア事業実施状況(年間目標) 訪問歯科診療 ・利用者数:152人(2022年度末)→160人(2026年度末) ・延訪問回数:623回(2022年度末)→640回(2026年度末) 訪問口腔ケア ・利用者数:123人(2022年度末)→180人(2026年度末) ・延訪問回数:1,034人(2022年度末)→1,620人(2026年度末)</p>	<p>○オーラルフレイル対策 <u>65歳及び75歳(後期高齢者医療制度被保険者)の市民を対象に、地域の歯科医院にてオーラルフレイルチェックを実施</u> ・2024年度利用率 65歳 2,778人(15.3%) 75歳 2,960人(12.9%) ・<u>2025年度は、神戸常盤大学と協働し、スマホアプリによるオーラルフレイル早期発見モデル事業を実施中</u> ・婦人神戸「みんなの保健福祉」、国保医療費通知、及びハッピーパックニュースに<u>オーラルフレイルの記事を掲載</u></p> <p>○訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業(2025年12月末時点) 通院困難な方への訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業を実施 ・訪問歯科診療:116名 ・訪問口腔ケア:延べ752回訪問</p>	<p>・受診率が伸び悩んでいるため、<u>再勧奨ハガキを送付(2025年1月)</u> ・<u>オーラルフレイルの認知度が低い</u>ため、国保医療費通知ハガキなどによる啓発や、オーラルフレイル早期発見モデル事業を実施し、幅広い年代へ認知度が向上するように努めていく ・<u>「訪問歯科診療及び訪問口腔ケア必要度チェック票」を医療・介護関係者に周知し、通院困難な方への訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業を引き続き推進していく</u></p>
第3節 生涯現役社会づくり			
20	<p>○KOBEシニア元気ポイント 高齢者が介護施設等において、ボランティア活動を行った際にポイントを交付する「KOBEシニア元気ポイント制度」について、ICTを活用した効果的な広報等を通じ、活動登録者と対象施設を増やします。 □KOBEシニア元気ポイント登録者数(累計目標) ・登録者数:1,516人(2022年度)→7,000人(2026年度末)</p>	<p>2025年度から福祉局から地域協働局に所管変更。<u>ポイント付与上限を10000ptに拡充するとともに、対象となる活動を地域活動等にも広げ、シニア世代のさらなる地域への参画を促進した。</u>(9月から、市立幼稚園・小中学校等での活動(花壇の水やりや行事の手伝い等)、10月から地域活動(こども食堂や美化活動等)へ拡充)</p> <p>■KOBEシニア元気ポイント登録者数等 ・<u>登録者数:4,280人</u> ・<u>対象施設数・団体:416施設、77団体</u></p>	<p><u>登録者数の増加は、引き続き課題。</u>地域活動へのポイント付与対象活動の拡充により、さらに多くの個人・団体に登録してもらえるよう<u>広報等に取り組む。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
21	<p>○老人クラブ(KOBEシニアクラブ)への支援 今まで以上に活動しやすくするため、使途が分かれていた複数の補助金の一本化や補助金の手続きの簡素化等を実施しました。引き続き、老人クラブに高齢者が数多く参加できるように支援を行います。</p>	<p>老人クラブが<u>会員の生きがいを高め健康づくりを進める活動や、ボランティア活動をはじめとした地域を豊かにする各種活動を行うために要する経費を補助。</u> 【老人クラブ会員数】 21,985人(クラブ数340)(2025年4月時点)</p>	<p>クラブ数・会員数の減少と役員の後継人材不足が課題となっている。 引き続き、老人クラブに高齢者が数多く参加できるように支援を行う。</p>
22	<p>○シルバーカレッジによる地域貢献時代やニーズに即した地域社会への貢献活動に繋げるため、定期的なカリキュラムの点検・見直しを行い、地域リーダーの養成や社会貢献活動を支援するカリキュラムの充実を図ります。 □シルバーカレッジ「社会貢献講座」参加者数(年間目標) ・参加者数:706人(2022年度末)→918人(2026年度末)</p>	<p>・健康ライフコースの授業において、ADL(フレイルチェック)体力測定や認知症サポーター養成講座を行うなど、<u>社会課題を取り上げた講座を設けた。</u> ・共通授業で、<u>社会貢献をテーマにした講義を設定し、社会貢献活動の啓発、地域リーダーの養成を図った。</u> 参加人数:751名(2025年12月現在) 2026年度目標に対して81.8%達成 ・シルバーカレッジHPにおいて、学生や卒業生が取り組んでいる社会貢献活動の具体的な成果について情報発信をしている。</p>	<p>時代のニーズをとらえた社会貢献活動を行うため、時宜に即したカリキュラムとすべく、引き続き継続した見直しを行っていく。特に、<u>地域リーダーの養成や、地域活動との“つなぎ”を強化するカリキュラムの充実を図り、より一層の人材育成、地域貢献活動の強化、拡大に取り組む。</u></p>
23	<p>○各区ボランティアセンターにおけるボランティア支援 各区のボランティアセンターで、相談、マッチング調整、養成等により、ボランティア活動を支援します。ICT等の新しいツールを活用した取り組みを推進し、ボランティア活動の活性化を図ります。 ■マッチング件数:583件(2022年度実績)</p>	<p>近年の社会とのつながりづくりやボランティアニーズの増加に伴い、2024年度においても実績増となった。<u>ICTを活用して、ボランティアのマッチングを円滑に行うほか、関係機関や地域協働局等との情報連携を進め、介護予防の観点からも全市的なボランティア活動の活性化を図る。</u> ・ボランティア登録者数(団体+個人):6,325件(2025年3月末時点) ・ボランティア登録者(60歳以上):1,764名(2025年3月末時点)</p>	<p>60歳以上のボランティア登録数の増加からも、<u>シニア世代のボランティアに対する機運が高まっていると考えられる。</u>シニア世代の社会参画やシルバーパワーの活用、地域包括ケアシステムの充実等の重要性が増すなか、<u>地域活動の担い手の発掘やボランティアニーズの開拓、グループの組織化、地域団体との連携、施設内への受け入れ及び活動支援体制の基盤づくり等</u>を進め、引き続き全市的なボランティア活動の活性化に取り組む。</p>
24	<p>○高齢者の就労支援対策 高齢者の就労を推進するため、就職面接会等を開催するとともに、ハローワークやシルバー人材センター等との更なる連携強化を図り、より効果的な施策を検討します。</p>	<p>就労を希望するシニアが気軽に相談できる体制を整え、開拓した求人とのマッチング支援を行うとともに、<u>ハローワーク等と連携した就職面接会や出張就職相談会を各年6回開催するなど、多岐に渡る支援施策を実施している。</u> 【実績】(2025年12月末時点) ○シニアライフキャリア相談・就労支援 ・ライフキャリア相談数 452人 ・就職決定数 51人 ○就職面接会 ・参加者 65人/回 ・参加企業 11社/回 ・就職決定数 17人/回(～2025年10月) ○出張就職相談会 ・参加者 8人/回 ・セミナー参加 13人/回</p>	<p>高齢者の就労促進のため、引き続き合同就職面接会やキャリア相談等の多面的な就労支援を実施するとともに、シニア求人を効果的に開拓するため、市内事業者の訪問や事業者向けセミナーの開催など、<u>事業者に対し積極的にアプローチを行っていく。</u></p>
25	<p>○シルバー人材センター シルバー人材センターによる高齢者に適した臨時的・短期的な仕事の提供に努めます。デジタル技術を活用した入会手続きや就業情報の提供により、会員の利便性向上を図るとともに、安全な就業場所の開拓を進めます。</p>	<p>高齢者に適した臨時的・短期的な仕事を提供するため、<u>安全な就業場所の開拓に取り組むとともに、会員専用サイトを運営するなどのデジタル化の促進により、会員の利便性向上に努めている。</u> 【実績】(2025年12月末時点) ・契約件数 6,314件 ・就業実人員 4,365人 ・会員専用サイト登録者数 4,300人</p>	<p>引き続きシルバー人材センターの趣旨に基づき臨時的・短期的で、高齢者に適した安全な就業先の確保に努めるなど、<u>会員確保・就業開拓に取り組んでいく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
26	<p>○高齢者の移動支援 引き続き高齢者の移動を支援し、社会参加を促進するため、70歳以上を対象とする敬老優待乗車制度を実施します。</p>	<p>市内在住の満70歳以上の高齢者に、市内交通機関を優待料金で利用することができる<u>敬老優待乗車証</u>を交付。</p>	<p>制度を長期的に維持するためには、社会情勢の変化や市の財政状況、世代間における受益と負担の均衡等を考慮しつつ<u>制度の在り方について検討を続ける必要がある。</u></p>
第2章 地域での生活の継続に向けた支援			
第1節 地域での支援体制づくり、相談体制の充実			
27	<p>○家族介護者支援を含めた対応 ・あんしんすこやかセンターの利便性の向上及び機能の強化 家族介護者支援の観点も含め、土日祝日いずれかのあんしんすこやかセンターの開所を全76センターで継続します。今後、医療・介護の必要性が高まる75歳以上の後期高齢者の増加を踏まえ、センターが高齢者や家族介護者からの総合相談をはじめとする包括的支援の機能が十分に発揮できるよう、組織・運営体制の充実・強化を図ります。 ■年間相談件数:596,578件(2022年度実績)</p>	<p><u>あんしんすこやかセンターの利便性の向上及び機能の強化</u> ・全76センターが土日祝日のいずれかを開庁している。 ・2025年度の相談件数291,679件(2025年9月末時点/うち、認知症に関する相談件数10,973件) ・地域の集まりに出向いたり、地域団体と連携したりするなど、あんしんすこやかセンターで広報を実施。</p>	<p>・早期相談につながるよう、引き続きあんしんすこやかセンターでの<u>広報を行っていく。</u></p>
28	<p>○家族介護者支援を含めた対応 ・介護リフレッシュ教室等の開催 介護者の精神的負担の軽減や健康づくり等を目的に介護リフレッシュ教室を開催し、介護に役立つ情報提供や家族同士の情報交換の場を提供します。あわせて、認知症サロンや認知症カフェ等、介護者が話し合える場づくりを推進します。 ■介護リフレッシュ教室の実施状況:409回、2,975人(2022年度実績)</p>	<p>介護リフレッシュ教室の開催 ・<u>介護家族者同士の交流や情報交換の場として、各あんしんすこやかセンターが「介護リフレッシュ教室」を開催。</u> ■介護リフレッシュ教室 ・開催回数:201回 ・参加人数:1,614人(2025年9月末時点)</p>	<p>・早期相談につながるよう、引き続きあんしんすこやかセンターでの広報を行い、<u>介護リフレッシュ教室の開催を通じて介護に役立つ情報提供や家族同士の情報交換の場としていく。</u></p>
29	<p>○家族介護者支援を含めた対応 ・子ども・若者ケアラーへの支援 家族の介護等により重い責任や負担を負っている「子ども・若者ケアラー」の孤立を防ぐため、引き続き、専用の相談窓口で障害福祉・児童福祉分野と連携しながら、伴走的な支援を行うとともに、当事者同士の交流・情報交換の場での支援を推進します。 また、市内・近隣の大学やハローワークとの連携を図り、18歳以上の若者ケアラーへの支援を行うとともに、小中学生の子どもケアラーのため、地域のこどもの居場所(子ども食堂、学習支援等)とのネットワークを構築します。さらに、民間企業と連携した、子ども・若者ケアラーへの支援を検討します。</p>	<p>・<u>相談窓口での相談件数 532件</u> ・当事者同士の交流・情報交換の場「ふうのひろば」(月1回)の運営 開催回数50回、のべ参加人数211人 ・18歳未満の子どもケアラー世帯への訪問支援事業の実施(子ども家庭局)派遣世帯14世帯 ・配食支援事業(県事業)を活用したケアラー世帯への介入申込数 87世帯 ・障害者相談支援センターと連携したヤングケアラー支援事業の実施対象3世帯</p>	<p>・障害者相談支援センターとの連携による障害者世帯への重点的支援の報告書作成と研修 ・市内・近隣の大学や専門学校、新卒応援ハローワークとの連携 ・18歳未満の子どもケアラー支援のため、こどもの居場所とのネットワークの構築 ・<u>認知症サポーター養成講座を活用した広報・啓発</u> ・民間企業と連携した子ども・若者ケアラーへの支援 ・学識経験者と共同した事業分析による有効な支援方法の検討</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
30	<p>○家族介護者支援を含めた対応</p> <p>・介護マークの普及</p> <p>介護者が介護中であることを周囲に理解していただくための「介護マーク」の普及を図ります。</p>	<p>・神戸市ホームページ(「神戸ケアネット」トップページ)に掲載</p> <p>・各区役所保健福祉課、各あんしんすこやかセンターで「介護マーク」を含むチラシの配布</p>	<p>課題: 普及開始当時から時間が経過し、関係機関における認知が低下していると思われる。</p> <p>取組: 引き続き神戸市ホームページへの掲載や各区役所、各あんしんすこやかセンターへのチラシ配布などを行う中で、関係機関への普及啓発にも努める。</p>
31	<p>○地域ケア会議の開催</p> <p>あんしんすこやかセンター単位及び区単位で、地域住民や福祉・医療関係者、NPO法人や地域活動団体等が参加する地域ケア会議を開催して、高齢者の生活上の課題等(金銭管理、ごみ出し等)への支援に繋がります。全市的な課題は全市レベルの地域ケア会議で政策形成に繋がります。</p> <p>■センター主催の地域ケア会議の実施状況: 203回(75箇所)(2022年度実績)</p> <p>■区主催の地域ケア会議の実施状況: 11回(9箇所)(2022年度実績)</p>	<p>○あんしんすこやかセンター主催の地域ケア会議</p> <p>2024年度開催実績175回(76センター)開催 2025年度開催実績64回(2026年1月14日時点受理分)</p> <p>○区主催の地域ケア会議</p> <p>2024年度開催実績10回(9か所)開催 2025年度10回(9か所)開催予定</p>	<p>地域ケア会議については、あんしんすこやかセンター単位、区単位で地域ケア会議で引き続き連携を図り、課題の明確化、および課題への対応を続けていく。</p>
32	<p>○消費者被害防止対策</p> <p>あんしんすこやかセンターが把握した被害事例を全センターで共有するとともに、県警・消費生活センターと連携し、被害防止のための啓発を行います。</p>	<p>被害の拡大を防ぐため、<u>圏域内で発生した消費者被害(疑い含む)について圏域内の高齢者の方への注意喚起を実施。</u></p> <p>必要に応じて、消費生活センターや警察等に情報を提供。</p> <p>業務の効率化のため、報告書をkintoneで作成・提出できるよう改良。</p> <p>2023年10月、兵庫県警察と「特殊詐欺の被害防止に関する協定」を締結。</p> <p>■2025年度実績: 39件(2025年9月末時点)</p>	<p>消費者被害(疑い含む)の防止のための広報啓発を実施。</p> <p>・兵庫県警察と協定を締結したことにより、「警察から区・センターへの情報提供」および「センターから警察へ通報する」という流れが確立された。<u>警察からの情報提供が非常に多く、ケースによっては福祉的な支援が必要な場合もあるため、必要な支援につなぐよう連携していく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
33	<p>○あんしんすこやかセンターにおける業務効率化 会議の整理や統合、書類削減等、業務効率化や事務負担軽減を図ります。見直しにあたっては、ICTを活用した会議の効率化や書面での提出書類の削減を推進していきます。</p>	<p>2024年7月よりあんしんすこやかセンターにkintoneを導入。緊急対応報告・苦情報告など、様々な報告書をkintoneで報告できるよう改良。</p>	<p>kintoneで提出・報告できるものを増やしていく。</p>
34	<p>○生活支援コーディネーターの活動推進 生活支援コーディネーター※として、第1層(区単位)には各区社会福祉協議会に1名(北区は2名)、第2層(中学校圏域)には各あんしんすこやかセンターに地域支え合い推進員を1名(計78名)配置しています。 地域共生社会への対応を図るため、第1層・第2層の生活支援コーディネーターは相互に連携しながら、地域福祉ネットワークや子育てコーディネーター、ひきこもり支援室、各区暮らし支援窓口との連携を強化し、地域での資源開発やネットワーク構築を進めます。 ※生活支援コーディネーター:高齢者が住み慣れた地域で孤立することなく住み続けられるよう、地域住民同士で見守り・支え合える地域づくりの支援を行っています。</p>	<p>○生活支援コーディネーターの配置 ・第1層(区単位):10名 ・第2層(中学校圏域):78名</p>	<p>引き続き、地域の実情に合わせた資源開発やネットワーク構築を進めていく。</p>
35	<p>○生活困窮者支援 ・暮らし支援窓口での支援 各区・支所に「暮らし支援窓口」を設置し、生活困窮者からの相談に応じています。家計相談や早期の就労に向けた支援を含め、継続的な支援を行います。 □自立支援計画作成件数(年間目標) ・自立支援計画作成件数:740件(2022年度末)→1,000件(2026年度末)</p>	<p>・暮らし支援窓口での支援 各区・支所に「暮らし支援窓口」を設置し、生活困窮者からの相談に応じています。家計相談や早期の就労に向けた支援を含め、継続的な支援を行います。 □自立支援計画作成件数 ・自立支援計画作成件数:759件(2024年度)</p>	<p>・コロナ禍で相談件数が急増したことで、潜在的な相談者の存在が明らかとなった。 ・現在、相談件数は落ち着いているが、物価高騰など社会情勢の影響を受け、相談者の抱えている課題は多様化・複雑化している。 ・こうした課題に対応するためには、潜在的な支援ニーズの早期把握や包括的な支援体制の構築が求められる。 ・そのため、アウトリーチの取組みや関係機関と連携する仕組みづくりを進め、きめ細やかな伴走支援を行う。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
36	<p>○地域福祉ネットワークの配置 地域福祉ネットワーク※を各区社会福祉協議会に配置し、くらし支援窓口等様々な関係機関との連携を強化し、生活困窮・社会的孤立等複合的な課題を抱えた世帯へのアプローチに取り組みます。</p> <p>※地域福祉ネットワーク: 複合的な課題を抱えた世帯に対し、積極的な訪問や課題解決に向けた個別支援を行います。また、地域の共通課題に対しても、社会福祉施設、NPO法人、民生委員やふれあいのまちづくり協議会等関係機関を巻き込みながら、地域で支え合う仕組みづくりを推進しています。</p>	<p><u>既存の制度や支援体制では対応が困難な福祉課題を抱える世帯に対し、円滑で柔軟な支援が可能となるよう、専門職や地域住民、関係機関との間にネットワークを構築し、連携・協働をしながら地域福祉の向上を図る。</u></p> <p>くらし支援窓口やあんしんすこやかセンター、支援機関からの相談も多く、地域福祉の総合的な窓口として引き続き地域の相談体制の充実を図る。</p> <p>・新規相談件数: 1,146件(2025年9月末時点)</p>	<p>全市における支援回数の増加に伴い、(2024年度: 11,896回 2023年度: 11,660回)、より複雑化・多様化する福祉課題に対応すべく、くらし支援窓口やソーシャルワーカー等との関係機関と連携し、役割分担をしながら、<u>生活困窮や社会的孤立等の課題に対応し、さまざまな地域資源を繋げていくことで、解決に向けた個別支援を行う。</u></p> <p>また、地域課題においても、関係機関と連携した支援体制づくりや相談体制の充実を引き続き進める。</p>
37	<p>○ひきこもり支援 「ひきこもり支援室」を幅広く広報・周知するとともに、地域の支援者向け研修や関係機関職員の研修を実施し、8050問題等の課題に対応できるよう関係機関同士のネットワークを構築します。</p> <p>また、本人や家族をサポートする「ひきこもりサポーター」の養成を推進し、登録者を増やすとともに、登録された方々に対しても適宜講習を実施し、サポーターとして継続的に活躍できるように支援します。</p> <p>□ひきこもりサポーター登録者数(累計目標) ・登録者数: 149人(2022年度末)→180人(2026年度末) □研修会・講習会実施回数(年間目標) ・実施回数: 12回(2022年度末)→18回(2026年度末)</p>	<p>・8050問題等の課題に対応できるよう地域の支援者や関係機関職員の研修を22回実施</p> <p>・ケアマネジャー向け研修会 2回(79人参加)</p> <p>・高齢者の支援者へ「ひきこもり支援マップ」(連携機関一覧)を配布</p> <p>・支援者向けひきこもり支援スキルアップセミナー 1回(146人参加)</p> <p>・本人や家族をサポートする「ひきこもりサポーター養成講座」を開催し、登録数は173名</p>	<p>・引き続き、地域の支援者向け研修や関係機関への研修を行う。</p> <p>・ひきこもりサポーター登録者を増やすとともに、継続的に活動していただく。</p>
第2節 在宅医療・介護連携の推進			
38	<p>○医療介護サポートセンターの運営 各区に設置する医療介護サポートセンターは、医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談対応や多職種連携会議の開催等により、医療と介護の連携強化を推進します。</p>	<p>・医療介護サポートセンターにおいて、在宅医療、医療介護連携等に関する相談を受け付けるとともに、<u>多職種連携会議等を実施。</u></p> <p>【相談件数】2024年度: 1049件、2025年12月末時点: 870件 【多職種連携会議等実績】2024年度: 133回、2025年度12月末時点: 92回</p>	<p>・医療・介護関係者等に在宅医療・介護連携推進事業の目的や役割の認知を向上すること、評価指標を設定する等の事業評価の仕組み作りが課題である。</p> <p>・在宅医療・介護連携推進支援事業研修等を医療介護サポートセンターへ紹介し、参加を促進する。市内の好事例が横展開できるように共有する場作りをする。<u>多職種連携会議における課題抽出を推進し、課題に沿った事業展開を支援する。また、必要な評価指標を検討していく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
39	<p>○医療・介護の連携ツールの普及・推進 ケアマネジャーと病院の連携ツール「入退院連携シート」や、転院を経て退院する要介護患者の情報連携ツール「医療介護情報引継ぎシート」の利用促進を図ります。</p> <p>また、介護保険サービス導入時に医療・介護関係者が集うサービス担当者会議や、入院している医療機関と在宅医療介護関係者、本人・家族で行う退院前カンファレンス等について、WEB会議等も併用し、医師・看護師・ケアマネジャー等より多くの関係者が参加しやすくすることで、多職種連携を推進します。</p>	<p>・多職種連携会議では、「入退院連携シート」の利用は定着しており、「医療介護情報引継ぎシート」は利用は少ないものの既存帳票で情報を引き継いでいると意見が得られ、情報伝達の意識は高まっている。また、在宅生活に向けた退院前カンファレンスや担当者会議の重要性、WEB会議の活用を説明し、多職種でのケアプラン協議を推進している。有識者会議から、連携シートのデジタル化やICT連携ツールの統一の要望を受け、ICT連携ツールの利用実態調査(2023年度)の集計結果を共有した。</p>	<p>連携ツールの利用は手段であり、入院時連携シートの使用は定着しているため、次のステップである「退院支援計画、ケアプランを本人の意向を中心に関係者がともに考えること」ができるよう、連携の実践内容を充実させることが課題であり、これらが話し合える研修を実施していく。</p>
40	<p>○ACP※(アドバンス・ケア・プランニング)の普及啓発 人生の最終段階における意思決定支援として、市民向けパンフレットを活用し、ACPの普及啓発に取り組みます。また、医療・介護従事者が、医療倫理に基づいて患者の意思尊重を十分に考え、ACPに関わることができるよう、研修や情報提供を行います。</p> <p>※ACP:人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセスのことで、愛称を「人生会議」と定めています。</p>	<p>・市民向けのパンフレットを検診案内に同封するなど、関心が高い世代に対しての周知・配布を強化するとともに、関係団体主催の市民向けの公開講座や研修会等での周知、SNS広告や市広報紙などの広報媒体を通じて人生会議(ACP)の普及啓発を実施。(配布:2024年度8,860部、2025年度13万1,270部(12月末時点))</p> <p>・医療・介護従事者向けの研修については、意思決定支援教育プログラムを活用した相談員研修会(※1)及び、実践報告会(※2)を開催。 ※1:2024年度1回実施:2025年2月23日 ※2:2024年度1回実施:2024年12月12日 2025年度2回実施:2025年12月4日、2026年2月5日</p>	<p>・引き続き、人生会議(ACP)への関心がより高いと思われる高齢者や高齢の親を持つ世代に対して、市からの検診の案内等の送付時に本事業のチラシを同封するなどして、効果的なPRを行う。</p> <p>・医療・介護従事者向けには、実践報告会の継続開催など、多くの医療介護従事者に人生会議(ACP)について知っていただき、各所属の病院・施設等で学んだことを波及していただけるような取り組みを実施していく。</p>
第3節 権利擁護、虐待防止対策			
41	<p>○日常生活自立支援事業の推進 福祉サービスの手続きの手伝いや日常の金銭管理、重要書類の預かり等を行います。</p> <p>■契約件数:695件(2022年度実績、次年度以降も同程度見込み)</p>	<p>日常生活自立支援事業、権利擁護に関する相談について各区においても対応できるよう、区社会福祉協議会職員に対する研修を実施。</p> <p>【日常生活自立支援事業の契約件数】 758件(2025年12月末時点)</p>	<p>引き続き、判断能力が充分でない方に対する権利侵害や財産管理に関する不安や困りごとに係る相談に応じるとともに、日常生活自立支援事業を実施している市社会福祉協議会において適切な業務執行体制を維持しながら増加する利用ニーズに対応していく。</p>
42	<p>○専門職団体との連携強化 専門職団体との連携を強化し、市長申立の書類作成委託等の施策を推進します。また、成年後見支援センターにおいて、引き続き専門職相談を実施し、近年複雑化する相談に対応します。</p> <p>■専門相談件数:89件(2022年度実績、次年度以降も同程度見込み)</p>	<p>弁護士会や司法書士会などの専門職団体と「成年後見制度の神戸市長申立に関する協定」を締結。研修の充実を図るとともに、区職員からの専門職への相談や、書類作成の業務補助を受けることができる環境を整備。また、専門職団体と連携して成年後見支援センターで専門相談を実施。</p> <p>【書類作成委託件数】18件(2025年12月末時点) 【専門相談件数】 82件(一般相談件数:1,164件)(2025年12月末時点)</p>	<p>・市長申立に係る連携について、区職員が利用しやすい制度となるよう努め、実績件数の増加を目指していく。</p> <p>・成年後見支援センターにおいて、引き続き専門職相談を実施し、近年複雑化する相談に対応していく。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
43	<p>○市民後見人の養成・支援 「市民後見人」の養成を推進します。また、登録者については、研修の充実等により資質の向上を図るとともに、地域における活動にあたっては支援を行います。</p> <p>■市民後見人登録者数:88名(2022年度実績、次年度以降も同程度見込み)</p>	<p>第11期市民後見人候補者養成研修を実施し、新たに13名の市民後見人を養成。 <u>2025年12月末現在、110名が市民後見人として登録されている。</u> 既登録者は、後見人としての活動の他、新たな役割として、<u>相談員として各区で相談に応じたり、実際の後見人受任等の経験を活かして地域で広報・啓発を実施。</u></p>	<p>市民後見人登録者について、研修の充実等により<u>資質の向上を目指すとともに、地域における活動についてもサポートしていく。</u></p>
44	<p>○成年後見制度利用支援事業の実施 成年後見制度の利用にあたり、必要となる費用(申立及び報酬費用)を負担することが困難である者に対して助成を行います。</p> <p>■成年後見制度の利用にかかる費用の助成者数:申立費用1名、報酬費用451名(2022年度実績、次年度以降も同程度見込み)</p>	<p>成年後見制度の利用にあたり、必要となる費用(申立て費用及び報酬)を負担することが困難である者に対し、<u>助成を行う。</u> 【助成者数】 申立費用助成 0名、報酬費用助成 375名(2025年12月時点)</p>	<p>引き続き、成年後見制度の利用にあたり、<u>必要となる費用(申立て費用及び報酬)を負担することが困難である者に対し、助成を行っていく。</u></p>
45	<p>○高齢者虐待 養護者による虐待対応への取り組みとして、各区の職員やあんしんすこやかセンター職員への高齢者虐待対応研修を実施するとともに、各区の高齢者虐待防止ネットワーク事業等を通じた関係機関との連携体制の整備・充実を図ります。</p> <p>また、養介護施設等従事者による虐待対応への取り組みとして、介護保険事業者に対して、引き続き高齢者虐待防止研修の実施を働きかけます。</p> <p>□高齢者虐待対応研修の実施状況(年間目標)</p> <p>・高齢者虐待対応研修延べ参加者数:188人(2022年度末)→250人(2026年度末)</p> <p>・施設長・研修担当者対象研修延べ参加者数:106人(2022年度末)→120人(2026年度末)</p>	<p>○養護者による高齢者虐待防止 全あんしんすこやかセンターから市民に対して権利擁護の広報を行っている。また、各区虐待防止ネットワーク事業についても取り組みを進めている。</p> <p>■<u>養護者による高齢者虐待対応研修の実施状況</u></p> <p>・研修5回実施(行政職員向け1回、主にセンター職員向け3回)</p> <p>・<u>参加者のべ290名</u></p> <p>■<u>高齢者虐待対応研修の実施状況</u> 【高齢者虐待防止研修】 ・2024年11～12月実施(2回) 参加者数:201人</p> <p>※2021年度から、施設長・研修担当者を対象とした虐待防止研修「虐待や不適切ケアを防止するための施設内研修の進め方」を開催。今年度から集合研修に変更した。 ・2026年2月実施予定(2回)計250名予定</p>	<p>虐待防止ネットワークづくりについて、引き続き区単位での連携体制の整備・充実を図る。</p> <p>高齢者虐待対応研修について、引き続き研修を開催し、<u>高齢者虐待防止法の理解を深めつつ、現場レベルでの対応力向上及び、あんしんすこやかセンターと区の連携強化ができるよう努める。</u></p> <p>□高齢者虐待防止対策の推進のための取組を働きかけていく。 虐待防止研修については、現場の課題に応じた防止のための取組が進められる内容となるよう、テーマを吟味して継続していく。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
46	<p>○高齢者虐待 ・高齢者虐待対応ワーキンググループの設置</p> <p>高齢者虐待対応ワーキンググループを設置し、各区が実施する高齢者虐待防止ネットワーク事業※で報告される課題の中から全市的に取り組むべきものについて、専門分野の方の意見を聴取する機会を確保し、高齢者虐待防止体制の整備を進めます。 ※高齢者虐待防止ネットワーク事業: 高齢者虐待の防止、早期発見から個別支援にいたる各段階において、関係機関や団体等と連携協力して、高齢者虐待防止に資する地域づくりのための体制構築を目指して各区で実施する事業のこと。</p>	<p>2024年7月5日に高齢者虐待対応ワーキンググループを開催し、「高齢者虐待防止法に基づく対応状況等に関する調査結果報告」に沿って、国、県と比較しながら神戸市の状況を報告。前年度の各区での高齢者虐待防止ネットワーク事業の実施状況を報告して、委員から意見をいただいた。 2026年度を目途に「高齢者虐待対応の手引き」を改定するためのワーキンググループを開催するよう進めている。</p>	<p>高齢者虐待対応ワーキンググループで聴取した意見等の施策への反映や各区への情報共有等を通じ、引き続き高齢者虐待防止体制の整備に努める。 「高齢者虐待対応の手引き」の改定については、厚労省のマニュアル改定部分の反映および障害者虐待防止法の所管課(障害者支援課)と調整して進めていく。</p>
第4節 緊急時の対応			
47	<p>○地域における災害時要援護者支援の取組推進</p> <p>災害時の要援護者情報について、平常時から地域団体と共有することにより、日常での声かけや支え合い等、要援護者支援のための取り組みを進めます。</p>	<p>災害時の要援護者情報について、平常時から地域団体と共有することにより、日常での声かけや支え合いなど、要援護者支援の体制づくりを進めます。</p>	<p>取組を行う地域団体を増やすため、既に取り組んでいる他団体の活動例を紹介していくとともに、福祉部局・防災部局・各区が連携して広報を進めていく。</p>
48	<p>○基幹福祉避難所・福祉避難所開設訓練の実施</p> <p>災害時に要援護者の初動受入及び生活支援を行う基幹福祉避難所において開設訓練を行います。訓練の実施にあたり、災害時の障害者支援を担う障害者地域生活支援拠点とも連携します。 また、災害時に基幹福祉避難所に続いて順次開設される福祉避難所協定施設においても開設訓練を行います。 ■基幹福祉避難所開設訓練(21施設): 毎年実施 ■福祉避難所協定施設: 2020年度から6年程度で開設訓練を実施(2022年度までに61施設、2023年度は25施設、2024年度以降は毎年35施設実施予定)</p>	<p>基幹福祉避難所において毎年行う訓練の実施にあたり、災害時の障害者支援を担う障害者地域生活支援拠点とも連携していきます。 また、福祉避難所協定施設においても開設訓練の実施を進めます。 ・基幹福祉避難所開設訓練(21施設): 毎年実施 ・福祉避難所協定施設: 2020年度から開設訓練を実施(2024年度までに91施設で実施済)。</p>	<p>・災害時、円滑に要援護者の受入ができるよう、地震や風水害など様々な災害を想定し、障害者地域生活支援拠点等とも連携しながら、毎年度訓練を実施する。 ・災害への備えについて、要援護者コーディネーターを中心に事業者等と連携しながら、要援護者への啓発を進めるとともに、共助の取組を推進していく。 ・2025年度は、初回、2回目以降含め約60施設で訓練を予定している。福祉避難所の運営と施設のBCP計画とを関連付け、継続的に訓練を実施するよう働きかける。</p>
49	<p>○あんしんすこやかセンターでの災害時対応、ケアマネジャーの協力推進</p> <p>高齢者の安否確認や相談対応、地域団体との連携により共有された情報をもとにした要援護者の支援を行う仕組みを構築し、ケアマネジャーによるケアプランへの災害避難情報の記載を促進します。</p>	<p>2024年4月にあんすこセンター災害時対応ガイドラインを策定した。 また、ガイドラインに基づき各区、あんしんすこやかセンター圏域で、地域の実情に応じた防災体制整備を進めるため、あんしんすこやかセンター代表者会にて各区の代表者で、8月に情報交換を行った。1月も代表者会を開催し、進捗について共有を行い、今後については各区・あんすこセンター単位で平常時からの防災ネットワーク強化のための取組を推進することとなった。</p>	<p>地域によって、防災への意識やネットワークの形成状況が異なるため、各あんしんすこやかセンターおよび区で状況を把握している区もあれば、既存のネットワークを活用して平常時の取組を進められている区もある。地域ごとに課題の洗い出しと課題解決に向けた地域ごとの取組が必要。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
50	<p>○災害・感染症発生時の応援体制の推進</p> <p>介護サービスを継続して提供できるよう、県と連携した職員の応援協力スキーム等の推進に取り組みます。また、ICTの活用による応援必要時の情報連携体制の構築を促進します。さらに事業者における事業継続計画(BCP)の策定を推進します。</p>	<p>ホームページにおいて、神戸市で独自に作成したマニュアルを掲載するとともに、<u>国や県の情報に繋がりがやすいように工夫</u>をしている。また、<u>全事業所に向けた集団指導の場</u>などにおいて周知した。</p>	<p>今後も引き続き、神戸市ホームページに掲載するとともに、<u>集団指導の場</u>などにおいて事業所への周知を図る。</p>
51	<p>○災害時の緊急入所推進</p> <p>災害等により、自宅での日常生活が長期に渡って困難となった方へのショートステイ利用について、法定での給付が出来ない利用額に対する本市独自の上乘せ給付として「災害時ショートステイサービス」を実施します。</p>	<p><u>制度を広く、適切に利用していただけるよう、引き続き、制度の周知を行っている。</u></p> <p>これまでの申請件数 5件(2024年3月31日以前のみ、第9期期間中は申請なし)</p>	<p>制度を広く、適切に利用していただけるよう、引き続き、<u>制度の周知を行っていく。</u></p>

第3章 認知症の人にやさしいまちづくりの推進

①認知症神戸モデルの推進(診断助成制度及び事故救済制度)

52	<p>○診断助成制度</p> <p>認知症の疑いの有無を診る認知機能検診(第1段階)と、軽度認知障害(MCI)を含めた認知症の診断を行う認知機能精密検査(第2段階)の2段階方式の制度で、いずれも自己負担のない仕組みです。引き続き、制度の周知と円滑な実施に努めます。</p> <p>□神戸モデルの認知率(目標)</p> <p>・診断助成制度:40.0%(2022年度)→45.0%(2025年度)</p>	<p>地域の医療機関で認知症の疑いの有無を診る「<u>認知機能検診</u>」と、要精密検査と判断された方を対象とした、専門の医療機関での「<u>認知機能精密検査</u>」の2段階の診断を自己負担無く受診できる「<u>認知症診断助成制度</u>」を実施。</p> <p>2025年度は、<u>制度周知と受診勧奨を目的とし、77歳以上の市民全員へ第1段階の無料受診券を郵送配布。</u></p> <p>【受診者数】(制度開始～2025年10月末時点)</p> <p><u>認知機能検診(第1段階)102,593人</u></p> <p><u>認知機能精密検査(第2段階)25,974人</u></p>	<p><u>必要な方に制度を利用していただけるよう、引き続き制度の周知に努めていく。</u></p>
53	<p>○事故救済制度</p> <p>認知症の方が事故を起こした際、賠償責任の有無に関わらず、被害に遭われた市民に支給する見舞金(給付金)制度(事前登録不要)と、賠償責任がある際に支給する賠償責任保険制度(事前登録必要)の2階建て方式の制度です。引き続き、制度の周知と円滑な実施に努めます。</p> <p>□神戸モデルの認知率(目標)</p> <p>・事故救済制度:31.5%(2022年度)→40.0%(2025年度)</p>	<p><u>賠償責任の有無を問わず支給する給付金と賠償責任がある場合に支給する賠償責任保険の2階建て方式の救済制度を実施。</u></p> <p>【実施状況】(制度開始～2025年11月末時点)</p> <p>支給件数</p> <p><u>76件(給付金21件、賠償責任保険55件)</u></p> <p>※上記のほか、傷害死亡・後遺障害保険(交通事故対象)で2件</p> <p>賠償責任保険加入者数</p> <p>13,994人(2025年11月末累計)</p> <p>8,689人(2025年11月末現在)</p>	<p><u>必要な方に制度を利用していただけるよう、引き続き制度の周知に努めていく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
②認知症の人にやさしいまちづくり条例にもとづく施策の推進			
54	<p><予防及び早期介入> ○関係機関と連携した研究開発の推進 WHO神戸センター、神戸医療産業都市、大学及び研究機関等と連携し、認知症の予防及び早期介入を推進します。</p>	<p>介護予防事業の対象者選定に用いる「基本チェックリスト」に回答した約8万人のデータやフレイルチェック結果データと、研究開始から2年後の要介護状態との、<u>認知症関連の比較・分析を実施</u>。本市はデータの提供等による協力・連携。本研究により、「<u>基本チェックリスト</u>」を用いた認知機能に関連する<u>3つの質問により、要介護認定になるリスクを推定</u>できることが判明した。</p>	<p>基本チェックリストは、介護予防・日常生活支援総合事業へ繋げることにより状態悪化を防ぐためのツールとして活用しているため、<u>あんしんすこやかセンターや居宅介護支援事業所等への研修等において、認知機能に関連した3項目の質問に該当する方については特に注意し、積極的に介護予防事業へ繋ぐよう周知していく。</u></p>
55	<p><予防及び早期介入> ○認知症ケアパスの普及啓発 認知症の進行や出現する症状等に応じた相談先や、どのような医療・介護サービスを受けることができるのかなどについて示した認知症ケアパスについて、認知症の方やその家族等が必要に応じて活用できるよう、医療機関や介護事業者等にも広く普及啓発を行い、ネットワークづくりに活用します。</p>	<p><u>認知症ケアパスを作成し、医療機関や介護事業者、区役所等に配布。</u> また、<u>認知症神戸モデルの認知機能精密検査(第2段階)受診者全員に配布。</u></p>	<p>引き続き、認知症ケアパスを活用し普及啓発を行う。</p>
56	<p><事故の救済及び予防> ○運転免許自主返納啓発 「運転免許証自主返納」のパンフレットを市内に配付(診断助成制度の認知機能検診(第1段階)の受診者に配付)し、運転免許自主返納の啓発を実施します。また、神戸市運転免許自主返納相談窓口を設置し、運転者本人からの相談をはじめ、免許返納を促したい家族がいる方や、免許返納を促したものの免許返納に応じない家族を持つ方からの相談を受け付けます。</p>	<p>診断助成制度において、<u>第1段階の認知機能検診を受診された全ての方に対し、「運転免許証自主返納」のパンフレットを配布。</u> 免許返納についての相談対応や、兵庫県警察が実施している安全運転相談ダイヤル(＃8080)につなぐといった対応を行っている。</p>	<p>引き続き、<u>高齢者による自動車運転時の事故を防止するため、運転に不安を感じる高齢者の運転免許の自主返納を啓発していく。</u></p>
57	<p><治療及び介護の提供> ○初期集中支援チーム 医療・介護の専門職が、認知症の疑いのある方または認知症の方やその家族を訪問し、適切な医療・介護サービスに繋ぐための支援を実施します。 □医療・介護に繋がった方の割合(目標):各年度65%(2024~2026年度)</p>	<p>認知症初期集中支援チームを全区で実施。 【実施件数】(2025年度) 新規対応件数:193件(12月末時点) □医療・介護に繋がった方の割合:74%(2024年3月末時点)</p>	<p>引き続き、<u>あんしんすこやかセンター等への周知や連携を深め、必要な方への支援に努める。</u></p>
58	<p><治療及び介護の提供> ○こころオレンジダイヤル 認知症の総合電話相談窓口として、相談内容に応じて、市内の介護情報の提供や適切な機関の紹介を行い、また、あんしんすこやかセンターや認知症疾患医療センター等の関係機関へ繋がります。必要に応じて初期集中支援チームと連携して対応を行います。</p>	<p>ご本人やご家族のほか、知人やその他関係機関から、認知症に関する医療・受診に関する相談や、認知症の家族への対応方法や悩みに関する相談などを受付。 【実施件数】(2025年度) 相談受付件数: 597件</p>	<p>引き続き、相談内容に応じて、関係機関とも連携しながら適切に対応していく。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
59	<p><治療及び介護の提供> ○認知症疾患医療センター 認知症疾患に関する鑑別診断や専門医療相談を実施するとともに、認知症の方の診断後の生活や不安の軽減が図られるよう、日常生活支援相談や、認知症に関する教育や本人・家族の交流等を行う認知症サロン事業を引き続き実施します。診断後の相談支援の充実やかかりつけ医等の地域との連携強化、困難事案への対応等、地域の認知症医療提供の拠点としての機能を強化します。</p>	<p>地域の認知症医療提供の拠点として、<u>認知症の鑑別診断に加え、専門医療相談や、診断後の専門医療相談・日常生活支援相談を実施している。</u>2020年度からは、<u>認知症サロンをすべての疾患医療センターで本格実施している。</u> 【実施件数】(2025年度) 相談件数:7,272件 鑑別診断件数:1,676件</p>	<p>引き続き、<u>診断後・退院後の相談支援の充実やかかりつけ医など地域との連携強化、困難事案への対応など、地域の認知症医療提供の拠点としての役割を果たしていく。</u></p>
60	<p><治療及び介護の提供> ○KOBEみまもりヘルパー 認知症の方や介護保険の認定を受けるまでに至らない軽度認知障害(MCI)の方が、在宅生活を送るための見守りや話し相手、外出の付き添い等を行う、介護保険外でのヘルパーサービスを提供します。引き続き制度の周知に努めます。</p>	<p>認知症または軽度認知障害(MCI)と診断された方を対象に、在宅生活への支援として、<u>自宅に訪問し、見守りや話し相手、外出の付き添い等の見守りサービスを提供。</u> 【利用状況】(2025年度) 16名延べ104.5時間 【実施事業者数】 21箇所</p>	<p><u>必要な方に制度を利用していただけるよう、引き続き制度の周知に努めていく。</u></p>
61	<p><治療及び介護の提供> ○医療・介護従事者研修 認知症サポート医・認知症介護指導者の養成や医療・介護関係者への研修実施により、引き続き医療・介護関係者の認知症への対応力の向上を図り、地域における連携体制を整えます。 □養成者数・研修修了者数(累計目標) ・認知症サポート医:216人(2022年度末)→276人(2026年度末) ・認知症介護指導者:45人(2022年度末)→53人(2026年度末) ・認知症介護実践者研修:4,750人(2022年度末)→5,710人(2026年度末) ・認知症介護実践リーダー研修:748人(2022年度末)→908人(2026年度末)</p>	<p>認知症介護に関する職場において、<u>認知症高齢者のおかれている立場に配慮した質の高い介護と援助が行われ、認知症高齢者が尊厳を持って生活をおくること</u>ができるよう、<u>専門職員及び認知症サポート医(推進医師)等の養成を行い、また、かかりつけ医や病院勤務の医療従事者の認知症対応力の向上を図っている。</u> □養成者数・研修修了者数(2025年12月末時点累計) ・認知症サポート医養成研修:280人 ・認知症介護指導者養成研修:52人 ・認知症介護実践者研修:5,194人 ・認知症介護実践リーダー研修:818人</p>	<p>引き続き、<u>認知症サポート医の養成や専門職への研修を行い、医療・介護人材の認知症対応力の向上を図っていく。</u></p>
62	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○軽度認知障害(MCI)の方を対象としたフレイル改善通所サービスの提供 認知症疾患医療センター等で軽度認知障害(MCI)と診断された方へ、フレイル改善通所サービスの案内を行います。</p>	<p>認知症神戸モデル実施医療機関や認知症疾患医療センター等でMCI(軽度認知障害)と診断された方にリーフレットを配布し、<u>健康づくりやフレイル改善通所サービス等について案内している。</u></p>	<p>引き続き、MCI(軽度認知障害)と診断された方への案内を行い、<u>周知に努めていく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
63	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○市民啓発 世界アルツハイマーデー(毎年9月21日)関連での啓発活動、地域への出前トークを実施するとともに、認知症の方自身からの「本人発信」等、様々な方法で市民への啓発活動を実施します。引き続き、市民に対し認知症に関する普及啓発に努めます。</p>	<p>世界アルツハイマーデーの普及啓発として、記念講演会や市内のオレンジライトアップの実施、市内図書館での認知症に関する展示を行っている。また、認知症ご本人が講演した動画を市ホームページに掲載している。さらに、地域に出向いて、認知症神戸モデル等についての出前トークを行っている。</p>	<p>引き続き、市民に対し、認知症に関する普及啓発に努めていく。</p>
64	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○認知症サポーター養成 地域全体で認知症の方を見守るため、認知症に対する正しい知識と理解を持った認知症サポーターの養成を行い、養成後もさらに理解を深めるための研修を実施するなど、地域において活動するための支援を実施します。また、あわせて講師であるキャラバン・メイトの養成も推進します。 <input type="checkbox"/>認知症サポーター養成者数(累計目標) ・養成者数: 131,672人(2022年度末) →155,672人(2026年度末)</p>	<p>地域において認知症に対する正しい理解の浸透を図るため、地域住民や学校、企業などに対して認知症サポーター養成講座を実施している。また、あわせて講師であるキャラバン・メイトを養成している。 <input type="checkbox"/>認知症サポーター養成者数(2025年12月末時点累計) 151,551名</p>	<p>引き続き、認知症サポーターを養成していくとともに、活躍の場の提供方法について検討する。</p>
65	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○認知症カフェ 認知症の方とその家族、地域住民、専門職等の誰もが自由に参加し、気軽に交流や相談等ができる地域に開かれた集いの場の登録・紹介を行います。引き続き、認知症カフェの周知・支援に努めます。 <input type="checkbox"/>認知症カフェ箇所数(目標) ・箇所数: 34箇所(2022年度末)→45箇所(2026年度末)</p>	<p>認知症の人と家族、地域住民、専門職等の誰もが自由に参加し、気軽に交流や相談等ができる地域に開かれた集いの場を登録・紹介 【実施箇所】 51箇所</p>	<p>気軽に認知症の方やご家族、地域住民の方が参加できるよう、認知症カフェの周知に努めていく。</p>
66	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○認知症地域支えあい推進事業 認知症の方や認知症の疑いのある方が、生きがいをもって積極的に社会参加できる地域づくりや認知症に関する理解促進を目指し、各種地域団体からの希望を募り、講師として専門職の派遣を実施します。 <input type="checkbox"/>認知症地域支えあい推進事業実施回数(年間目標): 各年度200回(2024~2026年度)</p>	<p>地域における認知症についての理解を深める学習会の開催や、認知症予防の取り組みを支援するため、地域に専門職を講師として派遣している。 【実施件数】(2025年度) 146回</p>	<p>引き続き、認知症になっても安心して暮らしていけるまちづくりのために専門職を講師として派遣するとともに、必要な方に制度を利用していただけるよう、さらなる周知に努める。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
67	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○ICTを活用した見守り 認知症の方の行方が分からなくなった際に、GPS(衛星利用測位システム)を使って居場所を探索し、家族からの依頼に基づき警備会社が駆けつけるサービスを支援します。必要な方に制度を利用してもらえるよう、引き続き制度の周知に努めます。</p>	<p><u>GPS端末の初期費用、かけつけサービスの費用(年6回まで)を市が負担する「GPSサービス」を実施。</u>これまで、1種類のGPS端末で運用していたが、<u>2025年7月より、用途に合わせて選べる端末を増やし、月額利用料の半額も市が負担するように内容を拡充した。</u> 加入者数:519人(2025年12月末累計)</p>	<p><u>必要な方に制度を利用していただけるよう、引き続き制度の周知に努めていく。</u></p>
68	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○若年性認知症の方への支援充実・社会参加促進 若年性認知症の方とその家族に対し、相談先や集いの場を整えるなどの支援を実施します。また、医療・介護関係者等の若年性認知症に対する理解を深めるため、若年性認知症支援研修と若年性認知症デイサービス・デイケア研修を実施します。</p>	<p><u>「若年性認知症支援者向け研修」・「デイサービス・デイケア研修」を定期的に年1回実施。</u> 【実施状況】 (2024年度) 若年性認知症支援研修を2025年2月に実施。 参加者:145デバイス (支援者向け研修とデイサービス・デイケア研修をZoomウェビナー形式で合同開催) (2025年度) 若年性認知症支援研修を2026年3月に実施予定。</p>	<p>引き続き、若年性認知症支援者やデイサービス・デイケア職員への研修を行い、<u>医療・介護人材の認知症対応力の向上を図っていく。</u></p>
69	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○声かけ訓練 お困りの高齢者等を見かけた際に、適切な声かけ等の対応ができるよう、認知症高齢者等への声かけ訓練を、引き続き、あんしんすこやかセンター単位で実施し、地域における支援体制を構築します。 □声かけ訓練実施箇所数(目標):3か年で76センター(全あんしんすこやかセンター)(2024~2026年度)</p>	<p><u>「認知症高齢者等声かけ訓練」をあんしんすこやかセンター単位で実施。</u> 【実施件数】 (2024年度) 38件 (2025年度) 10件</p>	<p>引き続き、2024年度~2026年度で<u>全あんしんすこやかセンター単位で訓練を実施することを目指す。</u></p>
70	<p><地域の力を豊かにしていくこと> ○高齢者安心登録事業 行方不明等、日常生活の心配がある高齢者に、事前に生活情報等の登録をもらい、管轄のあんしんすこやかセンターや警察等と情報を共有することで、日頃の地域での見守りに役立っています。また登録者が行方不明になった場合は、電子メールで行方不明発生情報を地域の捜査協力者に配信し、警察への情報提供を呼びかけ、早期発見と保護を目指します。</p>	<p><u>「神戸市高齢者安心登録事業」を実施。</u> 登録者数:2,021人(2025年11月末時点) 捜索協力者数:991人(2025年11月末時点)</p>	<p><u>必要な方に制度を利用していただけるよう、引き続き制度の周知に努めていく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
第4章 安全・安心な住生活環境の確保			
第1節 多様な住まいの確保、施設・居住系サービスの確保 ①多様な住まいの確保			
71	<p>○サービス付き高齢者向け住宅の確保</p> <p>本市独自の登録基準により、良好なサービス付き高齢者向け住宅を誘導します。</p> <p>①「住宅」としての質を確保するため、できる限り専用部分の面積を確保するとともに、専用部分への台所の設置を誘導する。</p> <p>「住戸面積(専用部分)/戸」が20㎡以上かつ一定規模の台所を設置する場合は、「専用部分と共同利用部分面積計/戸」を23㎡とする。</p> <p>②共同利用部分の台所の利用しやすさを向上させるため、入居者の使用状況や生活支援サービスの有無等に応じた規模や数を誘導する。</p> <p>③入居者以外も利用できる地域交流のためのスペースは、住宅が地域に認知され、相互交流を促すきっかけにもなりうることから、共同利用部分での設置を誘導する。</p> <p>④安全な住まい・住環境を推進するため、既存改修の住宅登録の場合においても新築と同様にエレベーターの設置や耐震性の確保を求める。 (上記方針に基づき、基準等は「神戸市サービス付き高齢者向け住宅事業の登録に関する要綱」に定める)</p>	<p>本市独自の登録基準を設け、<u>良好なサービス付き高齢者向け住宅の登録</u>を行っている。</p> <p>2025年度(12月末時点)新規登録件数:3棟</p>	<p><u>引き続き良好なサービス付き高齢者向け住宅を供給していく。</u></p>
72	<p>○有料老人ホーム</p> <p>多様なニーズの受け皿と考えられることから、有料老人ホーム設置運営指導指針により有料老人ホームの設置を誘導します。</p>	<p>○有料老人ホーム</p> <p>多様なニーズの受け皿と考えられることから、<u>有料老人ホーム設置運営指導指針により良好な有料老人ホームの設置を誘導した。</u></p> <p>2024～2025年度届出数:13施設(582床)特定施設舎(2025年12月31日時点)</p>	<p>これまでの施設整備状況や利用状況、高齢者の人口動態を踏まえて、<u>今後の介護保険施設の整備数を検討していく。</u></p>
73	<p>○市営住宅</p> <p>シルバーハイツや高齢者世帯向けの特定目的住宅等の高齢者に配慮した住戸の提供のほか、高齢者の見回り事業を実施しています。</p>	<p>市営住宅定時募集において、<u>シルバーハイツや高齢者世帯向けの特定目的等の市営住宅の提供を実施。</u></p> <p>【2025年度 募集実績】※12月時点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバーハイツ(単身向):41戸 ・シルバーハイツ(世帯向):16戸 ・高齢者世帯向住宅:27戸 <p><u>高齢者見回り事業 合計 461,328件</u>(2025年12月31日時点)</p> <p>架電件数:107,173件 相談件数:633件 ポストチェック件数:345,200件 住戸訪問:8,259件 関係機関との情報共有件数:63件</p>	<p>引き続き、特定目的住宅の募集を行い、<u>高齢者が優先して入居できる市営住宅の提供を続けていく。</u></p> <p><u>市営住宅は高齢化が進み、単身高齢世帯も多い</u>ため、福祉局と連携しながら、<u>引き続き高齢者の見回り事業を推進していく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
74	<p>○居住支援(住宅セーフティネット) 神戸市居住支援協議会をプラットフォームとして、居住支援に関わる団体と連携を図り、高齢者の民間賃貸住宅への円滑な入居を促進します。 ■市内で活動する居住支援法人:39法人(2024年2月末現在)</p>	<p>神戸市居住支援協議会では、<u>居住支援団体や福祉局等の関連部局と連携を図るため</u>に、勉強会や研修を行っている。 ■市内で活動する居住支援法人:53法人(2025年12月末現在)</p>	<p><u>引き続き、高齢者等の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進に取り組んでいく。</u></p>
第1節 多様な住まいの確保、施設・居住系サービスの確保 ②施設・居住系サービスの確保			
75	<p>○特別養護老人ホーム 個室ユニットケアのみならず、従来型個室や利用者のプライバシーに配慮した多床室の整備もあわせて行います。また、在宅等で生活されている障害者が高齢になるため、特性に配慮した介護施設サービスが提供されるよう支援します。 □第9期計画期間(2024~2026年度)における整備目標 ・7,635人(2023年度累計)→8,085人(2026年度累計)</p>	<p>○特別養護老人ホーム 2023年~2025年度採択数:<u>10施設(304床)</u>(2025年12月31日時点)</p>	<p>これまでの施設整備状況や利用状況、高齢者の人口動態を踏まえて、<u>今後の介護保険施設の整備数を検討していく。</u></p>
76	<p>○介護老人保健施設 介護・医療に関する多職種が配置された施設として機能維持・改善の役割を担うほか、在宅医療等の需要量の増加に対応するため、整備を促進します。 □第9期計画期間(2024~2026年度)における整備目標 ・介護老人保健施設5,789人+介護医療院(介護療養型医療施設及び介護療養型老人保健施設)463人(2023年度累計)→6,452人(2026年度累計)</p>	<p>○介護老人保健施設 <u>採択数なし</u>(2025年12月31日時点)</p>	<p>これまでの施設整備状況や利用状況、高齢者の人口動態を踏まえて、<u>今後の介護保険施設の整備数を検討していく。</u></p>
77	<p>○介護医療院 今後ますます増加が見込まれる慢性期の医療・介護ニーズへ対応するため、要介護者に対する長期療養のための医療と日常生活上の介護を、一体的に提供することを目的に設置される介護医療院については、引き続き医療病床からの転換を優先します。 □第9期計画期間(2024~2026年度)における整備目標 ・介護老人保健施設5,789人+介護医療院(介護療養型医療施設及び介護療養型老人保健施設)463人(2023年度累計)→6,452人(2026年度累計)</p>	<p>○介護医療院 2024年度採択数:<u>1施設(24床)</u>(2025年12月31日時点)</p>	<p>これまでの施設整備状況や利用状況、高齢者の人口動態を踏まえて、<u>今後の介護保険施設の整備数を検討していく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
78	<p>○認知症高齢者グループホーム(看護)小規模多機能型居宅介護との併設を促進するなど、認知症高齢者やその家族の支援拠点として積極的な役割を果たすべく整備を促進します。</p> <p>□第9期計画期間(2024~2026年度)における整備目標 ・2,922人(2023年度累計)→3,282人(2026年度累計)</p>	<p>○<u>認知症高齢者グループホーム</u></p> <p>2024年度採択数:4施設(61床)(2025年12月31日時点)</p>	<p>これまでの施設整備状況や利用状況、高齢者の人口動態を踏まえて、<u>今後の介護保険施設の整備数を検討していく。</u></p>
79	<p>○特定施設入居者生活介護(介護付き有料老人ホーム等)</p> <p>自立から要介護3以上の中重度要介護者や認知症高齢者への対応、今後対応が増えてくる看取り等、多様なニーズに対応できる住み替え先と捉え、整備を促進します。</p> <p>□第9期計画期間(2024~2026年度)における整備目標 ・9,460人(2023年度累計)→9,910人(2026年度累計)</p>	<p>○<u>特定施設入居者生活介護(介護付き有料老人ホーム等)</u></p> <p>2024年度採択数:5施設(256床)(2025年12月31日時点)</p>	<p>これまでの施設整備状況や利用状況、高齢者の人口動態を踏まえて、<u>今後の介護保険施設の整備数を検討していく。</u></p>
第2節 安全・安心な住生活環境の整備			
80	<p>○安全・安心な住環境確保に向けた相談・普及啓発</p> <p>住まいの相談窓口「すまいるネット」を通じ、断熱化やバリアフリー化等、高齢者に配慮した住宅性能の確保に向けた普及啓発のほか、住宅改修や高齢者の住み替え等の相談に対応します。</p>	<p>住まいの相談窓口「すまいるネット」では、断熱化やバリアフリー化、高齢者の住み替え等の相談に対応している。</p> <p>2025年度(12月末時点)相談実績:約4,400件(うち高齢者の住み替え相談539件)</p>	<p>引き続き、住まいの相談窓口「すまいるネット」で断熱化やバリアフリー化等、高齢者に配慮した住宅性能の確保に向けた普及啓発のほか、<u>住宅改修や高齢者の住み替え等の相談に対応する。</u></p>
81	<p>○住宅のバリアフリー化</p> <p>介護保険サービスの上乗せとして、要介護認定を受けている高齢者等を対象とする住宅改修助成事業を引き続き実施します。</p>	<p>介護保険サービスの上乗せとして、要介護認定を受けている高齢者等を対象とする住宅改修助成事業を引き続き実施。</p> <p>【実施件数】(2025年度) 助成件数:236件(12月末時点)</p>	<p><u>必要な方に制度を利用していただけるよう、引き続き制度の周知に努めていく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
82	<p>○鉄道駅のバリアフリー化 国の鉄道駅バリアフリー料金制度により整備促進が図られるほか、要件を満たす鉄道駅舎へのエレベーター設置等のバリアフリー化には県市協調補助により、高齢者や障害者等の利用環境の更なる改善を図ります。</p>	<p>【鉄道駅ホーム柵設置・バリアフリー化等補助】 (ホーム柵整備予定駅) ・JR西日本:三ノ宮駅1・4番線(2020～2023年度)整備完了 ・阪急電鉄:春日野道駅(2020～2022年度)整備完了 ・阪神電気鉄道:神戸三宮駅(2019～2021年度)整備完了 (バリアフリー化等整備予定駅) ・阪急電鉄:春日野道駅(2020～2022年度)整備完了 ・神戸電鉄:花山駅(2019～2022年度)整備完了 ・山陽電気鉄道:東須磨駅(2020～2022年度)整備完了 :霞ヶ丘駅(2024～2027年度) ・阪神電気鉄道:大開駅(2019～2021年度)整備完了 :住吉駅(2023～2025年度)</p>	<p>2023年4月以降、鉄道各社における「鉄道駅バリアフリー料金制度」の徴収料金によりバリアフリー化整備が進んでいる。さらに神戸市は要件を一部見直し、<u>県市協調で引き続き補助</u>を行っている。</p>
83	<p>○高齢者の買物支援 住宅の立地等から、買物に不自由な高齢者を支援するため、移動販売サービスとの連携が可能な市営住宅等を活用した買物支援の取り組みを検討します。</p>	<p><u>買物支援</u>に向け、市営住宅の<u>広場などを活用</u>している。</p>	<p>移動販売サービスのニーズがあれば、<u>市営住宅等の活用を検討</u>する。</p>

第5章 介護人材の確保・育成

①新たな介護人材の確保

84	<p>○初任者研修補助 介護の基礎的な知識やスキルを学ぶ介護職員初任者研修を修了し市内で介護職員として就労継続された方を対象に、研修受講費の一部を補助します。</p>	<p><u>介護職員初任者研修の受講費の一部を補助</u>することで、<u>確実な受講を促進</u>し、人材不足が著しい訪問介護員(従事するには研修受講が必須条件)の人材確保に繋げるほか、就職初期におけるその他の施策(市:住宅手当補助、国:介護分野就職支援金貸付事業)とともに、その後のキャリアアップまで支援。 ■2025年度実績(12月末時点):8名</p>	<p>引き続き、<u>市内介護事業所へのメール送付や市ホームページ等での周知</u>を行うほか、<u>申請方法についても工夫</u>する(R6よりe-KOBEを導入)など、目的達成のため申請件数の増加を図っていく。</p>
85	<p>○介護現場の理解促進・魅力発信 事業者団体等と連携し、トライやるウィークなど、学校教育での介護の仕事への理解を図る取り組みを促進します。また、介護人材確保プロジェクト「コウベdeカイゴ」のホームページを通じ、介護の仕事の魅力や介護職員への支援制度について情報を発信します。 □「コウベdeカイゴ」ホームページ閲覧(ページビュー)数(年間目標) ・閲覧数:56,371pv(2022年度末)→60,000pv(2026年度末)</p>	<p><u>事業者団体と連携しトライやるウィーク(職業体験)の中学生受け入れ可能施設のリスト</u>を作成。 また、「コウベdeカイゴ」のサイトにて、<u>介護職員向け各種支援金を掲載</u>するとともに、<u>職種に係る資格情報、キャリアパス、市内の介護職員のインタビュー記事等をわかりやすく効果的に発信</u>。 ■2025年度実績(12月末時点):33,970pv</p>	<p>引き続き、事業者団体や教育委員会と協力し、トライやるウィークやワークキャンプ等を通じて<u>介護現場の必要性や意義を喚起する啓発を支援</u>する。 また、「コウベdeカイゴ」サイトの内容充実を図り、「コウベdeカイゴ」としての神戸市の介護人材確保への取組についての<u>認知を高める</u>。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
86	<p>○外国人介護職員の受入促進 県や事業者団体等と連携して、介護事業者を対象とした外国人介護職員受入に関するセミナー開催や、技能実習生の監理団体を担う兵庫県社会福祉協議会に対する補助を実施するなどして、より効果的な受入施策を検討・実施します。</p>	<p>兵庫県社会福祉協議会(ひょうご外国人介護実習支援センター)が外国人介護人材の受け入れを新たに促進するため、各国の送出し機関と連携して実習生受入業務を行う<u>国際専門調整員を配置する経費を兵庫県と共同で補助。</u> また、特定技能制度を活用した「<u>神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト</u>」を実施する(一社)大学都市神戸産官学プラットフォームへの<u>財政支援を実施。</u></p>	<p>引き続き、国際調整専門員を配置し、受入の規模拡大や受入業務の迅速化など、技能実習・特定技能の受入体制の充実強化を図っていくほか、<u>介護人材の需要や制度改正の動きに迅速に対応できる体制づくりを進めていく。</u> また、特定技能制度を活用した「<u>神戸外国人高度専門人材育成プロジェクト</u>」についても引き続き連携し、進めていく。</p>
87	<p>○生活支援訪問サービス従事者養成研修 高齢者の生活支援に関する基本的な知識・技術を学ぶ研修を実施し、研修修了生には、生活支援訪問サービス事業所で新たな担い手として活躍いただくよう推進します。 ■延べ修了者数(累計):892人(2023年3月現在)</p>	<p>■<u>延べ修了者数(累計):1,420人</u></p>	<p>・事業所数は一定程度確保されていると考えているが、生活支援訪問サービスが定着するためには、<u>研修修了者の雇用が増えることが重要</u>と考えており、従事者養成研修を引き続き行い、研修修了者が事業所に雇用されるよう、スタッフ募集中の事業者と研修修了者が直接話をできる機会を設けるなど、<u>マッチング支援に努める</u>ことで、サービス量を確保していきたい。</p>
88	<p>○再就職支援、介護現場への就労啓発 潜在介護職員を対象にしたセミナーの開催や、兵庫県福祉人材センターと連携した啓発活動等を実施し、介護職員の再就職を支援します。 また、各区くらし支援窓口等で離職された方への就労案内を行うなど、様々な場で介護事業者への就労を働きかけます。</p>	<p><u>潜在介護職員(介護資格を所持しながら、介護現場で就労していない方)の復職を支援</u>するため、兵庫県と共催で「<u>介護職再就職支援講習</u>」を実施。 2025年度実績 ・8月開催:8名参加、10月開催:8名参加</p>	<p>引き続き、兵庫県と共催で「<u>介護職再就職支援講習</u>」を実施し、<u>介護人材の量的確保だけでなく、介護職の中核的な役割を担う介護福祉士や介護経験者の確保</u>につなげていく。</p>
89	<p>○住まい確保への支援 外国人を含む介護職員を新たに採用した介護事業者に対し住宅手当補助を実施するとともに、外国人材等の円滑な住まい探し・入居に向け、神戸市居住支援協議会において必要な居住支援を実施します。</p>	<p>外国人を含む神戸市に共住する介護職員を新たに採用した介護事業者に対して<u>住宅手当等の一部を補助する「神戸市新規採用介護職員の住宅手当等補助事業」</u>している。 2025年度補助件数(12月末時点) 40法人、522人(うち外国人344人) <u>外国人材等の円滑な住まい探し・入居に向け、公益財団法人神戸国際コミュニティセンター(KICC)と連携して、三者通話による通訳相談に対応するとともに、居住支援法人等への研修会の実施など、必要な支援を実施している。</u></p>	<p><u>住まいの確保や住環境への安心感が介護人材の定着にもつながるため、引き続き新規採用介護職員に対する住宅手当等の補助をおこなう。</u> 引き続き、外国人材等の円滑な住まい探し・入居に向け、神戸市居住支援協議会において必要な居住支援を実施していく。</p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
②介護人材の育成・定着			
90	<p>○高齢者介護士認定制度 介護福祉士資格取得前の職員を対象とする本市独自の「神戸市高齢者介護士認定制度」について、合格者に対する介護福祉士取得までの支援金の支給や、認定制度を受講するための代替職員確保にかかる経費補助等、支援を推進します。</p> <p>□高齢者介護士認定制度合格者数(累計目標) ・合格者数:456人(2022年度末)→600人(2026年度末)</p>	<p>○神戸市介護サービス協会において、原則勤続3～5年目職員を対象に「<u>神戸市高齢者介護士認定制度</u>」講習会・認定試験を実施。</p> <p>【講習会】7～9月のうちに4日間 【2025年度合格者数】50名(累計573名) ○同制度合格者に対し介護福祉士取得のための支援金を支給。 【2025年度申請数】97件 ○同制度受講時の代替職員確保に係る経費を事業所に対し補助。 【2025年度補助件数】2件</p>	<p>人材定着に向けて、<u>高齢者介護士認定制度、同制度を通じたキャリアアップ支援、同制度の受講支援を引き続き実施していく。</u></p>
91	<p>○資質向上に向けた取組 神戸市介護サービス協会が実施する介護人材等に関する各種研修を支援し、ICTを活用した研修を開催するなど参加しやすい環境づくりを推進します。</p>	<p>神戸市介護サービス協会と連携して、介護人材等に関する各種研修を実施。 神戸市社会福祉協議会が運営する市民福祉大学において、介護サービス従事者を対象とした各種研修を実施。 【2024年度実績】 ・<u>介護サービス協会</u>:18回 ・<u>市民福祉大学</u>:26回</p>	<p>介護従事者の資質向上に向けて、今後も引き続き、<u>神戸市介護サービス協会、神戸市社会福祉協議会と連携して研修を実施していく。</u></p>
92	<p>○医療的ケア資格取得支援 特別養護老人ホームの職員が、喀痰吸引等の医療的ケアを行うための資格を取得する研修費用を補助します。</p>	<p>2024年度は、<u>のべ15施設、41人に対して、合計1,941千円を補助した。</u></p>	<p>引き続き研修費用の補助を行っていく。</p>
93	<p>○外国人介護職員への介護福祉士資格取得等支援 外国人介護職員について日本での長期的な就労も視野に入れ、入国後の日本語学習や介護福祉士資格取得に関する学習にかかる費用を補助するとともに、研修を受講する際に必要となる代替職員確保にかかる経費を補助します。</p>	<p>市内事業所に勤務している在留資格「技能実習」(1～2年目)で在留する外国人の日本語及び介護福祉士国家資格取得のための学習に係る経費や、日本語学習等を行う際に必要となる代替職員確保に係る経費を一部補助。 ■2025年度実績 ・日本語学習支援 1施設2名 ・資格取得支援 0件(実績なし) ・代替職員確保支援 0件(実績なし)</p>	<p>兵庫県の「外国人介護人材受入施設環境整備事業(特定技能(介護)外国人等資格取得支援事業)」と、すみ分けを図りながら、引き続き、日本語学習等支援事業を実施することで、<u>外国人介護人材の育成・定着を図っていく。</u></p>
③就業環境の向上			
94	<p>○介護テクノロジー機器の活用支援 介護テクノロジー機器の開発や導入について、企業と介護事業者の双方から相談を受ける窓口を開設し、企業と介護事業者が情報交換を行う場の提供等を行うとともに、記録作成ソフトや情報共有のための機器などの導入費用を補助することで、介護現場での業務効率化やノーリフティング等による介護職員の負担軽減の促進を支援します。</p>	<p>・介護テクノロジー導入に向けて相談窓口の開設や開発企業と介護事業者の意見交換会などを実施する「<u>介護テクノロジー導入促進プロジェクト</u>」を実施し、<u>介護テクノロジー導入による介護職員の負担軽減を推進した。</u> ・記録・請求等の入力業務の省力化やリアルタイムでの情報共有等、<u>介護保険業務の効率化を図ることを目的に導入したICT機器の費用の一部を補助。</u>2024年度は、在宅サービスにも対象を拡大して実施。 ■2025年度実績 ・ICT化推進事業:35件</p>	<p>引き続き、<u>介護ロボット等の導入促進・ノーリフティングの普及啓発の促進を図り、介護現場の業務効率化や介護職員の負担軽減を推進していく。</u> 引き続き、ICT化推進事業を実施し、施設だけでなく在宅サービス事業所も含んだ介護現場でのICT機器購入やペーパーレス化を促進することで<u>業務効率化・生産性向上につなげていく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
95	<p>○ハラスメント・安全確保対策 介護サービス利用者やその家族からの介護職員に対するハラスメント対策について、県(相談窓口含む)との連携や啓発資材の活用促進等により、介護事業者内での周知や市民への理解普及を進めます。 また、訪問介護職員・看護師の安全確保対策に資する費用の一部を補助します。</p>	<p>・兵庫県と連携し、「<u>訪問看護師・訪問介護職員安全確保・離職防止対策事業(2人訪問費用補助)</u>」及び「<u>事業所におけるハラスメント対策の取組に対する費用補助事業(1人訪問費用補助)</u>」を実施。 2025年度実績 2人訪問補助 0件(実績なし) 1人訪問補助 0件(実績なし) ・新たに、事業者の<u>管理者向けにハラスメント対策研修</u>を実施。 基礎研修195人、実践研修43人(申込) ・<u>ハラスメント防止啓発チラシ</u>について、<u>イラストを用いた分かりやすいチラシ</u>になるようリニューアルを検討。</p>	<p>兵庫県と連携して実施している2人訪問費用補助や1人訪問費用補助について、<u>制度周知も含め、2026年度以降も引き続き実施していく。</u></p>
第6章 介護保険制度の適正運営			
96	<p>○自立支援を促進するケアマネジメント ・ケアマネジメント研修 ケアマネジャーに対するケアマネジメント研修や、経験豊富なケアマネジャーがサービス担当者会議等に行きする地域同行型ケアマネジメント研修を実施します。 ■実施回数:年間8回(毎年度同程度見込み)</p>	<p>自立支援型ケアマネジメント研修を実施 参加人数:延べ261名 <現任編> ・2025年8月～9月に2日間コースで開催。 <スキルアップ編> ・2025年7月に主任ケアマネジャー・ケアマネジャーを対象に開催。 地域同行型ケアマネジメント研修を実施 参加人数:述べ79名 <スーパービジョン編> ・2025年9月～10月に3日間コースで開催。 <基礎知識編> ・2025年12月に開催。 <実地型研修> ・2025年12月～2026年2月に計4回開催。 管理者応援事業(2025年度モデル事業)を実施 参加人数:述べ <研修>2025年7月～12月に計2回開催。 <事業所訪問>選定した3事業所に訪問。</p>	<p>・2026年度以降も継続実施。適切なケアマネジメントに向けてより多くの介護支援専門員に参加してもらえるよう<u>研修テーマの設定や広報を工夫していく。</u> ・<u>地域同行型は、参加者数の確保が課題。</u>研修目的を明確化し事業所理解を得ると共に、受講者が翌年以降アドバイザーとなる等、<u>人材サイクルの仕組みづくり</u>を定着化する取り組みを検討していく。</p>
97	<p>○自立支援を促進するケアマネジメント ・多職種によるケアマネジメント検討会 自立支援に資するケアプランに向けて「<u>多職種ケアマネジメント検討会</u>」を開催します。 ■実施回数:年間4回(毎年度同程度見込み)</p>	<p><u>多職種によるケアマネジメント検討会</u>を実施。 <参加者> 居宅介護支援事業所、介護サービス事業所、神戸市リハ職種地域支援協議会、神戸市ケアマネジャー連絡会、あんしんすこやかセンター等 ・実施回数1回 4事業所 4ケアプラン</p>	<p>・2026年度以降も継続実施。自立支援・重度化防止の観点から、介護サービス事業者を含む多職種が参加するケアマネジメント検討会を開催することで、<u>心身状態やサービスの利用状況等を共有し、インフォーマルサービスの活用や働きかけ方などを検討し、適切なケアマネジメントの検討と支援につなげていく。</u></p>

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
98	<p>○自立支援を促進するケアマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ専門職によるケアマネジャーとの同行訪問 <p>要支援者等のケアプランを作成する際、ケアマネジャーの自宅訪問時にリハビリ専門職(理学療法士、作業療法士)が同行し、利用者へのセルフケア等の助言を行ったり、ケアマネジャーの自立支援に資するケアプラン作成を支援します。</p> <p>■実施回数:年間253件・59事業所(2022年度実績、次年度以降も同程度見込み)</p>	<p>要支援者を担当するケアマネジャー等からの依頼を受け、<u>同行訪問を実施</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数(延べ) 187件 ・事業者数(実数) 60か所(あんしんすこやかセンター:45 居宅介護支援事業所:15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年度以降も継続実施。リハビリ専門職による同行訪問により、<u>ケアマネジャーが適切なアセスメントの実施や自立支援に資するサービス選択ができるよう助言し、ケアマネジメントの質の向上を目指す</u>。また、<u>同行訪問での経験を広く発信するため、リハビリ専門職が研修会などにも出向き、知見を広めていく</u>。
99	<p>○ケアプラン点検(指導・助言等)</p> <p>ケアプランの適正・適切性を点検します。指導・助言のほか、必要に応じて是正も促します。国民健康保険団体連合会(以下、「国保連」という)の適正化システム活用による事業者抽出後、縦覧点検や個別状況を踏まえたより精査した点検を行います。</p> <p>■ケアプラン点検数:162事業所4,511件(2022年度実績、次年度以降も同程度見込み)</p>	<p>新規開設事業所、前回点検から数年経過している事業所等を対象に実施。<u>点検により、事業所の傾向等を把握し、面談にて自立支援の視点等を助言</u>。</p> <p>また、<u>サ高住等に併設の居宅介護支援事業所に対して、運営指導に同行し、住環境等を把握した上で点検を実施</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険課による点検 18事業所 62プラン ・サ高住等への点検 6事業所 24プラン ・委託事業者による点検 64事業所 1,194プラン ・あんしんすこやかセンターへの点検 76事業所 1,355プラン 	<ul style="list-style-type: none"> ・国保連適正化システムも活用しながら、<u>できるだけ多くの事業者を点検できるよう工夫し、ケアプラン点検効果を確認していく</u>。 ・サ高住等のケアプランは運営指導と同行し、連携しながら、継続実施する。 ・介護予防支援を居宅介護支援事業者が指定を受けることになったことから、運営指導に同行し、点検を実施する。 ・<u>点検者の視点や助言内容を平準化し、効果的な体制や仕組みづくりに取り組んでいく</u>。
100	<p>○要介護認定の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定調査員研修 「新規研修」、「フォロー研修」、「現任研修」等、認定調査員の実務経験に応じた研修の機会を設け、調査員の資質の向上に努めます。 ■新規研修実施回数:年間6回(毎年度同程度見込み) ■フォロー研修実施回数:年間6回(毎年度同程度見込み) ■現任研修実施回数:年間1回(毎年度同程度見込み) 	<p>○認定調査の適正化に向けた研修等を実施。(認定調査員研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■新規研修 <ul style="list-style-type: none"> ・1.5日コースを6回開催。2025年は121人参加 ■フォロー研修 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より新規研修受講者は必須とし、DVDを用いた実践研修を6回開催。2025年は103人参加 ■現任研修 <ul style="list-style-type: none"> ・全調査員を対象に、オンデマンド配信にて調査の実施調整や調査票記載内容について研修を実施。637名参加 ・フォロー研修未受講の調査員を対象に、集合にて研修を実施。286名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、研修など認定調査の適正化に向けた取り組みを実施していく。
101	<p>○要介護認定の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定調査委託先の検査 <p>行政保健師等による認定調査現場への同行訪問や調査票点検を実施します。</p> <p>■認定調査委託先検査数:6事業所(2022年度実績、次年度以降も同程度見込み)</p>	<p>○認定調査の適正化に向けた研修等を実施。</p> <p>調査票点検及び、認定調査に<u>市職員が同行し助言指導を行う委託先検査</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・7事業所に実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、研修など認定調査の適正化に向けた取り組みを実施していく。

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
102	<p>○要介護認定の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 主治医意見書の充実と適正化 <p>主治医意見書記入の手引き等をホームページに掲載し、総合病院における主治医意見書研修を実施します。</p>	<p>○主治医意見書の充実と適正化に向けた取り組みの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 主治医意見書記入の手引き等をホームページに掲載 主治医意見書提出依頼書に「主治医意見書記入の手引き」へアクセスするための二次元バーコードを掲載し、周知。 総合病院における主治医意見書研修の実施 <p>神戸市医師会と協力し、意見書の作成件数が多い10病院の医師・クラークを対象に、<u>介護保険の仕組みや主治医意見書作成のポイントについて動画研修を実施</u>。(配信期間:2025年6月2日～12月26日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、<u>主治医意見書の充実と適正化に向けた取り組みを実施していく。</u>
103	<p>○要介護認定の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 認定審査会の平準化 <p>二次判定について(認定審査会)、合議体間の判定の偏りや軽重度変更率を分析し、審査会委員を対象とする研修を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■研修実施回数:年間1回(毎年度同程度見込み) ■一次判定からの変更率(2022年度実績) <ul style="list-style-type: none"> 重度変更率:7.2%(全国8.7%) 軽度変更率:0.3%(全国0.7%) 	<p>○要介護認定の適正化に向けた研修等を実施。</p> <p>認定審査会の平準化を実施</p> <p>【現任委員研修】</p> <p>2024年11～12月、全95合議体が<u>模擬事例の審査判定を行い、結果を共有することで審査を平準化。</u></p> <p>【ワーキング等の開催】</p> <p>各区事務局向けに<u>審査会運営ワーキング(3回)</u>を開催し、<u>審査会運営を統一化。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、審査会委員や事務局職員に対し、研修など要介護認定の適正化に向けた取り組みを実施していく。 認定審査会の事務の統一化と効率性について、引き続き検討していく。
104	<p>○住宅改修の点検の適正化</p> <p>一定の要件のもとに抽出した住宅改修工事の対象となる住宅を建築士の資格を持った調査員が訪問し、支給要件を満たしていることの確認や申請工事内容と施工内容が相違なく適切に施工されていることの確認を実施します。</p> <p>□住宅改修の調査件数(年間目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査研修:26件(2022年度末)→50件(2026年度末) 	<p>【調査件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 28件(2024年度末) 20件(2025年12月時点) 	<p>引き続き、<u>実地調査事業を実施し、保険給付の適正化を図っていく。</u></p>
105	<p>○縦覧点検の実施・医療情報との突合</p> <p>縦覧点検及び医療情報との突合は、国保連でのリスト抽出にもとづき、事業所に対する聞き取り調査を行い、不適切な請求は過誤調整等を依頼します。</p> <p>□縦覧点検の実施状況(年間目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 点検件数:1,407件(2022年度末)→1,500件(2026年度末) 	<p>国民健康保険団体連合会に医療情報突合チェック及び縦覧チェックに係る点検結果並びに照会文書の発送を依頼。照会の回答報告を踏まえ、不適正な請求に対し過誤を促す連絡を保険事業係で実施。</p> <p>【点検件数(国保分)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 996件(2025年12月末時点実績) <p>一部縦覧チェックリストを使用し、国保連より詳細な点検を行い、<u>不適正な請求に対して過誤を促す連絡を保険事業係で実施。</u></p> <p>【過誤件数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 69件(2025年12月時点実績) <p>2018年8月より、人材派遣を活用し体制を強化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保険事業係による縦覧チェックに係る点検を、より効率的かつスピーディに行えるようマニュアル化を図るとともに、各事業所に適正化への協力を促していく。 国保連・監査指導部と連携しながら、引き続き介護給付費の算定要件の明瞭化に努め、各事業所に適正な請求の理解を促していく。

○第9期介護保険事業計画の実施状況

No.	第9期計画(記載内容)	取組状況(2025年12月31日時点)	今後の課題と取組
106	<p>○第三者求償事務の推進 第三者行為求償について、国保連からの情報をもとに届出義務対象者を把握し、介護給付費の適正な運用を推進します。 ■第三者行為届出数:年間20件程度(毎年度同程度見込み)</p>	<p><u>第三者行為求償の届出が被保険者に義務化されたこと</u>に伴い、届出義務対象者を把握するため、医療保険者より第三者行為求償の届出をおこなっている介護保険被保険者の情報を入手し、届出義務ある被保険者に対して届出を勧奨。 【届出実績】 ・19件(2025年12月時点)</p> <p>2018年8月より、人材派遣を活用し体制を強化。</p>	<p><u>届出義務対象者の把握をさらに徹底し、介護給付の損害金回収を図っていく。</u></p>
107	<p>○保険料収納対策の強化 保険料の支払い手段の多様化(スマートフォン決済の拡充、インターネットバンキング導入検討)により、収納の確保を図ります。</p>	<p>楽天銀行のオンライン口座振替申請受付を2025年度より開始。</p>	<p>・納入通知書に口座振替手続きの用紙を同封、納付書に同封しているチラシに口座振替推奨の文言を記載し、<u>引き続き口座振替の勧奨を行っていく。</u> ・今後もコンビニ・スマホアプリでの納付を活用するため、<u>スマホアプリの対応業者を増やしていくことを検討していく。</u></p>
108	<p>○制度の持続性を踏まえたサービスの見直し 紙おむつ支給事業等の介護保険外サービスについて、国の動向を踏まえ見直しや再構築を検討します。</p>	<p>利用者からの申請封筒について、作成費及び郵送料ともに<u>公費負担から申請者負担に変更した。</u> 紙おむつ支給事業に係る委託事業者と2024年度から複数年契約(3か年)を行うことにより、事業者数を抑制するとともに、事務費の削減に努めた。</p>	<p>2025年度までの実績を踏まえ、<u>予算額の削減に取り組んでいく。</u>また、2026年度からの保健福祉事業への移行について検討していく。</p>
109	<p>○公平・公正なあんしんすこやかセンターの運営の確保 神戸市地域包括支援センター運営協議会(各区での取り組みを含む)を開催し、公平・公正なセンター運営を確保します。 ■運営協議会実施回数:年間2回程度(毎年度同程度見込み)</p>	<p>2025年7・8月に各区運営協議会を開催。また、2025年9月に第1回市運営協議会を開催。それぞれにおいて、センターが介護保険サービスの提供において特定の事業者を勧めていないかなど、<u>公平・中立に運営していることを確認。</u></p>	<p>引き続き、運営協議会において公平・中立なセンター運営について<u>有識者との協議を行っていく。</u></p>
110	<p>○施設・事業所の監査指導 法令等にもとづいて、運営指導として施設・事業所へ赴き事業運営や報酬請求等の確認を行い、必要な改善の指導を行います。不正請求や虐待疑い等の通報があった場合、監査として施設・事業所への立ち入り調査等を実施します。 ■施設・事業所に対する監査・指導の状況(2022年度実績) ・実地指導:364件 ・監査:30件 ・集団指導:動画視聴方式で実施</p>	<p>○施設・事業所の監査指導 法令等にもとづいて、<u>運営指導として施設・事業所へ赴き事業運営や報酬請求等の確認を行い、必要な改善の指導を行います。不正請求や虐待疑い等の通報があった場合、監査として施設・事業所への立ち入り調査等を実施します。</u> ■施設・事業所に対する監査・指導の状況(2024年度実績) ・運営指導:545件 ・監査:56件 ・集団指導:動画視聴方式で実施 ■施設・事業所に対する監査・指導の状況(2025年12月31日時点) ・運営指導:454件 ・監査:54件 ・集団指導:動画視聴方式で実施予定</p>	<p>引き続き、介護保険事業者に対する指導・監督を適切に行うとともに、外部活力を含めた効率的な業務執行体制を構築し、<u>運営指導の実施率向上に努めていく。</u></p>

令和8年1月5日
(国保連合会の令和7年11月審査
分までの給付実績情報等に基づき、
令和7年9月末までの状況をとり
まとめたもの)

神戸市介護保険制度の実施状況

1. 高齢化の状況	1
2. 要介護認定等の状況	2
(1) 要介護認定の申請、基本チェックリストの実施状況	2
(2) 要介護認定者数・事業対象者数の推移	3
3. 介護保険サービスの利用状況	4
(1) サービス利用者数等の推移	4
(2) 要介護度別サービス利用者の状況	4
(3) サービス毎の利用状況と推移	5
4. 在宅サービスの種類別利用状況	9
(1) サービス種類別利用人数の推移	9
(2) サービス種類別利用者割合	9
(3) 要介護度別サービス利用者割合	10
(4) 要介護度別支給限度額に対する利用割合の推移	10
5. 指定事業者等・定員数の推移等	11
6. 介護給付費の支払状況	14
7. 保険料の収納状況等	15
(1) 介護保険料収納状況	15
(2) 保険料減免の状況	15
(3) 利用料軽減措置の状況	16
8. 事業者指導・監査の状況	16

令和8年1月

介護保険課

介護保険の実施状況（平成12年4月～令和7年9月）

1. 高齢化の状況 （全市）

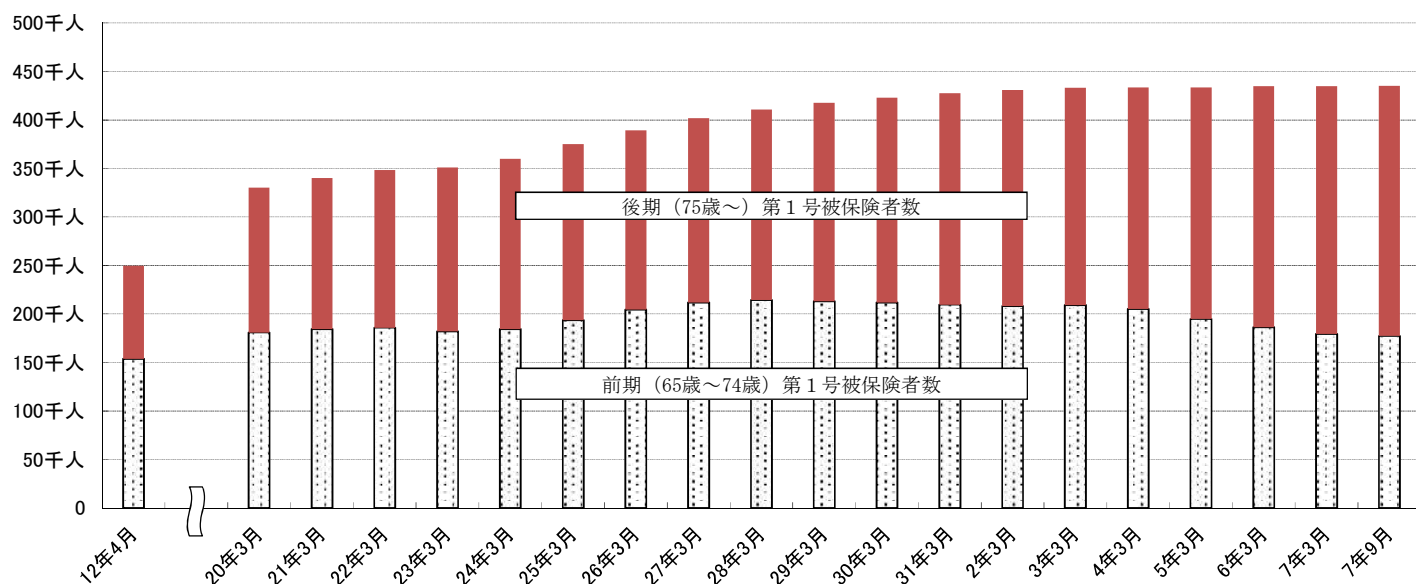
	12年4月末	31年3月末	02年3月末	03年3月末	04年3月末	05年3月末	06年3月末	07年3月末	07年9月末
神戸市人口	1,508,944人 (100)	1,532,857人 (102)	1,529,092人 (101)	1,521,615人 (101)	1,510,704人 (100)	1,503,386人 (100)	1,494,661人 (99)	1,487,741人 (99)	1,487,746人 (99)
第1号被保険者数	249,658人 (100)	427,683人 (171)	430,818人 (173)	432,999人 (173)	433,564人 (174)	433,448人 (174)	434,595人 (174)	434,769人 (174)	435,145人 (174)
65歳～74歳	153,875人 (100)	209,672人 (136)	208,193人 (135)	209,363人 (136)	205,229人 (133)	194,834人 (127)	186,330人 (121)	179,350人 (117)	177,322人 (115)
75歳～	95,783人 (100)	218,011人 (228)	222,625人 (232)	223,636人 (233)	228,335人 (238)	238,614人 (249)	248,265人 (259)	255,419人 (267)	257,823人 (269)
第2号被保険者数	529,848人 (100)	520,017人 (98)	520,376人 (98)	520,398人 (98)	519,906人 (98)	519,760人 (98)	518,357人 (98)	516,411人 (97)	516,677人 (98)
第1号被保険者数／神戸市人口	16.5%	27.9%	28.2%	28.5%	28.7%	28.8%	29.1%	29.2%	29.2%

注1 神戸市人口は、「住民基本台帳+外国人登録」記載の人数に基づく

注2 第1号被保険者数には、市外の介護保険施設に入所している住所地特例者の人数を含む

注3 第2号被保険者数は、「住民基本台帳+外国人登録」に記載する40歳～64歳までの人数

注4 () は、平成12年4月末時点を100とした場合の指数



（行政区別）

令和7年9月末現在 【単位：人】

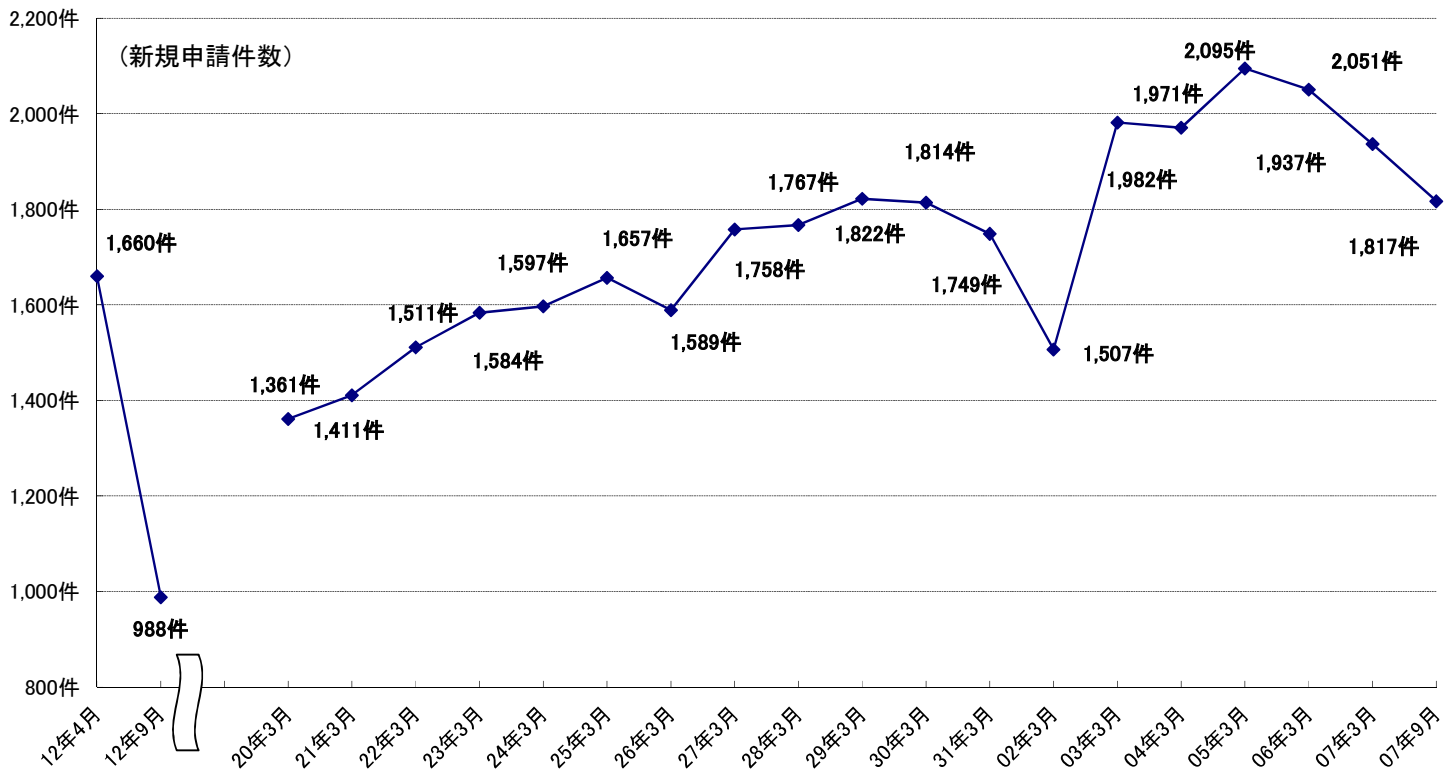
	東灘区	灘区	中央区	兵庫区	北区	長田区	須磨区	垂水区	西区	合計
区別人口	210,054	131,970	142,224	110,861	206,002	94,461	153,541	209,268	229,365	1,487,746
第1号被保険者数	54,570	33,896	32,685	29,495	67,254	30,706	51,210	64,801	70,528	435,145
65歳～74歳	22,868	13,627	13,706	11,468	26,640	11,633	19,598	25,158	32,624	177,322
75歳～	31,702	20,269	18,979	18,027	40,614	19,073	31,612	39,643	37,904	257,823
第1号被保険者数/ 区別人口 (%)	26.0%	25.7%	23.0%	26.6%	32.6%	32.5%	33.4%	31.0%	30.7%	29.2%

2. 要介護認定等の状況

(1) 要介護認定の申請、基本チェックリストの実施状況

	11年度中	12年4月	31年3月	02年3月	03年3月	04年3月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
要介護等認定申請者数	29,455人	1,843人	7,183人	6,337人	6,307人	7,140人	6,904人	6,104人	6,654人	6,584人
うち新規申請		1,660人	1,749人	1,507人	1,982人	1,971人	2,095人	2,051人	1,937人	1,817人
基本チェックリスト実施人数	—	—	36人	68人	91人	76人	88人	78人	147人	105人
うち新規実施	—	—	36人	68人	80人	62人	76人	69人	132人	87人

注1 基本チェックリスト実施人数には、要介護認定申請と同時にを行い、要介護認定を受けた方を含む。



新規申請者に対する判定結果（令和7年9月に判定結果が出たもの）

区分	非該当	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
人数	84人	550人	354人	278人	119人	75人	92人	72人	1,624人

新規基本チェックリスト実施者に対する判定結果（令和7年9月に判定結果が出たもの）

	非該当	該当
事業対象者	1人	85人

(2) 要介護認定者数・事業対象者数の推移

	12年4月末	31年3月末	02年3月末	03年3月末	04年3月末	05年3月末	06年3月末	07年3月末	07年9月末
要介護等認定者数	26,040人 (100) [100%]	89,072人 (342) [100%]	91,144人 (350) [100%]	91,755人 (352) [100%]	93,163人 (358) [100%]	94,126人 (361) [100%]	96,146人 (369) [100%]	98,153人 (377) [100%]	99,401人 (382) [100%]
要支援1	3,445人 (100) [13.2%]	18,417人 (535) [20.7%]	18,280人 (531) [20.1%]	18,368人 (533) [20.0%]	19,017人 (552) [20.4%]	19,474人 (565) [20.7%]	20,095人 (583) [20.9%]	20,800人 (604) [21.2%]	20,858人 (605) [21.0%]
要支援2	— —	17,613人 [19.8%]	18,561人 [20.4%]	18,018人 [19.6%]	18,008人 [19.3%]	18,469人 [19.6%]	18,982人 [19.7%]	19,711人 [20.1%]	20,018人 [20.1%]
要介護1	7,151人 (100) [27.5%]	13,491人 (189) [15.1%]	14,069人 (197) [15.4%]	15,145人 (212) [16.5%]	15,506人 (217) [16.6%]	15,799人 (221) [16.8%]	16,277人 (228) [16.9%]	16,557人 (232) [16.9%]	16,828人 (235) [16.9%]
要介護2	5,088人 (100) [19.5%]	12,767人 (251) [14.3%]	12,969人 (255) [14.2%]	12,765人 (251) [13.9%]	12,549人 (247) [13.5%]	12,367人 (243) [13.1%]	12,514人 (246) [13.0%]	12,948人 (254) [13.2%]	13,057人 (257) [13.1%]
要介護3	3,782人 (100) [14.5%]	10,174人 (269) [11.4%]	10,328人 (273) [11.3%]	10,450人 (276) [11.4%]	10,573人 (280) [11.3%]	10,355人 (274) [11.0%]	10,395人 (275) [10.8%]	10,532人 (278) [10.7%]	10,711人 (283) [10.8%]
要介護4	3,551人 (100) [13.6%]	9,535人 (269) [10.7%]	9,850人 (277) [10.8%]	10,251人 (289) [11.2%]	10,552人 (297) [11.3%]	10,704人 (301) [11.4%]	10,901人 (307) [11.3%]	11,015人 (310) [11.2%]	11,120人 (313) [11.2%]
要介護5	3,023人 (100) [11.6%]	7,075人 (234) [7.9%]	7,087人 (234) [7.8%]	6,758人 (224) [7.4%]	6,958人 (230) [7.5%]	6,958人 (230) [7.4%]	6,982人 (231) [7.3%]	6,590人 (218) [6.7%]	6,809人 (225) [6.9%]
うち第1号被保険者	25,312人	87,540人	89,599人	90,217人	91,636人	92,635人	94,641人	96,643人	97,848人
うち第2号被保険者	728人	1,532人	1,545人	1,538人	1,527人	1,491人	1,505人	1,510人	1,553人
第1号被保険者中の 認定者割合(%)	10.1%	20.5%	20.8%	20.8%	21.1%	21.4%	21.8%	22.2%	22.5%

※ () は、平成12年4月末時点を100とした場合の指数

[] は、構成比(端数整理の関係で合計が100%にならないことがある。)

	29年4月末	31年3月末	02年3月末	03年3月末	04年3月末	05年3月末	06年3月末	07年3月末	07年9月末
事業対象者数	51人 (100)	1,147人 (2,249)	1,231人 (2,414)	1,281人 (2,512)	1,317人 (2,582)	1,475人 (2,892)	1,546人 (3,031)	1,671人 (3,276)	1,772人 (3,475)
第1号被保険者中の 事業対象者割合(%)	—	0.27%	0.29%	0.30%	0.30%	0.34%	0.36%	0.38%	0.41%

※ () は、平成29年4月末時点を100とした場合の指数

3. 介護保険サービスの利用状況

(1) サービス利用者数等の推移

		12年4月	31年3月	02年3月	03年03月	04年3月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
サービス利用者数	(a) 在宅サービス	13,767人 (100)	61,027人 (443)	62,142人 (451)	63,713人 (463)	64,277人 (467)	65,846人 (478)	67,087人 (487)	68,460人 (497)	69,785人 (507)
	(うち総合事業)	—	21,863人	21,080人	20,997人	20,733人	21,882人	22,572人	22,691人	22,998人
	(b) 施設サービス	6,899人 (100)	10,152人 (147)	10,404人 (151)	10,301人 (149)	10,461人 (152)	10,603人 (154)	10,781人 (156)	10,947人 (159)	10,943人 (159)
	(c) 重複分	167人 (100)	354人 (212)	354人 (212)	300人 (180)	318人 (190)	380人 (228)	351人 (210)	319人 (191)	334人 (200)
	(d) 実数 (a)+(b)-(c)	20,499人 (100)	70,825人 (346)	72,192人 (352)	73,714人 (360)	74,420人 (363)	76,069人 (371)	77,517人 (378)	79,088人 (386)	80,394人 (392)
(e) 要介護認定者数	26,040人	89,072人	91,144人	91,755人	93,163人	94,126人	96,146人	98,153人	99,401人	
(f) 事業対象者数	—	1,147人	1,231人	1,281人	1,317人	1,475人	1,546人	1,671人	1,772人	
サービス利用率 (d)÷((e)+(f))	78.7%	78.5%	78.2%	79.2%	78.8%	79.6%	79.3%	79.2%	79.5%	

注1 兵庫県国保連合会給付実績情報等において、令和7年11月審査分までのデータに基づき作成したもので、月遅れ請求の存在等により、今後も変動する。

注2 「(C)重複分」は、同じ月内に在宅サービスと施設サービスの両方を利用した者の人数

注3 「総合事業」は、介護予防訪問サービス、生活支援訪問サービス、介護予防通所サービスを利用した者の人数

注4 () は、平成12年4月分を100とした場合の指数

(2) 要介護度別サービス利用者の状況

令和7年9月分

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	事業対象者
サービス利用者数	(a) 在宅サービス	13,451人	15,459人	13,586人	10,606人	6,654人	5,611人	3,361人	68,728人	—
	構成割合	19.6%	22.5%	19.8%	15.4%	9.7%	8.2%	4.9%	100.0%	—
	(うち総合事業)	9,991人	11,950人	0人	0人	0人	0人	0人	21,941人	1,057人
	(b) 施設サービス	0人	0人	540人	1,194人	2,966人	3,957人	2,286人	10,943人	—
	構成割合	0.0%	0.0%	4.9%	10.9%	27.1%	36.2%	20.9%	100.0%	—
(c) 重複分	0人	0人	35人	64人	100人	88人	47人	334人	—	
構成割合	0.0%	0.0%	10.5%	19.2%	29.9%	26.3%	14.1%	100.0%	—	
(d) 実数 (a)+(b)-(c)	13,451人	15,459人	14,091人	11,736人	9,520人	9,480人	5,600人	79,337人	1,057人	
構成割合	17.0%	19.5%	17.8%	14.8%	12.0%	11.9%	7.1%	100.0%	100.0%	
(e) 要介護認定者数	20,858人	20,018人	16,828人	13,057人	10,711人	11,120人	6,809人	99,401人	—	
(f) 事業対象者数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,772人
サービス利用率 (d)÷((e)+(f))	64.5%	77.2%	83.7%	89.9%	88.9%	85.3%	82.2%	79.8%	59.7%	

注1 兵庫県国保連合会給付実績情報等において、令和7年11月審査分までのデータに基づき作成したもので、月遅れ請求の存在等により、今後も変動する。

注2 「(C)重複分」は、同じ月内に在宅サービスと施設サービスの両方を利用した者の人数

注3 「総合事業」は、介護予防訪問サービス、生活支援訪問サービス、介護予防通所サービスを利用した者の人数

(3) サービス毎の利用状況と推移

① (在宅サービス)

	12年4月	31年3月	02年3月	03年03月	04年03月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
訪問介護	6,593人 (100)	13,567人 (206)	13,616人 (207)	13,757人 (209)	13,865人 (210)	13,786人 (209)	13,657人 (207)	13,589人 (206)	13,923人 (211)
(総合事業含)	—	24,840人	24,847人	24,586人	24,456人	24,387人	24,046人	23,578人	23,950人
うち介護予防サービス (要支援者に対するサービス)	1,439人 (100)	—	—	—	—	—	—	—	—
訪問入浴介護	780人 (100)	840人 (108)	825人 (106)	958人 (123)	950人 (122)	933人 (120)	880人 (113)	885人 (113)	903人 (116)
	2,430回 (100)	4,252回 (175)	4,265回 (176)	4,974回 (205)	4,921回 (203)	4,829回 (199)	4,653回 (191)	4,419回 (182)	4,679回 (193)
	3.1回/人	5.1回/人	5.2回/人	5.2回/人	5.2回/人	5.2回/人	5.3回/人	5.0回/人	5.2回/人
うち介護予防サービス (要支援者に対するサービス)	0人 —	10人 —	5人 —	9人 —	6人 —	11人 —	9人 —	8人 —	5人 —
訪問看護	2,523人 (100)	10,651人 (422)	11,704人 (464)	12,780人 (507)	13,632人 (540)	14,470人 (574)	15,327人 (607)	16,196人 (642)	16,716人 (663)
	12,279回 (100)	102,377回 (834)	114,822回 (935)	135,882回 (1,107)	139,105回 (1,133)	145,146回 (1,182)	144,355回 (1,176)	148,056回 (1,206)	156,947回 (1,278)
	4.9回/人	9.6回/人	9.8回/人	10.6回/人	10.2回/人	10.0回/人	9.4回/人	9.1回/人	9.4回/人
うち介護予防サービス (要支援者に対するサービス)	62人 (100)	2,716人 (4,381)	3,207人 (5,173)	3,457人 (5,576)	3,723人 (6,005)	4,183人 (6,747)	4,528人 (7,303)	4,811人 (7,760)	4,933人 (7,956)
訪問 リハビリテーション	128人 (100)	1,572人 (1,228)	1,687人 (1,318)	1,828人 (1,428)	1,876人 (1,466)	1,985人 (1,551)	2,057人 (1,607)	2,082人 (1,627)	2,130人 (1,664)
	386回 (100)	19,298回 (4,999)	20,750回 (5,376)	23,848回 (6,178)	24,000回 (6,218)	26,050回 (6,749)	24,952回 (6,464)	24,777回 (6,419)	26,086回 (6,758)
	3.0回/人	12.3回/人	12.3回/人	13.0回/人	12.8回/人	13.1回/人	12.1回/人	11.9回/人	12.2回/人
うち介護予防サービス (要支援者に対するサービス)	2人 (100)	427人 (21,350)	479人 (23,950)	532人 (26,600)	559人 (27,950)	625人 (31,250)	707人 (35,350)	736人 (36,800)	761人 (38,050)
居宅療養 管理指導	2,051人 (100)	12,036人 (587)	12,647人 (617)	14,280人 (696)	14,936人 (728)	16,026人 (781)	16,744人 (816)	18,026人 (879)	18,817人 (917)
	3,034回 (100)	19,289回 (636)	19,520回 (643)	23,527回 (775)	24,498回 (807)	26,769回 (882)	28,686回 (945)	32,071回 (1,057)	33,776回 (1,113)
	1.5回/人	1.6回/人	1.5回/人	1.6回/人	1.6回/人	1.7回/人	1.7回/人	1.8回/人	1.8回/人
うち介護予防サービス (要支援者に対するサービス)	74人 (100)	1,525人 (2,061)	1,661人 (2,245)	1,883人 (2,545)	1,878人 (2,538)	2,111人 (2,853)	2,246人 (3,035)	2,500人 (3,378)	2,622人 (3,543)
福祉用具貸与	535人 (100)	29,463人 (5,507)	30,805人 (5,758)	31,959人 (5,974)	33,040人 (6,176)	33,936人 (6,343)	34,581人 (6,464)	35,565人 (6,648)	36,328人 (6,790)
	1,392品目 (100)	106,999品目 (7,687)	113,624品目 (8,163)	120,143品目 (8,631)	126,722品目 (9,104)	131,751品目 (9,465)	135,609品目 (9,742)	141,666品目 (10,177)	145,066品目 (10,421)
	2.6品目/人	3.6品目/人	3.7品目/人	3.8品目/人	3.8品目/人	3.9品目/人	3.9品目/人	4.0品目/人	4.0品目/人
うち介護予防サービス (要支援者に対するサービス)	10人 (100)	10,444人 (104,440)	11,157人 (111,570)	11,507人 (115,070)	12,071人 (120,710)	12,872人 (128,720)	13,382人 (133,820)	13,901人 (139,010)	14,154人 (141,540)

	12年4月	31年3月	02年3月	03年03月	04年03月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
通所介護	5,536人 (100)	15,027人 (271)	14,765人 (267)	14,475人 (261)	14,050人 (254)	14,742人 (266)	14,947人 (270)	14,984人 (271)	15,376人 (278)
(総合事業含)	—	25,612人	24,608人	24,643人	24,192人	26,023人	27,129人	27,686人	28,347人
うち介護予防サービス (要支援者に対する サービス)	899人 (100)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
通所 リハビリテーション	1,955人 (100)	6,546人 (335)	6,388人 (327)	6,315人 (323)	6,068人 (310)	6,331人 (324)	6,554人 (335)	6,774人 (346)	6,874人 (352)
うち介護予防サービス (要支援者に対する サービス)	124人 (100)	2,359人 (1,902)	2,336人 (1,884)	2,375人 (1,915)	2,307人 (1,860)	2,492人 (2,010)	2,678人 (2,160)	2,786人 (2,247)	2,866人 (2,311)
短期入所 生活介護	1,345人 (100)	3,523人 (262)	3,311人 (246)	3,177人 (236)	3,095人 (230)	3,332人 (248)	3,360人 (250)	3,190人 (237)	3,193人 (237)
	9,936日 (100)	43,288日 (436)	42,640日 (429)	43,171日 (434)	40,887日 (412)	42,281日 (426)	43,171日 (434)	39,696日 (400)	39,213日 (395)
	7.4日/人	12.3日/人	12.9日/人	13.6日/人	13.2日/人	12.7日/人	12.8日/人	12.4日/人	12.3日/人
うち介護予防サービス (要支援者に対する サービス)	22人 (100)	114人 (518)	94人 (427)	89人 (405)	97人 (441)	105人 (477)	113人 (514)	113人 (514)	100人 (455)
短期入所 療養介護	162人 (100)	725人 (448)	658人 (406)	616人 (380)	555人 (343)	631人 (390)	635人 (392)	602人 (372)	618人 (381)
	1,085日 (100)	6,356日 (586)	6,128日 (565)	5,507日 (508)	4,924日 (454)	5,142日 (474)	5,256日 (484)	4,698日 (433)	4,961日 (457)
	6.7日/人	8.8日/人	9.3日/人	8.9日/人	8.9日/人	8.1日/人	8.3日/人	7.8日/人	8.0日/人
うち介護予防サービス (要支援者に対する サービス)	2人 (100)	17人 (850)	14人 (700)	12人 (600)	10人 (500)	11人 (550)	10人 (500)	11人 (550)	14人 (700)
特定施設 入居者生活介護	217人 (100)	4,499人 (2,073)	4,705人 (2,168)	4,823人 (2,223)	4,886人 (2,252)	5,017人 (2,312)	5,163人 (2,379)	5,396人 (2,487)	5,481人 (2,526)
うち介護予防サービス (要支援者に対する サービス)	21人 (100)	1,042人 (4,962)	1,081人 (5,148)	1,067人 (5,081)	1,056人 (5,029)	1,066人 (5,076)	1,095人 (5,214)	1,203人 (5,729)	1,219人 (5,805)
居宅介護支援	13,225人 (100)	42,249人 (319)	43,649人 (330)	44,950人 (340)	45,548人 (344)	47,028人 (356)	47,911人 (362)	48,644人 (368)	49,747人 (376)
うち要支援者に対する サービス	2,272人 (100)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
うち介護予防支援	— —	13,574人 (597)	14,464人 (637)	15,042人 (662)	15,419人 (679)	16,607人 (731)	17,404人 (766)	17,973人 (791)	18,348人 (808)

注1 兵庫県国保連合会給付実績情報等において、令和7年11月審査分までのデータに基づき作成したもので、月遅れ請求の存在等により、今後も変動する。

注2 () は、平成12年4月分を100とした場合の指数

注3 「訪問介護」欄の「(総合事業含)」欄は、居宅サービスの「訪問介護」に総合事業の「介護予防訪問サービス」と「生活支援訪問サービス」を加えた人数

注4 「通所介護」欄の「(総合事業含)」欄は、居宅サービスの「通所介護」に総合事業の「介護予防通所サービス」を加えた人数

	12年4月	31年3月	02年3月	03年3月	04年3月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	—	182人	189人	215人	239人	333人	381人	464人	491人
夜間対応型訪問介護	—	1人	1人	2人	2人	3人	4人	4人	4人
認知症対応型通所介護	—	538人	558人	582人	536人	581人	598人	568人	550人
小規模多機能型居宅介護	—	836人	848人	859人	917人	875人	801人	791人	829人
認知症対応型共同生活介護	17人 (100)	2,254人 (13,259)	2,456人 (14,447)	2,456人 (14,447)	2,496人 (14,682)	2,575人 (15,147)	2,588人 (15,224)	2,704人 (15,906)	2,730人 (16,059)
小規模特別養護老人ホーム	—	611人	632人	642人	661人	663人	699人	711人	718人
看護小規模多機能型居宅介護	—	154人	211人	248人	256人	292人	301人	320人	333人

注1 兵庫県国保連合会給付実績情報等において、令和7年11月審査分までのデータに基づき作成したもので、月遅れ請求の存在等により、今後変動する。

注2 () は、平成12年4月分を100とした場合の指数

② (施設サービス)

	12年4月	31年3月	02年3月	03年3月	04年3月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
特別養護老人ホーム	4,122人 (100)	5,772人 (140)	6,200人 (150)	6,258人 (152)	6,519人 (158)	6,662人 (162)	6,872人 (167)	6,896人 (167)	6,893人 (167)
うち小規模特別養護老人ホーム(再掲)	—	611人	632人	642人	661人	663人	699人	711人	718人
介護老人保健施設	1,987人 (100)	4,738人 (238)	4,761人 (240)	4,645人 (234)	4,575人 (230)	4,584人 (231)	4,634人 (233)	4,782人 (241)	4,785人 (241)
介護療養型医療施設	842人 (100)	282人 (33)	102人 (12)	76人 (9)	66人 (8)	70人 (8)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)
介護医療院	—	9人	207人 (100)	339人 (164)	375人 (181)	366人 (177)	450人 (217)	440人 (213)	444人 (131)

注1 兵庫県国保連合会給付実績情報等において、令和7年11月審査分までのデータに基づき作成したもので、月遅れ請求の存在等により、今後変動する。

注2 () は、平成12年4月分を100とした場合の指数

「介護医療院」は、平成30年10月より開始。() は、令和2年3月分を100とした場合の指数

注3 平成12年4月分の老人保健施設の利用者数は、老人保健施設のショートステイの利用者数を含む

注4 介護療養型医療施設は令和6年3月末で終了

③ (住宅改修及び福祉用具購入)

	12年度	30年度	元年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度 4月～9月末
住宅改修	2,185件 (100)	7,353件 (337)	7,276件 (333)	6,829件 (313)	6,800件 (311)	6,835件 (313)	6,865件 (314)	7,170件 (328)	3,536件 (162)
福祉用具購入	3,395件 (100)	6,240件 (184)	6,362件 (187)	6,608件 (195)	6,383件 (188)	6,486件 (191)	6,398件 (188)	7,146件 (210)	3,225件 (95)

注1 年度区分は支給決定月に基づく(利用年度ではない)

注2 () は、平成12年度を100とした場合の指数

④（市町村特別給付）

	20年度	30年度	元年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度 3月～8月
ミドルステイ	21件	3件	4件	18件	5件	0件	1件	3件	0件
緊急ショートステイ	0件	2件	1件	1件	0件	0件	0件	0件	0件
緊急一時保護	—	3件	1件	0件	3件	0件	0件	2件	2件
災害時ショートステイ	—	—	—	—	1件	4件	0件	0件	0件

注1 3月～翌年2月分の利用実績

⑤（総合事業）

	29年4月	30年3月	02年3月	03年3月	04年3月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
介護予防 訪問サービス	635人 (100)	10,646人 (1,677)	9,174人 (1,445)	8,775人 (1,382)	8,360人 (1,317)	8,217人 (1,294)	8,029人 (1,264)	7,710人 (1,214)	7,796人 (1,228)
生活支援 訪問サービス	80人 (100)	506人 (633)	2,057人 (2,571)	2,054人 (2,568)	2,231人 (2,789)	2,384人 (2,980)	2,360人 (2,950)	2,279人 (2,849)	2,231人 (2,789)
住民主体 訪問サービス	0人 —	9人 (100)	56人 (622)	57人 (633)	37人 (411)	56人 (622)	57人 (633)	66人 (733)	78人 (867)
介護予防 通所サービス	542人 (100)	9,677人 (1,785)	9,843人 (1,816)	10,168人 (1,876)	10,142人 (1,871)	11,281人 (2,081)	12,182人 (2,248)	12,702人 (2,344)	12,971人 (2,393)
短期集中 通所サービス	— —	70人 —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
フレイル改善 通所サービス	— —	— —	116人 (100)	90人 (78)	148人 (128)	165人 (142)	115人 (99)	225人 (194)	233人 (201)

注1 「介護予防訪問サービス」「生活支援訪問サービス」「介護予防通所サービス」については、兵庫県国保連合会給付実績情報等を令和7年11月審査分までのデータに基づき作成したもので、月遅れ請求の存在等により、今後変動する。

注2 () は、平成29年4月分を100とした場合の指数

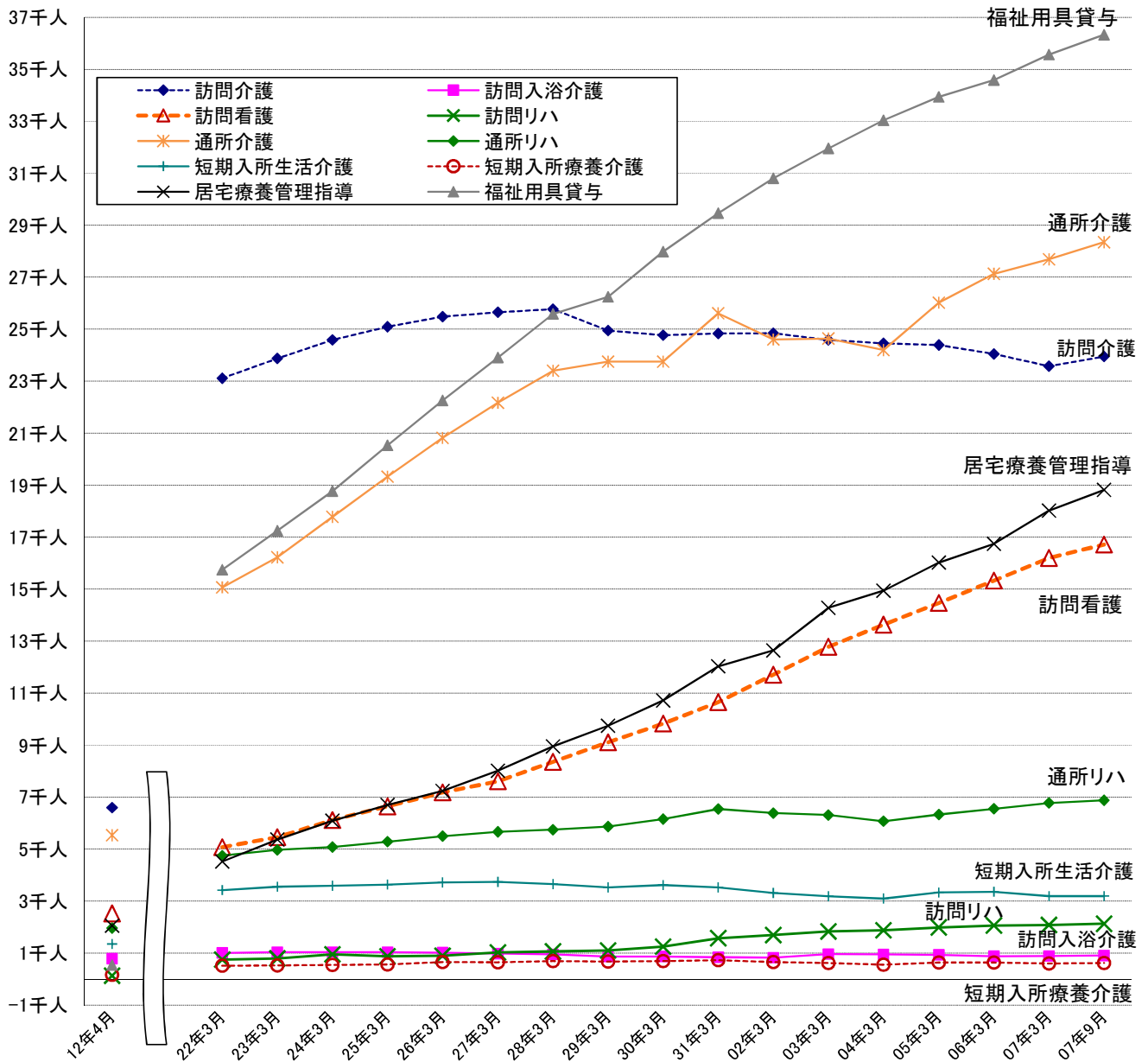
「住民主体訪問サービス」の () は、平成30年3月分を100とした場合の指数

「フレイル改善通所サービス」は、平成30年10月より開始。() は、令和2年3月分を100とした場合の指数

注3 「短期集中通所サービス」は、平成29年7月より開始。平成30年12月終了

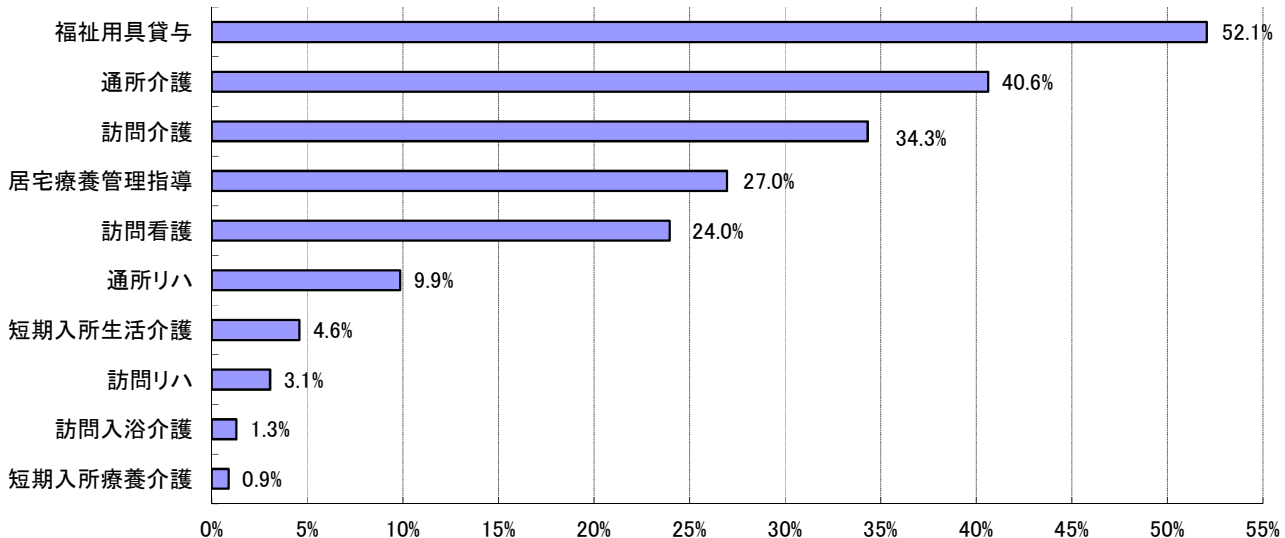
4. 在宅サービスの種類別利用状況

(1) サービス種類別利用人数の推移



(2) サービス種類別利用者割合 (各サービス利用者数 / 在宅サービス利用者総数)

令和7年9月利用分

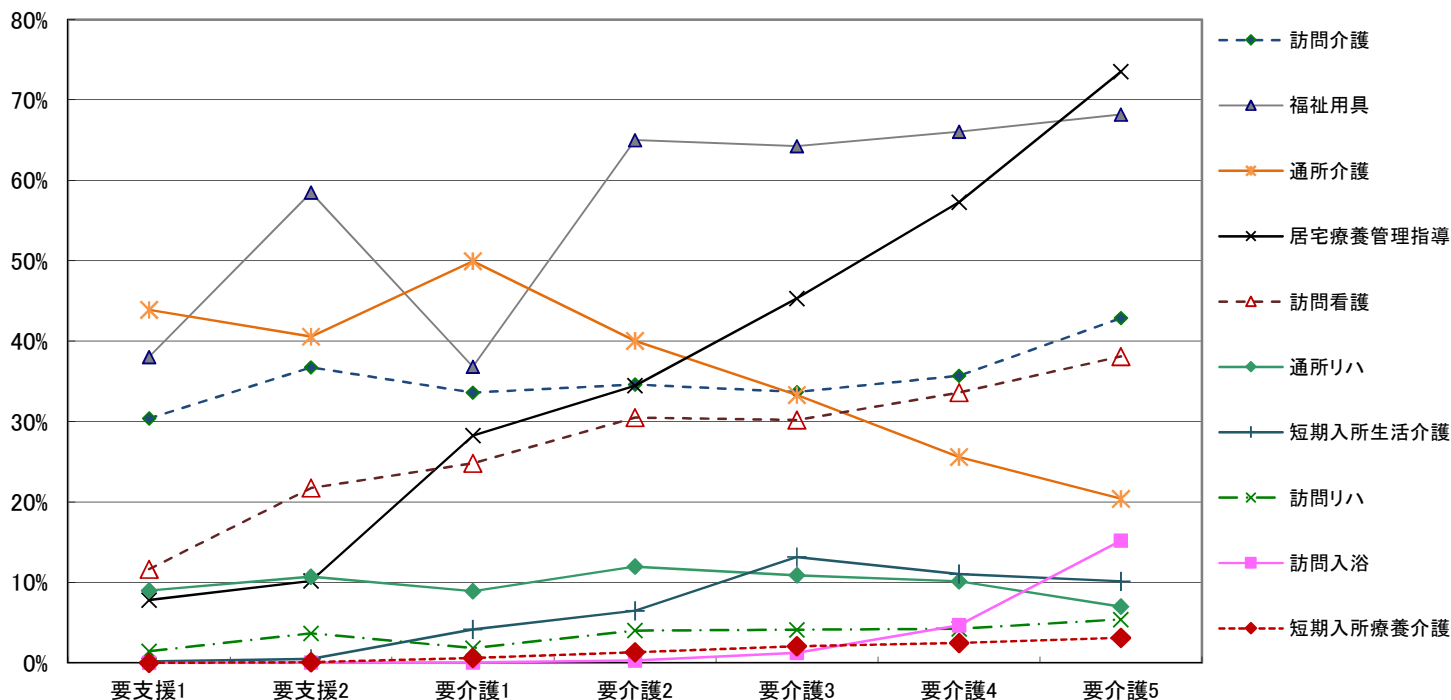


※通所介護、訪問介護は総合事業分も含む

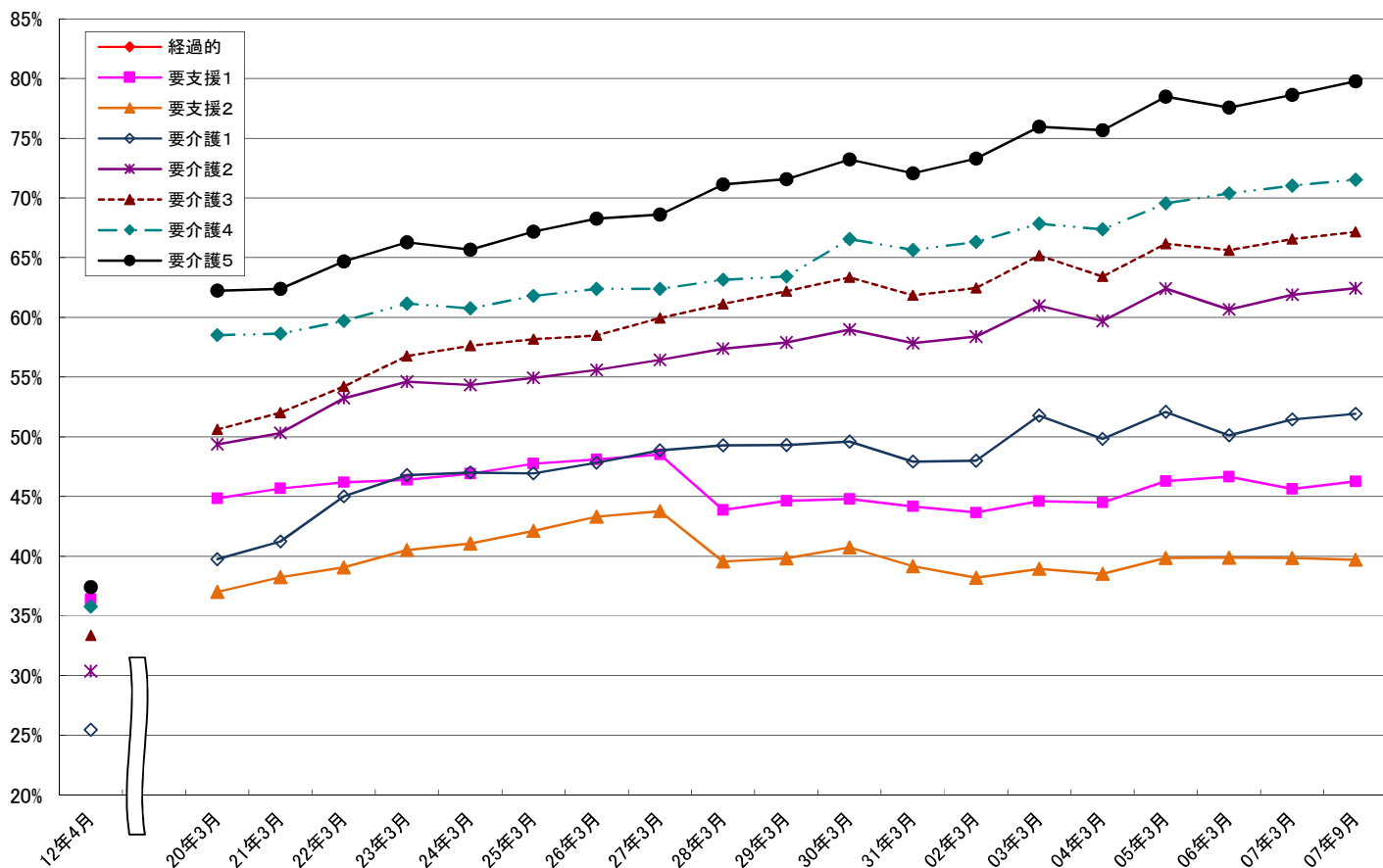
(3) 要介護度別サービス利用者割合

(各サービスの利用者数/在宅サービス利用者総数)

令和7年9月利用分



(4) 要介護度別支給限度額に対する利用割合の推移



令和7年9月利用分

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
利用率	46.3%	39.7%	51.9%	62.4%	67.1%	71.5%	79.8%	59.0%

5. 指定事業者等・定員数の推移等

①（在宅サービス）

		12年3月	31年3月	02年3月	03年3月	04年3月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
訪問介護	事業所数	48	588	584	581	586	601	604	611	603
介護予防訪問介護	事業所数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
介護予防訪問サービス	事業所数	—	544	541	538	536	550	553	557	549
生活支援訪問サービス	事業所数	—	304	308	315	325	336	290	312	305
住民主体訪問サービス	実施団体数	—	6	6	5	5	5	5	5	5
訪問入浴介護	事業所数	4	14	14	13	14	14	14	14	14
訪問看護	事業所数	60	195	201	221	242	262	284	316	318
訪問リハビリテーション	事業所数	—	19	22	22	28	29	29	30	32
福祉用具貸与	事業所数	10	102	101	100	98	100	104	102	100
特定福祉用具販売	事業所数	—	96	97	95	95	96	101	97	96
通所介護	事業所数	58	456	455	464	464	465	461	466	460
	定員数(人)	1,250	10,690	10,702	11,114	11,130	11,231	11,192	11,286	11,113
うち 地域密着型通所介護	事業所数	—	211	208	211	211	211	209	212	210
	定員数(人)	—	2,685	2,653	2,914	2,945	2,990	2,953	3,002	2,984
介護予防通所介護	事業所数	—	—	—	—	—	—	—	—	—
介護予防通所サービス	事業所数	—	425	421	436	436	436	431	444	439
通所リハビリテーション	事業所数	19	849	924	984	1,052	1,104	1,131	1,189	1,229
短期入所生活介護	事業所数	41	109	114	117	119	122	126	126	125
	定員数(人)	748	1,553	1,589	1,602	1,600	1,610	1,638	1,578	1,518
短期入所療養介護	事業所数	19	96	95	94	91	92	91	90	91
認知症対応型 共同生活介護	施設数	1	123	125	131	134	137	137	140	142
	定員数(人)	8	2,379	2,457	2,610	2,673	2,764	2,763	2,870	2,931
特定施設入居者 生活介護	施設数	6	103	107	109	110	113	114	117	117
	定員数(人)	1,081	8,578	8,836	8,982	9,064	9,314	9,658	9,878	9,819
居宅介護支援	事業所数	276	476	470	448	422	423	410	406	403
介護予防支援	事業所数	—	76	76	76	76	76	76	149	159

注1 社会福祉・医療事業団「WAM NET」指定事業者情報提供システム等に基づき作成(平成24年3月迄)(※休止中の事業所を除く)

注2 訪問看護は訪問看護ステーションのみ

注3 通所リハビリテーション、短期入所療養介護は病院、診療所を含む。但し、平成12年3月分については老人保健施設のみ

注4 短期入所生活介護の定員数は専用床のみ

注5 平成28年度より地域密着型通所介護の項目を追加

注6 平成29年度より総合事業の項目を追加

注7 令和6年度より訪問リハビリステーションは老人保健施設・介護医療院を含む。(みなし指定に変更)

注8 令和6年度より指定居宅介護支援事業者も指定を受けて介護予防支援事業を実施。

		12年3月	31年3月	02年3月	03年3月	04年3月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	事業所数	—	13	14	16	18	19	24	28	27
夜間対応型訪問介護	事業所数	—	1	1	1	3	3	2	2	2
看護小規模多機能型居宅介護	事業所数	—	9	11	13	13	15	15	16	16
小規模多機能型居宅介護	事業所数	—	46	45	45	47	46	41	41	42
	定員数(人)	—	1,226	1,201	1,220	1,276	1,262	1,126	1,123	1,159
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	事業所数	—	27	26	26	27	27	28	29	29
	定員数(人)	—	680	670	673	693	702	722	750	750
認知症対応型通所介護	事業所数	—	28	29	31	31	32	31	32	30
	定員数(人)	—	335	347	356	356	362	359	371	355

注1 社会福祉・医療事業団「WAM NET」指定事業者情報提供システム等に基づき作成（平成24年3月迄）（※休止中の事業所を除く）

注2 訪問看護は訪問看護ステーションのみ

注3 通所リハビリテーション、短期入所療養介護は病院、診療所を含む。但し、平成12年3月分については老人保健施設のみ

注4 短期入所生活介護の定員数は専用床のみ

注5 平成28年度より地域密着型通所介護の項目を追加

②（施設サービス）

		12年3月	31年3月	02年3月	03年3月	04年3月	05年3月	06年3月	07年3月	07年9月
介護老人福祉施設	施設数	47	108	113	118	121	123	125	126	126
	定員数(人)	3,310	6,161	6,594	6,959	7,231	7,439	7,615	7,656	7,656
うち地域密着型介護老人福祉施設	施設数	—	26	26	27	28	28	28	29	29
	定員数(人)	—	660	679	699	728	728	722	750	750
介護老人保健施設	施設数	19	63	63	63	63	65	65	65	65
	定員数(人)	1,757	5,431	5,461	5,461	5,461	5,605	5,605	5,653	5,653
療養強化型老健施設	施設数	—	1	1	0	0	0	0	0	0
	定員数(人)	—	90	90	0	0	0	0	0	0
介護療養型医療施設	施設数	—	7	4	3	2	2	1	—	—
	定員数(人)	—	305	97	81	70	70	10	—	—
介護医療院	施設数	—	1	2	5	6	6	7	7	7
	定員数(人)	—	18	197	365	377	377	463	463	463
施設合計	施設数	66	180	183	189	192	196	198	198	198
	定員数(人)	5,067	12,005	12,439	12,866	13,139	13,491	13,693	13,772	13,772

注1 介護老人福祉施設に地域密着型介護老人福祉施設（再掲）を含む（平成18年度から）

注2 旧一部ユニット型施設については、平成23年9月1日以降に指定、許可の更新があった施設について、ユニット型施設および従来型施設をそれぞれ別施設として計上（平成27年3月より）

注3 介護療養型老健施設→療養強化型老健施設に名称変更（平成28年3月より）

注4 介護療養型医療施設は令和6年3月末で終了

③（あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）の相談対応状況）

業 務	30年度	元年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度 4月～9月
介護予防ケアマネジメント	370,354	427,124	373,478	358,614	369,372	369,812	369,204	180,204
総合相談支援	101,682	122,264	120,138	127,561	135,280	138,650	138,839	69,342
権利擁護支援	12,716	11,739	14,395	12,355	11,016	10,989	11,710	5,810
包括的・継続的ケアマネジメント支援	26,210	28,852	32,993	33,869	34,119	33,071	33,613	15,404
その他(要介護(要支援)認定の 申請代行等)	40,071	41,600	44,265	43,684	46,791	46,459	39,410	20,919
計	551,033	631,579	585,269	576,083	596,578	598,981	592,776	291,679

※ 具体的な業務

介護予防ケアマネジメント：要支援1・2及び特定高齢者の方を対象とする介護予防サービスと介護や支援が必要になるおそれのある方を対象とするサービスの適切な実施のために、ケアプランの作成を行う。

令和元年度より介護予防ケアマネジメントにかかるモニタリングやサービス担当者会議の実施回数を計上するよう変更した。

総合相談支援：高齢者やその家族、地域住民から様々な相談を受け、また、高齢者を個別訪問などして、必要な支援を把握し、適切なサービス利用の調整を行う。

権利擁護支援：高齢者虐待の対応、悪質な訪問販売等による消費者被害の防止、成年後見制度の活用を支援するなどにより、高齢者の権利を擁護する。

包括的・継続的ケアマネジメント支援：高齢者の心身の状態やその変化に合わせて、必要なサービスが提供されるようにケアマネジャーへの助言・指導や医療機関など関係機関との調整を行う。

参考（サービス付高齢者向け住宅）

		30年3月	31年3月	02年3月	03年3月	04年3月	05年03月	06年03月	07年3月	07年9月
サービス付 高齢者向け住宅	件数	93	92	99	111	116	119	118	121	124
	戸数	3,444	3,458	3,726	4,354	4,526	4,810	4,826	5,016	5,197
うち特定施設 入居者生活介護施設	件数	1	3	4	5	6	7	7	9	9
	戸数	70	186	241	321	403	499	495	675	675

注1 サービス付高齢者向け住宅の件数・戸数については平成29年3月分より掲載

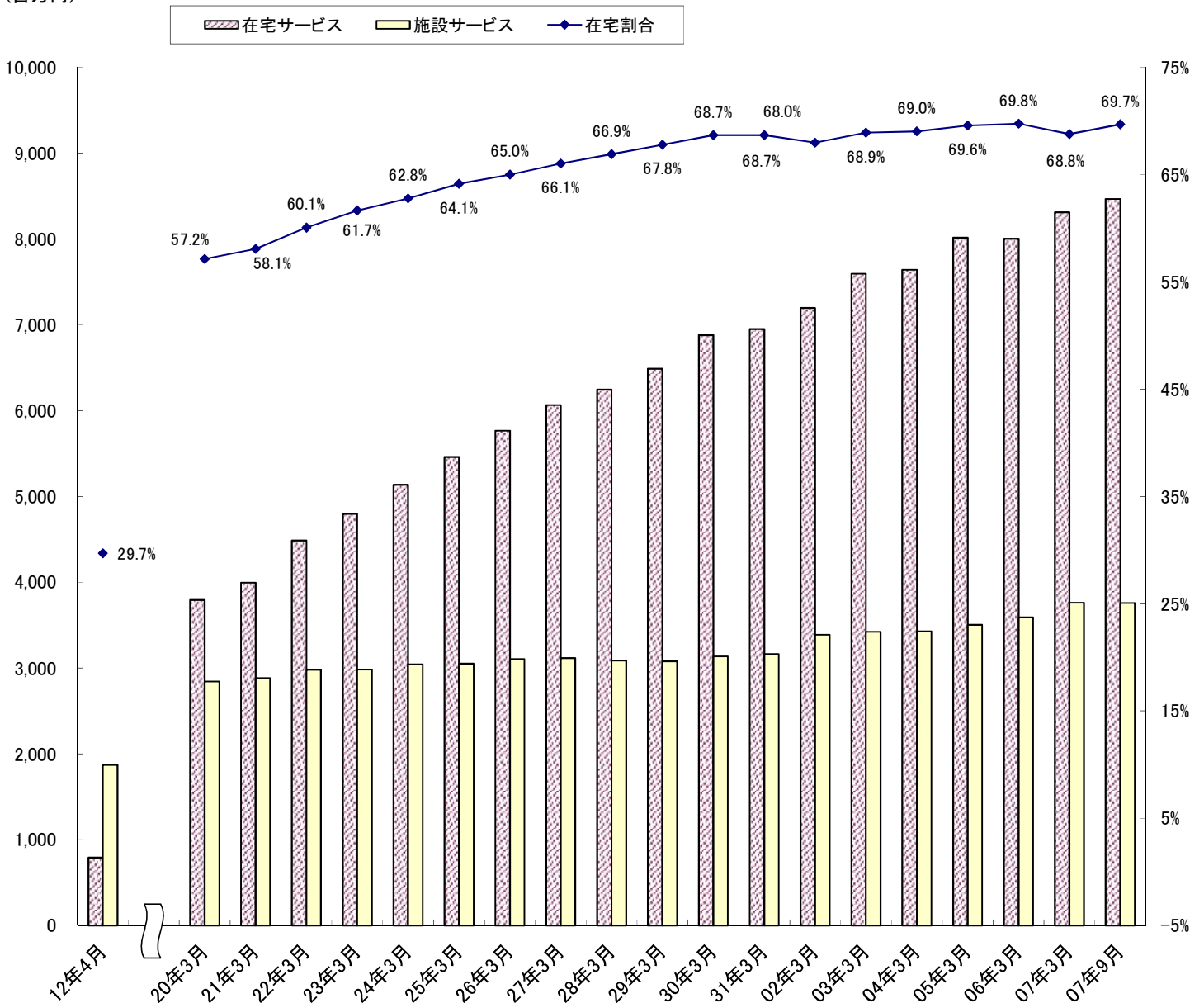
6. 介護給付費の支払状況

【単位：百万円】

サービス提供月	12年4月分	12年度合計	03年3月分	03年度合計 (対前年比増)	04年3月分	04年度合計 (対前年比増)	05年3月分	05年度合計 (対前年比増)	06年3月分	06年度合計 (対前年比増)	07年3月分	07年3月～9月
在宅サービス	790	12,467	7,596	89,942 (3.6%)	7,643	92,272 (2.6%)	8,017	95,318 (3.3%)	8,005	98,228 (3.1%)	8,312	59,010
うち総合事業	—	—	520	6,248	509	6,401	545	6,700	561	6,744	565	3,958
施設サービス	1,871	24,360	3,423	40,412 (0.4%)	3,427	40,823 (1.0%)	3,503	42,144 (3.2%)	3,590	44,044 (4.5%)	3,762	26,008
合計	2,661	36,827	11,019	130,354 (2.6%)	11,070	133,095 (2.1%)	11,520	137,462 (3.3%)	11,595	142,272 (3.5%)	12,074	85,018

- 注1 兵庫県国保連合会に対する支払い実績を集計したもの
- 注2 福祉用具購入費、住宅改修費等償還払い、高額介護サービス費（公費負担分等）を除く
- 注3 各年度合計については、平成12年度は4月～2月分(11か月分)の合計であり、平成13年度からは3月～2月分(12か月分)の合計
- 注4 「総合事業」は、介護予防訪問サービス、生活支援訪問サービス、介護予防通所サービスのみ

(百万円)



7. 保険料の収納状況等

(1) 介護保険料収納状況

【単位:千円】

		12年度	元年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年 4月～9月
特別徴収	調定額	1,887,226	26,340,166	25,462,028	26,004,657	26,265,048	26,131,609	27,970,595	14,140,513
	収納額 (年金引去)	1,887,226	26,340,166	25,462,028	26,004,657	26,265,048	26,131,609	27,970,595	14,140,513
	収納率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
普通徴収	調定額	512,455	2,739,853	2,735,970	3,051,161	3,024,820	2,796,114	3,608,787	1,515,004
	収納額	470,921	2,452,190	2,498,311	2,806,146	2,790,431	2,593,963	3,073,647	1,065,266
	収納率	91.90%	89.50%	91.31%	91.97%	92.25%	92.77%	85.17%	70.31%
合 計	調定額	2,399,681	29,080,019	28,197,998	29,055,818	29,289,868	28,927,723	31,579,382	15,655,517
	収納額	2,358,147	28,792,356	27,960,339	28,810,803	29,055,479	28,725,572	31,044,242	15,205,779
	収納率	98.27%	99.01%	99.16%	99.16%	99.20%	99.30%	98.31%	97.13%

※ 還付未済額を除く

(2) 保険料減免の状況

減免の対象となる方	12年度	元年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年 4月～9月
①保険料段階が第1段階・第2段階・第3段階の方のうち、収入が少なく生活が著しく困窮している方	2,590件	1,466件	1,334件	1,195件	1,144件	1,060件	974件	872件
②失業等により、ご本人やご家族の所得が前年に比べて、半分に以下に減少する方うちの一定の方	324件	198件	3,743件	1,038件	605件	324件	355件	222件
③災害により、住宅、家財に5割以上の被害を受けた方のうち一定の方	0件	20件	21件	11件	26件	24件	21件	13件
④刑事施設等への収監（2か月を超える場合）により、サービスを受けることができなくなる方	4件	28件	17件	30件	30件	36件	30件	12件
⑤保険料段階が第3段階の方のうち「市在日外国人等福祉給付金を受給している方（職権適用分）」	539件	0件	0件	1件	1件	0件	0件	0件

※ 実績は減免決定件数

① 平成18年度からは、保険料段階が第3段階も対象。ただし、平成18年度からの保険料段階 新2段階の設定により対象者は減少

⑤ 平成18年度から、保険料段階の第3段階が対象のため対象者は減少

(3) 利用料軽減措置の状況

減免の対象となる方	12年度	元年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年 4月～9月
①利用料の世帯合計額が一定の上限を超える場合、超過額を高額介護サービス費として支給	延28,959件	延275,666件	延287,889件	延290,963件	延294,786件	延302,826件	延312,399件	延158,226件
②従来から訪問介護を無料で利用していた人等の利用料を軽減又は免除	5,523件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
③特別養護老人ホームにおける旧措置入所者の利用料の軽減	3,701件	29件	24件	13件	8件	6件	3件	3件
④特別養護老人ホームにおける旧措置入所者の食事標準負担額の軽減	3,701件	—	—	—	—	—	—	—
⑤介護保険施設入所者の食事標準負担額の軽減	2,775件	—	—	—	—	—	—	—
⑥介護保険施設入所者とショートステイの食費・居住費(滞在費)の負担軽減	—	13,389件	13,717件	12,226件	12,483件	12,382件	12,248件	10,408件
⑦社会福祉法人等による生計困難者に対する軽減	660件	683件	699件	688件	700件	789件	814件	652件
⑧災害、事業休廃止等による利用料減免	—	2人	2人	2人	2人	2人	2人	2人

※ ①について、平成12～20年度までは償還払いのみ。平成21年度より現物給付分(生活保護の被保護者)の件数を含む

※ ②について、平成17年6月で障害者施策分以外の軽減措置が終了。平成20年6月で障害者施策分の軽減措置も終了
障害者施策分の免除措置については引き続き継続

※ ②～⑦について、件数は認定証発行件数(平成18年度からは、当年7月1日から翌年6月末の件数)

※ ⑦について、平成17年9月までは対象者の要件が生活困窮者に対する保険料減免と同じであったため、当該保険料減免申請者に対しては、実際のサービス利用の有無にかかわらず、自動的に⑦の認定証を発行。平成17年10月から対象者の要件が変更

※ ⑧について、人数は登録者数(当年7月1日から翌年6月末の件数)

8. 事業者指導・監査の状況

	20年度	元年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年 4月～9月	
集団指導	3件	0件	1件	1件	1件	1件	1件	0件	
実地指導	計	50件	278件	34件	115件	364件	509件	545件	299件
	居宅介護支援	3件	29件	5件	19件	82件	43件	117件	38件
	訪問介護	5件	28件	7件	17件	98件	83件	91件	66件
	デイサービス等	0件	44件	5件	14件	56件	114件	82件	45件
	グループホーム等	35件	58件	4件	7件	16件	62件	55件	17件
	特養・老健等	4件	102件	7件	52件	40件	89件	119件	75件
	その他	3件	17件	6件	6件	72件	118件	81件	58件
監査	計	14件	60件	43件	39件	30件	53件	56件	39件
	居宅介護支援	1件	5件	2件	2件	2件	2件	0件	2件
	訪問介護	2件	16件	9件	10件	5件	3件	5件	3件
	デイサービス等	1件	10件	2件	2件	1件	6件	2件	1件
	グループホーム等	9件	10件	4件	4件	9件	9件	12件	10件
	特養・老健等	0件	15件	24件	17件	13件	31件	35件	22件
	その他	1件	4件	2件	4件	0件	2件	2件	1件
自主監査 (29年度までは 書面監査)	計	—	1,025件	0件	678件	80件	0件	0件	0件
	居宅介護支援	—	471件	0件	164件	0件	0件	0件	0件
	訪問介護	—	540件	0件	143件	0件	0件	0件	0件
	デイサービス等	—	0件	0件	139件	0件	0件	0件	0件
	グループホーム等	—	0件	0件	23件	0件	0件	0件	0件
	特養・老健等	—	0件	0件	94件	80件	0件	0件	0件
	その他	—	14件	0件	115件	0件	0件	0件	0件

注: 予防サービスを除く

平成24年4月に、兵庫県から神戸市に指導監督権限が委譲された。

※ 集団指導: 多数の事業者等に講習等の方法により、制度説明等を行う。

※ 実地指導: 事業者等の所在地において実地に行く。

※ 監査: 各種情報により、指定基準違反が疑われる場合に行う実地検査

※ 自主監査: 事業者等が事業運営について自己点検を行い、その結果を報告させる。

※ 書面監査: 提出された自己点検シートをもとに、事業運営等について確認する。(平成29年度まで)

※ 令和元年度の集団指導は感染症予防のため中止。資料を市ホームページに掲載

※ 令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、相当期間実地指導及び自主監査を見合わせた。

2024(令和6)~2026(令和8)年度

第9期神戸市介護保険事業計画 神戸市高齢者保健福祉計画



神戸市

目次

第1部 計画の意義	1
第1節 策定趣旨	1
第2節 計画の位置づけ	1
第3節 計画期間	1
第4節 計画の推進体制	1
第2部 目的と目標	2
第1節 目的	2
第2節 中長期的な将来展望	3
第3節 目標（施策の柱）	5
第3部 施策	6
第1章 フレイル予防をはじめとした介護予防の推進	6
第1節 フレイル予防と活動・参加の推進	6
第2節 健康づくり対策	10
第3節 生涯現役社会づくり	12
第2章 地域での生活の継続に向けた支援	14
第1節 地域での支援体制づくり、相談体制の充実	14
第2節 在宅医療・介護連携の推進	17
第3節 権利擁護、虐待防止対策	18
第4節 緊急時の対応	20
第3章 認知症の人にやさしいまちづくりの推進	21
第4章 安全・安心な住生活環境の確保	25
第1節 多様な住まいの確保、施設・居住系サービスの確保	25
第2節 安全・安心な住生活環境の整備	27
第5章 介護人材の確保・育成	28
第6章 介護保険制度の適正運営	30

第4部 介護サービス量等の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

第1章 被保険者数の見込み・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

第2章 要介護（要支援）認定者数の見込み・・・・・・・・ 34

第3章 介護サービス利用者数の見込み・・・・・・・・ 35

第1節 施設・居住系サービスの利用見込み・・・・・・・・ 35

第2節 居宅サービス・地域密着型サービス・総合事業の利用見込み 36

第5部 介護保険事業の費用と負担・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

第1章 介護保険事業にかかる給付費等の見込み・・・・・・・・ 39

第2章 第1号被保険者の保険料・・・・・・・・・・・・・・・・ 41



第1部 計画の意義

第1節 策定趣旨

- 本計画は、「神戸市民の福祉をまもる条例」に基づいて、市の果たすべき責務を具体的に明示することにより、高齢者保健福祉施策の体系的・総合的推進を図ろうとするものです。
- 介護保険事業計画と老人福祉計画（本市では、「神戸市高齢者保健福祉計画」）は、一体的策定が義務づけられていることから、本計画は、『介護保険事業計画と神戸市高齢者保健福祉計画』の一体の計画（以下「介護保険事業計画」という）として策定しています。
- また、介護保険事業計画は、要介護者等の保健、医療、福祉又は居住に関する他の計画と調和を保つこととなっており、本計画は、「神戸市認知症施策推進計画」や「神戸市高齢者居住安定確保計画」とも一体の計画として策定しています。

第2節 計画の位置づけ

- 本市のまちづくりを進めるにあたっては、総合基本計画として、2025年を目指した長期的な方向性を示す「第5次神戸市基本計画 神戸づくりの指針」、2025年度を目標年次とする実行計画「神戸2025ビジョン」が策定されています。
- 本計画は、市町村地域福祉計画に位置づけられる「“こうべ”の市民福祉総合計画2025」との連携を図っています。
- また、兵庫県地域医療構想における病床の機能分化・連携の推進に伴う、在宅医療等の新たなサービス必要量に関して、「兵庫県保健医療計画」との整合性を図っています。

第3節 計画期間

- 2024年度から2026年度の3か年計画とします。

第4節 計画の推進体制

- 本市では、学識経験者・保健医療関係者・福祉関係者等で構成される介護保険専門分科会において、本計画の実施状況の点検や課題検討を行うなど、介護保険事業の円滑な推進を図っています。
- 本計画の実施状況については、市民の方へ随時情報提供していきます。



第2部 目的と目標

第1節 目的

高齢者が尊厳をもって、自立した生活を営むことができる社会の実現

高齢者は、加齢に伴う心身の変化により要介護状態となったとしても、尊厳を保持し、自身自身の意思に基づいて、住み慣れた地域で自立した日常生活を営む権利があります。

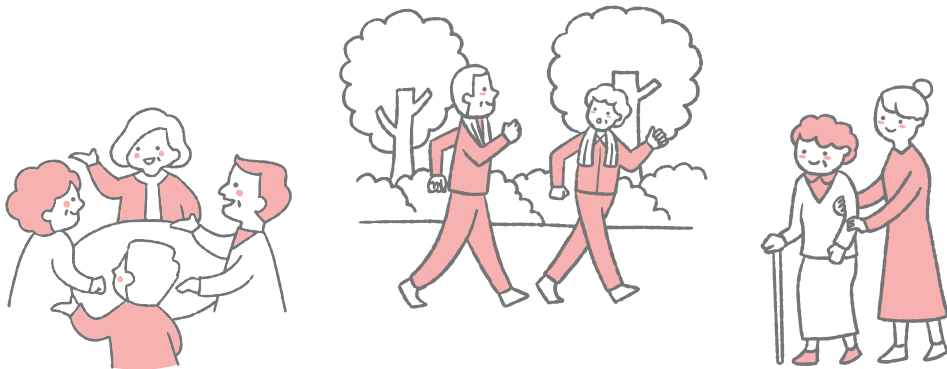
本計画においては、高齢者がその権利を十分に擁護される社会の実現を目指すため、高齢者を取りまく現状と課題を整理し、必要な保健医療サービス及び福祉サービス等の施策を定めています。

介護保険法においては、国民の努力及び義務として、「国民は、自ら要介護状態となることを予防するため、加齢に伴って生ずる心身の変化を自覚して常に健康の保持増進に努める」ことが定められています。高齢者が自立した日常生活を営むためには、まずは要介護状態となることを予防すること、つまり介護予防の推進が重要です。

さらに、高齢者の意思と多様なニーズを尊重し、対応していくためには、地域包括ケアの更なる深化・推進を行いつつ、多様な選択肢を検討・構築していく必要があります。また、高齢者がそれらサービスを適切に検討及び選択できるようにするためには、ひとり暮らし高齢者や認知症等の判断能力が不十分な方への支援も含め、十分な情報提供と相談体制の整備が重要です。

また、必要な介護サービスを提供できるようにするためには、サービスの担い手である介護人材の確保・定着が不可欠です。国や県、関係団体と連携し、多様なサービスの担い手の確保、介護現場における業務負担軽減、職場環境の改善を推進していきます。

また、介護保険は、給付と負担の関係が明確である社会保険方式が採用されており、保険料と税金で支えられている市民の「助け合い」の制度であることから、より市民に信頼される制度運営を心がける必要があります。そのため、低所得者には配慮しつつ、必要なサービス水準の財源を確保するとともに、介護保険制度の適正運営を図っていく必要があります。



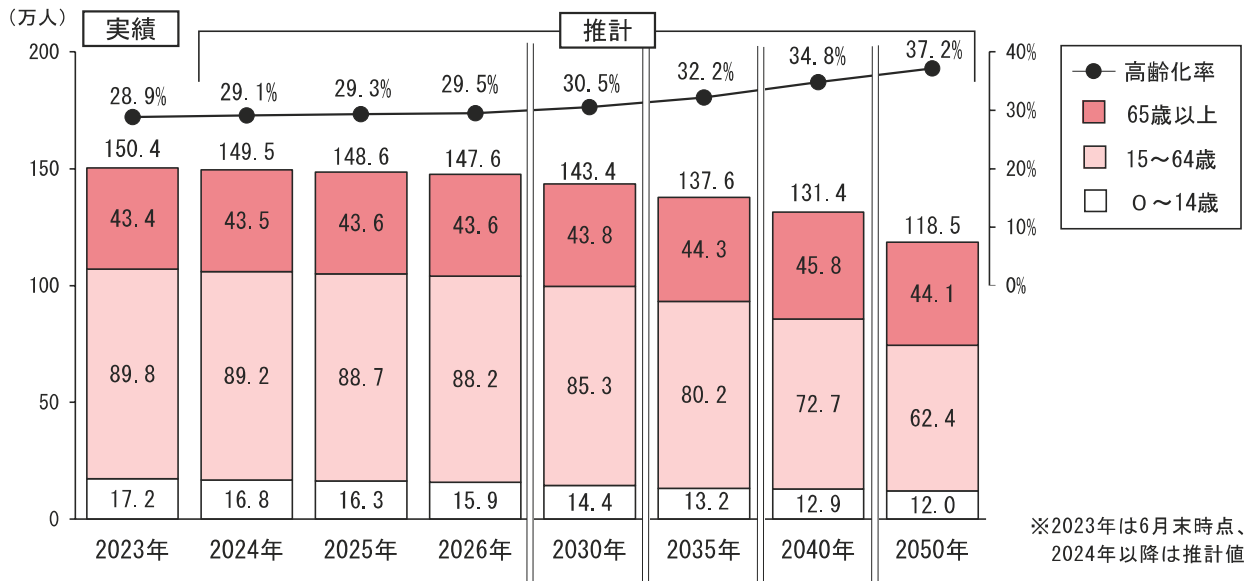
第2節 中長期的な将来展望

① 将来人口推計

わが国においては、全国的に40～64歳までの生産年齢人口の減少が進む一方で、高齢者人口は増加の一途を辿り、2040年頃にピークを迎えると予想されています。

本市も例外ではなく、総人口は減少し、生産年齢人口は、2030年頃より、急減する見込みとなっています。

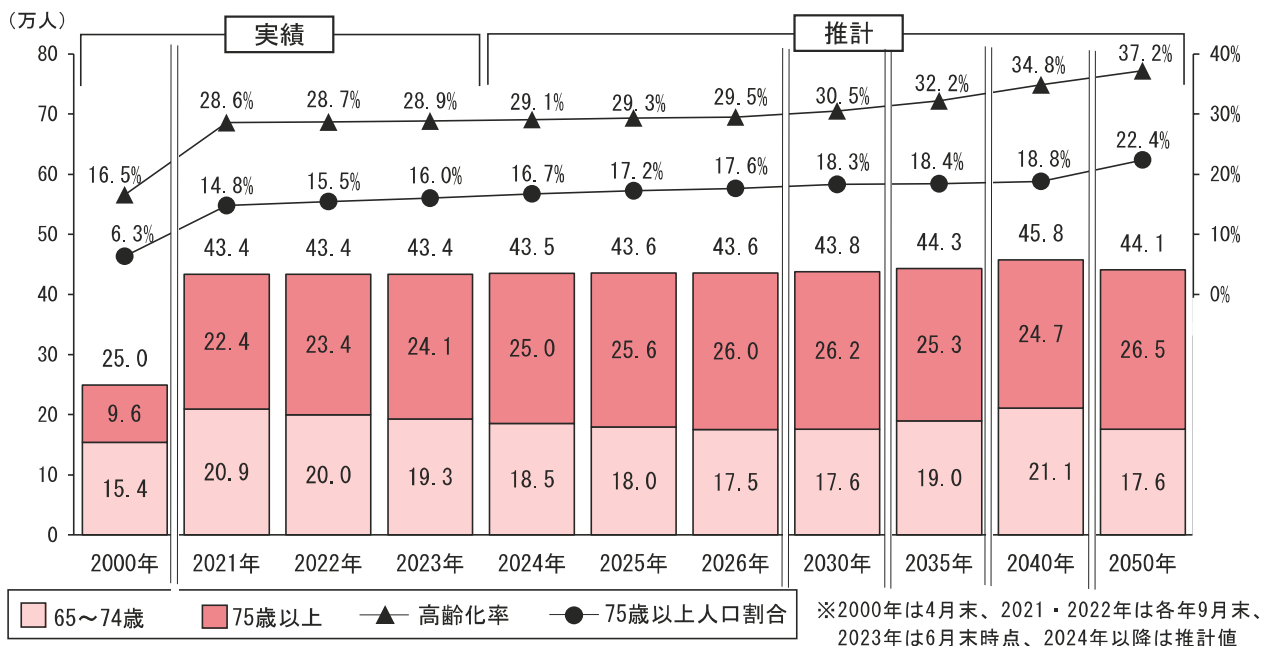
【神戸市の推計人口の推移（年齢3区分別）】



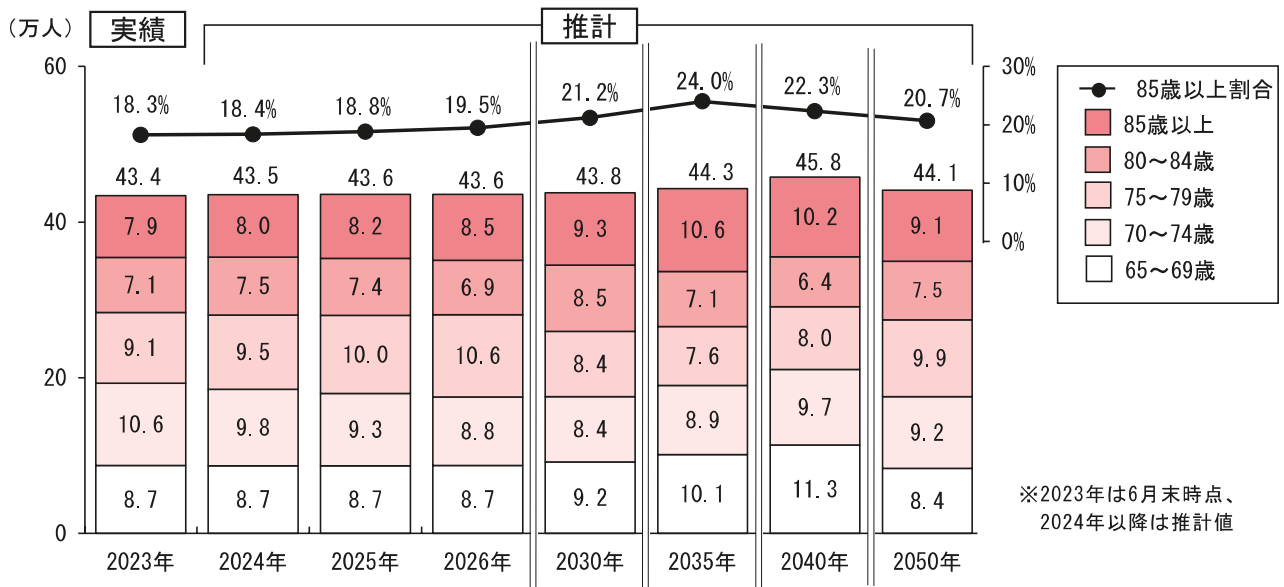
② 高齢者（第1号被保険者）の将来人口推計

本市の高齢者人口は、75歳以上の後期高齢者を中心に増加の一途を辿り、2040年頃にピークを迎える見込みですが、それよりも早い2035年頃には、介護ニーズが高まる85歳以上の高齢者人口がピークとなると見込んでいます。

【神戸市の高齢者(第1号被保険者)の推計人口の推移】



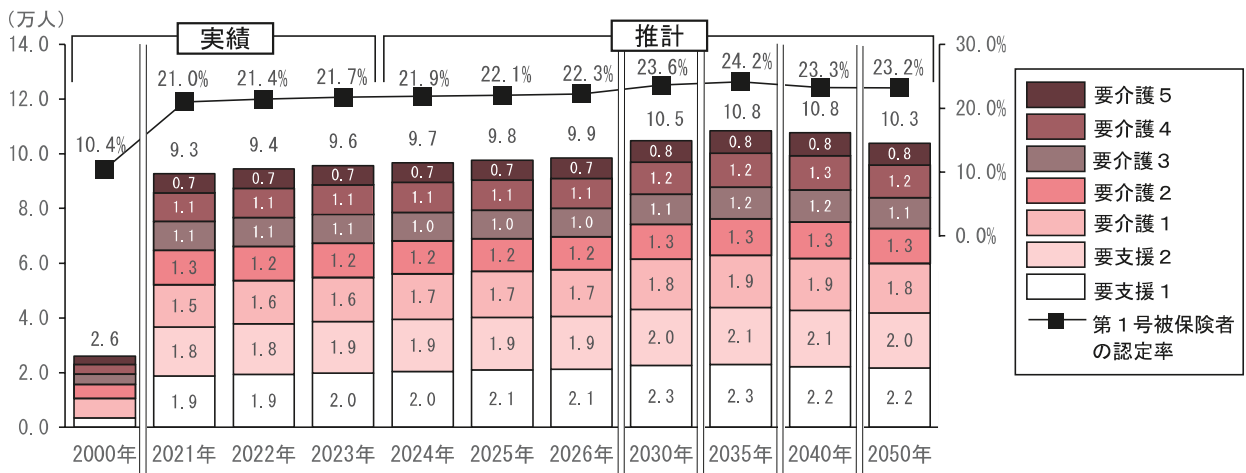
【神戸市の85歳以上の推計人口の推移】



③要介護（要支援）認定者の将来人口推計

本市の要介護（要支援）認定者は、高齢者の増加に伴い、要支援認定者を中心に増える見込みです。85歳以上がピークを迎える2035年頃には、要介護（要支援）認定者数も約10万8千人となり、最多となる見込みとなっています。

【神戸市の要介護（要支援）認定者数の推移】



※棒グラフの数値は第2号被保険者を含む
 ※2000年は4月末、2021・2022年は各年9月末、2023年は5月末の各時点、2024年以降は推計値

このような人口動向や介護ニーズの見込みを適切に踏まえて、制度の枠や「支える側」「支えられる側」という関係を超えて、高齢者をはじめとした地域のあらゆる人が役割を持ち、助け合いながら地域をともに創っていく地域共生社会の実現を目指し、適切な介護サービス基盤を計画的に確保していきます。

第3節 目標（施策の柱）

目的を達成するための指標として、6つの目標（＝施策の柱）を設定し、各種施策を計画的に推進していきます。

目的

高齢者が尊厳をもって、自立した生活を営むことができる社会の実現

目標・施策の柱

フレイル予防をはじめとした
介護予防の推進
(第3部 第1章)

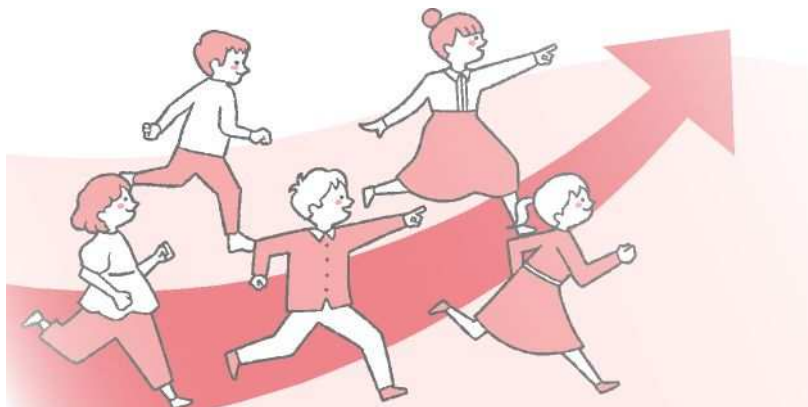
地域での生活の継続に
向けた支援
(第3部 第2章)

認知症の人にやさしい
まちづくりの推進
(第3部 第3章)

安全・安心な
住生活環境の確保
(第3部 第4章)

介護人材の
確保・育成
(第3部 第5章)

介護保険制度の適正運営
(第3部 第6章)



第3部 施策

第1章 フレイル予防をはじめとした介護予防の推進

【目標・施策の柱1】

第1節 フレイル予防と活動・参加の推進

①普及啓発及び多様な活動を促進する環境づくり

〈取組の方向性（課題）〉

- フレイル*の進行や認知機能の低下防止のため、身近な地域で多様な活動ができるよう、気軽に参加できる「つどいの場」を整備・充実していきます。
※フレイル：病気ではないが、年齢とともに筋力や心身の活力が低下し、介護が必要になりやすい、健康と要介護の間の虚弱な状態のこと。
- 人生100年時代を見据え、多様な年代や生活スタイルに対応するため、様々な媒体で啓発を行うことが重要です。高齢者の心身の状況や生活習慣、趣向等に応じた介護予防の参加機会を提供し、自己選択できるような情報発信を行っていきます。

〈主な施策〉

- つどいの場の設置促進

「つどいの場」は、フレイル予防や健康づくりをはじめ、ボランティア活動、スポーツの会や趣味活動、学習・教養サークル等、地域で開催されている住民主体の高齢者の交流の場です。人と人とのつながりを通じて生きがいややりがいを感じ、活動が充実していくような地域づくりを行います。

- ・ つどいの場支援事業

地域で自主的に行われるつどいの場に対し、運営費の一部を補助するとともに、生活支援コーディネーターやあんしんすこやかセンターが立ち上げや運営を支援します。

■ 補助団体数：208 団体（2022 年度実績）

- ・ 地域拠点型一般介護予防事業

体操や給食・レクリエーションに加え、専門職による介護予防講座を実施し、地域に根ざした介護予防活動に取り組みます。

■ 実施箇所数：95 箇所、参加者数：約 1,500 人 / 月（2022 年度実績）

- ・ 介護予防カフェ

民間企業と連携し、地域の集会所等で高齢者が集まる介護予防カフェの立ち上げを支援するとともに、引き続き住民の自主的な取り組みを支援します。

■ 実施箇所数：82 箇所（2022 年度実績）

● 介護予防・日常生活支援総合事業の推進

訪問型サービス及び通所型サービスの内容について、事業評価を踏まえながら、利用者の状態や生活スタイルにより適応するよう、必要な見直しを行います。また、住民団体・NPO・民間企業等の多様な主体による生活支援・サービスが提供できるよう、新たな担い手の発掘や体制づくりに取り組みます。

・フレイル改善通所サービス

「栄養（食・口腔機能）」「運動」「社会参加」をバランスよく取り入れたプログラムを提供し、サービス利用中から社会参加や健康づくり活動を継続できるように支援します。

■ 実施箇所数：各区1箇所

< 低栄養の方の割合 >

本市は他都市と比較すると、低栄養の傾向割合が「65～69歳」でやや高く、「70～74歳」で高くなっている。（「健康とくらしの調査*（2022年度）」より）

※要介護認定等を受けていない65歳以上の方へのアンケート調査

・生活支援訪問サービス

本市の定める研修を修了した方等が、軽度の方（要支援者・総合事業対象者）の自宅を訪問し、掃除や買物等の生活援助を提供し、自立を支援します。

■ 指定事業所数：335事業所（2022年度実績）

■ 利用者数：約2,400人/月（2022年度実績）

・住民主体訪問サービス

NPO法人等のボランティアが、掃除や買物等の生活援助を提供します。

■ 実施団体数：5団体（2022年度実績）

● 普及啓発

・フレイルチェック

日常生活や認知機能等のアンケートと、運動や口腔機能等の簡易な測定を行うフレイルチェックを、市内薬局や特定健診会場等において実施します。また、市民フレイルサポーターによるフレイルチェック会の実施や市民主体のフレイル啓発活動を支援するとともに、広く市民に周知・啓発します。

■ 実施人数：市内薬局 494人（協力薬局 408箇所）
特定健診会場 1,162人（いずれも2022年度実績）

■ フレイルチェック会参加者数：156人（2022年度実績）

・フレイル予防支援事業

65歳以上を対象に、フレイルチェックや、地域の特性を考慮したフレイル予防のための講話・体操等のプログラムを実施します。

■ 実施人数：927人（2022年度実績）



- ・ICTを活用した啓発

ICTの活用も含めて、つどいの場等の地域資源を記載したマップ等を作成し、地域住民と共有するなど、個々人に応じた介護予防の取り組みが選択できるように環境整備を進めます。

- ・介護予防・フレイル予防応援サイト

自宅でも楽しんでフレイル予防に取り組めるよう、「介護予防・フレイル予防応援サイト」を通じ、「元気！いきいき！！体操」等の高齢者向けコンテンツを発信します。

- ・神戸市オリジナル体操（元気！いきいき！！体操）

つどいの場での活動支援のため作成した体操DVDについて、自宅での取り組みも含め、幅広く普及を図ります。

< 転倒に対する不安の割合 >

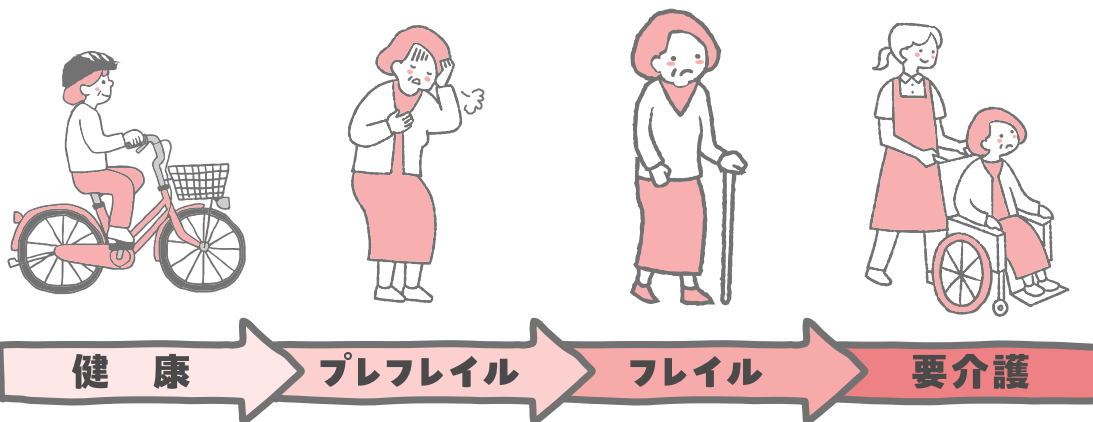
転倒に対する不安をお持ちの方（「とても不安」「やや不安」）の割合は、要介護認定を受けていない方では約4割に対し、受けている方では約9割になっている。（「健康とくらしの調査（2022年度）」「在宅高齢者実態調査*」（2022年度）」より）

※要介護認定を受けている65歳以上の方へのアンケート調査

□ 「フレイル」の認知率（目標）

	2022年度	2025年度
「フレイル」という言葉を良く知っており 予防活動をしている方の割合	18.8%	30.0%

※健康とくらしの調査（2022年度）より



②エビデンスを活用した効果的な介護予防施策の展開

〈取組の方向性（課題）〉

- 学識経験者や関係機関と連携し、高齢者の心身の多様な課題に対して、エビデンスを活用した事業展開を行うとともに、その効果について評価検証を行っていきます。
- 介護予防や健康づくりがより推進されるよう、インセンティブについても検討を行っていきます。

〈主な施策〉

- 大学等と連携した介護予防の評価

日本老年学的評価研究（JAGES）プロジェクトやWHO等の研究機関や、大学等と連携し、介護予防事業についてPDCAサイクルを回しながら、効果的な事業を展開します。また、スマートフォンやタブレット等のICT機器を活用した地域住民の交流の機会を設け、その効果について検証します。

- データを活用した介護予防の取組

後期高齢者の医療・介護・健診等のデータを活用し、疾病予防・重症化予防とフレイル予防の一体的な取り組みを行います。低栄養等の健康課題への支援として、地域のつどいの場に専門職を派遣し、健康相談や受診勧奨等も進めます。重症化予防や低栄養等の対策が必要な方には個別支援を実施します。

また、ICTを活用したサービス提供を促進します。

③地域リハビリテーションの推進

〈取組の方向性（課題）〉

- 医療・介護分野において多職種連携による切れ目のないリハビリテーション支援体制を構築するとともに、市民や関係者にリハビリテーションの理解促進を図ります。

〈主な施策〉

- 神戸市リハ職種地域支援協議会との連携

リハビリ専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の職能団体「神戸市リハ職種地域支援協議会」との連携等、資源の把握も含めたりハビリの充実を図ります。リハビリ専門職が地域の様々な拠点に出向き、自立支援等に関する啓発や人材育成を行う取り組みを推進します。

- 多職種による地域ケア会議への参画

地域ケア会議等に、リハビリ専門職をはじめ、口腔機能・口腔衛生等の観点から歯科衛生士、栄養摂取等の観点から管理栄養士等の多職種の専門職が参画し、高齢者の自立支援・重度化防止に向けた助言を行います。

また、そのノウハウや事例を共有し、積み重ねることで施策へ反映します。

- 地域ケア会議へのリハビリ専門職等の参加状況：23人（2022年度実績）



第2節 健康づくり対策

〈取組の方向性（課題）〉

- 生涯を通じた健康づくりを推進し、「健康創造都市K O B E」を目指すためには、適切な生活習慣の確立を図るとともに、「ヘルスケアデータ連携システム」等の医療・健康データを活用した保健事業を推進し、健康格差の縮小と健康寿命の延伸に向け、重点的に取り組むべき方策の検討が求められています。
- 口腔機能を維持するための取り組み（オーラルフレイル^{*}対策）を推進していきます。
※オーラルフレイル：わずかなむせ、食べこぼし、発音がはっきりしない、嚙めない食品の増加等の口の機能の低下のこと。

〈主な施策〉

- 科学的データに基づく保健事業の推進
保健・医療・介護分野において、「ヘルスケアデータ連携システム」等の医療・健康データを活用し、エビデンスに基づく政策立案（E B P M）を推進することで、市民の健康寿命の延伸、健康格差の縮小、疾病予防や生活機能の改善（フレイル予防）等、健康増進に向けた保健事業を効果的に実施します。
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施（重症化予防・低栄養対策）
後期高齢者の医療・介護・健診等のデータを活用し、疾病予防・重症化予防とフレイル予防の一体的な取り組みを行います。重症化予防や低栄養等の対策が必要な方には個別支援を実施します。

□ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的な取り組みの実施状況（年間目標）

		2022年度末	2026年度末
ポピュレーション アプローチ	実施箇所数	44箇所	44箇所 (合同圏域)
	実施人数	820人	880人
ハイリスクアプローチ (個別支援)	重症化予防	1,194人	2,730人
	低栄養対策	165人	300人

● 健康教育による普及啓発

生活習慣病予防や健康寿命延伸、介護予防等をテーマとした健康教育を地域福祉センター等の身近な会場で実施します。

□ 健康教育（高齢者向けの健康づくり）実施状況（年間目標）

	2022年度末	2026年度末
実施回数	25回	35回
実施人数	515人	2,500人

● オーラルフレイル対策等の歯科口腔保健の推進

地域の歯科医院で65歳及び75歳（後期高齢者歯科健診）を対象として、オーラルフレイルチェック事業を行い、口腔機能の改善を図ることでフレイル予防へ繋がります。

オーラルフレイルの認知度が低いことから、引き続きオーラルフレイル予防を啓発します。

また、食べることへの支援および誤嚥性肺炎予防等の観点から、在宅等への訪問歯科診療事業・訪問口腔ケア事業を推進します。

□ オーラルフレイルチェック事業実施状況（年間目標）

	2022年度末	2026年度末
利用率	65歳：15.2%	65歳：20% 75歳：15%

□ 訪問歯科診療事業・訪問口腔ケア事業実施状況（年間目標）

		2022年度末	2026年度末
訪問歯科診療	利用者数	152人	160人
	延訪問回数	623回	640回
訪問口腔ケア	利用者数	123人	180人
	延訪問回数	1,034回	1,620回

< オーラルフレイルの認知率 >

2022年度 22.0%（よく知っている 4.5%、だいたい知っている 17.5%）

（「在宅高齢者実態調査（2022年度）」より）



第3節 生涯現役社会づくり

〈取組の方向性（課題）〉

- 高齢者の社会参加を促進し、地域の中で生きがいや役割を持って生活できる環境づくりを進めていきます。
- 定年後の就労やボランティア活動等、様々な形で高齢者が社会参加できる社会の実現に向け、ニーズ把握や企業とのマッチング等に取り組んでいきます。
- 介護人材不足が将来にわたり見込まれる中、高齢者に対する生活支援サービスや介護サービスの担い手となるなど、地域社会の幅広い支え手のひとりとして元気な高齢者が活躍できる取り組みが求められています。

〈主な施策〉

- K O B Eシニア元気ポイント

高齢者が介護施設等において、ボランティア活動を行った際にポイントを交付する「K O B Eシニア元気ポイント制度」について、I C Tを活用した効果的な広報等を通じ、活動登録者と対象施設を増やします。

- K O B Eシニア元気ポイント登録者数（累計目標）

	2022 年度末	2026 年度末
登録者数	1,516 人	7,000 人

- 老人クラブ（K O B Eシニアクラブ）への支援

今まで以上に活動しやすくするため、使途が分かれていた複数の補助金の一本化や補助金の手続きの簡素化等を実施しました。引き続き、老人クラブに高齢者が数多く参加できるよう支援を行います。

- シルバーカレッジによる地域貢献

時代やニーズに即した地域社会への貢献活動に繋げるため、定期的なカリキュラムの点検・見直しを行い、地域リーダーの養成や社会貢献活動を支援するカリキュラムの充実を図ります。

- シルバーカレッジ「社会貢献講座」参加者数（年間目標）

	2022 年度末	2026 年度末
参加者数	706 人	918 人

- 各区ボランティアセンターにおけるボランティア支援

各区のボランティアセンターで、相談、マッチング調整、養成等により、ボランティア活動を支援します。ICT等の新しいツールを活用した取り組みを推進し、ボランティア活動の活性化を図ります。

- マッチング件数：583件（2022年度実績）

- 高齢者の就労支援対策

高齢者の就労を推進するため、就職面接会等を開催するとともに、ハローワークやシルバー人材センター等との更なる連携強化を図り、より効果的な施策を検討します。

- シルバー人材センター

シルバー人材センターによる高齢者に適した臨時的・短期的な仕事の提供に努めます。デジタル技術を活用した入会手続きや就業情報の提供により、会員の利便性向上を図るとともに、安全な就業場所の開拓を進めます。

- 高齢者の移動支援

引き続き高齢者の移動を支援し、社会参加を促進するため、70歳以上を対象とする敬老優待乗車制度を実施します。

第2章 地域での生活の継続に向けた支援

【目標・施策の柱2】

第1節 地域での支援体制づくり、相談体制の充実

〈取組の方向性（課題）〉

- 高齢者のみならず、障害者、生活困窮者、家族介護者への支援や複合的課題に対応していく包括的な支援体制を構築するなど、地域共生社会への対応が求められています。
- 高齢者の相談窓口であるあんしんすこやかセンターについて、関係機関との更なる連携も含めた機能強化が求められています。
- 高齢者の生活困窮や社会的孤立・ひきこもり等の早期発見・支援が重要であり、多分野横断的な対応が求められています。

〈主な施策〉

- 家族介護者支援を含めた対応

- ・ あんしんすこやかセンターの利便性の向上及び機能の強化

家族介護者支援の観点も含め、土日祝日いずれかのあんしんすこやかセンターの開所を全76センターで継続します。今後、医療・介護の必要性が高まる75歳以上の後期高齢者の増加を踏まえ、センターが高齢者や家族介護者からの総合相談をはじめとする包括的支援の機能が十分に発揮できるよう、組織・運営体制の充実・強化を図ります。

- 年間相談件数：596,578件（2022年度実績）

- ・ 介護リフレッシュ教室等の開催

介護者の精神的負担の軽減や健康づくり等を目的に介護リフレッシュ教室を開催し、介護に役立つ情報提供や家族同士の情報交換の場を提供します。あわせて、認知症サロンや認知症カフェ等、介護者が話し合える場づくりを推進します。

- 介護リフレッシュ教室の実施状況：409回、2,975人（2022年度実績）

- ・ こども・若者ケアラーへの支援

家族の介護等により重い責任や負担を負っている「こども・若者ケアラー」の孤立を防ぐため、引き続き、専用の相談窓口で障害福祉・児童福祉分野と連携しながら、伴走的な支援を行うとともに、当事者同士の交流・情報交換の場での支援を推進します。

また、市内・近隣の大学やハローワークとの連携を図り、18歳以上の若者ケアラーへの支援を行うとともに、小中学生のこどもケアラーのため、地域のこどもの居場所（こども食堂、学習支援等）とのネットワークを構築します。さらに、民間企業と連携した、こども・若者ケアラーへの支援を検討します。

- ・ 介護マークの普及

介護者が介護中であることを周囲に理解していただくための「介護マーク」の普及を図ります。



介護マーク

● 地域ケア会議の開催

あんしんすこやかセンター単位及び区単位で、地域住民や福祉・医療関係者、NPO法人や地域活動団体等が参加する地域ケア会議を開催して、高齢者の生活上の課題等（金銭管理、ごみ出し等）への支援に繋がります。全市的な課題は全市レベルの地域ケア会議で政策形成に繋がります。

■ センター主催の地域ケア会議の実施状況：203回（75箇所）（2022年度実績）

■ 区主催の地域ケア会議の実施状況：11回（9箇所）（2022年度実績）

● 消費者被害防止対策

あんしんすこやかセンターが把握した被害事例を全センターで共有するとともに、県警・消費生活センターと連携し、被害防止のための啓発を行います。

● あんしんすこやかセンターにおける業務効率化

会議の整理や統合、書類削減等、業務効率化や事務負担軽減を図ります。見直しにあたっては、ICTを活用した会議の効率化や書面での提出書類の削減を推進していきます。

● 生活支援コーディネーターの活動推進

生活支援コーディネーター^{*}として、第1層（区単位）には各区社会福祉協議会に1名（北区は2名）、第2層（中学校圏域）には各あんしんすこやかセンターに地域支え合い推進員を1名（計78名）配置しています。

地域共生社会への対応を図るため、第1層・第2層の生活支援コーディネーターは相互に連携しながら、地域福祉ネットワークや子育てコーディネーター、ひきこもり支援室、各区くらし支援窓口との連携を強化し、地域での資源開発やネットワーク構築を進めます。

※生活支援コーディネーター：高齢者が住み慣れた地域で孤立することなく住み続けられるよう、地域住民同士で見守り・支え合える地域づくりの支援を行っています。



● 生活困窮者支援

・ 暮らし支援窓口での支援

各区・支所に「暮らし支援窓口」を設置し、生活困窮者からの相談に応じています。家計相談や早期の就労に向けた支援を含め、継続的な支援を行います。

□ 自立支援計画作成件数（年間目標）

	2022 年度末	2026 年度末
自立支援計画作成件数	740 件	1,000 件

・ 地域福祉ネットワークの配置

地域福祉ネットワーク[※]を各区社会福祉協議会に配置し、暮らし支援窓口等様々な関係機関との連携を強化し、生活困窮・社会的孤立等複合的な課題を抱えた世帯へのアプローチに取り組みます。

※地域福祉ネットワーク：複合的な課題を抱えた世帯に対し、積極的な訪問や課題解決に向けた個別支援を行います。また、地域の共通課題に対しても、社会福祉施設、NPO法人、民生委員やふれあいのまちづくり協議会等関係機関を巻き込みながら、地域で支え合う仕組みづくりを推進しています。

● ひきこもり支援

「ひきこもり支援室」を幅広く広報・周知するとともに、地域の支援者向け研修や関係機関職員の研修を実施し、8050問題等の課題に対応できるよう関係機関同士のネットワークを構築します。

また、本人や家族をサポートする「ひきこもりサポーター」の養成を推進し、登録者を増やすとともに、登録された方々に対しても適宜講習を実施し、サポーターとして継続的に活躍できるように支援します。

□ ひきこもりサポーター登録者数（累計目標）

	2022 年度末	2026 年度末
登録者数	149 人	180 人

□ 研修会・講習会実施回数（年間目標）

	2022 年度末	2026 年度末
実施回数	12 回	18 回

第2節 在宅医療・介護連携の推進

〈取組の方向性（課題）〉

- 日常生活での療養や容態急変時、また、入退院や看取りの場面における、切れ目のない在宅医療・介護提供体制の構築や、感染症・災害時における継続的なサービス提供の維持等の課題に対し、ICTの活用も含め、地域での多職種連携を推進していきます。
- 患者本人が望む医療・ケアの意思決定支援や住み慣れた自宅・施設等での看取りについて、市民啓発を推進していきます。

〈主な施策〉

- 医療介護サポートセンターの運営

各区に設置する医療介護サポートセンターは、医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談対応や多職種連携会議の開催等により、医療と介護の連携強化を推進します。

- 医療・介護の連携ツールの普及・推進

ケアマネジャーと病院の連携ツール「入退院連携シート」や、転院を経て退院する要介護患者の情報連携ツール「医療介護情報引継ぎシート」の利用促進を図ります。

また、介護保険サービス導入時に医療・介護関係者が集うサービス担当者会議や、入院している医療機関と在宅医療介護関係者、本人・家族で行う退院前カンファレンス等について、WEB会議等も併用し、医師・看護師・ケアマネジャー等より多くの関係者が参加しやすくすることで、多職種連携を推進します。

- ACP*（アドバンス・ケア・プランニング）の普及啓発

人生の最終段階における意思決定支援として、市民向けパンフレットを活用し、ACPの普及啓発に取り組みます。また、医療・介護従事者が、医療倫理に基づいて患者の意思尊重を十分に考え、ACPに関わることができるよう、研修や情報提供を行います。

※ACP：人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセスのことで、愛称を「人生会議」と定めています。

〈ACPの認知率〉

2022年度 5.0%（知っている5.0%）
（「在宅高齢者実態調査（2022年度）」より）



第3節 権利擁護、虐待防止対策

〈取組の方向性（課題）〉

- 認知症高齢者の増加等を踏まえ、判断能力が不十分になっても安心して生活できるよう、権利擁護施策を充実していきます。
- 高齢者虐待の早期発見・早期対応に繋げるため、研修や連携体制の充実が求められています。
※下記施策は、国の「成年後見制度利用促進基本計画」を踏まえた市町村計画に位置づけられています。

〈主な施策〉

- 日常生活自立支援事業の推進
福祉サービスの手続きの手伝いや日常の金銭管理、重要書類の預かり等を行います。
■ 契約件数：695 件（2022 年度実績、次年度以降も同程度見込み）
- 専門職団体との連携強化
専門職団体との連携を強化し、市長申立の書類作成委託等の施策を推進します。また、成年後見支援センターにおいて、引き続き専門職相談を実施し、近年複雑化する相談に対応します。
■ 専門相談件数：89 件（2022 年度実績、次年度以降も同程度見込み）
- 市民後見人の養成・支援
「市民後見人」の養成を推進します。また、登録者については、研修の充実等により資質の向上を図るとともに、地域における活動にあたって支援を行います。
■ 市民後見人登録者数：88 名（2022 年度実績、次年度以降も同程度見込み）
- 成年後見制度利用支援事業の実施
成年後見制度の利用にあたり、必要となる費用（申立及び報酬費用）を負担することが困難である方に対して助成を行います。
■ 成年後見制度の利用にかかる費用の助成者数：申立費用 1 名、報酬費用 451 名（2022 年度実績、次年度以降も同程度見込み）

● 高齢者虐待

養護者による虐待対応への取り組みとして、各区の職員やあんしんすこやかセンター職員への高齢者虐待対応研修を実施するとともに、各区の高齢者虐待防止ネットワーク事業等を通じた関係機関との連携体制の整備・充実を図ります。

また、養介護施設等従事者による虐待対応への取り組みとして、介護保険事業者に対して、引き続き高齢者虐待防止研修の実施を働きかけます。

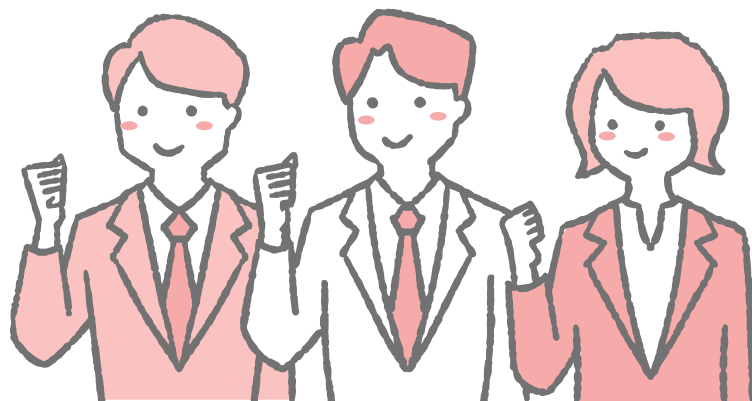
□ 高齢者虐待対応研修の実施状況（年間目標）

	2022年度末	2026年度末
高齢者虐待対応研修 延べ参加者数	188人	250人
施設長・研修担当者対象研修 延べ参加者数	106人	120人

・ 高齢者虐待対応ワーキンググループの設置

高齢者虐待対応ワーキンググループを設置し、各区が実施する高齢者虐待防止ネットワーク事業^{*}で報告される課題の中から全市的に取り組むべきものについて、専門分野の方の意見を聴取する機会を確保し、高齢者虐待防止体制の整備を進めます。

※高齢者虐待防止ネットワーク事業：高齢者虐待の防止、早期発見から個別支援にいたる各段階において、関係機関や団体等と連携協力して、高齢者虐待防止に資する地域づくりのための体制構築を目指して各区で実施する事業のこと。



第4節 緊急時の対応

〈取組の方向性（課題）〉

- 災害時の備えについて、事業者等と連携しながら介護保険や障害サービス利用者等の要援護者への啓発を進めるとともに、地域で支え合う取り組みを推進していきます。
- 災害・感染症発生時の事業者間の支援・応援体制について検討していきます。

〈主な施策〉

- 地域における災害時要援護者支援の取組推進
災害時の要援護者情報について、平常時から地域団体と共有することにより、日常での声かけや支え合い等、要援護者支援のための取り組みを進めます。
- 基幹福祉避難所・福祉避難所開設訓練の実施
災害時に要援護者の初動受入及び生活支援を行う基幹福祉避難所において開設訓練を行います。訓練の実施にあたり、災害時の障害者支援を担う障害者地域生活支援拠点とも連携します。
また、災害時に基幹福祉避難所に続いて順次開設される福祉避難所協定施設においても開設訓練を行います。
 - 基幹福祉避難所開設訓練（21施設）：毎年実施
 - 福祉避難所協定施設：2020年度から6年程度で開設訓練を実施（2022年度までに61施設、2023年度は25施設、2024年度以降は毎年35施設実施予定）
- あんしんすこやかセンターでの災害時対応、ケアマネジャーの協力推進
高齢者の安否確認や相談対応、地域団体との連携により共有された情報をもとにした要援護者の支援を行う仕組みを構築し、ケアマネジャーによるケアプランへの災害避難情報の記載を促進します。
- 災害・感染症発生時の応援体制の推進
介護サービスを継続して提供できるよう、県と連携した職員の応援協力スキーム等の推進に取り組みます。また、ICTの活用による応援必要時の情報連携体制の構築を促進します。さらに事業者における事業継続計画（BCP）の策定を推進します。
- 災害時の緊急入所推進
災害等により、自宅での日常生活が長期に渡って困難となった方へのショートステイ利用について、法定での給付が出来ない利用額に対する本市独自の上乘せ給付として「災害時ショートステイサービス」を実施します。

第3章 認知症の人にやさしいまちづくりの推進

【目標・施策の柱3】

〈取組の方向性（課題）〉

- 認知症の方の尊厳が保持され、本人の意思が尊重され、社会参加を促進し、安全・安心で希望をもって暮らし続けられるまちづくりを推進していきます。
- 認知症の方や家族の意見も踏まえ、「共生」と「予防」の施策の推進が求められています。
- 認知症になる可能性は誰にでもあり、社会全体で支え合うことが求められています。
- 認知症の方が日常生活・社会生活を送るうえでの障壁を減らす取り組みの推進が求められています。
- 認知症神戸モデルの推進とともに、診断後の生活支援の充実等、切れ目のない支援を、医療や介護、福祉の連携によって対応していきます。

〈主な施策〉

① 認知症神戸モデルの推進（診断助成制度及び事故救済制度）

診断助成制度と事故救済制度を組み合わせ実施し、その財源は市民税の超過課税により負担いただくこととする認知症神戸モデルを推進します。

● 診断助成制度

認知症の疑いの有無を診る認知機能検診（第1段階）と、軽度認知障害（MCI）を含めた認知症の診断を行う認知機能精密検査（第2段階）の2段階方式の制度で、いずれも自己負担のない仕組みです。引き続き、制度の周知と円滑な実施に努めます。

● 事故救済制度

認知症の方が事故を起こした際、賠償責任の有無に関わらず、被害に遭われた市民に支給する見舞金（給付金）制度（事前登録不要）と、賠償責任がある際に支給する賠償責任保険制度（事前登録必要）の2階建て方式の制度です。引き続き、制度の周知と円滑な実施に努めます。

□ 神戸モデル認知率（目標）

	2022年度	2025年度
診断助成制度	40.0%	45.0%
事故救済制度	31.5%	40.0%

※健康とくらしの調査（2022年度）より



②認知症の人にやさしいまちづくり条例にもとづく施策の推進

<予防及び早期介入>

● 関係機関と連携した研究開発の推進

WHO神戸センター、神戸医療産業都市、大学及び研究機関等と連携し、認知症の予防及び早期介入を推進します。

● 認知症ケアパスの普及啓発

認知症の進行や出現する症状等に応じた相談先や、どのような医療・介護サービスを受けることができるのかなどについて示した認知症ケアパスについて、認知症の方やその家族等が必要に応じて活用できるよう、医療機関や介護事業者等にも広く普及啓発を行い、ネットワークづくりに活用します。

<事故の救済及び予防>

● 事故救済制度（再掲）

● 運転免許自主返納啓発

「運転免許証自主返納」のパンフレットを市内に配付（診断助成制度の認知機能検診（第1段階）の受診者に配付）し、運転免許自主返納の啓発を実施します。また、神戸市運転免許自主返納相談窓口を設置し、運転者本人からの相談をはじめ、免許返納を促したい家族がいる方や、免許返納を促したものの免許返納に応じない家族を持つ方からの相談を受け付けます。

<治療及び介護の提供>

● 診断助成制度（再掲）

● 初期集中支援チーム

医療・介護の専門職が、認知症の疑いのある方または認知症の方やその家族を訪問し、適切な医療・介護サービスに繋ぐための支援を実施します。

□ 医療・介護に繋がった方の割合（目標）：各年度 65%（2024～2026年度）

● こうべオレンジダイヤル

認知症の総合電話相談窓口として、相談内容に応じて、市内の介護情報の提供や適切な機関の紹介を行い、また、あんしんすこやかセンターや認知症疾患医療センター等の関係機関へ繋がります。必要に応じて初期集中支援チームと連携して対応を行います。

● 認知症疾患医療センター

認知症疾患に関する鑑別診断や専門医療相談を実施するとともに、認知症の方の診断後の生活や不安の軽減が図られるよう、日常生活支援相談や、認知症に関する教育や本人・家族の交流等を行う認知症サロン事業を引き続き実施します。診断後の相談支援の充実やかかりつけ医等の地域との連携強化、困難事案への対応等、地域の認知症医療提供の拠点としての機能を強化します。

● K O B E みまもりヘルパー

認知症の方や介護保険の認定を受けるまでに至らない軽度認知障害（MCI）の方が、在宅生活を送るための見守りや話し相手、外出の付き添い等を行う、介護保険外でのヘルパーサービスを提供します。引き続き制度の周知に努めます。

● 医療・介護従事者研修

認知症サポート医・認知症介護指導者の養成や医療・介護関係者への研修実施により、引き続き医療・介護関係者の認知症への対応力の向上を図り、地域における連携体制を整えます。

□ 養成者数・研修修了者数（累計目標）

	2022年度末	2026年度末
・ 認知症サポート医	216人	276人
・ 認知症介護指導者	45人	53人
・ 認知症介護実践者研修	4,750人	5,710人
・ 認知症介護実践リーダー研修	748人	908人

<地域の力を豊かにしていくこと>

● 軽度認知障害（MCI）の方を対象としたフレイル改善通所サービスの提供

認知症疾患医療センター等で軽度認知障害（MCI）と診断された方へ、フレイル改善通所サービスの案内を行います。

● 市民啓発

世界アルツハイマーデー（毎年9月21日）関連での啓発活動、地域への出前トークを実施するとともに、認知症の方自身からの「本人発信」等、様々な方法で市民への啓発活動を実施します。引き続き、市民に対し認知症に関する普及啓発に努めます。

● 認知症サポーター養成

地域全体で認知症の方を見守るため、認知症に対する正しい知識と理解を持った認知症サポーターの養成を行い、養成後もさらに理解を深めるための研修を実施するなど、地域において活動するための支援を実施します。また、あわせて講師であるキャラバン・メイトの養成も推進します。

□ 認知症サポーター養成者数（累計目標）

	2022年度末	2026年度末
養成者数	131,672人	155,672人



● 認知症カフェ

認知症の方とその家族、地域住民、専門職等の誰もが自由に参加し、気軽に交流や相談等ができる地域に開かれた集いの場の登録・紹介を行います。引き続き、認知症カフェの周知・支援に努めます。

□ 認知症カフェ箇所数（目標）

	2022 年度末	2026 年度末
箇所数	34 箇所	45 箇所

● 認知症地域支えあい推進事業

認知症の方や認知症の疑いのある方が、生きがいをもって積極的に社会参加できる地域づくりや認知症に関する理解促進を目指し、各種地域団体からの希望を募り、講師として専門職の派遣を実施します。

□ 認知症地域支えあい推進事業実施回数（年間目標）：各年度 200 回（2024～2026 年度）

● ICTを活用した見守り

認知症の方の行方が分からなくなった際に、GPS（衛星利用測位システム）を使って居場所を探索し、家族からの依頼に基づき警備会社が駆けつけるサービスを支援します。必要な方に制度を利用してもらえるよう、引き続き制度の周知に努めます。

● 若年性認知症の方への支援充実・社会参加促進

若年性認知症の方とその家族に対し、相談先や集いの場を整えるなどの支援を実施します。また、医療・介護関係者等の若年性認知症に対する理解を深めるため、若年性認知症支援研修と若年性認知症デイサービス・デイケア研修を実施します。

● 声かけ訓練

お困りの高齢者等を見かけた際に、適切な声かけ等の対応ができるよう、認知症高齢者等への声かけ訓練を、引き続き、あんしんすこやかセンター単位で実施し、地域における支援体制を構築します。

□ 声かけ訓練実施箇所数（目標）：3か年で76センター（全あんしんすこやかセンター）
（2024～2026 年度）

● 高齢者安心登録事業

行方不明等、日常生活の心配がある高齢者に、事前に生活情報等の登録をしてもらい、管轄のあんしんすこやかセンターや警察等と情報を共有することで、日頃の地域での見守りに役立てます。また登録者が行方不明になった場合は、電子メールで行方不明発生情報を地域の捜査協力者に配信し、警察への情報提供を呼びかけ、早期発見と保護を目指します。

第4章 安全・安心な住生活環境の確保

【目標・施策の柱4】

第1部
計画の意義

第2部
目的と目標

第3部
施策

第4部
介護サービス
量見込み

第5部
介護保険事業
費用と負担

第1節 多様な住まいの確保、施設・居住系サービスの確保

①多様な住まいの確保

〈取組の方向性（課題）〉

- 高齢者のニーズに応じた住まいの確保と支援、分かりやすい住宅情報の提供を行います。

〈主な施策〉

- サービス付き高齢者向け住宅の確保

本市独自の登録基準により、良好なサービス付き高齢者向け住宅を誘導します。

- ①「住宅」としての質を確保するため、できる限り専用部分の面積を確保するとともに、専用部分への台所の設置を誘導する。
「住戸面積（専用部分）/戸」が20㎡以上かつ一定規模の台所を設置する場合は、「専用部分と共同利用部分面積計/戸」を23㎡とする。
- ②共同利用部分の台所の利用しやすさを向上させるため、入居者の使用状況や生活支援サービスの有無等に応じた規模や数を誘導する。
- ③入居者以外も利用できる地域交流のためのスペースは、住宅が地域に認知され、相互交流を促すきっかけにもなりうることから、共同利用部分での設置を誘導する。
- ④安全な住まい・住環境を推進するため、既存改修の住宅登録の場合においても新築と同様にエレベーターの設置や耐震性の確保を求める。
(上記方針に基づき、基準等は「神戸市サービス付き高齢者向け住宅事業の登録に関する要綱」に定める)

- 有料老人ホーム

多様なニーズの受け皿と考えられることから、有料老人ホーム設置運営指導指針により有料老人ホームの設置を誘導します。

- 市営住宅

シルバーハイツや高齢者世帯向けの特定目的住宅等の高齢者に配慮した住戸の提供のほか、高齢者の見回り事業を実施しています。

- 居住支援（住宅セーフティネット）

神戸市居住支援協議会をプラットフォームとして、居住支援に関わる団体と連携を図り、高齢者の民間賃貸住宅への円滑な入居を促進します。

- 市内で活動する居住支援法人：39法人（2024年2月末現在）

②施設・居住系サービスの確保

〈取組の方向性（課題）〉

- 高齢者のニーズや地域のバランス等に配慮した整備促進が求められています。介護人材不足への対応のほか、土地の確保が困難な既成市街地での整備促進、老朽化した介護保険施設の長寿命化の促進等の取り組みについて検討を進めていきます。
- 地域密着型サービスや、特定施設入居者生活介護（介護付有料老人ホーム及び介護付サービス付き高齢者向け住宅）の更なる充実を図っていきます。

〈主な施策〉

- 第9期計画期間（2024～2026年度）における整備目標

（単位：人）

		2023年度 累計	第9期期間中 整備数	2026年度 累計
介護 保険 施設	特別養護老人ホーム(小規模特別養護老人ホームを含む)	7,635	450	8,085
	介護老人保健施設	5,789	200	6,452
	介護医療院(介護療養型医療施設及び介護療養型老人保健施設)	463		
	小計	13,887	650	14,537
認知症高齢者グループホーム		2,922	360	3,282
特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム並びにサービス付き高齢者向け住宅及びケアハウス)		9,460	450	9,910
合計		26,269	1,460	27,729

- 特別養護老人ホーム

個室ユニットケアのみならず、従来型個室や利用者のプライバシーに配慮した多床室の整備もあわせて行います。また、在宅等で生活されている障害者が高齢になるため、特に配慮した介護施設サービスが提供されるよう支援します。

- 介護老人保健施設

介護・医療に関する多職種が配置された施設として機能維持・改善の役割を担うほか、在宅医療等の需要量の増加に対応するため、整備を促進します。

- 介護医療院

今後ますます増加が見込まれる慢性期の医療・介護ニーズへ対応するため、要介護者に対する長期療養のための医療と日常生活上の介護を、一体的に提供することを目的に設置される介護医療院については、引き続き医療病床からの転換を優先します。

- 認知症高齢者グループホーム
（看護）小規模多機能型居宅介護との併設を促進するなど、認知症高齢者やその家族の支援拠点として積極的な役割を果たすべく整備を促進します。
- 特定施設入居者生活介護（介護付き有料老人ホーム等）
自立から要介護3以上の中重度要介護者や認知症高齢者への対応、今後対応が増えてくる看取り等、多様なニーズに対応できる住み替え先と捉え、整備を促進します。

第2節 安全・安心な住生活環境の整備

〈取組の方向性（課題）〉

- 高齢者が健康に安心して暮らし続けることができるように、断熱性能やバリアフリー性能等、安全・安心な住まい・住環境の確保を図っていきます。

〈主な施策〉

- 安全・安心な住環境確保に向けた相談・普及啓発
住まいの相談窓口「すまいるネット」を通じ、断熱化やバリアフリー化等、高齢者に配慮した住宅性能の確保に向けた普及啓発のほか、住宅改修や高齢者の住み替え等の相談に対応します。
- 住宅のバリアフリー化
介護保険サービスの上乗せとして、要介護認定を受けている高齢者等を対象とする住宅改修助成事業を引き続き実施します。
- 鉄道駅のバリアフリー化
国の鉄道駅バリアフリー料金制度により整備促進が図られるほか、要件を満たす鉄道駅舎へのエレベーター設置等のバリアフリー化には県市協調補助により、高齢者や障害者等の利用環境の更なる改善を図ります。
- 高齢者の買物支援
住宅の立地等から、買物に不自由する高齢者を支援するため、移動販売サービスとの連携が可能な市営住宅等を活用した買物支援の取り組みを検討します。



第5章 介護人材の確保・育成

【目標・施策の柱5】

〈取組の方向性（課題）〉

- 急速な高齢化の中、必要な介護サービスを適切に提供するためには、介護人材の確保・育成は喫緊の課題となっています。
- 介護人材確保プロジェクト「コウベ de カイゴ」を推進し、「①新たな介護人材の確保」「②介護人材の育成・定着」「③就業環境の向上」の3つの柱を立て、介護の仕事の魅力向上や介護職員のキャリアアップ支援、外国人介護職員の受入・定着支援、介護テクノロジー機器活用等による働きやすい職場環境づくり等に取り組んでいきます。



〈主な施策〉

①新たな介護人材の確保

● 初任者研修補助

介護の基礎的な知識やスキルを学ぶ介護職員初任者研修を修了し市内で介護職員として就労継続された方を対象に、研修受講費の一部を補助します。

● 介護現場の理解促進・魅力発信

事業者団体等と連携し、トライやるウィークなど、学校教育での介護の仕事への理解を図る取り組みを促進します。また、介護人材確保プロジェクト「コウベ de カイゴ」のホームページを通じ、介護の仕事の魅力や介護職員への支援制度について情報を発信します。

□ 「コウベ de カイゴ」ホームページ閲覧（ページビュー）数（年間目標）

	2022 年度末	2026 年度末
閲覧数	56,371 p v	60,000 p v

● 外国人介護職員の受入促進

県や事業者団体等と連携して、介護事業者を対象とした外国人介護職員受入に関するセミナー開催や、技能実習生の監理団体を担う兵庫県社会福祉協議会に対する補助を実施するなどして、より効果的な受入施策を検討・実施します。

● 生活支援訪問サービス従事者養成研修

高齢者の生活支援に関する基本的な知識・技術を学ぶ研修を実施し、研修修了生には、生活支援訪問サービス事業所で新たな担い手として活躍いただくよう推進します。

■ 延べ修了者数（累計）：892人（2023年3月現在）

● 再就職支援、介護現場への就労啓発

潜在介護職員を対象にしたセミナーの開催や、兵庫県福祉人材センターと連携した啓発活動等を実施し、介護職員の再就職を支援します。

また、各区くらし支援窓口等で離職された方への就労案内を行うなど、様々な場で介護事業者への就労を働きかけます。

● 住まい確保への支援

外国人を含む介護職員を新たに採用した介護事業者に対し住宅手当補助を実施するとともに、外国人材等の円滑な住まい探し・入居に向け、神戸市居住支援協議会において必要な居住支援を実施します。

②介護人材の育成・定着

● 高齢者介護士認定制度

介護福祉士資格取得前の職員を対象とする本市独自の「神戸市高齢者介護士認定制度」について、合格者に対する介護福祉士取得までの支援金の支給や、認定制度を受講するための代替職員確保にかかる経費補助等、支援を推進します。

□ 高齢者介護士認定制度合格者数（累計目標）

	2022年度末	2026年度末
合格者数	456人	600人

● 資質向上に向けた取組

神戸市介護サービス協会が実施する介護人材等に関する各種研修を支援し、ICTを活用した研修を開催するなど参加しやすい環境づくりを推進します。

● 医療的ケア資格取得支援

特別養護老人ホームの職員が、喀痰吸引等の医療的ケアを行うための資格を取得する研修費用を補助します。

● 外国人介護職員への介護福祉士資格取得等支援

外国人介護職員について日本での長期的な就労も視野に入れ、入国後の日本語学習や介護福祉士資格取得に関する学習にかかる費用を補助するとともに、研修を受講する際に必要となる代替職員確保にかかる経費を補助します。

③就業環境の向上

● 介護テクノロジー機器の活用支援

介護テクノロジー機器の開発や導入について、企業と介護事業者の双方から相談を受ける窓口を開設し、企業と介護事業者が情報交換を行う場の提供等を行うとともに、記録作成ソフトや情報共有のための機器などの導入費用を補助することで、介護現場での業務効率化やノーリフティング等による介護職員の負担軽減の促進を支援します。

● ハラスメント・安全確保対策

介護サービス利用者やその家族からの介護職員に対するハラスメント対策について、県（相談窓口含む）との連携や啓発資材の活用促進等により、介護事業者内での周知や市民への理解普及を進めます。

また、訪問介護職員・看護師の安全確保対策に資する費用の一部を補助します。



第6章 介護保険制度の適正運営

【目標・施策の柱6】

〈取組の方向性（課題）〉

- 今後も介護費用の増大が見込まれる中、介護保険制度を適正に運営し、制度の持続性を高めていきます。
- 事業者及び利用者への適正・適切なサービスの理解促進を図ります。
※下記施策は、市町村介護給付適正化計画に位置づけられるものです。

〈主な施策〉

- 自立支援を促進するケアマネジメント
 - ・ ケアマネジメント研修
ケアマネジャーに対するケアマネジメント研修や、経験豊富なケアマネジャーがサービス担当者会議等に同行する地域同行型ケアマネジメント研修を実施します。
■ 実施回数：年間8回（毎年度同程度見込み）
 - ・ 多職種によるケアマネジメント検討会
自立支援に資するケアプランに向けて「多職種ケアマネジメント検討会」を開催します。
■ 実施回数：年間4回（毎年度同程度見込み）
 - ・ リハビリ専門職によるケアマネジャーとの同行訪問
要支援者等のケアプランを作成する際、ケアマネジャーの自宅訪問時にリハビリ専門職（理学療法士、作業療法士）が同行し、利用者へのセルフケア等の助言を行ったり、ケアマネジャーの自立支援に資するケアプラン作成を支援します。
■ 実施回数：年間253件・59事業所（2022年度実績、次年度以降も同程度見込み）
- ケアプラン点検（指導・助言等）
ケアプランの適正・適切性を点検します。指導・助言のほか、必要に応じて是正も促します。国民健康保険団体連合会（以下、「国保連」という）の適正化システム活用による事業者抽出後、縦覧点検や個別状況を踏まえたより精査した点検を行います。
■ ケアプラン点検数：162事業所4,511件（2022年度実績、次年度以降も同程度見込み）



● 要介護認定の適正化

・ 認定調査員研修

「新規研修」、「フォロー研修」、「現任研修」等、認定調査員の実務経験に応じた研修の機会を設け、調査員の資質の向上に努めます。

■ 新規研修実施回数：年間6回（毎年度同程度見込み）

■ フォロー研修実施回数：年間6回（毎年度同程度見込み）

■ 現任研修実施回数：年間1回（毎年度同程度見込み）

・ 認定調査委託先の検査

行政保健師等による認定調査現場への同行訪問や調査票点検を実施します。

■ 認定調査委託先検査数：6事業所（2022年度実績、次年度以降も同程度見込み）

・ 主治医意見書の充実と適正化

主治医意見書記入の手引き等をホームページに掲載し、総合病院における主治医意見書研修を実施します。

・ 認定審査会の平準化

二次判定について（認定審査会）、合議体間の判定の偏りや軽重度変更率を分析し、審査会委員を対象とする研修を実施します。

■ 研修実施回数：年間1回（毎年度同程度見込み）

■ 一次判定からの変更率（2022年度実績）

重度変更率：7.2%（全国 8.7%）

軽度変更率：0.3%（全国 0.7%）

● 住宅改修の点検の適正化

一定の要件のもとに抽出した住宅改修工事の対象となる住宅を建築士の資格を持った調査員が訪問し、支給要件を満たしていることの確認や申請工事内容と施工内容が相違なく適切に施工されていることの確認を実施します。

□ 住宅改修の調査件数（年間目標）

	2022年度末	2026年度末
調査件数	26件	50件

● 縦覧点検の実施・医療情報との突合

縦覧点検及び医療情報との突合は、国保連でのリスト抽出にもとづき、事業所に対する聞き取り調査を行い、不適切な請求は過誤調整等を依頼します。

□ 縦覧点検の実施状況（年間目標）

	2022年度末	2026年度末
点検件数	1,407件	1,500件



- 第三者求償事務の推進

第三者行為求償について、国保連からの情報をもとに届出義務対象者を把握し、介護給付費の適正な運用を推進します。

■ 第三者行為届出数：年間 20 件程度（毎年度同程度見込み）

- 保険料収納対策の強化

保険料の支払い手段の多様化（スマートフォン決済の拡充、インターネットバンキング導入検討）により、収納の確保を図ります。

- 制度の持続性を踏まえたサービスの見直し

紙おむつ支給事業等の介護保険外サービスについて、国の動向を踏まえ見直しや再構築を検討します。

- 公平・公正なあんしんすこやかセンターの運営の確保

神戸市地域包括支援センター運営協議会（各区での取り組みを含む）を開催し、公平・公正なセンター運営を確保します。

■ 運営協議会実施回数：年間 2 回程度（毎年度同程度見込み）

- 施設・事業所の監査指導

法令等にもとづいて、運営指導として施設・事業所へ赴き事業運営や報酬請求等の確認を行い、必要な改善の指導を行います。不正請求や虐待疑い等の通報があった場合、監査として施設・事業所への立ち入り調査等を実施します。

■ 施設・事業所に対する監査・指導の状況（2022 年度実績）

実地指導：364 件

監 査：30 件

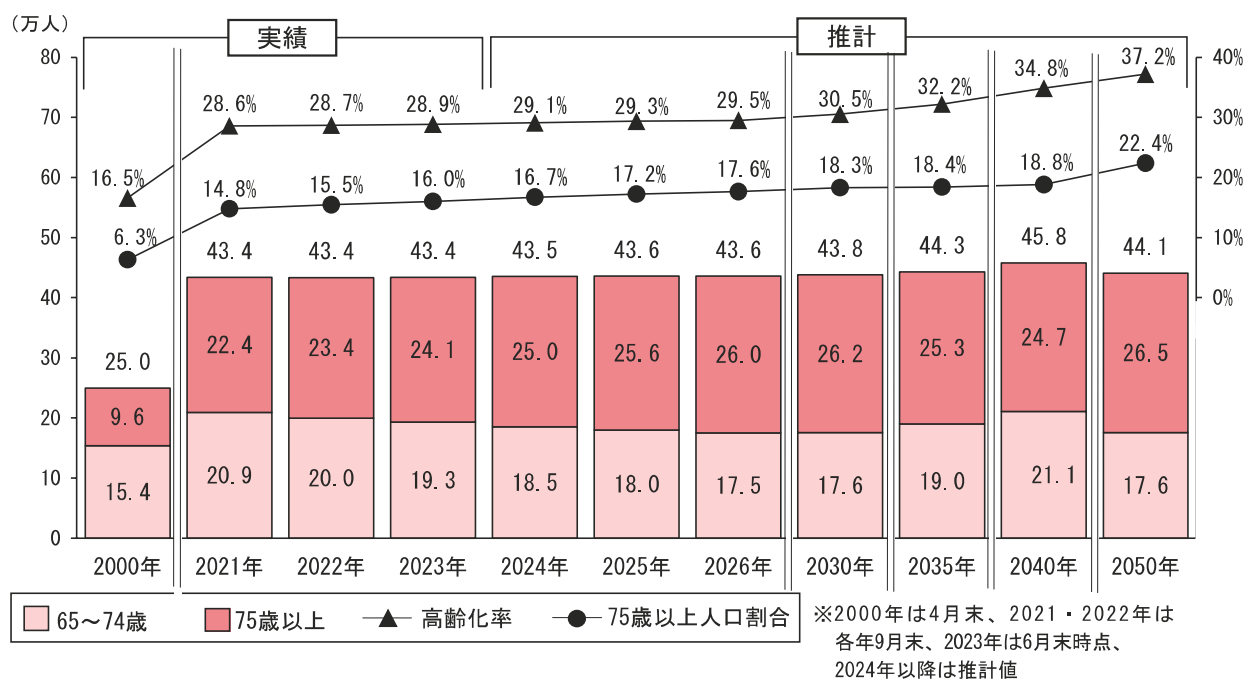
集団指導：動画視聴方式で実施

第4部 介護サービス量等の見込み

第1章 被保険者数の見込み

65歳以上の高齢者人口は、2026年度には約43.6万人（高齢化率29.5%）、2040年には約45.8万人（34.8%）に迫り、市民の3人に1人以上が高齢者となります。特に75歳以上の人口は増え続け、2026年には26万人に達する見込みで、介護が必要な高齢者はますます増加することが予想されます。

【第1号被保険者数と高齢化率の推移（グラフ再掲）】



【第1号被保険者数の推移】

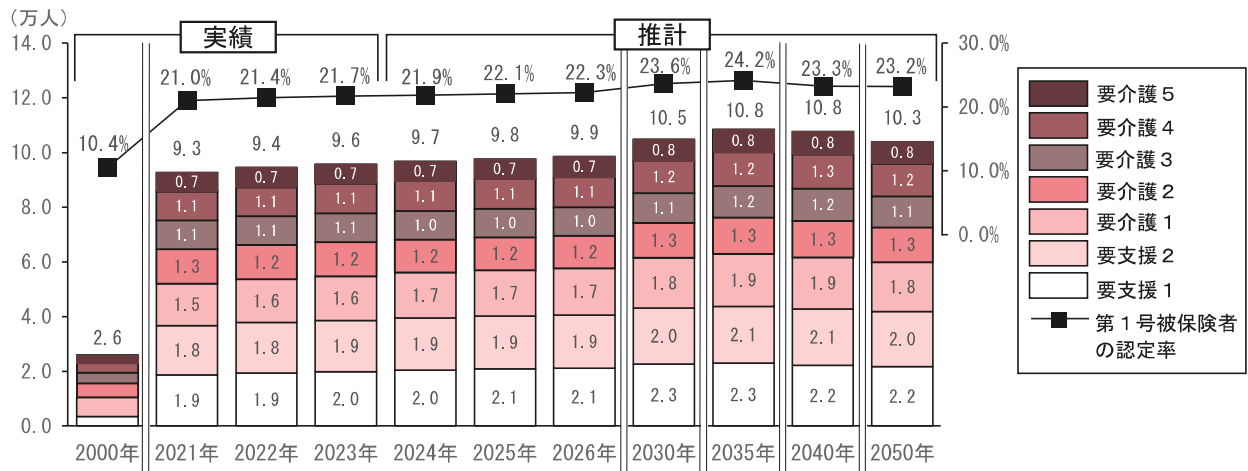
(人)	2000年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2030年	2035年	2040年	2050年
総人口	1,508,944	1,518,781	1,511,879	1,504,004	1,495,024	1,485,801	1,476,182	1,434,339	1,376,408	1,314,166	1,185,217
第1号被保険者	249,658	433,785	433,558	433,978	435,217	435,706	435,643	437,798	443,085	457,795	440,990
65~74歳	153,875	209,491	199,849	193,011	185,263	179,688	175,396	175,568	189,769	210,781	175,658
75歳以上	95,783	224,294	233,709	240,967	249,954	256,018	260,247	262,230	253,316	247,014	265,332
高齢化率	16.5%	28.6%	28.7%	28.9%	29.1%	29.3%	29.5%	30.5%	32.2%	34.8%	37.2%
75歳以上人口割合	6.3%	14.8%	15.5%	16.0%	16.7%	17.2%	17.6%	18.3%	18.4%	18.8%	22.4%

第2号被保険者数	529,848	520,892	521,016	520,216	518,664	516,958	514,955	496,484	457,822	407,811	355,982
被保険者数総数	779,506	954,677	954,574	954,194	953,881	952,664	950,598	934,282	900,907	865,606	796,972

第2章 要介護（要支援）認定者数の見込み

要介護（要支援）認定者数は、2026年度には約9.9万人、2035年には、約10.9万人に迫る見込みです。また、第1号被保険者の要介護（要支援）認定率についても、2035年頃まで上昇し続けることが予想されます。

【要介護（要支援）認定者数と第1号被保険者認定率の推移（グラフ再掲）】



※棒グラフの数値は第2号被保険者を含む

※2000年は4月末、2021・2022年は各年9月末、2023年は5月末の各時点、2024年以降は推計値

【要支援・要介護認定者数（第2号被保険者を含む）の推移】

(人)	2000年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2030年	2035年	2040年	2050年
要支援1	3,445	18,722	19,436	19,877	20,452	20,940	21,199	22,676	22,941	22,196	22,083
要支援2	-	18,029	18,426	18,780	19,086	19,277	19,364	20,485	20,868	20,635	20,165
要介護1	7,151	15,305	15,810	16,152	16,524	16,781	17,081	18,270	19,103	18,869	18,018
要介護2	5,088	12,627	12,448	12,457	12,148	12,018	12,007	12,762	13,285	13,268	12,610
要介護3	3,782	10,522	10,550	10,520	10,411	10,354	10,389	11,034	11,627	11,752	10,978
要介護4	3,551	10,543	10,647	10,879	10,893	10,926	10,994	11,700	12,326	12,546	11,657
要介護5	3,023	6,944	7,163	7,105	7,266	7,369	7,474	7,914	8,319	8,402	7,852
合計	26,040	92,692	94,480	95,770	96,780	97,665	98,508	104,841	108,469	107,668	103,363

※ 2000年は4月末、2021・2022年は各年9月末、2023年は5月末の各時点、2024年以降は推計値

【要支援・要介護認定者数の構成比（2023年5月末実績）】

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
被保険者数(人)	19,877	18,780	16,152	12,457	10,520	10,879	7,105	95,770
構成比	20.8%	19.6%	16.9%	13.0%	11.0%	11.4%	7.4%	100.0%
全国	14.1%	13.8%	20.8%	16.7%	13.2%	12.8%	8.5%	100.0%

第3章 介護サービス利用者数の見込み

第1節 施設・居住系サービスの利用見込み

施設・居住系サービスについては、市内施設の今後の整備状況等、利用者数を見込んでいます。

(単位：人)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2030年度
介護老人福祉施設	5,782	5,949	6,111	6,233	6,355	6,477	6,943
小規模介護老人福祉施設	664	674	692	706	720	734	788
介護老人保健施設	4,586	4,567	4,583	4,602	4,621	4,640	4,962
介護医療院・介護療養型医療施設	448	449	450	432	473	513	550
小計	11,480	11,639	11,836	11,973	12,169	12,364	13,243
認知症高齢者グループホーム	2,489	2,544	2,620	2,737	2,857	2,991	3,161
特定施設入居者生活介護	5,126	5,246	5,338	5,454	5,570	5,695	6,047
小計	7,615	7,790	7,958	8,191	8,427	8,686	9,208
施設・居住系サービス合計	19,095	19,429	19,794	20,164	20,596	21,050	22,451

※ 2021～2023年度は各年度1月当たりの利用実績。2024年度以降は推計値。



- 介護老人福祉施設
- 小規模介護老人福祉施設
- ▨ 介護老人保健施設
- ▨ 介護医療院・介護療養型医療施設
- ▨ 認知症高齢者グループホーム
- ▨ 特定施設入居者生活介護

第2節 居宅サービス・地域密着型サービス・総合事業の利用見込み

居宅サービス等の利用見込みにあたっては、過去の実績をもとに推計しています。

【介護給付＋予防給付】

		単位	2024年度	2025年度	2026年度	2030年度
居宅サービス	訪問介護	回数／月	365,121	368,315	371,509	378,129
		人数／月	14,051	14,151	14,251	14,737
	訪問入浴介護	回数／月	4,853	4,875	4,898	5,023
		人数／月	948	953	958	981
	訪問看護	回数／月	146,348	147,556	148,518	153,102
		人数／月	15,391	15,525	15,626	16,199
	訪問リハビリテーション	回数／月	25,698	25,848	26,020	26,874
		人数／月	2,065	2,078	2,092	2,166
	居宅療養管理指導	人数／月	16,810	16,933	17,041	17,557
	通所介護	回数／月	109,954	110,861	111,767	115,233
		人数／月	11,692	11,787	11,882	12,284
	通所リハビリテーション	回数／月	31,124	31,323	31,521	32,278
		人数／月	6,551	6,618	6,663	6,936
	短期入所生活介護	日数／月	44,171	44,364	44,570	45,237
		人数／月	3,422	3,437	3,454	3,531
	短期入所療養介護 (老健・介護医療院・病院等)	日数／月	5,366	5,393	5,414	5,525
		人数／月	661	664	667	682
	福祉用具貸与	人数／月	35,265	35,584	35,801	37,160
特定福祉用具購入費	人数／月	542	546	550	576	
住宅改修費	人数／月	625	632	636	662	
特定施設入居者生活介護	人数／月	5,454	5,570	5,695	6,047	
居宅介護支援	人数／月	48,668	49,164	49,532	51,604	
地域密着型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	人数／月	387	388	390	400
	夜間対応型訪問介護	人数／月	2	2	2	2
	地域密着型通所介護	回数／月	35,976	36,262	36,547	37,855
		人数／月	4,260	4,295	4,330	4,497
	認知症対応型通所介護	回数／月	5,888	5,926	5,981	6,134
		人数／月	628	632	638	656
	小規模多機能型居宅介護	人数／月	878	884	890	921
	認知症対応型共同生活介護	人数／月	2,737	2,857	2,991	3,161
	地域密着型特定施設入居者生活介護	人数／月	0	0	0	0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	人数／月	706	720	734	788
看護小規模多機能型居宅介護	人数／月	324	326	328	339	

第1部 計画の意義

第2部 目的と目標

第3部 施策

第4部

介護サービス量等の見込み

第5部

介護保険事業の費用と負担



【介護給付】

		単位	2024年度	2025年度	2026年度	2030年度
居宅サービス	訪問介護	回数/月	365,121	368,315	371,509	378,129
		人数/月	14,051	14,151	14,251	14,737
	訪問入浴介護	回数/月	4,773	4,795	4,818	4,939
		人数/月	929	934	939	961
	訪問看護	回数/月	110,138	110,874	111,611	113,957
		人数/月	10,792	10,862	10,932	11,217
	訪問リハビリテーション	回数/月	18,041	18,107	18,237	18,612
		人数/月	1,386	1,391	1,401	1,432
	居宅療養管理指導	人数/月	14,494	14,584	14,674	15,043
	通所介護	回数/月	109,954	110,861	111,767	115,233
		人数/月	11,692	11,787	11,882	12,284
	通所リハビリテーション	回数/月	31,124	31,323	31,521	32,278
		人数/月	3,934	3,959	3,984	4,087
	短期入所生活介護	日数/月	43,527	43,720	43,914	44,547
		人数/月	3,309	3,324	3,339	3,410
	短期入所療養介護 (老健・介護医療院・病院等)	日数/月	5,178	5,205	5,226	5,327
人数/月		642	645	648	662	
福祉用具貸与	人数/月	21,647	21,767	21,887	22,379	
特定福祉用具購入費	人数/月	314	316	318	329	
住宅改修費	人数/月	281	282	283	288	
特定施設入居者生活介護	人数/月	4,328	4,409	4,509	4,788	
居宅介護支援	人数/月	31,063	31,294	31,533	32,478	
地域密着型サービス	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	人数/月	387	388	390	400
	夜間対応型訪問介護	人数/月	2	2	2	2
	地域密着型通所介護	回数/月	35,976	36,262	36,547	37,855
		人数/月	4,260	4,295	4,330	4,497
	認知症対応型通所介護	回数/月	5,866	5,904	5,959	6,112
		人数/月	623	627	633	651
	小規模多機能型居宅介護	人数/月	762	767	772	795
	認知症対応型共同生活介護	人数/月	2,729	2,848	2,981	3,150
	地域密着型特定施設入居者生活介護	人数/月	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	人数/月	706	720	734	788	
看護小規模多機能型居宅介護	人数/月	324	326	328	339	

第1部 計画の意義

第2部 目的と目標

第3部 施策

第4部

介護サービス量等の見込み

第5部

介護保険事業の費用と負担



【予防給付】

		単位	2024年度	2025年度	2026年度	2030年度
介護 予 防 サ ー ビ ス	介護予防訪問入浴介護	回数/月	80	80	80	84
		人数/月	19	19	19	20
	介護予防訪問看護	回数/月	36,210	36,682	36,907	39,145
		人数/月	4,599	4,663	4,694	4,982
	介護予防訪問リハビリテーション	回数/月	7,657	7,741	7,783	8,262
		人数/月	679	687	691	734
	介護予防居宅療養管理指導	人数/月	2,316	2,349	2,367	2,514
	介護予防通所リハビリテーション	人数/月	2,617	2,659	2,679	2,849
	介護予防短期入所生活介護	日数/月	644	644	656	690
		人数/月	113	113	115	121
	介護予防短期入所療養介護 (老健・介護医療院・病院等)	日数/月	188	188	188	198
		人数/月	19	19	19	20
	介護予防福祉用具貸与	人数/月	13,618	13,817	13,914	14,781
	介護予防特定福祉用具購入費	人数/月	228	230	232	247
	介護予防住宅改修費	人数/月	344	350	353	374
介護予防特定施設入居者生活介護	人数/月	1,126	1,161	1,186	1,259	
介護予防支援	人数/月	17,605	17,870	17,999	19,126	
介 地 域 予 防 密 着 サ ー ビ ス	介護予防認知症対応型通所介護	回数/月	22	22	22	22
		人数/月	5	5	5	5
	介護予防小規模多機能型居宅介護	人数/月	116	117	118	126
	介護予防認知症対応型共同生活介護	人数/月	8	9	10	11

【介護予防・日常生活支援総合事業】

	単位	2024年度	2025年度	2026年度	2030年度
訪問型サービス	人数/月	10,900	11,200	11,500	10,336
通所型サービス	人数/月	12,000	12,300	12,600	11,441

第1部 計画の意義

第2部 目的と目標

第3部 施策

第4部

介護サービス量等の見込み

第5部

介護保険事業の費用と負担



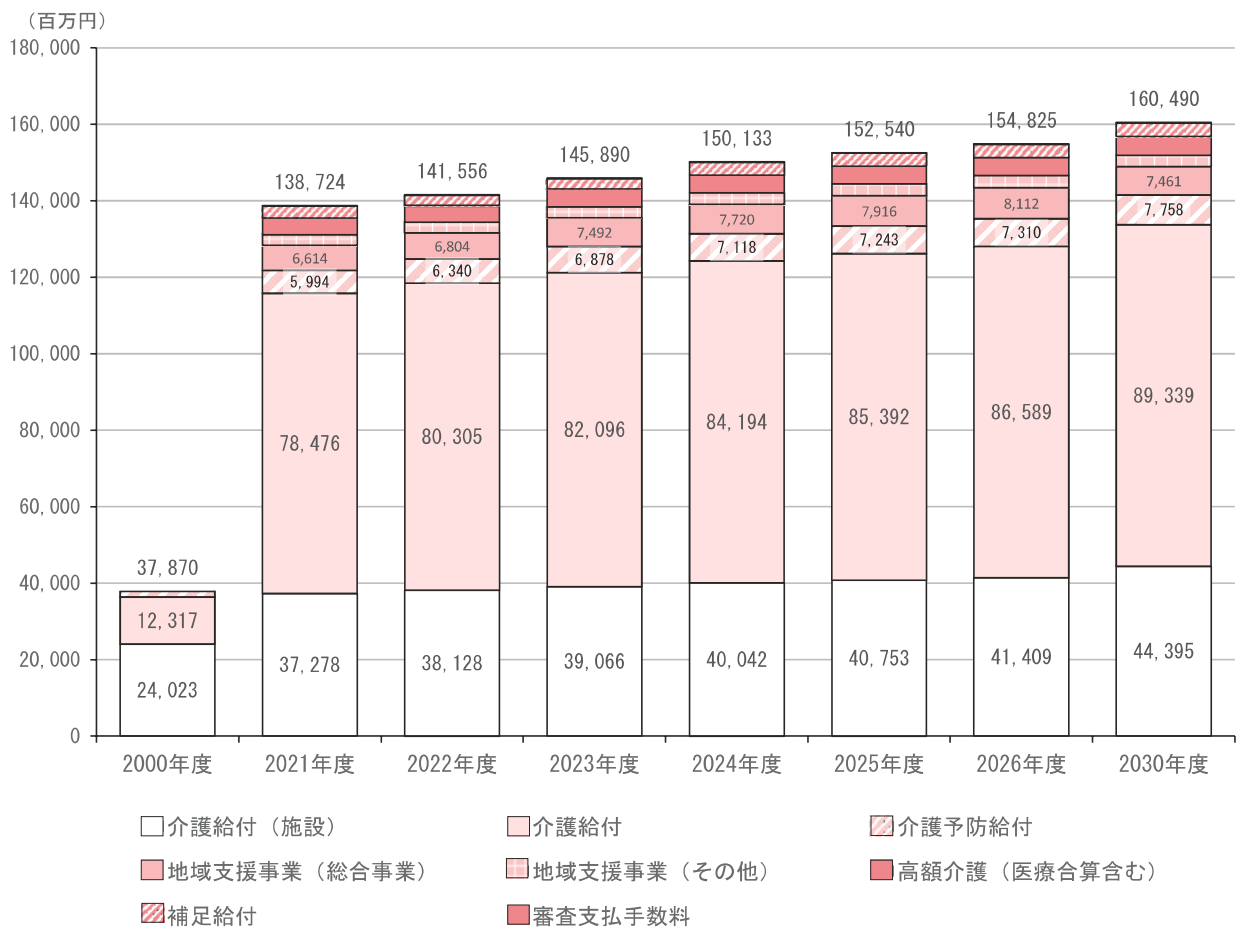
第5部 介護保険事業の費用と負担

第1章 介護保険事業にかかる給付費等の見込み

高齢者人口や要介護等認定者数、介護サービス量の見込みをもとに算定した2024年度から2026年度の3か年の給付費総額は、4,575億円になる見込みです。この見込み額が、2024年度から2026年度までの65歳以上の方の保険料の算定基礎となります。

(単位：億円)

	2024年度	2025年度	2026年度	3か年合計
標準給付費	1,394	1,415	1,435	4,245
在宅サービス（地域密着型サービスを含む）	913	926	939	2,778
施設サービス	400	408	414	1,222
高額介護サービス費等	81	81	82	244
地域支援事業費	107	110	113	330
介護予防・日常生活支援総合事業	77	79	81	237
包括的支援事業・任意事業	30	31	32	93
合計	1,501	1,525	1,548	4,575



第1部 計画の意義

第2部 目的と目標

第3部 施策

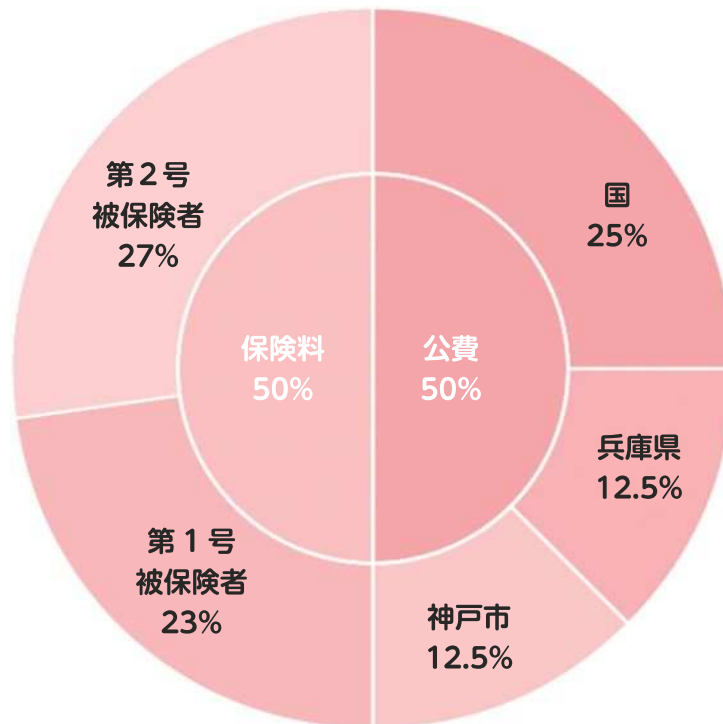
第4部 介護サービス量等の見込み

第5部 介護保険事業の費用と負担

● 介護保険事業にかかる給付費の財源のしくみ

介護サービスを利用する場合、費用の1割（一定以上の所得者は2割または3割）が自己負担となり、残りの9割が保険から給付されます。原則として、その財源の半分は保険料（65歳以上＝第1号被保険者23%、40歳～64歳＝第2号被保険者27%）、残りは国（25%）、都道府県（12.5%）、市町村（12.5%）の負担（税）で賄っています。

これにより、介護サービスの利用量に応じて、高齢者が負担する保険料の総額が決まります。



第2章 第1号被保険者の保険料

①第9期の保険料基準

第1号被保険者の保険料は、本計画において見込む2024年度から2026年度の給付費のうち第1号被保険者が負担すべき給付費（給付費全体の23%）を第1号被保険者数で割ることによって算定されます。

第9期計画期間における第1号被保険者の保険料基準月額は、6,580円となります。（第8期6,400円/月）

※個人が実際に支払う保険料については、本人の課税状況や所得の状況、世帯課税状況等にもとづく保険料段階設定により負担額が異なります。

【第9期における保険料の抑制策】

第9期の介護保険料設定については、以下の抑制策を実施します。

①介護予防の推進

介護予防を推進する取り組みにより保険料を抑制します。

②消費税を財源とする公費を投入した低所得者の保険料軽減

第1段階～第3段階について、消費税を財源とする公費を投入して、保険料率を引き下げます。

第1段階保険料率：0.405 → 0.235

第2段階保険料率：0.635 → 0.435

第3段階保険料率：0.685 → 0.68

③保険料段階の多段階化

保険料段階について、国基準の13段階を15段階に細分化し、より負担能力に応じた段階設定とします。

④剰余金の活用

神戸市介護給付費等準備基金の2023年度末の残高見込額の2分の1を取り崩し、保険料の上昇抑制に活用します。

⑤インセンティブ交付金の活用

第9期計画期間中の国交付見込み額約12億円を保険料軽減に活用します。

※インセンティブ交付金とは、市町村による自立支援・重度化防止等の取り組みの達成状況に対し、毎年配分される交付金のこと。



②第9期の保険料段階

保険料段階については、低所得者に配慮するとともに、より負担能力に応じた保険料設定と
するため、本市では保険料段階を15段階に設定しています。(国の基準は13段階)

保険料段階	対象者		保険料率	1人あたりの 年間保険料 ^{※3} (月平均)
第1段階	生活保護受給者 老齢福祉年金受給者(世帯全員が市民税非課税)		基準額×0.235	18,556円 (1,547円)
	本人が 市民税 非課税	本人の公的年金等の収入金額 ^{※1} と合計所得金額 ^{※2} の合計が80万円以下		
第2段階	本人が 市民税 非課税	本人の公的年金等の収入金額と合計所得金額の合計が80万円超120万円以下	基準額×0.435	34,348円 (2,863円)
第3段階		本人の公的年金等の収入金額と合計所得金額の合計が120万円超	基準額×0.68	53,693円 (4,475円)
第4段階		世帯に市民税 課税者がいる	本人の公的年金等の収入金額と合計所得金額の合計が80万円以下	基準額×0.9
第5段階	本人の公的年金等の収入金額と合計所得金額の合計が80万円超		基準額×1	78,960円 (6,580円)
第6段階	本人が 市民税 課税	合計所得金額が120万円未満	基準額×1.15	90,804円 (7,567円)
第7段階		合計所得金額が120万円以上190万円未満	基準額×1.24	97,911円 (8,160円)
第8段階		合計所得金額が190万円以上290万円未満	基準額×1.47	116,072円 (9,673円)
第9段階		合計所得金額が290万円以上400万円未満	基準額×1.675	132,258円 (11,022円)
第10段階		合計所得金額が400万円以上500万円未満	基準額×1.8	142,128円 (11,844円)
第11段階		合計所得金額が500万円以上600万円未満	基準額×1.9	150,024円 (12,502円)
第12段階		合計所得金額が600万円以上700万円未満	基準額×2.2	173,712円 (14,476円)
第13段階		合計所得金額が700万円以上800万円未満	基準額×2.35	185,556円 (15,463円)
第14段階		合計所得金額が800万円以上1000万円未満	基準額×2.6	205,296円 (17,108円)
第15段階		合計所得金額が1,000万円以上	基準額×2.85	225,036円 (18,753円)

※1 公的年金等の収入金額とは、老齢年金などの課税対象となる年金収入をいい、障害・遺族年金などの非課税となる年金収入は含まれません。

※2 合計所得金額とは、収入金額から必要経費を控除した所得金額の合計額で、「基礎控除」「配偶者控除」「社会保険料控除」「医療費控除」などの所得控除前の金額です。株式譲渡所得など申告分離課税の所得金額を含み、退職所得、雑損失、繰越損失は含みません。土地建物等の譲渡所得に特別控除がある場合は、特別控除額を差し引いて算定します。

※注 第1～5段階については、※2で計算した合計所得金額を、給与所得及び公的年金等に係る雑所得金額の合計から10万円控除(ただし、控除後、合計額が0円を下回る場合は0円とする)した額で算定し直します。さらに、租税特別措置法第四十一条の三の三第二項に定める所得金額調整控除額を加え、そこから公的年金等に係る雑所得金額を差し引いて算定します。

※3 実際に納めていただく年間保険料は、10円単位(10円未満は切り捨て)となります。

③保険料の減免制度

本市では独自に生活困窮者等に対する保険料軽減制度を設けています。第9期計画期間中においても継続します。

保険料段階	対象となる方		減免の内容
第1～3段階	収入が少なく生活が困窮している方で、下記の①～③すべてに該当	世帯の年間合計収入が60万円以下 (世帯員が2人以上の場合は、2人目から1人あたり17.5万円を加算した額以下)	第1段階の半額の保険料相当額に減額
第2・3段階		世帯の年間合計収入が120万円以下 (世帯員が2人以上の場合は、2人目から1人あたり35万円を加算した額以下)	第1段階の保険料相当額に減額
	「神戸市在日外国人等福祉給付金」の受給者		//
第4～15段階	失業などにより、本人や家族の所得が前年に比べて大幅に減少した方で、下記の④に該当	<ul style="list-style-type: none"> ④の理由により世帯の今年1年間の見込所得が前年と比べて半分以下に減る 1か月あたりの金額が24.5万円以下である 見込み所得から判断すると、本人または世帯全員が市民税の非課税基準に該当し、保険料段階が当年度4・5段階の方は翌年度1～3段階に、当年度6～15段階の方は翌年度1～5段階に下がると見込まれる。 	所得の減少の度合いなどに応じて、保険料の1.2割～8.89割を減額(失業などの事実のあった月から年度末まで適用)
全ての段階	災害により被害を受けた方	風水害・火災などにより住宅・家財に著しい被害を受けた方のうち一定の方	被害の程度に応じて、保険料の3割から10割を減免
	刑事施設などに収監された方	刑事施設などへの収監が2か月をこえる場合	収監期間中の保険料の全額を免除

- ①市民税の課されている方に扶養されていない。
- ②市民税の課されている方と生計を共にしていない。
- ③資産などを活用してもなお、生活が困窮している状態と認められる(預貯金額の場合、世帯で350万円以下(世帯員が2人以上の場合は、2人目から1人あたり100万円を加算した額以下))
- ④本人の属する世帯の生計を維持する方が失業した、事業を廃止・休止した、亡くなられた、心身に重大な障害を受けた、長期入院した等のいずれかに該当する場合



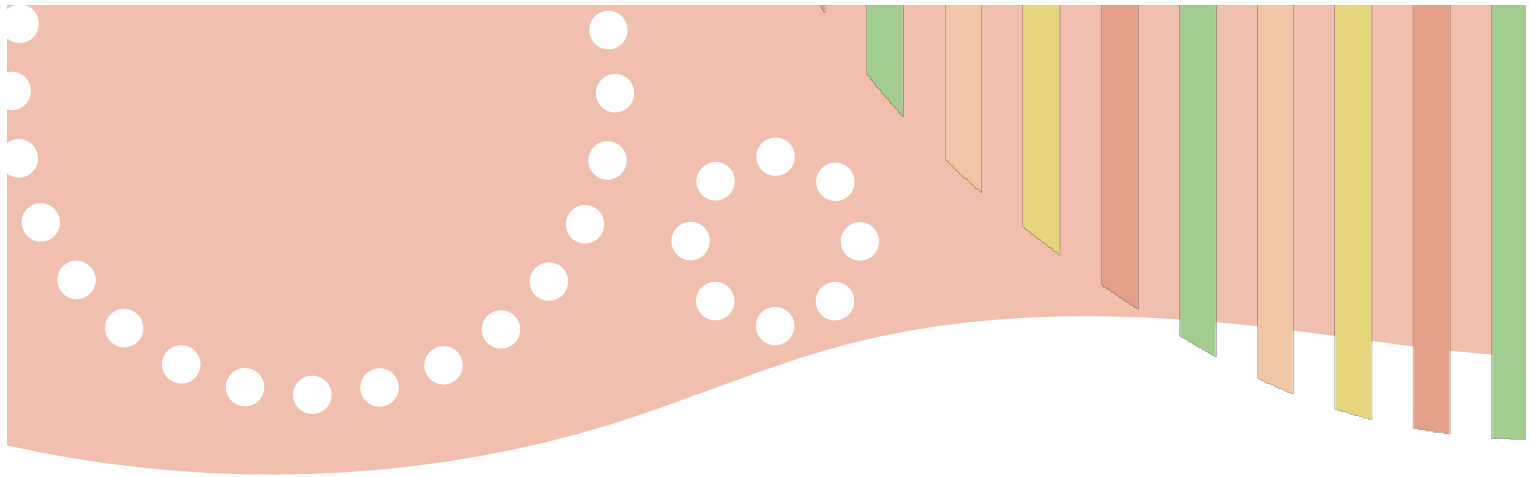
第9期神戸市介護保険事業計画・神戸市高齢者保健福祉計画

(2024(令和6)～2026(令和8)年度)

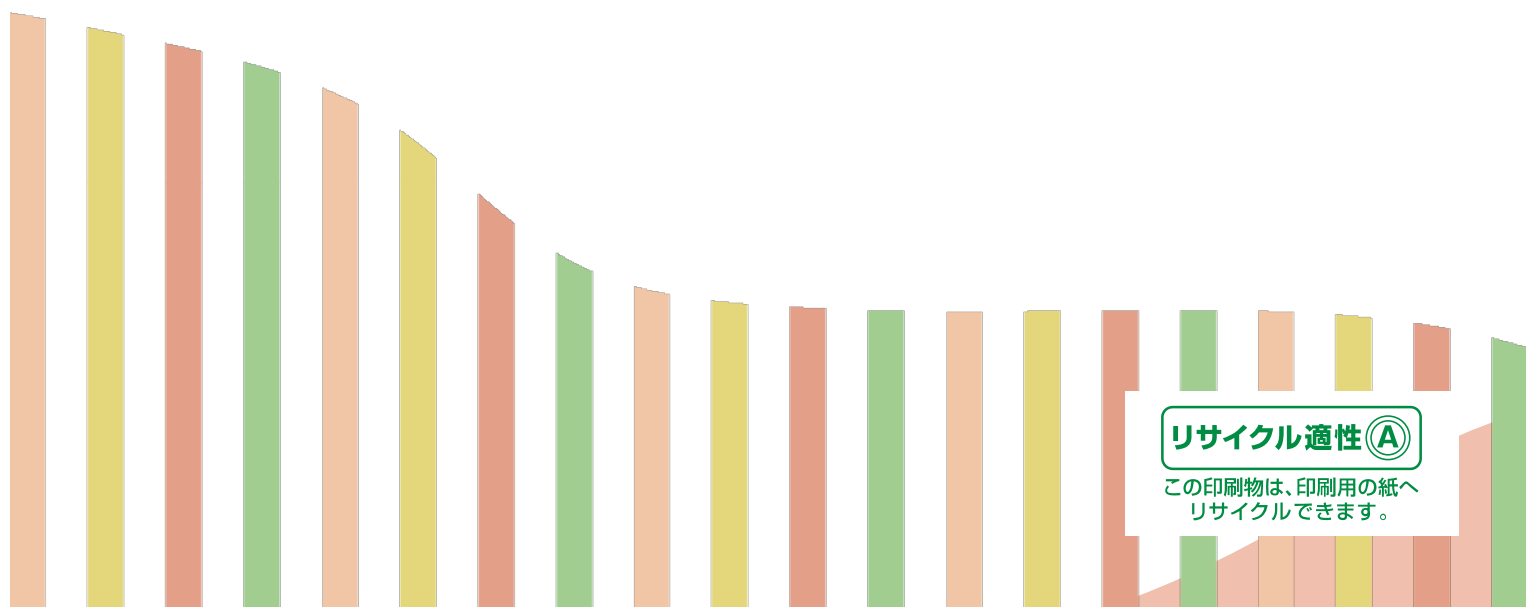
発行 神戸市福祉局介護保険課

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号

TEL078-322-6229 FAX078-322-6049



 **KOBE**



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

1 策定趣旨

- 本計画は、「神戸市民の福祉をまもる条例」に基づいて、市の果たすべき責務を具体的に明示することにより、高齢者保健福祉施策の体系的・総合的推進を図ろうとするものです。
- 介護保険事業計画と老人福祉計画（本市では、「神戸市高齢者保健福祉計画」）は、一体的策定が義務づけられていることから、本計画は、『介護保険事業計画と神戸市高齢者保健福祉計画』の一体の計画（以下「介護保険事業計画」という）として策定しています。
- また、介護保険事業計画は、要介護者等の保健、医療、福祉又は居住に関する他の計画と調和を保つこととなっており、本計画は、「神戸市認知症施策推進計画」や「神戸市高齢者居住安定確保計画」とも一体の計画として策定しています。

2 計画の位置づけと期間

- 本市のまちづくりを進めるにあたっては、「神戸市基本構想」「第6次神戸市基本計画」が策定されています。
- 本計画は、市町村地域福祉計画に位置づけられる「こうべ」の市民福祉総合計画2030との連携を図っています。
- また、兵庫県地域医療構想における病床の機能分化・連携の推進に伴う、在宅医療等の新たなサービス必要量に関して、「兵庫県保健医療計画」との整合性を図っています。
- 本計画の期間は、2027年度から2029年度の3か年計画とします。

3 計画策定の考え方とポイント

- 本市では、学識経験者・保健医療関係者・福祉関係者等で構成される「介護保険専門分科会」、また、その下部組織の「企画・調査部会」において、本計画の実施状況の点検や課題検討を行うなど、介護保険事業の円滑な推進を図っています。
- 計画策定のための基礎資料とするとともに、本市の今後の高齢者施策の参考資料とするため、高齢者の実態調査を実施します。（3年毎の調査）

■調査種別

- ①要介護認定を受けていない65歳以上の方を対象とする「高齢者一般調査」
…令和7年10月6日現在、要介護認定を受けていない神戸市内に居住する65歳以上の男女
- ②要介護認定を受けている65歳以上の方を対象とする「在宅高齢者実態調査」
…令和7年10月6日現在、要介護認定を受けている神戸市内に居住する65歳以上の男女（※令和7年7月に施設サービスの利用実績のある者を除く）
- ③施設を対象とする「施設調査」
…令和7年10月1日現在開設中の介護保険サービスの付いた施設

4 国の最新の動向

厚生労働省にて令和7年7月25日付けで取りまとめた「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方に関するとりまとめ」及び令和6年12月3日閣議決定された「認知症施策推進基本計画」に基づき、現行計画の目標・施策の柱ごとに新計画において検討すべき内容を整理しました。

目標・施策の柱	新計画で検討すべき事項
フレイル予防をはじめとした介護予防の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護予防の体系的強化（通いの場の発展・拡充、地域リハ支援体制の活用、保健事業との一体的実施） ● サービス・活動C（短期集中予防）の推進と「自立支援サイクル」の構築（短期集中→社会参加への接続） ● 介護予防・健康づくりの効果検証とデータ収集・見える化（自治体が使えらる形で提供、PDCA強化） ● インセンティブ交付金（保険者機能強化推進交付金・努力支援交付金）の指標精査と枠組み整理・強化 ● 地域資源の見える化（総合事業・通いの場、健康増進施設・総合型スポーツクラブ等へのアクセス改善） ● フレイル・生活機能低下への医療専門職の早期・集中的関与（施設等との連携も含め実装） ● 中山間・人口減少地域での「介護予防・地域ささえあいサポート拠点」モデルの展開・検証
地域での生活の継続に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域包括ケアの深化（医療・介護・予防・生活支援の切れ目ない提供） ● 医療介護連携の強化（施設の協力医療機関の調整、入退院支援ルール、在宅医療連携推進） ● 在宅ケアの受け皿と緊急対応機能の整備（訪問診療・看護、一般病院、老健、ショートステイの役割明確化） ● 地域類型に応じた提供体制の最適化 ● 住まい施策との整合（多様な住まいに対応したサービスの組合せ提供）
認知症の人にやさしいまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症の人に関する国民の理解の増進等（「新しい認知症観」の普及促進、本人発信を含めた運動の展開） ● 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の増進（地域における生活支援体制の整備等） ● 認知症の人の社会参加の機会の確保等 ● 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護 ● 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等（保健医療福祉の有機的な連携の確保） ● 相談体制の整備等 ● 認知症の予防等（科学的知見に基づく予防に関する啓発・知識の普及、身近な保健医療福祉サービス機関と専門的医療機関の連携）
安全・安心な住生活環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 住まい施策と介護提供体制の整合（特に大都市部での多様な住まい×サービスの組合せ） ● 設備・基準の実態に即した柔軟化（都市部の用地制約を踏まえた整備基準の見直し検討） ● 中山間・人口減少地域における移動支援と地域交通連携（事業者・利用者の移動負担への対応） ● 既存福祉施設の有効活用（転用・貸付・廃止に係る国庫返納規制の一定緩和、異分野横断の転用を可能に） ● 災害後の地域での生活再建と介護基盤の維持（能登地域の教訓を踏まえた持続可能性の確保）
介護人材の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 賃上げ・処遇改善の継続強化（処遇改善加算一本化・加算率引上げ、要件弾力化による取得促進） ● 訪問介護の支援（同行支援、経営改善、魅力発信を含む特別対策） ● 地域プラットフォーム機能の充実（ハローワーク・福祉人材センター・生産性相談センター等との連携） ● 潜在介護福祉士の復職支援（情報収集強化、マッチング・リターン支援の仕組み整備） ● タスクシフト/シェア・介護助手導入（業務の切り出し、入門的研修の拡充） ● 若年層への魅力発信（テクノロジー活用・社会課題対応のアピール、学校現場と連携） ● 外国人材の受入・定着（国別アプローチ、日本語支援、同等処遇の確保、都道府県主導のセンター整備） ● 養成施設の教育改革（テクノロジー教育・日本語教育強化、地域連携によるリカレント教育） ● オンライン研修・試験制度の見直し、ハラスメント対策、柔軟な働き方・常勤化支援 ● 生産性向上、デジタル中核人材育成・伴走支援、科学的介護（LIFE）推進 ● ケアプラン電子連携（ケアプランデータ連携システム）による事務・連携効率化 ● センサー・インカム・介護記録ソフト等の導入加速
介護保険制度の適正運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 需給の見える化・分析（介護・医療資源のエリア別把握、稼働率・認定率・人口動態を踏まえた推計） ● 医療計画・地域医療構想と介護計画の接続（調整会議への市町村参画、連携スキームの制度設計） ● モデル事業の実施（中山間・人口減少地域での柔軟対応の質確保を検証） ● インセンティブ交付金の指標精査と制度改善（介護予防・健康づくりの評価強化） ● 社会福祉連携推進法人の活用促進（事務負担軽減・要件緩和、一定条件での社会福祉事業実施を可能化） ● 事業者協働化・連携・大規模化の推進（共同購買・共同研修・バックオフィス効率化、M&A支援の整備） ● 基金・補助の活用（テクノロジー導入の初期・運用費支援、伴走支援・ネットワーク構築）

5 新計画の目次構成と体系

【現行計画】の体系

目的を達成するための指標として、6つの目標（＝施策の柱）を設定し、各種施策を計画的に推進してきました。

【目的】

高齢者が尊厳をもって、自立した生活を営むことができる社会の実現

【施策の柱】

第1章 フレイル予防をはじめとした介護予防の推進

- 第1節 フレイル予防と活動・参加の推進
- 第2節 健康づくり対策
- 第3節 生涯現役社会づくり

第2章 地域での生活の継続に向けた支援

- 第1節 地域での支援体制づくり、相談体制の充実
- 第2節 在宅医療・介護連携の推進
- 第3節 権利擁護、虐待防止対策
- 第4節 緊急時の対応（→第5章第2節へ再編）

第3章 認知症の人にやさしいまちづくりの推進

第4章 安全・安心な住生活環境の確保

- 第1節 多様な住まいの確保、施設・居住系サービスの確保
- 第2節 安全・安心な住生活環境の整備
（→第2章第2節へ再編）

第5章 介護人材の確保・育成

第6章 介護保険制度の適正運営

【新計画】の目次構成（案）

第1部 計画の意義

- 第1節 策定趣旨
- 第2節 計画の位置づけ
- 第3節 計画期間
- 第4節 計画の推進体制

第2部 目的と目標

- 第1節 目的
- 第2節 中長期的な将来展望
- 第3節 目標（施策の柱）

第3部 施策

（※右記の体系案に示す）

第4部 介護サービス量等の見込み

- 第1章 被保険者数の見込み
- 第2章 要介護（要支援）認定者数の見込み
- 第3章 介護サービス利用者数の見込み
 - － 第1節 施設・居住系サービスの利用見込み
 - － 第2節 居宅サービス・地域密着型サービス・総合事業の利用見込み

第5部 介護保険事業の費用と負担

- 第1章 介護保険事業にかかる給付費等の見込み
- 第2章 第1号被保険者の保険料

【第2部 第1節 目的】

目的（据え置き）：高齢者が尊厳をもって、自立した生活を営むことができる社会の実現

副題（追加）：地域共生のもと、身寄りのない高齢者等を含む誰もが、切れ目ない医療・介護・予防・住まい・権利擁護の支援により、最期まで地域で暮らし続けられる社会

【第3部 施策】の柱（案）

<目標・施策の柱>

第1章 フレイル予防をはじめとした介護予防の推進

<方向性>

- 第1節 フレイル予防と活動・参加の推進
- 第2節 健康づくり対策
- 第3節 生涯現役社会づくり

第2章 地域での生活の継続に向けた支援

- 第1節 地域での支援体制づくり、相談体制の充実
- 第2節 住まいと生活環境の推進（移動支援・独居高齢者支援）
- 第3節 権利擁護、虐待防止対策
- 第4節 身寄りのない高齢者等包括支援

第3章 地域包括ケアと医療・介護連携の強化【新規】

- 第1節 急変・救急・看取りに対応する連携の推進
- 第2節 多職種連携による入退院支援の深化

第4章 認知症の人にやさしいまちづくりの推進

- 第1節 予防及び早期介入
- 第2節 事故の救済及び予防
- 第3節 治療及び介護の提供
- 第4節 地域の力を豊かにしていくこと

第5章 安全・安心な住生活環境の確保

- 第1節 多様な住まいの確保、施設・居住系サービスの確保
- 第2節 災害時の対応（BCP・備蓄・相互援助）

第6章 介護人材の確保・育成・定着

- 第1節 新たな介護人材の確保
- 第2節 介護人材の育成・定着
- 第3節 就業環境の向上

第7章 介護保険制度の適正運営

- 第1節 制度の持続可能性の向上
- 第2節 事業者及び利用者への適正・適切なサービスの理解促進

第 10 期介護保険事業計画策定スケジュール（予定）

令和 8 年

3 月

大都市介護保険担当課長会議

- ・ 第 10 期計画に関する基本的考え方の提示

7 月

大都市介護保険担当課長会議

- ・ 基本方針案の提示

9 月

第 1 回企画・調査部会

- ・ 計画案の検討

11 月

第 1 回介護保険専門分科会

- ・ 計画案の検討

12 月

パブリックコメントの実施

令和 9 年

1 月下旬

第 2 回企画・調査部会

- ・ 計画案の審議

2 月下旬

第 2 回介護保険専門分科会

- ・ 計画案の審議・確定

2～3 月

介護保険条例の改正

4 月 1 日～

第 10 期介護保険事業計画開始

介護保険専門分科会
令和7年度第2回企画・調査部会 議事要旨

- 日時 令和8年2月25日(水) 午後2時～午後4時
場所 神戸市役所1号館8階 大会議室
審議事項 ・第10期介護保険事業計画の策定について
報告事項 ・第10期介護保険事業計画策定に係る実態調査結果について
・第9期介護保険事業計画の進捗状況
・保険者機能強化推進交付金等(令和6年度)
・総合事業サービスワーキンググループ報告

【主な意見】

審議事項 第10期介護保険事業計画の策定について

報告事項 第10期介護保険事業計画策定に係る実態調査結果について

第9期介護保険事業計画の進捗状況

- ・介護人材が不足している状況でサービスを継続して供給できているのか。
→全国的にも、おおよそ60万人の介護人材が不足するとされている。処遇改善、外国人介護人材の確保、ICTの活用による職場環境の改善等、総合的に介護人材不足に対して取り組んでいく必要があると考えている。
- ・在宅高齢者実態調査 問25「特別養護老人ホームに住み替えたり、入所する場合、食費、居住費、介護費用も含めて毎月の支払額は、いくらくらいまでなら負担できるか」において、15万円未満の回答が多いことから、特別養護老人ホームのような費用が安く利用しやすい施設を望んでいるように思う。神戸市として、施設整備の予定はどのように考えているのか。
→第9期計画中に特別養護老人ホームや介護保険施設を約1,400床ほど整備する予定であったが、既存施設においても空きが出ている状況であり、次期第10期計画においては、実態を踏まえ、整備計画を見直していく必要があると考えている。
- ・特別養護老人ホームにおいて、入所者の空きが目立っていると聞かすが、原因は分析しているのか。
→特定の要因は把握できていないが、特別養護老人ホームだけでなく有料等の施設の整備が進んでいることや、特別養護老人ホームでもユニット型が主流になり、サービス付き高齢者住宅や有料老人ホームと費用が変わらなくなったことから特別養護老人ホームを選ぶ人が少なくなったことが考えられる。
- ・第9期計画で定めた特別養護老人ホームの整備目標について、実際にどれくらい増えた

のか。

→概ね計画通り 450 床程度。

- ・特定施設の調査において、特定施設の指定を受けることを考えていない回答が圧倒的に多かったが、理由を把握しているか。また、市として特定施設の指定を取るよう促す方針はないのか。

→特定の要因は把握していないが、特定施設は介護保険事業計画で整備数を決めているため、指定を受けることはハードルが高く、今の運営を継続していると考えており、市としても、指定を取るよう促す方針は取っていない。

- ・第 10 期計画の骨子案で医療・介護連携の強化という目標を新設されているが、医療・介護の連携を系統的に進めるために何か考えていることはあるか。

→国において、介護サービス利用者、居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）、介護事業所、医療機関、市町村でデータを共有することができる介護情報基盤を構築しているところ。神戸市では国の標準化システムを構築する必要があり、令和 12 年 1 月に運用を開始する予定。また、介護情報基盤の運用のスタートに向けて、ケアプランデータ連携システムの導入を促進する周知を図っているところ。他都市の先行事例等を参考に、皆さんと情報共有させていただきながら進めていきたいと考えている。

- ・医療分野に強い等、質の高い介護人材の養成について、計画に反映する取り組みはあるのか。

→計画に反映する具体的な施策はこれからの議論になるが、医療・介護連携において、人材というところは大事な要素であると考えている。

- ・看護と介護で重なる部分でもあるが、処遇改善は進んでいるが、実感として待遇が良くなったと思われていない。18 歳の高校生等から選ばれる職業になるためには啓発が重要になると思う。

→ご指摘のとおり、介護の仕事の魅力ややりがいなかなか伝わっていないことは 1 つの課題と考えている。実際働いている方にインタビューをし、生の声をウェブサイトに掲載する等、介護の仕事の魅力ややりがいを伝えていくことが重要と考えている。

- ・ケアマネジャーに医療の知識が不足しており、医療機関としては必要のない訪問看護をケアプランに入れているケースが多いと感じる。医療と介護の連携には、介護関係者も医療知識のレベルを上げる必要があると思う。神戸市としては、医療介護サポートセンター事業を実施しているが、そこでの情報交換を通して、医療、介護お互いの能力向上を図っていく必要があると思っている。今後、現場での情報交換が必要になるため、第 10 期計画の中でも情報連携に力を入れてほしい。

- ・介護人材の確保・育成・定着について、神戸市は ICT について消極的なところがあるので、その点についても計画に含めていただきたい。
- ICT について、導入できている施設とできていない施設の差がついてきていると感じている。現場の状況を確認しながら、全体として改善できるよう検討していく。

報告事項 保険者機能強化推進交付金等（令和 6 年度）

- ・交付金の減点について、次年度の評価に向けて見直しは行っているのか。
- 評価基準の見直しにおいて、どうして失点したか分析し、どのような取組が足りていないのかをしっかりと考えていく。

報告事項 総合事業サービスワーキンググループ報告

- ・要支援等の高齢者がサービス等の利用に至り（フレイル予防に取り組むこと）、高齢者の自主性をどのように育てていくかが課題であり、それに対し総合事業を活かしていくことが大事である。（総合事業のサービスについては、）高齢者が出掛けていくことで尊厳が保たれることや、自分の意思が尊重される施設であるという観点でも推進をお願いしたい。

令和6年度における保険者機能強化推進交付金等について

1. 概要

平成29年地域包括ケア強化法において、高齢者の自立支援・重度化防止等に向けた保険者の取組や都道府県による保険者支援の取組が全国で実施されるように、PDCAサイクルによる取組が制度化された。

この一環として、自治体への財政的インセンティブとして、市町村や都道府県の様々な取組の達成状況を評価できるよう客観的な指標を設定し、高齢者の自立支援、重度化防止等に関する取組を推進するための保険者機能強化推進交付金を創設した。

令和2年度においては、介護予防の位置付けを高めるため、保険者機能強化推進交付金に加え、介護保険保険者努力支援交付金（社会保障の充実分）が創設され、介護予防・健康づくり等に資する取組を重点的に評価することにより配分基準のメリハリ付けが強化された。

2. 評価指標

○保険者機能強化推進交付金

- I 持続可能な地域のあるべき姿をかたちにする
- II 公正・公平な給付を行う体制を構築する
- III 介護人材の確保その他のサービス提供基盤の整備を推進する
- IV 高齢者がその状況に応じて可能な限り自立した日常生活を営む

○介護保険保険者努力支援交付金

- I 介護予防/日常生活支援を推進する
- II 認知症総合支援を推進する
- III 在宅医療・在宅介護連携の体制を構築する
- IV 高齢者がその状況に応じて可能な限り自立した日常生活を営む

3. 前回（令和5年度）からの主な変更点

令和6年度指標評価については、保険者機能強化推進交付金等が保険者機能強化に一層資するものとなるよう主に以下の項目が大幅に見直されている。

- ・保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金の役割分担の見直し
- ・評価を行う保険者の負担にも配慮した評価指標の縮減
- ・プロセス指標とアウトカム指標との関連性をより明確にするためのアウトプットや中間アウトカムに関する評価指標の充実

3. 本市の結果

(1) 得点

保険者機能強化推進交付金 【得点率 政令市 8 位】

	目標Ⅰ		目標Ⅱ		目標Ⅲ		目標Ⅳ 成果(アウトカム)指標群	合計	得点率
	(i)	(ii)	(i)	(ii)	(i)	(ii)			
項目数	16	3	9	2	10	3	5	48	
点数 (満点)	62 (64)	15 (36)	66 (68)	12 (32)	52 (64)	15 (36)	60 (100)	282 (400)	70.5%

(i) 体制・取組(プロセス)指標群 (ii) 活動(中間アウトカム・アウトプット)指標群

※平成 30 年度：542 点(満点 612 点) 得点率 88.5% 【政令市 7 位】

令和元年度：633 点(満点 692 点) 得点率 91.4% 【政令市 1 位】

令和 2 年度：1307 点(満点 1575 点) 得点率 82.9% 【政令市 1 位】

令和 3 年度：1301 点(満点 1590 点) 得点率 81.8% 【政令市 1 位】

令和 4 年度：1059 点(満点 1375 点) 得点率 77.0% 【政令市 2 位】

令和 5 年度：1084 点(満点 1355 点) 得点率 80% 【政令市 2 位】

介護保険保険者努力支援交付金 【得点率 政令市 12 位】

	目標Ⅰ		目標Ⅱ		目標Ⅲ		目標Ⅳ 成果(アウトカム)指標群	合計	得点率
	(i)	(ii)	(i)	(ii)	(i)	(ii)			
項目数	29	12	13	3	13	4	5	79	
点数 (満点)	51 (52)	24 (48)	49 (64)	6 (36)	53 (68)	14 (32)	60 (100)	257 (400)	64.3%

(i) 体制・取組(プロセス)指標群 (ii) 活動(中間アウトカム・アウトプット)指標群

※令和 2 年度：703 点(満点 870 点) 得点率 80.8% 【政令市 1 位】

令和 3 年度：703 点(満点 885 点) 得点率 79.4% 【政令市 1 位】

令和 4 年度：570 点(満点 730 点) 得点率 78.1% 【政令市 1 位】

令和 5 年度：655 点(満点 830 点) 得点率 78.9% 【政令市 1 位】

(2) 交付額

(保険者機能強化推進交付金)

121,059 千円 (全国約 95 億円)

※平成 30 年度：270,372 千円、令和元年度：294,089 千円、令和 2 年度：274,042 千円、

令和 3 年度：263,048 千円、令和 4 年度：270,551 千円、令和 5 年度：192,714 千円

(介護保険保険者努力支援交付金)

256,006 千円 (全国約 190 億円)

※令和 2 年度：304,801 千円、令和 3 年度：288,180 千円、令和 4 年度 318,745 千円、

令和 5 年度：283,721 千円

地域ケア会議について

1. 地域ケア会議の概要

地域ケア会議とは、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた会議である。地域ケア会議には、①個別課題解決機能、②ネットワーク構築機能、③地域課題発見機能、④地域づくり・資源開発機能、⑤政策形成機能という5つの機能がある。神戸市では、平成27年度から地域包括支援センターおよび区に地域ケア会議を設置している。区の地域ケア会議で出された意見・課題は市で集約し、市全体の取り組みにつなげていく。また、平成27年度から全区に協議体（※）を設置し、資源開発等において、地域ケア会議と連動させてきた。（※協議体とは、生活支援・介護予防サービスの体制整備に向けて、地域の住民や事業者・NPO等の多様な主体が情報共有を行い、連携・協働による資源開発を推進する会議を指す。）

（参考）地域ケア会議参加者

- ・介護支援専門員、介護サービス事業者、保健医療関係者（医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師など）、民生委員、住民組織、社会福祉協議会、ケースの当事者や家族（個別課題の場合）、その他必要に応じ、警察、消防、金融機関、地元商店街等

◇地域ケア会議開催実績（概ね小学校区で実施）

	31年度	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
地域包括支援センター (全76センター)	75センター (※)	71センター (※)	73センター (※)	75センター	76センター	76センター
	247回	145回	172回	203回	197回	175回
各区	9区	6区	7区	8区	9区	10区

（※）全センターで開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により数センターで開催中止となった

2. センターレベルの地域ケア会議で検討した事項（令和6年度）

- ・個別課題解決に向けた検討（認知症高齢者の金銭管理や身元保証について検討したケース／妄想等の精神症状への対応が必要なケース／介護負担の大きく高齢者虐待リスクの高いケース／障害福祉分野との連携が必要なケース等）
- ・認知症・見守りに関すること（個別支援・見守り体制の構築に向けての話し合い等）
- ・災害時の対応を通して考える地域コミュニティとの連携やネットワーク形成
- ・複合的課題を抱える世帯の支援に関すること（8050問題・ヤングケアラー等、気になる世帯を見つけた際の相談窓口の周知・関係機関との連携やネットワーク形成）
- ・介護予防に関すること（フレイル等の情報提供と、フレイル予防のための取り組みの検討）
- ・つどいの場への支援に関すること（住民主体のつどいの場の立ち上げ支援）

3. 区地域ケア会議で検討中の事項（令和6年4月～令和7年3月末）

（1）認知症に関すること

- ・認知症に対する地域社会の理解の促進と認知症高齢者の地域交流促進
- ・認知症神戸モデル、認知症サポーター養成講座等、既存制度の周知活用
- ・こどもや働く世代への認知症の啓発
- ・認知症の人が安全に暮らすために～外出編～商業施設への認知症の方の未払いに関するセーフティネットや予防策の提案

（2）高齢者の見守りやつどいの場に関すること

- ・地域における担い手不足について、こどもや働く世代への地域活動への参加促進
- ・孤立を防ぐ見守りについて、既存ツールの活用や啓発
- ・つどいの場の高齢化や担い手不足により継続が難しい
- ・こどもや大学生を集いの場に出てきてもらいやすいような工夫としてスポーツやゲームを通してつながる機会を持つことへの提案

4. 政策への反映

- ・認知症に関する課題については、認知症の人にやさしいまちづくり条例に基づく認知症施策の推進につながった。
- ・令和5年度よりひきこもり状態にある方や家族への相談支援、ヤングケアラー及び再犯防止を担当する相談支援課を創設したことにより、複合的な課題（8050問題やヤングケアラー等）を抱える世帯に対して専門的な支援につながった。
- ・令和6年度より健康局保健課が行う神戸市精神保健福祉・多職種アウトリーチ支援事業による区保健福祉課の後方支援事業につながった。